大学入試改革ガイドブック

入試改革まであと１年。そのポイントを解説し、対策を議論する。

プレ版

作成：　2019 年９月 14 日

日々情報が変わる入試改革にあってまずはプレ版を共有いたします。最終版は９月下旬をめどに共有いたします。

Max Classroom.net

関　孝平

TABLE of CONTENTS

Chapter 1	大学入試改革の概要	
1-1	論点：　何が変わるのか	3
1-2	新指導要領	7
1-3	各入試方式の変更	14
1-4	メジャーチェンジに挑む大学・学部	15
Chapter 2	大学入学共通テスト	
2-1	概要	20
2-2	試行調査を見る	23
2-3	国語　記述式問題	46
2-4	数学　記述式問題	53
2-5	成績の提示	54
2-6	指導の観点から	58
Chapter 3	英語外部試験	
3-1	背景：　グローバル化する大学	60
3-2	大学入試での活用	63
3-3	英語試験を知る	67
3-4	各試験の概要	78
3-5	成績提供システム	87
3-6	各大学の動向	106
3-7	進路指導　ー　どの試験を受けるべきか	124
3-8	進路指導　ー　いつ受けるべきか	135
3-9	進路指導　ー　ケーススタディ	138
Chapter 4	総合型選抜・学校推薦型選抜	
4-1	総合型選抜・学校推薦型選抜の増加	142
4-2	2021 年以降	149
Chapter 5	主体性の評価	
5-1	調査書、提出書類の見直し	152
5-2	e-ポートフォリオ	157
5-3	Japan e-Portfolio	160
5-4	各大学の動向	167
参考資料	ポートフォリオ活用モデル	179
最後に		185

CHAPTER 1　　大学入試改革の概要

1-1　要点：　何が変わるのか

大学入試改革、何がどう変わるのか。まずは要点をまとめました。

社会のニーズ・時代と世界の変化

「今のままの教育や社会制度では日本の国力は保てない。教育を変えて激動の未来と世界の変化に対応した日本人を育てよう」

- 社会に出てから必要なスキルや思考、判断力、表現力を育てていこう
- 知識を詰め込むだけではだめだ。それを使えるようにしていこう
- もっと実践的な英語コミュニケーション能力を育てよう

学びを変えよう

「生徒が中心となって深く学ぼう」

- 覚える授業から「知識を使う」授業に変えよう
- 思考力、判断力、表現力を養おう
- 高校の学びのプロセスを形に残して、学習を深めていこう
- 学校の授業以外だけでなく、いろいろな活動を重視して、学びを深めよう

指導要領が変わります！！

英語教育を変えよう

「世界に通用する英語コミュニケーション能力を育てていこう」

- リーディングや文法だけではなくて、読む、聞く、書く、話すのを４つの技能を全てバランスよく育てよう
- 英語のレベルの指標は世界基準のものを使っていこう

大学入試の在り方を変えよう

「深い学びを評価しよう」

- センター試験を廃止して、思考力、判断力、表現力が評価できる「共通テスト」を作ろう
- 調査書を変えて、点数だけでなく、主体性や学びの履歴を評価しよう
- AO 入試を増やして、中高の学びを多面的に評価していこう

英語の入試を変えよう

「4 技能全てを評価しよう」

- 4 技能を測るために英検、GTEC や TOEFL などの外部試験や検定を導入しよう
- 英語力が高い生徒が評価できるような仕組みを作ろう

４つの要点

この教育改革は「中高の教育を変える」「大学入試を変える」「大学の教育を変える」という３つを同時に行おうという三位一体の改革です。大学入試は当然、中高や大学の教育と密接に絡み合っているので入試だけを取り出して考えても本質が見えないのですが、まずは大学入試改革を理解するために、要点を４つに分けて考えてみましょう。

1 大学入学共通テストの開始

センター入試が廃止され、新しく「大学入学共通テスト」という新しいテストができます。これまでの入試と異なる点として、知識の応用を問う問題、思考力や判断力を求める問題が出される。その１つとしてマーク式だけでなく記述式の問題が出されます。

2 多面的評価を導入する

高校３年間でどのように学び、どのように活動をしてきたのかを評価するために、多面的な人物評価を導入します。主体性などの評価に向けて調査書の書式や中身も変わり、志願者本人が作成する書類（志願理由書、活動報告書）が充実するとともに、ｅポートフォリオの評価も始まります。

3 総合型選抜・推薦型選抜が増えていく

現在は AO 入試、推薦入試と呼ばれている総合型選抜、推薦型選抜の割合を増やし、一般入試の割合が減っていきます。１回のテストの点数だけで生徒の質を判断するのではなく、高校３年間の学びを全て見て、その人物を評価し、「こういう生徒に入学してほしい」という入試を広げていこうという流れが促進されます。

4 英語４技能試験が活用される

TEAP、GTEC、英検、TOEFL といった英語の外部検定試験の活用が拡大されていきます。英語は文法、読解という知識偏重の時代から、４技能で「何ができるのか」を問う時代に変わっていきます。現入試でも外部試験の活用が多く導入されてますが、2021 年度以降、さらに加速していきます。

中高教育改革　４つの要点

先ほど述べたように、この改革は三位一体の教育改革なので、中高の教育も同時に変わっていきます。本ガイドブックは入試改革に焦点を置いているため、この点は深く触れませんが、当然入試改革にも直接的な影響を及ぼす事柄なので、簡単に抑えておきましょう。ここも要点を４つにまとめました。

1　指導要領が変わる

中学は 2021 年度の中１から、高校は 2022 年度高１から年次ごとに変わっていきます。「資質・能力の３本柱」と言われるものを強化して、思考力や表現力、主体性、課題解決力などを養っていこうという趣旨に大きく変わります。

2　教科・科目が変わる

指導要領の改訂の１つとして、教科・科目が名実ともに大きく変わります。「古典探求」「地理探求」「理数探求」「総合探求の時間」「公共」「歴史総合」といったように、教科や科目の改変、新設が行われます。

3　e ポートフォリオを活用して、学びの履歴書を作る

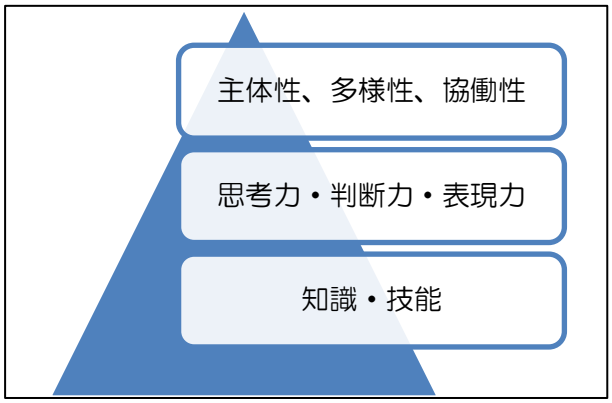
深く主体的な学びという観点から「学びのプロセス」が重要視されていきます。その中で e ポートフォリオ、いわば電子学習履歴書を活用して学びのプロセスや成長記録、活動の記録を全て残し、より深く有意味な学びにつなげていきます。

4　「高校生のための学びの基礎診断」が行われる

大学進学を希望するか否かに関わらず、高校生たちが将来「社会で自立するために必要な基礎学力」を測定するテストが実施されます。

学力の３要素

入試改革のキーワードの１つに「学力の３要素」というものがあります。これまで学力というと「知識」というイメージが強かったと思いますが、「学力」をこれからの時代に必要とされる「学ぶ力」そして「学ぶために必要な力」という意味で再定義したのがこの３要素です。そして、この３要素を小中高の授業でも、大学の授業でも、そして大学入試でも育成し、評



価していこうという流れです。

なお、イメージ図ですが、文科省がこのようにピラミッド型にして提示しています。もし学力がこのイメージに則るのであれば２つのことが言えます。１つは知識・技能がやはり学力の土台であるということ。そしてもう１つは、できるだけ大きな学力を作るためには三角形の底辺と高さが大切になります。しっかりとした基礎学力で底辺を広げ、自ら学ぶ、自ら動くという姿勢を促進して、高さを作ることが必要になるわけです。

早稲田大学　鎌田前総長の言葉より

朝日新聞 EduA というホームページで、教育シンポジウムにおける早稲田大学・鎌田前総長のパネルディスカッションが紹介されていました。興味深く、こちらで紹介します。

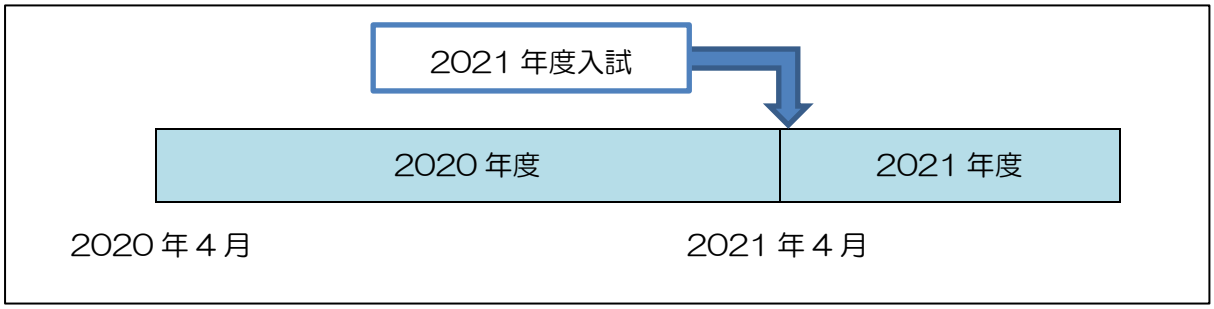
＜Q＞　新たな大学入試では表現力も問われます。主体性や個性を重視しない教育を受けた子どもに、自己表現ができるでしょうか。 ＜鎌田氏＞　おっしゃるような懸念があることは確かです。しかしグローバル化した現代社会では、自ら考えたことを、文化や価値観の異なる人々と手を携えて実行していくことが求められています。 たとえば、中等教育の修了と高等教育入学資格を併せて認定する国家資格であるフランスのバカロレアでは、文系理系とも哲学が必修で、ある年の理系の問題は「人は幸福になるために生きているのか」でした。 高校時代にこうした問題を長文で論述できる力を身につけた人と、どうすれば互角に議論できるのか。日本の高等教育の課題であり、小中学校でも主体的な学びの拡充が求められます。大学入試改革は、学校教育と受験生の学習の大胆な改革を目指しているのです。
＜Q＞　入学試験で問われる「思考力・判断力・表現力」のうち「判断力」については具体的にどのような問題ではかっているのでしょうか。（10 代男性） ＜鎌田氏＞　判断力も多義的ではありますが、入学試験との関係では、複数の資料や情報の中から必要なものを選択して整理・分析し、論理的整合性のある推論を行い、当該問題によって措定されている目的に適合的な結論を導く能力を検証することなどが中心になるものと考えられます。試験方法としては、これまでも各大学の独自試験等で行われてきた記述式試験や論文、面接あるいは口頭試問などが最も適合的であると考えられます。また、マークシート方式の試験においても、既に、判断過程の適切さや論理的思考力を問うために、複数の問題を連動させるなどの出題の工夫がなされていますので、今後はこうした出題方法の占める割合が大きくなると予想されます。
＜Q＞　早稲田大では多様な経験を通じた学びを促進されているとのことですが、高校生までにどのようにして多くのことを経験し、深めていけばいいでしょうか。（女性）

＜鎌田氏＞　できるだけ自由にさまざまな体験を積んで欲しいと考えています。ただし、たとえば被災地支援ボランティアでも不用意に現地に赴くと、被災者にとってかえって迷惑になることがありますし、自らを危険にさらすこともありえます。学校や自治体、信頼できる団体などが十分に準備して提供しているプログラムに参加するのが高校生にとっては無難ではないかと思います。

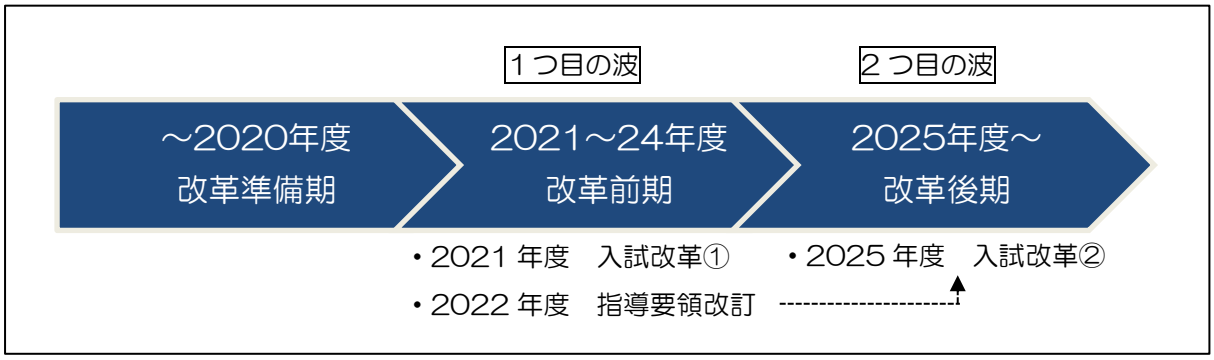
（朝日新聞 EduA『「入試改革に子どもが対応できるか不安…」　保護者の悩みに、鎌田薫・早稲田大前総長が説いたのは？』　2019 年７月２日掲載）

入試改革は２つの波

「入試改革 ＝ 2020 年」という形で覚えていますよね。実際に 2020 年に大きな波がやってきます。ややこしいですが入試年度は入学年度を指すので、2020 年度に高３になった生徒が受ける入試は 2021 年度入試です。「2021 年度入学のための試験」という意味です。ですので、正確に言うと「入試改革＝2020 年度に実施される 2021 年度入試」となります。



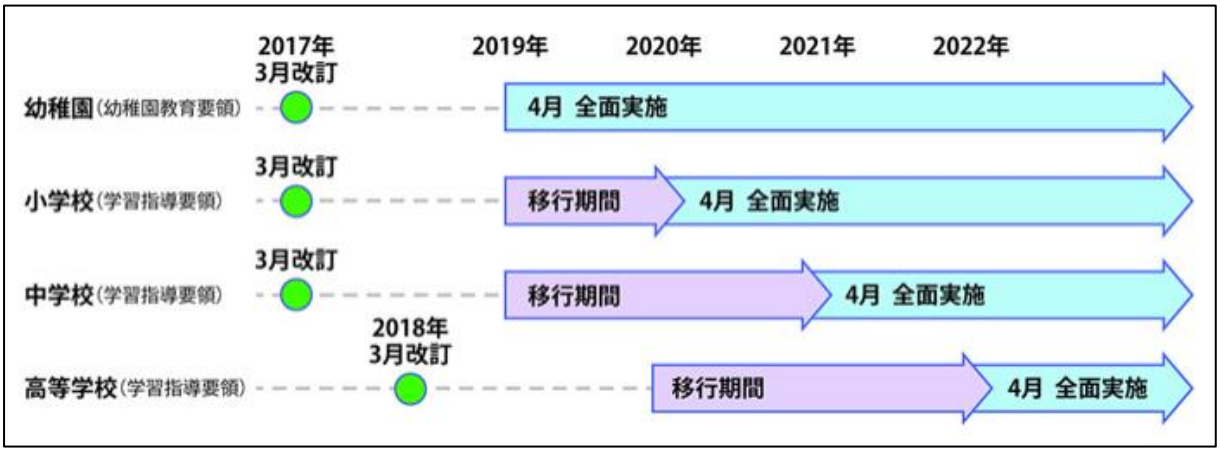
しかし、2021 年度入試の後、もう１つ波がやってきます。2025 年度入試です。なぜか。そこにあるのが指導要領の改訂です。2022 年度高校入学の生徒が 2024 年度に高 3 になり、2025 年度入試を受けることになります。このタイミングでさらに入試が変わります。ここの変化はもしかすると 2021 年度以上のものになるかもしれません。まず、指導要領に合わせて、思考力、表現力、主体性、課題解決力などが評価される入試選抜がさらに加速していくでしょう。そして、指導要領で教科・科目が新設、変更された以上、当然入試科目も変わることが予想され、この２つ目の波も侮れません（公共や数理探求がどこまで、どのような形で入試に入り込んでくるのかはまだ不明ですが）。



1-2　新指導要領

新学習指導要領　2022 年度高校から

文科省が国のカリキュラムの基準として定める学習指導要領は約 10 年ごとに改訂されるのですが、その変更がこれから中高に入ってきます。小学校では 2020 年度から、中学校では 2021 年度から、そして高校では 2022 年度から全面実施されます。2022 年度高校入学生というのは 2019 年度中学入学生ですから、すでに中学でもそれに見据えたカリキュラムがスタートしていることになります。



政府広報オンライン 「2020 年度、子供の学びが進化します！新しい学習指導要領スタート！」（2019 年３月 13 日）

改定に込められた思い

学校で学んだことが，子供たちの「生きる力」となって，明日に，そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が，どんなに変化して予測困難な時代になっても，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，判断して行動し，それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして，明るい未来を，共に創っていきたい。

2020 年度から始まる新しい「学習指導要領」には，そうした願いが込められています。これまで大切にされてきた，子供たちに「生きる力」を育む，という目標は，これからも変わることはありません。一方で，社会の変化を見据え，新たな学びへと進化を目指します。

生きる力学びの，その先へ

新しい「学習指導要領」の内容を，多くの方々と共有しながら，子供たちの学びを社会全体で応援していきたいと考えています。

今回の指導要領の改訂は大学入試改革と密接に連動しています。グローバル化、ICT 化の加速、AI の進化といった社会背景の中で、知識だけでなく総合的な学ぶ力、答えのない問に取り組む力、そして不確実性と多様性にあふれた社会を生きていく力を身につけていこうというゴールがそこにはあります。文科省の学習指導要領の HP に今回の改定に込められた思いが綴られています。

「何を学ぶのか」から「何ができるようになるのか」へ

新指導要領の最大のポイントとして、「何を学ぶのか」という学習項目のガイドラインから「何ができるようになるのか」という身につけるべき資質・能力のガイドラインへと変わっていきます。大学入試改革では「学力の３要素」と謳われていますが、新指導要領では「3 つの柱」と言葉を変えながらもほぼ同一のコンセプトを中核に掲げています。

資質・能力の３つの柱

・実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

さらに、新指導要領では、新しく取り組む分野、重点課題とすべき分野として以下のような教育内容を設定しています。

・言語能力の育成	・外国語教育	・プログラミング教育
・理数教育の充実	・道徳教育	・伝統や文化に関する教育
・主権者教育	・消費者教育	

このほかにも、「体験活動」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」などの充実が図られます。

教科・科目の変更、新設

教科、科目についても名前・内容が変わったり、新しく新設されるものがあります。新指導要領では「〇〇探求」や「公共」「歴史総合」といった科目ができますが、2025 年度入試からはこれらを反映した入試になっていきます。

特に重点となる３つのコンセプトを確認しましょう。

探求

新教育課程では、科目の名称変更や新設もありますが、最初のポイントはいくつかの科目名にも表れていますが、「探求」と銘打つ科目が設置されることです。「主体的・対話的で深い学び」

というコンセプトがこの探究という言葉に凝縮されており、単に知識を習得するのではなく、課題を探究することを推し進めていく意図が前面に出ています。まず目玉になるのは「総合的な探求の時間」です。これまでは「総合的な学習の時間」という名称でしたが、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）、SGH（スーパーグローバルハイスクール）、インターナショナル・バカロレア校を中心に先進的な取り組みが行われてきました。総合的な学習の時間については学校によって取り組みはまちまちで、課題探求をしっかり進めるところもあれば、ホームルームや進路指導に置き換えたり、学校によってはコンセプトだけ取り入れたふりをして教科の授業時間にあてるということも実際にはあります。総合的な学習の時間は「教科」なのですが、教科未満にしか扱われていないケースがほとんどでした。しかし、本来は様々な教科につながる横断的・統合的な学びが総合的な学習です。今後はむしろ「総合的な探求の時間」はおまけの時間ではなく、教科における様々な探究学習につながる教育の中核、基礎として位置づけられるべきです（右図は私があるところで作成した課題探求のイメージ図です）。

理数

さらに、理数という科目も新設されます。これは STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）基礎教育の推進という目的もありますが、総合的な探求の時間と並んで教科横断的な理数の探求学習ということが趣旨だと言えます。

論理

国語で「論理国語」、英語で「論理・表現」という科目が設定されます。言語をコミュニケーションツールとしてだけでなく思考ツールとして論理的・批判的に考え、表現をするという方向性が表れています。

現行指導要領、新指導要領の教科・科目

教科	現行カリキュラム	新カリキュラム
国語	国語総合 国語表現 現代文Ａ 現代文Ｂ 古典Ａ 古典Ｂ	現代の国語 言語文化 論理国語 文学国語 国語表現 古典探求
地理歴史	世界史Ａ 世界史Ｂ 日本史Ａ 日本史Ｂ 地理Ａ 地理Ｂ	地理総合 地理探究 歴史総合 日本史探求 世界史探究
公民	現代社会 倫理 政治・経済	公共 倫理 政治・経済
数学	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学Ａ 数学Ｂ 数学活用	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学Ａ 数学Ｂ 数学Ｃ
理科	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学 理科課題研究	科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学
外国語	コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語Ⅲ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語会話	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ
情報	社会と情報 情報の化学	情報Ⅰ 情報Ⅱ
理数		理数探究基礎 理数探究
総合	総合的な学習の時間	総合的な探求の時間

※　保健体育、芸術、家庭は掲載を省略

※　「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」はそれぞれ教科名。

学び方も大切

さらに今回のもう１つ大きな特徴として「どのように学ぶのか」ということに焦点があてられています。何年か前から「アクティブラーニング」という言葉が教育界を席巻していますが、指導要領では「主体的・対話的で深い学び」という言葉が正式に採用されました。アクティブラーニングというカタカナ語が指導要領から消えたことで「カタカナは怪しい」「アクティブラーニングはただの流行だった」などと揶揄する人もいますが、名前はどうあれ、教育改革に必要とされるエッセンスや「主体的な学び手」を育てようという目標は変わりません。アクティブラーニングについては本ガイドブックでは詳しく述べませんが、入試改革においてもとても重要な要素です。

「主体的、対話的で深い学び」の視点

・「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自分の進路や職業などの方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学びになっているかという視点。

・「対話的な学び」の視点

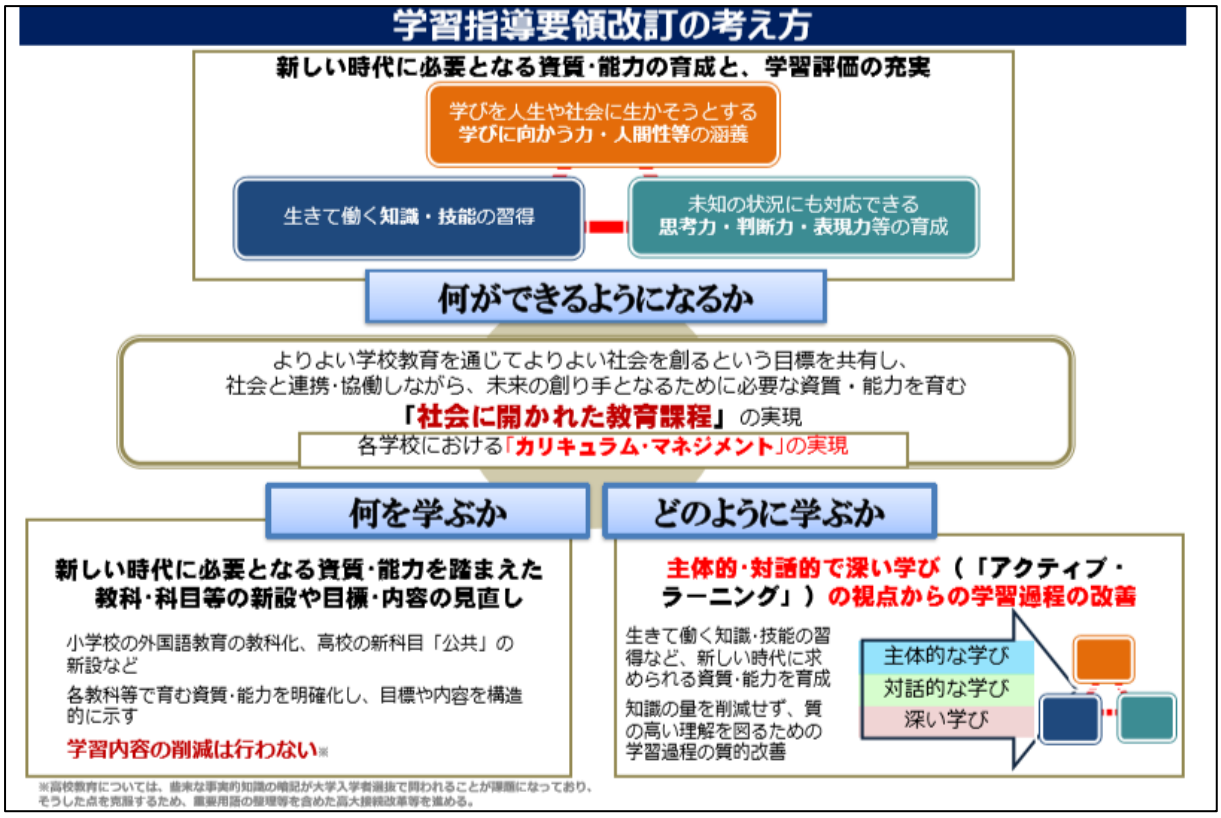
子供同士が目標を共有し力を合わせて活動をしたり、先生や地域の人との対話や先人の優れた考え方を手掛かりに考え、自分の考えを広げ深めるような学びになっているかという視点。

・「深い学び」の視点

各教科等で、その教科等なりの「見方・考え方」を学ぶだけでなく、様々な教科等で学んだ見方・考え方を相互に関連付け、自分なりに問題を見いだし解答を導きだせるような学びになっているかという視点。

大学入学共通テストの問題作成方針の １ つとして『「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定』というものがありますが、このような視点に立った作問が至る所で見られます。大学入試を通じて「学びはこのようにあるべき」というメッセージが送られているのです。

文部科学省資料平成　「29･30 年改訂 学習指導要領、解説等」ホームページより



1-3　各入試方式の変更

入試改革に際して、これまでの「一般入試」「AO 入試」「推薦入試」という３つの名称が以下のように変わります。単に名称が変わるのではなく、「すべての入試区分で学力の 3 要素をしっかりと評価する」ということが根幹にあります。これまで知識偏重のテストで一発勝負だった一般入試でも調査書や本人の記載する書類（志望理由書や活動報告書など）を用いて主体性などを評価し、また基礎学力が担保できていないと批判もあった AO・推薦入試でも何かしらの学力検査を実施することが求められるようになりました。

入試方式の変更とその要点

現在の名称	新しい名称	変更点
一般入試	一般選抜	・出題科目の見直し ・記述式の導入・充実、作問の改善 ・英語４技能評価の導入 ・*調査書、志願者本人の記載する資料などの積極的な活用
AO 入試	総合型選抜	・**志願者本人の記載する資料などを積極的に活用し、詳細な書類審査と丁寧な面接による評価の充実 ・調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等、又は大学入学共通テストのうち、少なくともいずれか１つの活用を必須化。
推薦入試	学校推薦型選抜	・推薦書の中で学力の３要素の評価を必須化 ・調査書等の出願書類だけでなく、***各大学が実施する評価方法等、又は大学入学共通テストのうち、少なくともいずれか１つの活用を必須化。

文科省「広大接続改革の実施方針等の策定について」(2017 年７月）より抜粋

＜備考＞

*　「調査書、志願者本人の記載する資料」＝　エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼン、各種大会の顕著な記録、探求的な学習に関する資料・面談など

**　「志願者本人の記載する資料」＝　活動報告書、入学希望理由書、学修計画書など

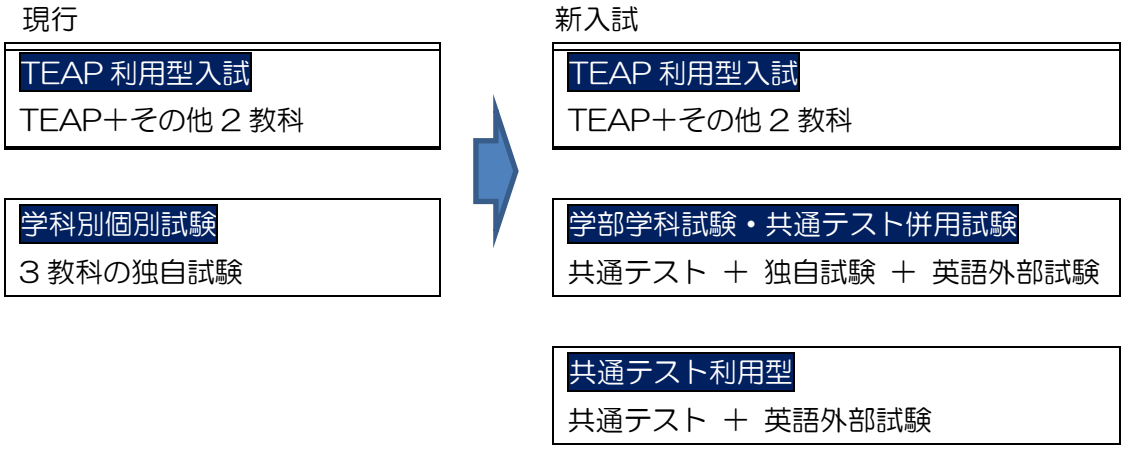
***「各大学が実施する評価方法等」＝　自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等)、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に関わるテスト、資格・検定試験等の成績など

1-4　メジャーチェンジに挑む大学・学部

変更や影響を極力限定的にとどめ、「マイナーチェンジ」を訴える大学や「できれば変わりたくない」という本音が漏れている大学が多い中、2021 年度入試から入試制度自体を大きく変え、「メジャーチェンジ」に挑む大学・学部があります。大学をあげて全学的に大きな変更をするのが上智大学と立教大学、学部としては早稲田大学・政治経済学部です。もちろんそれ以外にも変更をする大学、学部はありますが、大転換と言えるのはこの３つです。また、昔ながらここでは概要のみにし、詳しくは、英語外部試験の「各大学の動向」という部分で取り上げます。

上智大学　ー　一般方式で英語外部検定試験を全面的に活用可能

現在は、国際教養学部を除いて、TEAP 利用型入試（２月３日）と学科別個別入試（２月４日か９日）を実施していますが、それを「TEAP スコア利用型（全学統一日程入試）」、「学部学科試験・共通テスト併用型」、「共通テスト利用型」の３方式に変更します。その全てで英語外部検定試験を全面的に活用可能にします。TEAP 利用型は従来通りですが、その他の２方式では英語外部検定試験が加点として利用されます。



立教大学　ー　文学部以外は独自英語試験を廃止、全面的に外部検定試験を利用

立教大学は個別試験を大きく変えます。個別入試としては、これまで全学部試験が１日行われ、さらに学科個別試験が実施されています。2021 年度以降は個別試験は文学部のみが残り、他の学部の個別日程が廃止されます。一方で、全学部日程が５日間に拡大されます。つまり、基本的には全学部統一日程になるのです。理学部は全学部日程が２回、その他は５回の受験機会が設けられました。文学部は個別試験もあるので、計６回の受験機会があります。文学部の個別試験は大学独自の英語試験がありますが、全学部日程では英語試験は行わず、全て英語外部試験のスコアを得点換算することになります。ちなみに、英語外部試験を利用するグローバル方式は現在全学部日程の１つの方式として実施されていますが、このグローバル方式が全学部日程のスダンダードになるということです。加えて、現在行われているセンター利用型入試は共通テスト利用入

試に代わり、私大併願の３科目型、国公立併願の６科目型の２タイプで行われます。さらに、ここ数年充実を狙っている自由選抜入試とよばれる AO・推薦型の入試も拡大していくと思われます。

現行	新入試
全学部入試 全学部統一実施　１日のみ 英語外部試験利用方式もあり	**全学部入試** 全学部統一入試　５日に拡大 英語独自試験なし、外部試験の得点換算
学部個別試験 ３教科の独自試験	**学部個別試験** ３教科の独自試験、文学部のみで実施
センター試験利用入試 センター試験のみ	**共通テスト利用型** 共通テストのみ

新しい一般入試制度の対象学部と実施科目（予定）：立教大学発表

		英語外部試験を利用する方式					本学独自の英語試験を出題する方式
		試験日①	試験日②	試験日③	試験日④	試験日⑤	試験日⑥
科目＼対象学部		文、異文化コミュニケーション、経済、経営、社会、法 観光、コミュニティ福祉、現代心理					文
英語							●
国語		●	●	●	●	●	●（漢文含む）
選択科目	日本史	●		●	●	●	●
	世界史		●	●	●	●	●
	政治・経済			●			
	地理				●		
	数学	●	●				
科目＼対象学部		理					
数学		●	●				
物理、化学、生物		●	●				

早稲田大学　政治経済学部

早稲田大学の看板学部である政治経済学部は、これまで「外国語」「国語」「選択科目（地歴や数学）」というオーソドックスな３科目型の一般入試を実施していましたが、2021 年度からは共通テスト（4 科目）、英語外部検定試験、学部独自試験という３つに変更します。

現行

独自試験

外国語、国語、選択科目

・数学は選択科目の１つ

新入試

共通テスト（計 100 点）

外国語、国語、数学ⅠA、選択科目

・数ⅠA は必修

・数ⅡB は選択科目として受験可能

・国語記述式は採点の対象としない

英語外部検定試験（計 15 点）

・得点換算

・当初発表の 30 点から 15 点に変更

学部独自試験　（計 85 点）

・日英両言語による長文を読み解いたうえで回答する（記述解答含む）

共通テストでは数学ⅠA が必修になるということで話題になりましたが、私立文系に特化して数学を捨てている一部の受験生にはハードルになりますが、個別試験ではなく共通テストの数ⅠA であり、早稲田大学のトップ学部を狙う受験生ですからその影響は限定的だと予測しますし、国公立併願受験者にとってはそもそも大きな変化はありません。それよりも大きいのは新設される学部独自試験でしょうか。大学は Q&A として以下のように発表しています。

2021 年度以降の政治経済学部一般入学試験に関する Q&A

（2019 年 7 月 12 日発表）

＜Q＞　学部独自試験はどのような形式の試験ですか

＜A＞　1 科目のみを 90 分間で実施する予定です。ただし、学部が必要と判断する場合は実施時間を変更する可能性があります。また、 日英両言語による長文を読み解いたうえで解答する形式とし、記述解答を含みます。なお、2018 年 8 月に当学部ウェブサイトにてサンプル問題を公開しておりますので参考にしてください。ただし、サンプル問題は学部独自試験の内容をイメージしてもらうために作成したものであり、実際に課される問題とは設問数や設問内容

等が異なる可能性があります。

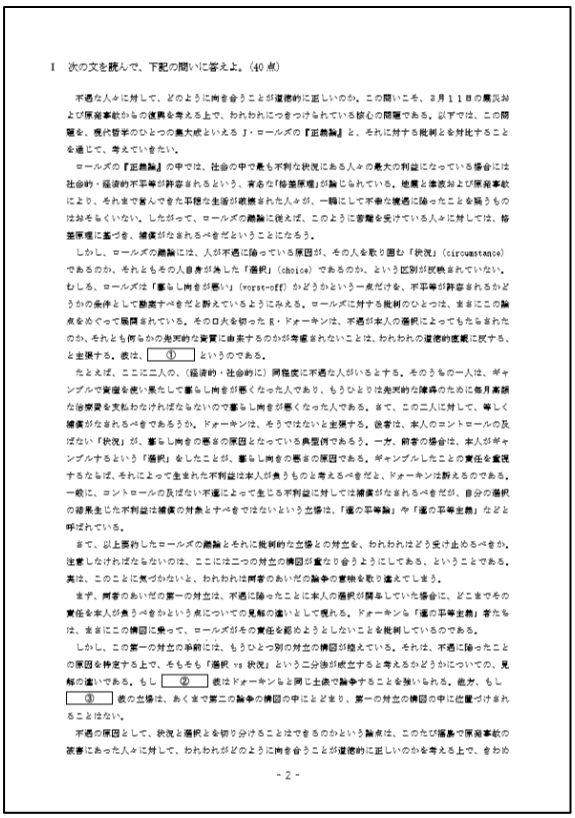
＜Q＞　学部独自試験はいつ実施されますか？

＜A＞　学部独自試験は、従来の一般入学試験と同様に２月 20 日に実施する予定です。なお、試験開始時間等の詳細は現在検討中です。

＜Q＞　学部独自試験ではどのような問題が課されますか？

＜A＞　学部独自試験では、受験生の基礎的な学力を問う問題だけでなく、入学後の政治経済学部での学びに繋がるような社会科学分 野の文章、グラフ、表などを正しく理解し、自らの見解を論理的に記述できる能力を評価する問題を出題する予定です。設問は、 従来の英語、国語、日本史、世界史、数学などの科目の枠を超えた総合的な内容とする予定です。

早稲田大学政治経済学部　学部独自試験　サンプル問題　日本語



Ⅰ　次の文を読んで、下記の問いに答えよ。(40 点)

不遇な人々に対して、どのように向き合うことが道徳的に正しいのか。この問いこそ、３月１１日の震災および原発事故からの復興を考える上で、われわれにつきつけられている核心の問題である。以下では、この問題を、現代哲学のひとつの最大成といえる J・ロールズの『正義論』と、それに対する批判とを対比することを通じて、考えていきたい。

ロールズの『正義論』の中では、社会の中で最も不利な状況にある人々の最大の利益になっている場合には社会的・経済的不平等が許容されるという、有名な「格差原理」が論じられている。地震と津波および原発事故により、それまで営んできた平穏な生活が破壊された人々が、一瞬にして平等な境遇に陥ったことを鑑うものは却そもくいない。したがって、ロールズの議論に従えば、このように苦難を受けている人々に対しては、格差原理に基づき、補償がなされるべきだということになろう。

しかし、ロールズの議論には、人が不遇に陥っている原因が、その人を取り囲む「状況」(circumstance) であるのか、それともその人自身が為した「選択」(choice) であるのか、という区別が反映されていない。むしろ、ロールズは「暮らし向きが悪い」(worst-off) かどうかという一点だけを、不平等が許容されるかどうかの条件として勘案すべきだと訴えているようにみえる。ロールズに対する批判のひとつは、まさにこの論点をめぐって展開されている。その口火を切った R・ドォーキンは、不遇が本人の選択によってもたらされたのか、それとも何らかの偶然的な要素に由来するのかが考慮されないことは、われわれの道徳的直観に反する、と主張する。彼は、 ① というのである。

たとえば、ここに二人の、(経済的・社会的に) 同程度に不遇な人がいるとする。そのうちの一人は、ギャンブルで資産を使い果たして暮らし向きが悪くなった人であり、もうひとりは発病的な障碍のために毎月高額な治療費を支払わなければならないので暮らし向きが悪くなった人である。さて、この二人に対して、等しく補償がなされるべきであろうか。ドォーキンは、そうではないと主張する。後者は、本人のコントロールの及ばない「状況」が、暮らし向きの悪さの原因となっている典型例であろう。一方、前者の場合は、本人がギャンブルするという「選択」をしたことが、暮らし向きの悪さの原因である。ギャンブルしたことの責任を重視するならば、それによって生まれた不利益は本人が負うものと考えるべきだと、ドォーキンは訴えるのである。一般に、コントロールの及ばない不運によって生じる不利益に対しては補償がなされるべきだが、自分の選択の結果生じた不利益は補償の対象とすべきではないという立場は、「運の平等論」や「運の平等主義」などと呼ばれている。

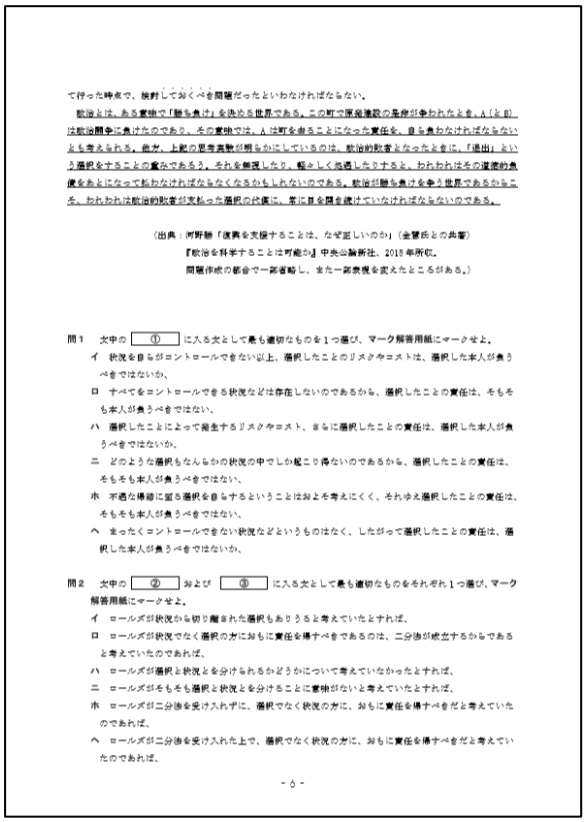
さて、以上要約したロールズの議論とそれに批判的な立場との対立を、われわれはどう受け止めるべきか。注意しなければならないのは、ここには二つの対立の構図が重なり合うようにしてある、ということである。実は、このことに気づかないと、われわれは両者のあいだの論争の意味を取り違えてしまう。

まず、両者のあいだの第一の対立は、不遇に陥ったことに本人の選択が関与していた場合に、どこまでその責任を本人が負うべきかという点についての見解の違いとして現れる。ドォーキンら「運の平等主義」者たちは、まさにこの構図に乗って、ロールズがその責任を緩めようとしないことを批判しているのである。

しかし、この第一の対立の手前には、もうひとつ別の対立の構図が控えている。それは、不遇に陥ったことの原因を特定する上で、そもそも「選択 vs 状況」という二分法が成立すると考えるかどうかについての、見解の違いである。もし ② 説はドォーキンらと同じ土俵で論争することを強いられる。他方、もし ③ 説の立場は、あくまで第二の論争の構図の中にとどまり、第一の対立の構図の中に位置づけられることはない。

不遇の原因として、状況と選択とを切り分けることはできるのかという論点は、このたび福島で原発事故の被害にあった人々に対して、われわれがどのように向き合うことが道徳的に正しいのかを考える上で、きわめ

- 2 -



で行った時点で、検討しておくべき問題だったといわなければならない。

政治とは、ある意味で「勝ち負け」を決める世界である。この町で原発建設の是非が争われたとき、A（または）は政治闘争に負けたのであり、その意味では、A は町を去ることになった責任を、自ら負わなければならないとも考えられる。他方、上記の思考実験が明らかにしているのは、政治的敗者となったときに、「退出」という選択をすることの重みであろう。それを無視したり、軽々しく処遇したりすると、われわれはその道徳的負債をあとになって払わなければならなくなるかもしれないのである。政治が勝ち負けを争う世界であるからこそ、われわれは政治的敗者が支払った選択の代償に、常に目を開き続けていなければならないのである。

（出典：河野勝『復興を支援することは、なぜ正しいのか』（金慶氏との共著）
『政治を科学することは可能か』中央公論新社、2013 年所収。
問題作成の都合で一部省略し、また一部表現を変えたところがある。）

問１　文中の ① に入る文として最も適切なものを１つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

イ　状況を自らがコントロールできない以上、選択したことのリスクやコストは、選択した本人が負うべきではないか、

ロ　すべてをコントロールできる状況などは存在しないのであるから、選択したことの責任は、そもそも本人が負うべきではない。

ハ　選択したことによって発生するリスクやコスト、さらに選択したことの責任は、選択した本人が負うべきではないか、

ニ　どのような選択もなんらかの状況の中でしか起こり得ないのであるから、選択したことの責任は、そもそも本人が負うべきではない。

ホ　不遇な帰結に至る選択を自らするということはおよそ考えにくく、それゆえ選択したことの責任は、そもそも本人が負うべきではない。

ヘ　まったくコントロールできない状況などというものはなく、したがって選択したことの責任は、選択した本人が負うべきではないか、

問２　文中の ② および ③ に入る文として最も適切なものをそれぞれ１つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

イ　ロールズが状況から切り離された選択をありうると考えていたとすれば、

ロ　ロールズが状況でなく選択の方におもに責任を帰すべきであるのは、二分法が成立するからであると考えていたのであれば、

ハ　ロールズが選択と状況とを分けられるかどうかについて考えていなかったとすれば、

ニ　ロールズがそもそも選択と状況とを分けることに意味がないと考えていたとすれば、

ホ　ロールズが二分法を受け入れずに、選択でなく状況の方に、おもに責任を帰すべきだと考えていたのであれば、

ヘ　ロールズが二分法を受け入れた上で、選択でなく状況の方に、おもに責任を帰すべきだと考えていたのであれば、

- 6 -

＜記述式の問題＞

問４　文中の⑤に入る文として適切なものを、記述解答用紙に 30 字以内で記せ。

問５　文中の⑥には、A の境遇を D と対比して説明する文が入る。記述解答用紙に 50 字以内で記せ。

早稲田大学政治経済学部　学部独自試験　サンプル問題

Ⅱ　次の文を読んで、下記の問いに答えよ。（30 点）

The Japanese are becoming ever keener to study English. The language is now a must at elementary school. Universities' English entrance exams are placing more emphasis on testing all four of the main language skills: reading, writing, listening, and speaking. Some Japanese business firms have even decided to make English their official language. No doubt, this lingua franca will gain greater prominence in Japan in the future.

How many Japanese people actually choose to study English, though? The Survey of Time Use and Leisure Activities, conducted every five years by the Ministry of Internal Affairs and Communications, reports on the estimated numbers and percentages of learners involved in learning, self-education, and training in the English language for selected age groups (Table 1). Here, those involved in learning, self-education, and training in English are defined as those who voluntarily studied the language on at least one day of the 365 or 366 days before October 20 of the survey year. The percentage given for each age group shows the number of learners as a proportion of that age group in the population as a whole. Learning English at school or in the workplace is excluded from the statistics, as the survey only covers activities undertaken in a person's free time.

Table 1 : Estimated numbers and percentages of the Japanese population studying English

Age Group	2006		2011		2016	
	Numbers (in thousands)	Percentage	Numbers (in thousands)	Percentage	Numbers (in thousands)	Percentage
10–14	1,456	24.3	1,793	30.4	1,858	33.8
15–19	1,447	22.7	1,554	25.7	2,011	33.5
20–24	1,329	18.3	1,264	20.3	1,559	25.6
25–29	1,003	12.6	778	10.9	993	15.7
30–34	867	9.3	753	9.4	857	11.9
35–39	837	9.1	818	8.5	881	10.9
40–44	785	9.9	812	8.8	1,046	10.9
45–49	661	8.7	658	8.3	869	9.4
50–54	563	6.8	591	7.8	763	9.8
55–59	572	5.4	527	6.4	702	9.4
60–64	285	3.7	565	5.4	556	6.9
65–69	224	3.0	294	3.8	653	6.5
70–74	163	2.5	225	3.2	312	4.4
75–	142	1.3	245	1.9	410	2.8
Total	10,363	9.1	10,899	9.6	13,472	11.9

Source : Ministry of Internal Affairs and Communications, Survey of Time Use and Leisure Activities

In Table 1, we observe that, as a general rule, the percentage decreases as age increases in all survey years. However, the difference between the percentages of Age Groups 10-14 and 15-19 in 2006 is not the same as that between the percentages of Age Group 10-14 in 2006 and of those who appear to be the same people five years later. Keeping this in mind, we can draw Figure 1 (not shown), which demonstrates the changes over time in the percentages of English learners in each of three different cohorts as they become older: Cohort A (Age Group 10-14 in 2006), Cohort B (Age Group 15-19 in 2006), and Cohort C (Age Group 20-24 in 2006). Figure 1 shows that [①].

Next, we look at changes in the distribution of days spent in a year on learning, self-education, and training in the English language. Table 2 summarizes the results obtained from the Survey of Time Use and Leisure Activities. It is clear from Table 2 that the number of those who spent less than 10 days annually studying English increased significantly between 2011 and 2016. Consequently, for those who studied English in the year prior to this survey, the average number of days spent on learning, self-education, and training in the English language decreased from 89.1 days in 2011 to 77.3 days in 2016. From Tables 1 and 2, we conclude that [②].

- 8 -

問１　3 つの Cohort A, B, C に関する Figure 1（図 1）について、次の (1) と (2) に答えよ。なお、cohort とは同じ頃に生まれた集団を意味する。以下では、cohort を世代と呼ぶ。

(1) Figure 1 を記述解答用紙に描け。ただし、横軸に取る数字は年齢階級の中間点とする。たとえば、10～14 歳の中間点は 12.5 歳である（満年齢のため）。同じ世代を線で結び、A, B, C を計 3 本の線で別々に示せ。

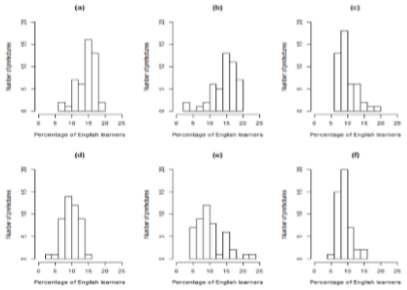
(2) 文中の [①] に入る内容を日本語で表現したものとして最も適切なものを 1 つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

イ　どの世代を見ても、加齢とともに英語学習者の比率が下がる
ロ　A, B, C の 3 つの線が交差する部分がある
ハ　後に生まれた世代ほど、加齢による英語学習者の比率の減少が大きい
ニ　同じ年齢階級でみると、後に生まれた世代ほど英語学習者の比率が高い
ホ　世代による違いはほとんどない

問２　文中の [②] に入る内容を日本語で表現したものとして最も適切なものを 1 つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。

イ　英語学習者の裾野が広がった結果、英語を習慣的に学習する人も同じくらい増えている
ロ　英語学習者の裾野は広がらなかったものの、英語を習慣的に学習する人が増えている
ハ　英語学習者の裾野は広がったものの、英語を習慣的に学習する人は減っている
ニ　英語学習者の裾野は広がらず、かつ、英語を習慣的に学習する人が減っている
ホ　英語学習者の裾野は広がったものの、英語を習慣的に学習する人がそれほどには増えていない

問３　以下の (a)～(f) の中から Figure 2 として最も適切なものを 1 つ選び、マーク解答用紙にマークせよ。



- 10 -

＜記述式の問題＞

問１(1)　Figure1 を記述解答用紙に描け。ただし、横軸に取る数字は年齢階級の中間点とする。たとえば、10～14 歳の中間点は 12.5 歳である（満年齢のため）。同じ世代を線で結び、A,B,C を計 3 本の線で別々に示せ。

問５　あなたは、日本において英語を話せることの重要性は、将来増していくと思いますか、減っていくと思いますか、それとも現状のままだと思いますか。問題文を踏まえ、理由とともに記述解答用紙に 300 字以内の日本語で論ぜよ。

＜ポイント＞

日本語の長文は 4 ページ以上にわたり、マーク式 4 問のほか、30 字以内、50 字以内という記述式が 2 問出題されています。英語はグラフや表を含み 2 ページ程度で、設問はすべて日本語でなされています。マーク式が 4 問、記述式が 2 問ありますが、「Figure 1 を記述解答用紙に描け」という独特な問題に加え、問 5 のように答えのない問題に対し、どのように論理的かつ批判的に表現ができるのかというレベルの高いものになっています。国語と英語は関連した出題で、複数の視点で読み解くことが必要になるものと私は勝手に思っていましたが、内容を見るかぎり完全に切り離された 2 つの大問と言えます。配点は国語 30 点、英語 40 点の計 70 点とされていますが、このサンプル問題公表後に英語外部試験の配点が 30 点から 15 点に下がり、この学部独自試験が 85 点に配点が高まりましたので、大問ごとの配点も変更されます。

CHAPTER 2　大学入学共通テスト

2-1　概要

入試改革の一番の目玉となるのが大学入学共通テストです。2020 年度入試を最後にセンター試験が廃止され、その後継としてこの「大学入学共通テスト」が始まります。当初コンセプトが発表されたときは、科目やテストの時期など、現行のセンター試験とはずいぶん異なるものでした。しかし、実施に向けて現実的な議論が進められ、また 2017 年度、2018 年度の 2 回の試行調査（プレテスト）を経た結果、科目やスケジュールなど、現行のセンター試験に近づいていきました。

	センター試験	共通テスト （2020 年度実施）	共通テスト （2024 年度実施）
教科・科目	6 教科 30 科目	6 教科 30 科目	より簡素化
出題方式	マークシート方式	マークシート方式 ＋ 国語、数学で記述式	マークシート方式 ＋ 国語、数学、地歴、公民、理科で記述式
英語	センター試験の「英語」のみ	共通テストの「英語」 ＋ 民間の資格・検定試験	4 技能を評価

大学入学共通テスト　問題作成の基本的な考え方

○　大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成。

○　高等学校教育の成果として身につけた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成。

○　「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定。

この大学入学共通テストですが、その狙いと趣旨は以下のようにまとめられます。

狙いと趣旨　ー　こんな力を評価したい

全体

- 単なる知識だけではなく、思考力、表現力、判断力を問いたい。
- 実社会の中で考え、課題を解決する力を問いたい。
- 仲間を協働し、答えを出す力を問いたい。

英語

- 英語の知識ではなく、実際に運用するコミュニケーション能力を評価したい。
- リーディング偏重ではなく、リスニングも同様に評価したい。

↓

テストの特徴　ー　こんな問題が出される

全体

- 国語と数学で記述式問題
  （2025 年度以降の新課程対応では、地歴公民、理科でも筆記日式の導入が検討されている）
- マーク式でも思考力を問う問題
- 複数の資料を読み、多角的に分析し、統合する問題
- 実社会との関りを意識し、知識を実社会に応用する問題
- クラスメイトとのディスカッションやグループワークなどのプロジェクト活動を意識した問題
- 教科・科目を問わず、文章量が多くなり、読解の中から解答のエッセンスを抽出しなくてはならない（問題を解く上での前提条件や状況設定、ディスカッションを読むことが必要になったため）

英語

- アクセント、単語や文法に特化した問題がなくなり、リーディング、リスニングという 2 つのスキルに特化したテストになった
- リーディングとリスニングがそれぞれ 100 点の均等配点となった
- 学習者が英語を使う場面が設定され、その中で何ができるか問う問題が出される
- ウェブサイトやレポートなど、実際に学習者が触れるものを題材としている
- 文章量が増え、日本語を介さず、英語で大意を取る力が求められる
- リスニングは 1 回しか読まれない問題もある

2018 年度　試行調査の結果

センター試験の平均得点率がおよそ６割であるのに対し、共通テストは５割もしくはそれ未満という得点率になっています。高３の秋から本番までまだまだ力が伸びますし、来年の受験生は共通テストを本番に控えて対策も積むでしょうが、難易度が増すことは間違いないでしょう。

教科名	科目名等	受験者数	受験者数	平均得点率（%）	平均点（点）	2018 年度センター試験平均点（参考）
国語	国語（200 点）	全体	67745	45.40	90.81	121.55
		高３のみ	14677	51.37	102.74	
数学	数Ⅰ・A（85 点）	全体	65764	30.12	25.61	59.68
		高３のみ	13407	36.17	30.74	
	数Ⅱ・B（100 点）	全体	4935	36.06	36.06	53.21
		高３のみ	4110	35.49	35.49	
地理歴史	世界史 B（100 点）	全体	2725	59.60	59.60	65.36
		高３のみ	2151	62.78	62.78	
	日本史 B（100 点）	全体	4200	54.57	54.57	63.54
		高３のみ	3538	55.19	55.19	
	地理 B（100 点）	全体	1203	61.46	61.46	62.03
		高３のみ	741	62.72	62.72	
公民	現代社会（100 点）	全体	2677	51.63	51.63	56.76
		高３のみ	2021	51.77	51.77	
	倫理（100 点）	全体	1489	54.85	54.85	62.25
		高３のみ	1264	55.89	55.89	
	政治経済（100 点）	全体	2243	49.27	49.27	56.24
		高３のみ	2128	49.29	49.29	
理科	物理基礎（50 点）	全体	591	58.26	29.13	30.58
		高３のみ	279	58.04	29.02	
	化学基礎（50 点）	全体	4049	50.99	25.50	31.22
		高３のみ	3207	50.41	25.20	
	生物基礎（50 点）	全体	5988	51.02	25.51	30.99
		高３のみ	4943	51.21	25.60	
	地学基礎（50 点）	全体	2398	57.21	28.60	29.62
		高３のみ	2113	57.74	28.87	
	物理（100 点）	全体	3196	37.47	37.47	56.94
		高３のみ	2611	38.54	38.54	
	化学（100 点）	全体	4679	49.68	49.68	54.67
		高３のみ	3961	50.77	50.77	
	生物（100 点）	全体	1611	35.52	35.52	62.89
		高３のみ	1386	36.05	36.05	
	地学（100 点）	全体	130	42.02	42.02	46.34
		高３のみ	130	42.02	42.02	
英語	リーディング（100 点）	全体	12990	51.25	51.25	123.30（200 点満点）
		高３のみ	10681	51.15	51.15	
	リスニング（100 点）	全体	12927	59.10	59.10	31.42（50 点満点）
		高３のみ	10623	58.82	58.82	

※この点数は国語、数学は記述式を含まないため、それぞれ 200 点、85 点満点となっている。
※英語はセンター試験と共通テストは配点が異なるため、比較注意。

2-2　試行調査を見る

2018 年 11 月に行われた試行調査の問題について、大学入試センターによって発表されている「問題作成における主な工夫・改善等について」という資料とあわせて国数英の３教科を中心に考察してみましょう。各教科の最後にはまとめとして、河合塾の分析と代々木ゼミナールによる対策を掲載いたします。

国語

試行調査における工夫・改善のポイント：国語（記述式）

記述式問題については、探究レポートを書くに当たって、文章を読んで考えをまとめる場面で、文章の構成や展開をとらえるなど、テクストを的確に読み取る力、及び言語活動の目的に応じて思考したことを表現する力を問う問題としている。これまで問題イメージを提示していない論理的な文章からの出題とし、共通するテーマ（言語）を扱っている二つの論理的な文章を題材とした。

2018 年度試行調査　国語（記述式）

＜問１＞　【文章Ⅰ】の傍線部Ａ「指差しが魔法のような力を発揮する」とは、どういうことか。三十字以内で書け（句読点を含む）。

＜問２＞　「ヒトはどのように言語を習得していくのか」という問題について考えを進めたまことさんは、【文章Ⅰ】の傍線部Ｂ「初期の指差しは、言語習得のひとつの重要な要素をなしている」ことについて、【文章Ⅱ】に詳しく述べられていることに気付いた。そこで、【文章Ⅱ】の内容を基に、子どもが「初期の指差し」によって言語を習得しようとする一般的な過程を次のようにノートに整理してみた。その過程が明らかになるように、空欄に当てはまる内容を四十字以内で書け（句読点を含む）。

＜問３＞　「ヒトの指差し」と指示語についても考えたまことさんは、次の【資料】を見つけ、傍線部「指さされたものが、話し手が示したいものと同一視できないケース」があることを知った。まことさんは、「話し手が地図上の地点を指さす」行為もこのケースに当てはまることに気付き、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に記された「指差し」の特徴から、なぜ「同一視できないケース」でも「話し手が示したいもの」を理解できるのかについての考えをまとめることにした。

まことさんは、どのようにまとめたと考えられるか。後の⑴～⑷を満たすように書け。

＜ポイント＞

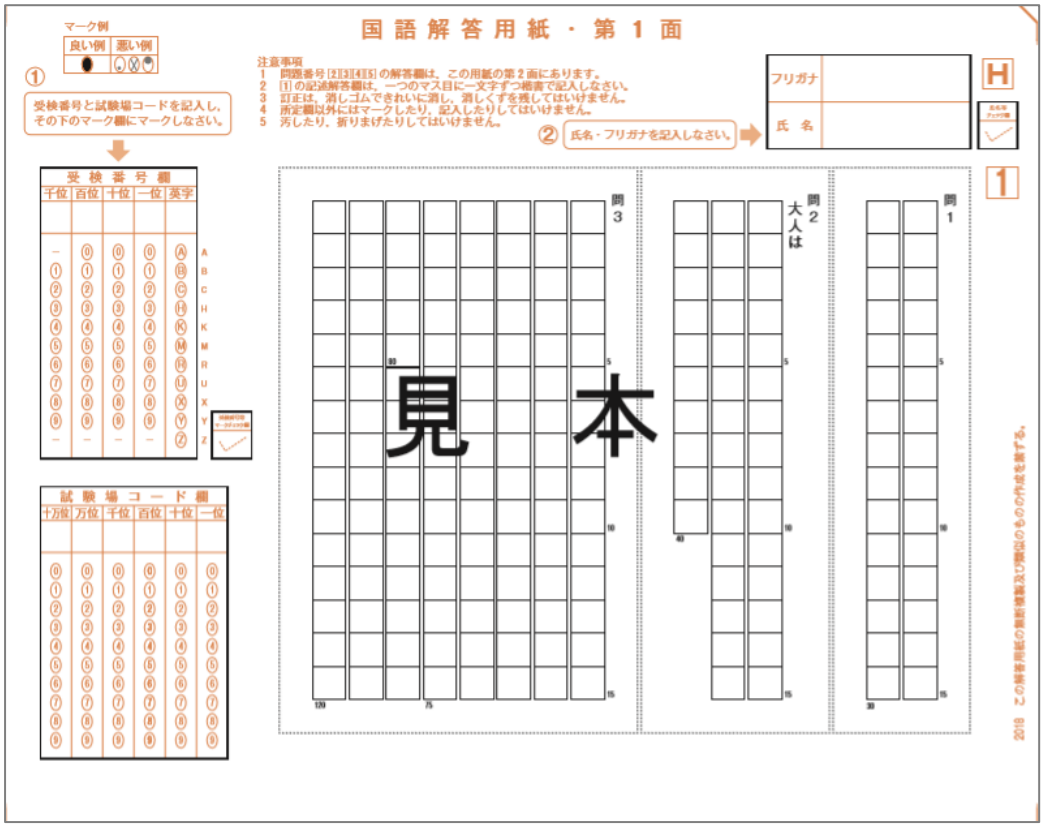
問いたいのは「的確に読み取る力、思考したことを表現する力」であり、そのために「探求し

ポートを書くにあたって、文章を読んで考えをまとめる場面」が設定されているということです。そして、複数の文章を提示することで、その「思考力」「考えをまとめる力」を問おうとしているのです。2018 年度の試行調査において、問 1 では【文章Ⅰ】だけですが、問 2 では【文章Ⅱ】、問 3 ではさらに新たな【資料】が追加されていることに注意しましょう。また、問 2、問 3 におけるまことさんを主語とした動詞に注目して見ると、探求活動のプロセスを意識した出題になっているのが良く分かります。

- 考えを進めた　→　気付いた　→　整理してみた
- 見つけ　→　知った　→　気付き　→　考えをまとめる

2018 年度試行調査　国語（記述式）解答用紙

第 1 面が記述式（表）、第 2 面（裏）がマーク式の解答用紙になっています。問題冊子にも解答用紙と同じ書式の下書きページがあります。



試行調査における工夫・改善のポイント：国語

実用的な文章（広報の文章（ポスター）、法的な文章）と論理的な文章を主たる題材としたマーク式問題も出題した。

2018 年度試行調査　国語（第２問）

次の【資料Ⅰ】は、【資料Ⅱ】と【文章】を参考に作成しているポスターである。【資料Ⅱ】は著作権法（二〇一六年改正）の条文の一部であり、【文章】は名和小太郎の『著作権２．０ウェブ時代の文化発展をめざして』（二〇一〇年）の一部である。これらを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

【資料Ⅰ】

【資料Ⅱ】

「著作権法」（抄）

（目的）

第一条　この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条　この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一　著作物　思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

二　著作者　著作物を創作する者をいう。

三　実演　著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗詠し、又はその他の方法により演ずること（これらに類する行為で、著作物を演じないが芸能的な性質を有するものを含む。）をいう。

（技術の開発又は実用化のための試験の用に供するための利用）

第三十条の四　公表された著作物は、著作物の録音、録画その他の利用に係る技術の開発又は実用化のための試験の用に供する場合には、その必要と認められる限度において、利用することができる。

（営利を目的としない上演等）

第三十八条　公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金（いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。）を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

（時事の事件の報道のための利用）

第四十一条　写真、映画、放送その他の方法によつて時事の事件を報道する場合には、当該事件を構成し、又は当該事件の過程において見られ、若しくは聞かれる著作物は、報道の目的上正当な範囲内において、複製し、及び当該事件の報道に伴つて利用することができる。

＜問２＞　傍線部Ａ「記録メディアから剝がされた記号列」とあるが、それはどういうものか。【資料Ⅱ】を踏まえて考えられる例として最も適当なものを、次の 1～ 5 のうちから一つ選べ。

＜問６＞　【資料Ⅰ】の空欄ａに当てはまるものを、次の 1～6 のうちから三つ選べ。

＜ポイント＞

2017 年度の試行調査では生徒会ポスターが出題され話題となりましたが、実社会に基づいた情報処理と読解をリンクさせる形式は 2018 年度試行調査でも出されました。【資料Ⅰ】が広報の文章、【資料Ⅱ】は法的な文章という実用的な文章であり、【文章】は論述文となっています。問２は複数の資料から理解をまとめるという出題です。また問６ではポスターの空欄に当てはまる表記を選ぶ問題ですが、１つではなく３つを選ぶ問題となっています。「正解が１つではない問題」ということも新テストでは意識されていますが、複数あっても正解は決まっており、センターの英語読解試験でもすでにこのような問題が出ていたので、ここは見た目ほど真新しいものではありません。

2018 年度試行調査　国語（第４問）

問５　次に掲げるのは、二重傍線部「かかれとてしも」に関して、生徒と教師が交わした授業中の会話である。会話中にあらわれる遍昭（へんじょう）の和歌や、それを踏まえる二重傍線部「かかれとてしも」の解釈として、会話の後に六人の生徒から出された発言①～⑥のうち、適当なものを二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 7 ・ 8 。

生徒　先生、この「かかれとてしも」という部分なんですけど、現代語に訳しただけでは意味が分からないんです。どう考えたらいいですか。

教師　それは、

たらちねはかかれとてしもむばたまの我（わ）が黒髪をなでずやありけむ

という遍昭の歌に基づく表現だから、この歌を知らないと分かりにくかっただろうね。古文には「引き歌」といって、有名な和歌の一部を引用して、人物の心情を豊かに表現する技法があるんだよ。

生徒　そんな技法があるなんて知りませんでした。和歌についての知識が必要なんですね。

教師　遍昭の歌が詠まれた経緯については、『遍昭集』という歌集が詳しいよ。歌の右側には、

なにくれといひありきしほどに、仕まつりし深草の帝（みかど）隠れおはしまして、かはらむ世を見むも、堪（た）へがたくかなし。歳人の頭の中将などいひて、夜昼馴（な）れ仕まつりて、「名残りなからむ世に交じらはじ」とて、にはかに、家の人にも知らせで、比叡（ひえ）に上りて、頭（かしら）下ろし侍りて、思ひ侍りしも、さすがに、親などのことは、心にやかかり侍りけむ。

と、歌が詠まれた状況が書かれているよ。

生徒　そこまで分かると、浮舟とのつながりも見えてくる気がします。

教師　それでは、板書しておくから、歌が詠まれた状況も踏まえて、遍昭の和歌と『源氏物語』の浮舟、それぞれについてみんなで意見を出し合ってごらん。

① 生徒Ａ――遍昭は、お仕えしていた帝の死をきっかけに出家したんだね。そのときに「たらちね」、つまりお母さんのことを思って「母はこのように私が出家することを願って私の髪をなでたに違いない」と詠んだんだから、遍昭の親は以前から息子に出家してほしいと思っていたんだね。

② 生徒Ｂ――そうかなあ。この和歌は「母は私がこのように出家することを願って私の髪をなでたはずがない」という意味だと思うな。出家をして帝への忠義は果たしたけれど、育ててくれた親に申し訳ないという気持ちもあって、だから『遍昭集』で「さすがに」と言っているんだよ。

③ 生徒Ｃ――私はＡさんの意見がいいと思う。浮舟も出家することで、遍昭と同じくお母さんの意向に沿った生き方をしようとしているんだよ。つまり、今まで親の期待に背いてきた浮舟が、これからの人生をやり直そうとしている決意を、心の中でお母さんに誓っていることになるね。

④ 生徒Ｄ――私も和歌の解釈はＡさんのでいいと思うけど、『源氏物語』に関してはＣさんとは意見が違う。薫か匂宮と結ばれて幸せになりたいというのが、浮舟の本心だったはずだよ。自分も遍昭のように晴れ晴れした気分で出家できたらどんなにいいかという望みが、浮舟の独り言から読み取れるよ。

⑤ 生徒Ｅ――いや、和歌の解釈はＢさんのほうが正しいと思うよ。浮舟も元々は気がすすまなかった、親もそれを望んでいない、それでも過去を清算するためには出家以外に道はないとわりきった浮舟の潔さが、遍昭の歌を口ずさんでいるところに表れているんだよ。

⑥ 生徒Ｆ――私もＢさんの解釈のほうがいいと思う。でも、遍昭が出家を遂げた後に詠んだ歌を、浮舟は出家の前に思い起こしているという違いは大きいよ。出家に踏み切るだけの心の整理を、浮舟はまだできていないということが、引き歌によって表現されているんだよ。

＜ポイント＞

古典「源氏物語」の大問ですが、問５は授業でのディスカッションから出題されています。単に文章を理解するだけでなく、それをもとに意見をやり取りし、考えることを求めている意図が見えます。

ほかにも国語では以下のような工夫と出題がなされています。

試行調査における工夫・改善のポイント：国語

文学的な文章や古典の題材も引き続き重視した出題とし、これまで扱われなかった詩とエッセイを関連付けて読み取る問題や、故事成語の出典となる文章（現代語訳）と漢文を比較して漢文を理解する問題を出題した。

2018 年度試行調査　国語（第３問）

次の詩「紙」（『オンディーヌ』、一九七二年）とエッセイ「永遠の百合」（『花を食べる』、一九七七年）を読んで（ともに作者は吉原幸子）、後の問い（問１～６）に答えよ。

2018 年度試行調査　国語（第５問）

次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は、いずれも「狙公」（猿飼いの親方）と「狙」（猿）とのやりとりを描いたものである。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問 1～5）に答えよ。

全体のまとめ　－　河合塾の分析

全体の分析

第 1 回試行調査と同様、記述式問題が追加され、試験時間が 80 分（センター試験の試験時間）から 100 分へと増加しており、現代文 3 題（記述式問題 1 題含む）、古文 1 題、漢文 1 題の構成となっている。第 1 回試行調査に比べて、全体的な文章量は現代文を中心に減少。難度は、国語全体としてはやや易しくなっている。（現代文、古文、漢文ともに やや易しくなった。）センター試験とは構成が異なるため、マークシート式問題部分だけを比較するとほぼ同程度の難度と思われる。（現代文、古文はほぼ同じ、漢文はやや易しくなった。）

対策と学習　－　代々木ゼミナールの分析

対策としてどのような学習が効果的か

現代文については、従来から求められている評論文の読解力に加えて、複数のテキストを関連づけて理解する能力、本文内容を簡潔に要約する表現力、本文の理由を説明する論理的な思考力・表現力が求められている。第３問では、従来の小説ではなく、詩とエッセイからの出題となっており、より広いジャンルの文章に日頃から目を通しておく必要がある。

古文については、従来と変わらず古語や古典文法、古典常識などの基本的な知識習得がまず求められる。その上で複数のテキストや設問意図などを素早く読み取れるように、様々な形式の問題に触れておきたい。前回の試行調査に続いて和歌が出題されており、とりわけ和歌に関する理解を深めておく必要がある。

漢文については、これまで同様に句法や重要語の学習、本文構成や比喩表現の理解が不可欠である。それに加えて、文学史を含む古典の知識を幅広く吸収し、漢文読解の基礎を築くなど、これまで以上に総合的、学際的な学力を養うことが望ましい。また積極的な音読によって漢文のリズムを覚え、生きた言葉を身につける訓練も積み重ねてほしい。

数学

2017 年度（平成 29 年度）の試行調査の記述式問題では、限定的とは言え、自分の言葉で説明する趣旨の出題が見られました。正答の条件も、国語のような条件が示されていました。

2017 年度試行調査　数学（記述式）

(4)　最初の a，b，c の値を変更して，下の図 2 のようなグラフを表示させた。このとき，a，c の値をこのまま変えずに，b の値だけを変化させても，頂点は第 1 象限および第 2 象限には移動しなかった。

その理由を，頂点の y 座標についての不等式を用いて説明せよ。解答は，解答欄 (あ) に記述せよ。

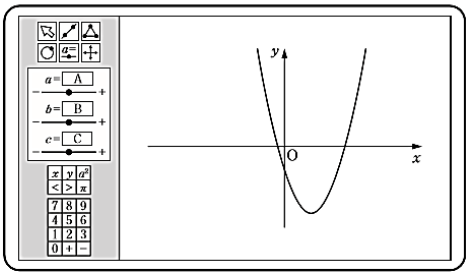


図 2

正答の条件　問題(あ)

《正答の条件》

「直線」という単語を用いて，次の(a)と(b)の両方について正しく記述している。

(a)　用いる直線が各県を表す点と原点を通ること。

(b)　(a)の直線の傾きが最も大きい点を選ぶこと。

《正答例 1》　各県を表す点のうち，その点と原点を通る直線の傾きが最も大きい点を選ぶ。

《正答例 2》　各県を表す点と原点を通る直線のうち，x 軸とのなす角が最も大きい点を選ぶ。

《正答例 3》　各点と(0, 0)を通る直線のうち，直線の上側に他の点がないような点を探す。

※　「傾きが急」のように，数学の表現として正確でない記述は不可とする。

しかし、2018 年度の試行調査では「問題作成における主な工夫・改善等について」という中で以下のような発表がされ、もはや記述式である必要性を感じないような簡素な問題になりました。

試行調査における工夫・改善のポイント

数学については、昨年度の試行調査における正答率や無解答率を踏まえ、数式のみを記述させる問題や、短い文章で端的に記述させる問題とした。

2018 年度試行調査　数学（記述式）

(1) 「集合 A と集合 B の共通部分は空集合である」という命題を，記号を用いて表すと次のようになる。

$$A \cap B = \varnothing$$

「1 のみを要素にもつ集合は集合 A の部分集合である」という命題を，記号を用いて表せ。解答は，解答欄 (あ) に記述せよ。

正答の条件　問題(あ)

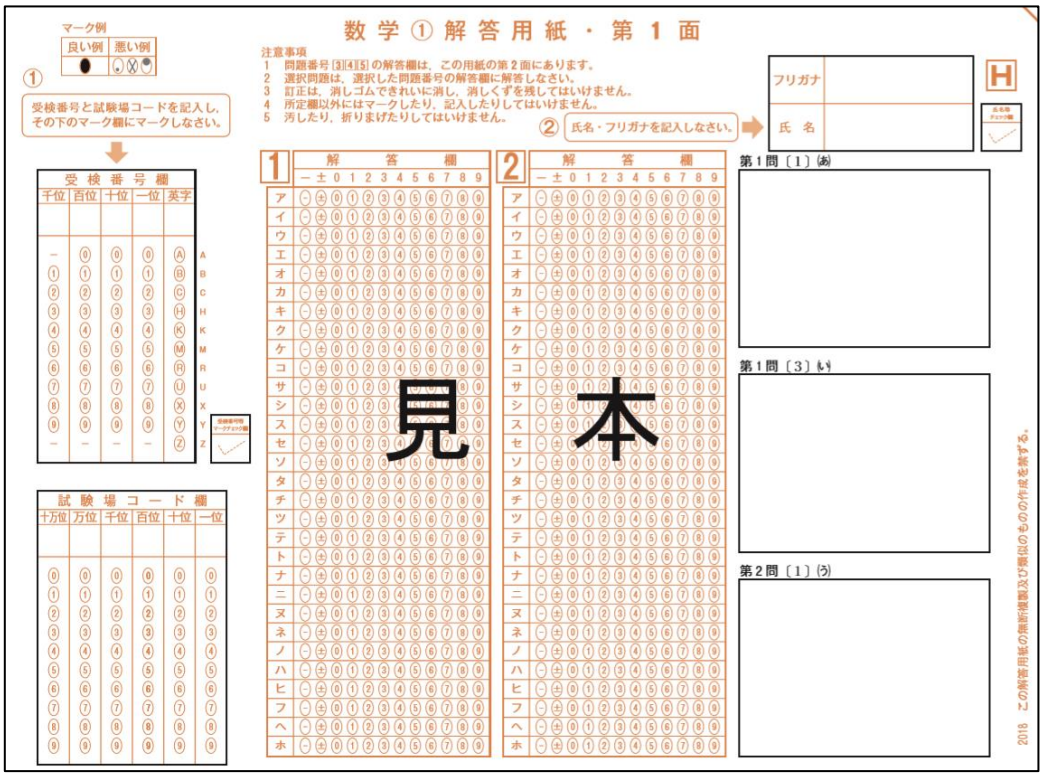
《正答例》　$\{1\} \subset A$

《留意点》

- 正答例とは異なる記述であっても題意を満たしているものは正答とする。

2018 年度プレテスト　数学　解答用紙

解答用紙の右に３つの記述式のスペースが用意されています。



＜ポイント＞

2017 年度試行調査では「説明する」という趣旨の問題は正答率が低く、2018 年度の試行調査では姿を消しました。結果、数式を答えるだけの問題や簡素な説明を求める問題になりました。3 つ目の記述問題（問題(あ)）には説明をする問題が残っていますが、本来の記述式の出題目的である「思考力・判断力・表現力」を問う問題とは言えないものになりました。

試行調査における工夫・改善のポイント：数学

コンピュータのグラフ表示ソフトを用いるなどＩＣＴを活用した学習場面を設定した問題も出題した。

2018 年度試行調査　数学ＩＡ（第１問）

数学Ⅰ・数学A

〔2〕 関数 $f(x) = a(x-p)^2 + q$ について，$y = f(x)$ のグラフをコンピュータのグラフ表示ソフトを用いて表示させる。

このソフトでは，a，p，q の値を入力すると，その値に応じたグラフが表示される。さらに，それぞれの［　　］の下にある●を左に動かすと値が減少し，右に動かすと値が増加するようになっており，値の変化に応じて関数のグラフが画面上で変化する仕組みになっている。

最初に，a，p，q をある値に定めたところ，図１のように，x 軸の負の部分と２点で交わる下に凸の放物線が表示された。

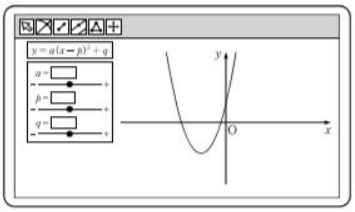


図１

(1) 図１の放物線を表示させる a，p，q の値に対して，方程式 $f(x) = 0$ の解について正しく記述したものを，次の⓪～④のうちから一つ選べ。［ ウ ］

⓪ 方程式 $f(x) = 0$ は異なる二つの正の解をもつ。
① 方程式 $f(x) = 0$ は異なる二つの負の解をもつ。
② 方程式 $f(x) = 0$ は正の解と負の解をもつ。
③ 方程式 $f(x) = 0$ は重解をもつ。
④ 方程式 $f(x) = 0$ は実数解をもたない。

(2) 次の操作 A，操作 P，操作 Q のうち，いずれか一つの操作を行い，不等式 $f(x) > 0$ の解を考える。

操作A：図１の状態から p，q の値は変えず，a の値だけを変化させる。
操作P：図１の状態から a，q の値は変えず，p の値だけを変化させる。
操作Q：図１の状態から a，p の値は変えず，q の値だけを変化させる。

このとき，操作 A，操作 P，操作 Q のうち，「不等式 $f(x) > 0$ の解がすべての実数となること」が起こり得る操作は［ エ ］。また，「不等式 $f(x) > 0$ の解がないこと」が起こり得る操作は［ オ ］。

［ エ ］，［ オ ］に当てはまるものを，次の⓪～⑦のうちから一つずつ選べ。ただし，同じものを選んでもよい。

⓪ ない
① 操作 A だけである
② 操作 P だけである
③ 操作 Q だけである
④ 操作 A と操作 P だけである
⑤ 操作 A と操作 Q だけである
⑥ 操作 P と操作 Q だけである
⑦ 操作 A と操作 P と操作 Q のすべてである

（数学Ⅰ・数学A第１問は次ページに続く。）

＜ポイント＞

2017 年度の試行調査でも筆記の部分でこのようなコンピューターのグラフが出ています。「ICT を活用した学習場面」を意識した出題が継続されていると言えます。

試行調査における工夫・改善のポイント：数学

日常事象を数理的にとらえ，数学的な表現を用いて説明する力を問うため、階段の踏面を題材に、事象を三角比を用いて表現する問題を出題した。

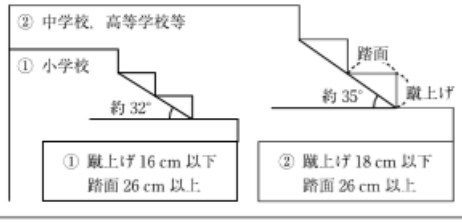
2018 年度試行調査　数学（第１問）

〔3〕 久しぶりに小学校に行くと，階段の一段一段の高さが低く感じられることがある。これは，小学校と高等学校とでは階段の基準が異なるからである。学校の階段の基準は，下のように建築基準法によって定められている。

高等学校の階段では，蹴上げが 18 cm 以下，踏面が 26 cm 以上となっており，この基準では，傾斜は最大で約 35° である。

【建築基準法による階段の基準】

＊下の図は，階段の傾斜が基準内で最大のときを表している。



＜ポイント＞

実社会との関わりを意識し、知識を応用する問題です。実社会の状況を把握し、解答に必要なエッセンスを抜き出すことを求めています。数学ⅡＢでは大学生の読書時間、2017 年度の試行調査では文化祭のＴシャツの値段やポップコーンの容量が題材となりました。

試行調査における工夫・改善のポイント：数学

問題解決に向けて、「構想を立てる」ことに焦点を当てた問題も取り入れた。

2018 年度試行調査　数学ＩＡ（第５問）

ある日、太郎さんと花子さんのクラスでは、数学の授業で先生から次の問題１が宿題として出された。

問題１は次のような構想をもとにして証明できる。

太郎さんたちは、次の日の数学の授業で問題１を証明した後、点Ｘが弧 BC 上にないときについて先生に質問をした。その質問に対して先生は、一般に次の定理が成り立つことや、その定理と問題１で証明をしたことを使うと、下の問題２が解決できることを教えてくれた。

＜ポイント＞

単に答えを求めるのではなく、「構想を立てる」とあるように、解答を導くための思考やプロセスを重視した出題となっています。数学ＩＡの第１問、数学ⅡＢの第４問、第５問でも同様の出題が見られます。

試行調査における工夫・改善のポイント：数学

「数学Ⅱ・数学Ｂ」第４問、第５問)。また、会話文を通じて、基本的な概念に関する本質的な意味や理解などが問えるように工夫した

2018 年度試行調査　数学ＩＡ（第２問）

太郎さんと花子さんは二つの変量 x, y の相関係数について考えている。二人の会話を読み、下の問いに答えよ。

花子：先生からもらった表計算ソフトのＡ列とＢ列に値を入れると，Ｅ列にはＤ列に対応する正しい値が表示されるよ。
太郎：最初は簡単なところで二組の値から考えてみよう。
花子：２行目を $(x,\ y) = (1,\ 2)$，３行目を $(x,\ y) = (2,\ 1)$ としてみるね。

太郎：３行目の変量 y の値を 0 や -1 に変えても相関係数の値は［タ］になったね。
花子：今度は，３行目の変量 y の値を 2 に変えてみよう。
太郎：エラーが表示されて，相関係数は計算できないみたいだ。

花子：３行目の変量 y の値を 3 に変更してみよう。相関係数の値は 1.00 だね。
太郎：３行目の変量 y の値が 4 のときも 5 のときも，相関係数の値は 1.00 だ。
花子：相関係数の値が 1.00 になるのはどんな特徴があるときかな。
太郎：値の組の個数を多くすると何かわかるかもしれないよ。

花子：じゃあ，次に値の組の個数を 3 としてみよう。
太郎：$(x,\ y) = (1,\ 1)$，$(2,\ 2)$，$(3,\ 3)$ とすると相関係数の値は 1.00 だ。
花子：$(x,\ y) = (1,\ 1)$，$(2,\ 2)$，$(3,\ 1)$ とすると相関係数の値は 0.00 になった。
太郎：$(x,\ y) = (1,\ 1)$，$(2,\ 2)$，$(2,\ 2)$ とすると相関係数の値は 1.00 だね。
花子：まったく同じ値の組が含まれていても相関係数の値は計算できることがあるんだね。
太郎：思い切って，値の組の個数を 100 にして，１個だけ $(x,\ y) = (1,\ 1)$ で，99 個は $(x,\ y) = (2,\ 2)$ としてみるね……。相関係数の値は 1.00 になったよ。
花子：値の組の個数が多くても，相関係数の値が 1.00 になるときもあるね。

花子：値の組の個数が 2 のときは，相関係数の値は 1.00 か［タ］，または計算できない場合の 3 通りしかないね。
太郎：値の組を散布図に表したとき，相関係数の値はあくまで散布図の点が［テ］程度を表していて，値の組の個数が 2 の場合に，花子さんが言った 3 通りに限られるのは［ト］からだね。値の組の個数が多くても値の組が 2 種類のときはそれらにしかならないんだね。
花子：なるほどね。相関係数は，そもそも値の組の個数が多いときに使われるものだから，組の個数が極端に少ないときなどにはあまり意味がないのかもしれないね。
太郎：値の組の個数が少ないときはもちろんのことだけど，基本的に散布図と相関係数を合わせてデータの特徴を考えるとよさそうだね。

＜ポイント＞

設問を挟みながら太郎と花子の会話がこれだけ続きます。協働学習の視点からディスカッションによって解答を導く思考プロセスを求めています。会話の中から必要な条件などを適切に抜き出す必要があります。

試行調査における工夫・改善のポイント：数学

事象に関する直観的な認識と得られた計算結果のずれの意味を考える問題も取り入れた。

2018 年度試行調査　数学ⅠA（第3問）

花子：やっぱり１番目の人が当たりくじを引いた場合は，同じ箱から引いた方が当たりくじを引く確率が大きいよ。

太郎：そうだね。でも，思ったより確率の差はないんだね。もう少し当たりくじの本数の差が小さかったらどうなるのだろう。

花子：１番目の人が引いた箱が箱 A の可能性が高いから，箱 B の当たりくじの本数が 8 本以下だったら，同じ箱のくじを引いた方がよいのではないかな。

太郎：確率を計算してみようよ。

＜ポイント＞

ここでも太郎と花子の会話が登場していますが、その中「直感的な認識と計算結果のずれ」を検証するということが行われています。数学学習に求められる思考・検証プロセスを提示しています。

全体のまとめ　－　河合塾の分析

全体の分析

＜数学ⅠA＞

試験時間は 70 分。大問数は５題（選択問題があるため受験生が解答する大問数は４題）。第１回試行調査同様、記述式問題が追加され、試験時間が 60 分から 70 分へと増加している。第１回試行調査と比較すると、問題量はほとんど変化ないが、各問題の導入部にある文章が短くなり、その影響からページ数が減少した。第１回試行調査に引き続き「すべて選べ」という設問形式がみられたり、最後の設問については解答を導くための誘導を排除した出題形式もみられ、センター試験と比較すると自分で考える分量が増加し、難度が高くなっている。全体としてみると、受験生の負担が大きい印象である。

＜数学ⅡB＞

試験時間は 60 分。大問数は５題（選択問題があるため受験生が解答する大問数は４題）。第１回試行調査と同様、センター試験と比較して、問題量に対して解答時間が足りないという受験生が多かったと思われる。第１回試行調査と比較すると内容はやや易しくなった印象であるが、いくつかの大問の最後の設問には解答を導くための誘導がみられず、難度を上げている。選択問題は難度に多少のばらつきがあり、類似問題を過去に解いたことがあるか否かで得点に差が出る。

対策としてどのような学習が効果的か

＜数学ⅠA＞

これから入試問題を解く機会は徐々に増えていくと思われるが、今までのセンター試験では出題しづらかった「集合に関する表現」、「正弦定理の証明」や「データの分析における表計算ソフトの活用」といった内容が今回出題されている。知識及び技能という能力の向上のために教科書に載っている内容は隅々まで学習しておくべきである。また、確かに知識量の差で有利・不利が分かれる出題もあるだろうが、重視される能力として思考力、判断力、表現力というものがある。発展的な問題の演習を通じて、思考力や判断力を磨いていってほしい。その際、結論までは導けなくても「どのような過程からどのように推測できるか」を意識して学習しよう。また、表現力という面では「自分で表現してみる」、「自分の表現が正しいか確認する」といったことが大切である。一方、今回建築基準法が背景として出題されたことから、数学以外のどのような内容が背景になっても不思議ではないだろう。しかし、高等学校卒業までに通常学ぶ機会がない専門知識は当然必要としない。さらに、今回天秤ばかりが背景として出題されたことから、中学校卒業までに習う理科、社会科はしっかり学んでおいた方が良い。このことで実際の試験で素早く解けるということだけでなく、日常の事象を、数学的な見方・考え方をするのに結びつくだろう。それから、長い文章を読むという点では、やはり中学校卒業までに習う国語が重要な要素の一つだと考えられる。

＜数学ⅡB＞

普段から計算力だけでなく、数式の定義や概念、例えば導関数とは何か、導関数がどのような性質を持つのかといったことも考えておくとよい。加えて、今計算している値はどのような意味を持っているかを意識しながら計算をしよう。今回の問題は全体的に誘導があまり多くないため、解答に必要な情報を見失う可能性がある。また、1 つの問題に対して複数の解法が考えられるものも多い。余裕があれば、授業の解説や他の生徒の解答を比較することによって、別解を考える癖をつけておくとよい。見慣れない題材を用いた問題が出題されたときに、それらの中から解法を見出す一助にもなる。

英語

試行調査における工夫・改善のポイント：英語

試行調査においては、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえながら、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（[リーディング]。マーク式）とリスニング（マーク式）を課すこととし、CEFR を参考に、Ａ１～Ｂ１までの問題を組み合わせて出題した。英語教育改革の方向性の中で各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの英語の資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、「筆記［リーディング]」と「リスニング」の配点を均等とした。

＜ポイント＞

センター試験の英語は「筆記」と「リスニング」でしたが、共通テストでは「リーディング」と「リスニング」という科目になります。つまりリーディング、リスニングという２つのスキルに特化したテストになったのです。その特徴の１つとして、アクセント、単語や文法に特化した問題がなくなりました。また、リスニング重視ということでリーディングとリスニングがそれぞれ 100 点の均等配点になっています。ただし、筑波大学は共通テストの英語の成績の配点を「リーディング 160 点、リスニング 40 点」にするとしています。他にも、テスト時間が 80 分、30 分と異なる２つのテストを均等配点にできないということも理由に、同様の対応をとる大学も出てきています。均等配点にしたのは大学入試センターであり、各大学が選抜の際にどのように配点を決めるのかを注視したいところです。

2017 年度　共通テスト試行調査　「有識者からいただいたコメント」

・吉田研作氏

今回の英語の問題は、今までのものと違い、スピーキングやライティングの間接的に問う問題（発音、アクセント、語句整序など）は含まれておらず、リーディングは純粋に読解力を、またリスニングは純粋に聴解力をはかるものになっている点が非常に良い。

・松本茂氏

受験生は共通テストと民間の英語四技能試験の両方を受けることを踏まえ、共通テストでは「聞く力」「読む力」の二技能に焦点を当てることになったことが大きな特徴の一つである。これにより、これまで出題されていた「話す力」「書く力」を間接的に測っているとされた問題（発音、ア クセント、語句整序など）を排除できたことを評価したい。これらの問題は、いわゆる「受験英語」の指導を助長していたという根強い批判が以前からあった。

英語の最大の特徴は「学習者が英語を使う場面が設定され、その中で何ができるか問う問題が出されている」ということです。問題文の主語が全て「you」であり、生徒自身が英語を使う状況と目的が設定されています。そのために、リーディングではウェブサイトやレポートなど、実

際に学習者が触れるものを題材としており、多様な言語のジャンルに触れることになります。また「リサーチをしている」「次のクラスでディスカッションをするための事前準備」といったように実際に英語の授業を場面として設定しています。

2017 年度　共通テスト試行調査　「有識者からいただいたコメント」

・高山芳樹氏

従来の英語のセンター試験に取り組んでいると「自分は今、英語のテスト問題を解いている」という感覚を持つことが多かったのですが、今回の英語のプレテストではその感覚が薄れ、あたかも 自分がその場で英語を使ったコミュニケーション活動をしているような感覚を持ちながら取り組むことができました。その理由としては、各設問の冒頭でコミュニケーションの場面、目的、状況が明記され、受験者がコミュニケーションの当事者として英文素材のリーディングやリスニングに取り組むような仕掛けがされていたからだと考えます。

また、次のページに、大学入試センターが公表したリーディング、リスニングそれぞれの「作問のねらいとする資質・能力についてのイメージ」を掲載しておきますが、「どのようなコミュニケーションタスクができるのか」という Can-Do リストを CEFR のレベルに基づいて作り、それに沿って出題をしているということが分かります。加えて、河合塾の分析にある通り、センターと比較して、同じ試験時間で総語数が 1000 語ほど増えているため、日本語を介さずに英語のまま速読即解で対応する力がより一層必要になるでしょう。

	CEFR　A1・A2	CEFR　B1 レベル
リーディング	40 点（第 1 問～第 3 問）	60 点（第 4 問～第 6 問）
リスニング	60 点（第 1 問～第 4 問 A）	40 点（第 4 問 B～第 6 問）

リスニングは現センター試験のものと大きな差はありませんが、実際のコミュニケーションや言語使用場面をより一層反映した内容になっています。第 5 問の「講義を聞く」というタスクはこれまでのセンター試験には見られないもので、アカデミックな言語使用場面が設定されているのが特徴的です。また、ワークシートを完成させる、グラフを判断するといった思考力を組み込み、よりアカデミックなリスニングタスクに仕上がっています。

2017 年度　共通テスト試行調査　「有識者からいただいたコメント」

・松本茂氏

英語での講義を聴きながら英語でメモが取れるかどうかといった、大学に置いて英語で行われる専門科目の授業が増えつつある中、高大接続を視野に入れた問題が配置されていることも評価したい。

「作問のねらいとする資質・能力についてのイメージ」：リーディング

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ，更に整理する。

		A1	A2	B1	B2（参考）
（参考） CEFR 自己評価表		例えば，掲示やポスター，カタログの中のよく知っている名前，単語，単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテクストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット，メニュー，予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や，自分の仕事関連の言葉で書かれたテクストなら理解できる。 起こったこと，感情，希望が表現されている私信を理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。
国の指標形式の主な目標		□日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 □平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで，視覚情報などを参考にしながら，あらすじを理解することができるようにする。 □身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで，視覚情報などを参考にしながら，概要を理解することができるようにする。	□日常生活において身の回りにある短い平易なテクストから，必要な情報を読み取ることができるようにする。 □平易な英語で書かれた短い物語を読んで，あらすじを理解できるようにする。 □身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで，概要や要点を理解できるようにする。	□身近な話題に関する比較的短い記事やレポート，資料から，必要な情報を読み取ることができるようにする。 □短い物語を読んで，あらすじを理解することができるようにする。 □社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで，概要や要点を理解できるようにする。 □英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで，概要や要点を理解できるようにする。	□関心のある分野の記事や資料から，必要な情報を読み取ることができるようにする。 □興味のある現代小説や随筆を読んで，概要を理解することができるようにする。 □時事問題や社会問題に関する記事やレポート，資料を読んで，概要や要点，筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。
説明文	①部分の把握 ※テクストの部分を把握して解答する問題	○簡単な語句や単純な文の読み取り ・日常生活に関連した身近な掲示，カタログ，パンフレットなどから，自分が必要とする情報を読み取ることができる。	○平易で短いテクストの読み取り ・平易な表現が用いられている広告，パンフレット，予定表などから，自分が必要とする情報を読み取り，書き手の意図を把握することができる。	○短い説明の読み取り ・比較的短い記事，レポート，資料などから，自分が必要とする情報を読み取り，論理の展開や書き手の意図を把握することができる。	○幅広い話題を扱った英文の情報読み取り ・幅広い話題を扱った記事，レポート，資料などから，自分が必要とする情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※テクストの全体を把握して解答する問題	○平易でごく短い説明（視覚情報付）の概要・要点把握 ・友人，家族，学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで，イラストや写真などを参考にしながら，概要や要点を捉えたり，推測したり，情報を事実と意見に整理することができる。	○平易で短い説明の概要・要点把握 ・友人，家族，学校生活などの身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明を読んで，概要や要点を捉えたり，情報を事実と意見に整理することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する平易な説明などの概要・要点把握や情報の整理 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する記事やレポート，資料などを読んで概要や要点を把握したり，情報を整理したりすることができる。また，文章の論理展開を把握したり，要約することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明などの情報読み取りや概要・要点把握 ・時事問題や社会問題について幅広く情報を得るために効果的な資料を自分で探し，概要・要点把握など，目的に応じた読み方をすることができる。
物語文	①全体の把握 ※テクストの全体を把握して解答する問題	○平易でごく短い物語（視覚情報付）の概要把握 ・平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで，イラストや写真などを参考にしながら，概要を把握することができる。	○平易で短い物語の概要把握 ・平易な英語で書かれた短い物語を読んで，概要を把握することができる。	○短い物語の概要把握 ・短い物語を読んで，概要を把握することができる。	○現代小説や随筆の概要把握 ・比較的簡単な現代小説や随筆を読んで，概要を把握することができる。

「作問のねらいとする資質・能力についてのイメージ」：リスニング

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ，更に整理する。

		A1	A2	B1	B2（参考）
（参考）CEFR 自己評価表		はっきりとゆっくりと話してもらえれば，自分，家族，すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	（ごく基本的な個人や家族の情報，買い物，近所，仕事などの）直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い，はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事，学校，娯楽で普段出会うような身近な話題について，明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり，はっきりとしているなら，時事問題や，個人的もしくは仕事上の話題についても，ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また，もし話題がある程度身近な範囲であれば，議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語が使われていれば，大多数の映画を理解できる。
国の指標形式の主な目標		□挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 □日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 □ゆっくりはっきりと話されれば，身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を，視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。	□短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて，必要な情報を聞き取ることができるようにする。 □身近な話題に関する短い会話を聞いて，概要や要点を理解することができるようにする。 □ゆっくりはっきりと話されれば，身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。	□身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて，概要や要点を理解することができるようにする。 □比較的ゆっくりはっきりと話されれば，時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて，要点を理解することができるようにする。 □比較的ゆっくりはっきりと話されれば，馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して，要点を理解できるようにする。	□母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて，概要や要点を理解できるようにする。 □身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて，話の展開を理解できるようにする。 □自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて，概要や要点を理解できるようにする。 □ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して，概要や要点を理解することができるようにする。
説明	①部分の把握 ※音声の部分を把握して解答する問題	○日常生活における基本的な情報の聞き取り・把握 ・日付，曜日，時刻，単位を表す表現など，日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取り，把握することができる。	○簡単なアナウンスや指示・説明からの情報の聞き取り・把握 ・店や公共交通機関など，日常生活における簡単なアナウンスや指示・説明を聞いて，必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明からの情報の聞き取り・把握 ・身近な話題や職染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明を聞いて，必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握したり，複数の情報を比較して判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明からの情報の聞き取り・把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて，当該の話題に関するスピーチ，プレゼンテーション，ディベート，ディスカッション，エッセイライティングなどにおいて活用するために，必要な情報を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の情報の聞き取り・把握 ・ある程度知識のある話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて，必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※音声の全体を把握して解答する問題	○挨拶や簡単な指示の聞き取り・把握 ・挨拶や簡単な指示を聞いて，話し手の意図を把握することができる。 ○身の回りの事柄に関する平易でごく短い説明の概要・要点把握 ・友人や家族，学校生活など，身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い説明を，イラストや写真などを参考にしながら聞いて，概要や要点を把握することができる。	○個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージの把握 ・友人からの招待など，個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージを聞いて，話し手の意図を把握することができる。 ○身近な話題に関する平易で短い説明の概要・要点把握 ・友人や家族，学校生活など，身近な話題に関する平易で短い説明を聞き取り，概要や要点を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題を扱ったメディアや講義等の情報の概要・要点把握 ・身近な話題や職染みのある社会的な話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて，概要・要点を捉えたり，複数の情報を聞き取って判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明の概要・要点把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて，当該の話題に関するスピーチ，プレゼンテーション，ディベート，ディスカッション，エッセイライティングなどにおいて活用するために，概要や要点を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の概要・要点把握 ・ある程度知識のある話題を扱ったメディアや講義等の説明を聞いて，得た情報を他者に口頭で伝えるために，概要・要点を把握することができる。
会話・議論	①部分の把握 ※音声の部分を把握して解答する問題	○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族，学校生活など，身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話を，場面の情報などを参考にしながら聞いて，必要な情報を把握することができる。	○身近な話題に関する平易で短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族，学校生活など身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて，場面の情報などを参考にしながら必要な情報を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論における必要な情報の聞き取り・把握 ・身近な話題や職染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論を聞いて，必要な情報を把握したり，複数の情報を聞き取って判断することができる。	○多様な話題の長い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・多様な話題の長い会話を聞いて，必要な情報を把握することができる。 ○複雑な議論における必要な情報の聞き取り・把握 ・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて，必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※音声の全体を把握して解答する問題	○身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話における概要・要点 ・友人や家族，学校生活など，身の回りの事柄に関して平易な英語で話されるごく短い会話を，場面の情報などを参考にしながら聞いて，概要や要点を目的に応じて把握することができる。	○身近な話題に関する平易で短い会話の概要・要点把握 ・友人や家族，学校生活など，身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて，概要や要点を目的に応じて把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論の概要・要点把握 ・身近な話題や職染みのある社会的な話題に関する短い会話・議論を聞いて，話題とそれに対する各話者の発話の要点を整理して比較・判断することができる。	○多様な話題の長い会話の概要・要点把握 ・多様な話題の長い会話を聞いて，話題とそれに対する各話者の発話の要点を把握することができる。 ○複雑な議論における話の展開や論点の把握 ・身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて，話の展開を把握するとともに，各話者の主要な論点を整理して比較することができる。

さらに、もう 1 つ英語で特徴的なのが、「英語の多様性」を意識したことです。センター試験ではアメリカ英語が使われていましたが、これからはイギリス英語も併用されていきます。リスニングについてもこれまではアメリカ英語だけでしたが、試行調査ではイギリス英語、日本語母語話者による英語も加わった音声が使われました。大学入試センターも平成 21 年度指導要領の「様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮する」という一文を引用して説明をしていますが、要するに「今や英語は国際語であり、テストでも一定の地域を基準にした偏った方言（アクセント）ではなく、多様な英語に触れさせましょう」ということです。

2019 年大学入試センター発表

大学入学共通テスト英語におけるイギリス英語の使用について

現行の大学入試センター試験の英語表記はアメリカ英語を使用。
※試行調査（プレテスト）においてもアメリカ英語を使用

⇒　共通テストでは現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によって<u>イギリス英語</u>を使用することもある。

（補足説明）
○　高等学校学習指導要領に示された、国際的に広く日常的なコミュニケーションの手段として通用している<u>「現代の標準的な英語」には語彙、綴り、発音、文法などに多様性があることに気付かせる指導を踏まえ、出題の場面や内容にふさわしい英語表記とする</u>ため、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定に応じてイギリス英語を使用することがある。

◇　<u>リスニングの読み上げ音声については</u>、問題作成方針に示すとおり、<u>多様な話者による現代の標準的な英語を使用</u>する。
※試行調査（プレテスト）においてもアメリカ英語、イギリス英語及び日本語母語話者による英語の音声で出題

2017 年度　共通テスト試行調査　「有識者からいただいたコメント」

・松本茂氏
　また、英語の多様性に鑑みて、吹き込み者に、これまでの米国人に加え、英国人と日本人を起用していることも評価できる。高校現場で指導補助している ALT が世界各国から来ていることを考えれば、この変更は遅すぎたくらいだ。今後、オセアニア地域などの出身者を加えることも検討してよいだろう。

試行調査における工夫・改善のポイント：リーディング

授業における主な言語活動を念頭に、明確な目的や場面、状況の設定を重視することとし、授業でディベートを行う準備として記事を読む問題（第２問Ｂ）やグループでプレゼンテーションをするための準備として記事を読む問題（第５問、第６問Ａ）などを出題した。「読むこと」の力を把握することを目的としたことから、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題していない。

2018 年度プレテスト　リーディング

第１問 B

You visited your town's English website and found an interesting notice.

Call for Participants: Sister-City Youth Meeting

"Learning to Live Together"

Our town's three sister cities in Germany, Senegal, and Mexico will each send ten young people between the ages of 15 and 18 to our town next March. There will be an eight-day youth meeting called "Learning to Live Together." It will be our guests' first visit to Japan.

We are looking for people to participate: we need a host team of 30 students from our town's high schools, 30 home-stay families for the visiting young people, and 20 staff members to manage the event.

Program Schedule

March 20	Orientation, Welcome party
March 21	Sightseeing in small four-country mixed groups
March 22	Two presentations on traditional dance: (1) Senegalese students, (2) Japanese students
March 23	Two presentations on traditional food: (1) Mexican students, (2) Japanese students
March 24	Two presentations on traditional clothing: (1) German students, (2) Japanese students
March 25	Sightseeing in small four-country mixed groups
March 26	Free time with host families
March 27	Farewell party

- Parties and presentations will be held at the Community Center.
- The meeting language will be English. Our visitors are non-native speakers of English, but they have basic English-language skills.

To register, click **here** before 5 p.m. December 20.

▶▶International Affairs Division of the Town Hall

第２問 B

You are doing research on students' reading habits. You found two articles.

No Mobile Phones in French Schools

By Tracey Wolfe, Paris
11 DECEMBER 2017 • 4:07PM

The French government will prohibit students from using mobile phones in schools from September, 2018. Students will be allowed to bring their phones to school, but not allowed to use them at any time in school without special permission. This rule will apply to all students in the country's primary and middle schools.

Jean-Michel Blanquer, the French education minister, stated, "These days the students don't play at break time anymore. They are just all in front of their smartphones and from an educational point of view, that's a problem." He also said, "Phones may be needed in cases of emergency, but their use has to be somehow controlled."

However, not all parents are happy with this rule. Several parents said, "One must live with the times. It doesn't make sense to force children to have the same childhood that we had." Moreover, other parents added, "Who will collect the phones, and where will they be stored? How will they be returned to the owners? If all schools had to provide lockers for children to store their phones, a huge amount of money and space would be needed."

21 Comments

Newest

Daniel McCarthy 19 December 2017 • 6:11PM

Well done, France! School isn't just trying to get students to learn how to calculate things. There are a lot of other things they should learn in school. Young people need to develop social skills such as how to get along with other people.

第４問

Your English teacher gave you an article to help you prepare for the debate in the next class.　A part of this article with one of the comments is shown below.

Reading Habits Among Students　　**by David Moore**

July, 2010

Reading for pleasure is reading just for fun rather than for your school assignment or work. There is strong evidence linking reading for enjoyment and educational outcomes. Research has shown that students who read daily for pleasure perform better on tests than those who do not. Researchers have also found that reading for fun, even a little every day, is actually more beneficial than just spending many hours reading for studying and gathering information. Furthermore, frequent reading for fun, regardless of whether reading paper or digital books, is strongly related with improvements in literacy.

According to an international study, in 2009, two-thirds of 15-year-old students read for enjoyment on a daily basis. The graph shows the percentage of students who read for enjoyment in six countries. Reading habits differed across the countries, and there was a significant gender gap in reading in some countries.

In many countries, the percentage of students who read for enjoyment daily had decreased since the previous study in 2000. Back in 2000, on average, 77% of girls and 60% of boys read for enjoyment. By 2009, these percentages had dropped to 74% and 54%, respectively.

In my opinion, many students today do not know what books they should read. They say that they have no favorite genres or series. That's why the percentage of students who read for pleasure daily has been decreasing. Parents and teachers should help students find interesting books in order to make reading for pleasure a daily routine.

Opinion on "Reading Habits Among Students"　　**by Y. T.**

August, 2010

As a school librarian, I have worked in many different countries. I was a little sad to learn that fewer students around the world read for enjoyment daily than before. According to David Moore's article, approximately 60% of female students in my home country reported they read for enjoyment, and the gender gap is about 20%. I find this disappointing.

More students need to know the benefits of reading. As David Moore mentioned, reading for pleasure has good effects on students' academic skills. Students who regularly read many books get better scores in reading, mathematics, and logical problem solving. Also, reading for enjoyment has positive effects on students' mental health. Research has shown a strong relationship between reading for fun regularly and lower levels of stress and depression.

Regardless of these benefits, students generally do not spend enough time reading. Our daily lives are now filled with screen-based entertainment. Students spend a lot of time playing video games, using social media, and watching television. I think students should reduce their time in front of screens and should read books every day even for a short time. Forming a reading habit in childhood is said to be associated with later reading proficiency. School libraries are good places for students to find numerous resources.

＜問３＞

According to the articles, reading for pleasure has good effects on students' _____.

（You may choose more than one option.）

＜ポイント＞

実際の授業場面を想定して、様々なジャンルの言語に触れることは先ほど説明しましたが、第４問では国語と同様に複数の資料を読んで、答えを求めるものもあります。また問３は正解が複数ある設定になっています。

試行調査における工夫・改善のポイント：リスニング

実際のコミュニケーションや言語の使用場面をより一層反映することを重視することとし、複数の学生寮についての説明を聞き、自分が考えている条件に最も合う寮を判断して一つ選ぶ問題（第４問Ｂ）や、ゲームに関する意見を聞いて、話者の立場を判断する問題（第６問Ｂ）などを出題した。読み上げ回数については、基本的にＢ１程度の力を求める問いにおいては１回読みとした。

2018 年度試行調査　リーディング（問４A）

四人の説明を聞き，問いの答えとして最も適切なものを，選択肢のうちから選びなさい。メモを取るのに下の表を使ってもかまいません。１回流します。

状況

あなたは大学に入学した後に住むための寮を選んでいます。寮を選ぶにあたり，あなたが考えている条件は以下のとおりです。

条件

A．同じ寮の人たちと交流できる共用スペースがある。

B．各部屋にバスルームがある。

C．個室である。

	A．Common space	B．Private bathroom	C．Individual room
① Adams Hall			
② Kennedy Hall			
③ Nelson Hall			
④ Washington Hall			

問 1　先輩四人が自分の住んでいる寮について説明するのを聞き，上の条件に最も合う寮を，四つの選択肢(①～④)のうちから一つ選びなさい。 24

① Adams Hall

② Kennedy Hall

③ Nelson Hall

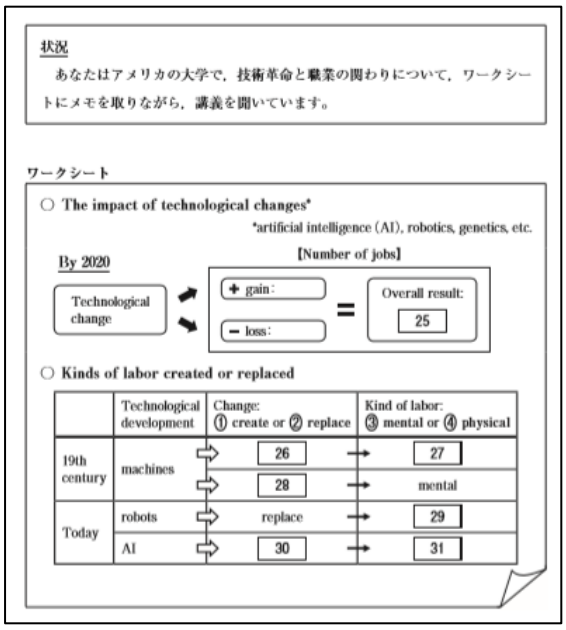
④ Washington Hall

＜ポイント＞

聞き取った内容をもとに「判断する」という思考タスクを組み入れています。ただし、単純な判断であり、正確に聞き取れればタスク自体は難しくありません。一方で、理解が不十分で「なんとなく聞こえた条件をもとに答えを選ぶ」ということは「判断する」という思考タスクがあるゆえ、通用しづらくなっています。

2018 年度試行調査　リーディング（第５問）

講義を聞き，それぞれの問いの答えとして最も適切なものを，選択肢のうちから選びなさい。状況と問いを読む時間（約 60 秒）が与えられた後，音声が流れます。１回流します。


状況

あなたはアメリカの大学で，技術革命と職業の関わりについて，ワークシートにメモを取りながら，講義を聞いています。

ワークシート

○ The impact of technological changes*

*artificial intelligence (AI), robotics, genetics, etc.

By 2020

Technological change

【Number of jobs】

+ gain:

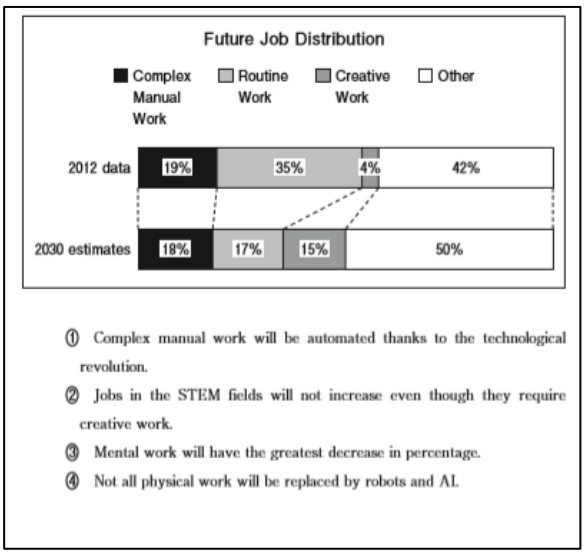
− loss:

=

Overall result: 25

○ Kinds of labor created or replaced

	Technological development	Change: ① create or ② replace	Kind of labor: ③ mental or ④ physical
19th century	machines	26	27
		28	mental
Today	robots	replace	29
	AI	30	31



＜ポイント＞

講義を聞くというアカデミックな言語タスクが設定されており、ワークシート、グラフといったリスニング以外の資料と照合して答えなくてはなりません。加えて、第４問以降はタスクが難しくなっているにもかかわらず、読み上げ回数は１回のため、難易度が高いと言えるでしょう。

全体のまとめ　－　河合塾の分析

全体の分析

＜リーディング＞

試験時間は 80 分。大問数は６題。

第１回試行調査と同様、語彙レベルがコントロールされており全般的に読みやすい。総語数もほぼ同じ。センター試験とは、形式が異なるため単純な比較は難しいが、本文の語数はほぼ同じ、図表および設問の語数は約２倍となっており、総語数は約 1000 words 多い（語数は河合塾調べ）。

比較的読みやすいといえるものの、総語数が多く、センター試験とは異なる解答形式の「当てはまる選択肢を全て選択する」設問などが、難度が上がる後半の大問に含まれているため、

上位層でないと難しく感じただろう。

＜リスニング＞

試験時間は 30 分。大問数は６題。

第１回試行調査のリスニング（バージョンＢ）と同様、第２回試行調査では読み上げ回数が１回読みと２回読みが混在する構成で実施された。音声面では、センター試験よりも自然な英語の読み上げ方となっており、慣れていない生徒は聞き取りづらく感じただろう。また難度が高く分量の多い、後半第４問以降の読み上げが１回読みであることなど、センター試験よりも難度が上がる要素がいくつか見られた。

ただし、第１回試行調査では第３問以降が全て１回読みだったが、第２回試行調査では第３問までが２回読みとなった。また、「選択肢が２回以上使用可能な問題」で、第１回試行調査では４つもしくは６つの空欄全てが正解でないと正答とならなかったが、第２回試行調査では、１つもしくは３つとなっていた。これらの点などで、全体の難度を下げようとする工夫もみられた。

対策と学習　－　代々木ゼミナールの分析

対策としてどのような学習が効果的か

＜リーディング＞

単純計算で大問１つあたり約 13 分しかかけられないため、１つ１つの設問に時間をかけずに解いていく処理能力が必要である。さらに、後半（第４問～第６問）のは読解量も語彙レベルも高くなるので、途中で息切れしない集中力と忍耐力が求められている。

従来のセンター試験で問われていた文法・構文の知識と理解を土台として、日々の学習で英文に触れる量＝読解量をどれだけ確保できるかがカギとなるだろう。

＜リスニング＞

リスニング力の向上には、毎日 15～20 分程度の時間をかけて少しずつ英文を聴く訓練をすることが非常に重要である。まずは短い会話文から始めて、スピードに慣れてきたら長めのモノローグを聴くようにするとよい。また、放送内容のスクリプトを音読することも有効である。

より重要になる読解量と理解力

2017 年度の試行調査が行われた時、その文章量が話題になっていました。前提条件や実社会の状況を読み取って答える問題、複数の資料を照らし合わせて多角的な視点で回答する問題、ディスカッションを読んで答える問題といったように読解が必要な出題形式になったので、従来のセンター試験と比較して多大な文章量になったわけです。実際に有識者フィードバックでも文章量が問題となっていました。

2017 年度　共通テスト試行調査　「有識者からいただいたコメント」

・国語　ロバート・キャンベル氏

多角度的に、自ら考える力を問うという改善点とともに、従来の試験と比べて情報量がかなり 増えている。時間も伸びているが、受験生が解答するのに負担が大きすぎないか、が課題として浮上するかもしれない。

・理科　大島まり氏

説明文が比較的長く、問題が多いと感じられるなどの、課題も見られます。

それを受けて、大学入試センターは 2018 年度の試行調査に向けて以下のように文章量の調整を行いました。

2018 年度　試行調査における工夫・改善のポイント

昨年度の試行調査において、試験時間や問題の分量について指摘が多かった科目については、問題の分量や難易度と試験時間のバランスが適切なものとなるように特に留意して問題を作成した。例えば、国語や生物において、文章量を 2000 字程度減らした り、物理や化学において、数値計算を要する問題を精選したりするなどの改善を行ったところである。

しかし、そうは言っても出題の性質上、これまで以上に読解力が圧倒的に必要になるのは全教科について当てはまることです。問題を早く、正しく理解し、回答に必要な条件やエッセンスを適切に選択、抽出することが求められています。読解力トレーニングが今後の 1 つのカギになりそうです。

2-3　国語　記述式問題

国語と数学の記述式については詳しく確認していきましょう。出題については前項をご確認ください。ここでは採点や評価に絞った話をしていきます。

国語の記述式問題のポイント

① 全部で３問出題される。文字数は以下の通り。
- 問１：　20～30 字程度
- 問２：　40～50 字程度
- 問３：　80～120 字を上限

② 記述式問題の導入により、試験時間は従来の 80 分から 20 分プラスされ、100 分となる。

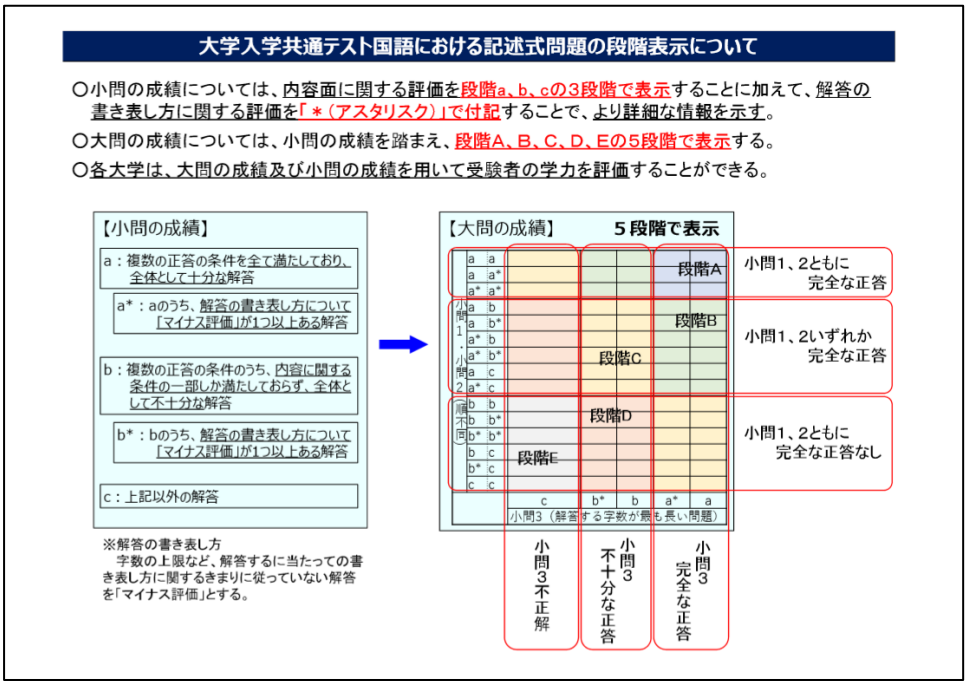
③ 記述式は、点数ではなく A～E の段階評価で採点される。
これらは国語 200 点満点の中には含まれず、全体と別に設定される。

採点と評価

ポイント③で述べた通り、この筆記問題は何点という点数ではなく、A～E の 5 つの段階で評価されるということ、そしてその段階評価は国語 200 点という全体の点数には含まれずに別設定であるということを確認しておきましょう。

さて、国語記述式の評価について話をしますが、ここは気を付けましょう。これまで周知されていた試行調査のものとは異なる評価方法が 2019 年 8 月 23 日に通知されたからです。いきなりのことだったので私もかなり戸惑い、評価法を理解するのに多少時間を要しました。

変更を知らせる資料（2019 年 8 月 23 日、大学入試センター発表）



国語記述式の評価手順（新）

1　評価基準表をもとに、それぞれの記述式問題（小問）を小文字 a～c の３段階で評価する。解答の書き表し方について「マイナス評価」が１つ以上ある場合はアスタリスクを付す。

a　…　複数の正答の条件を全て満たしており、全体として十分な解答
a*　…　a のうち、回答の書き表し方について「マイナス評価」が１つ以上ある解答
b　…　複数の正答の条件のうち、内容に関する条件の一部しか満たしておらず、全体として不十分な解答
b*　…　b のうち、解答の書き表し方について「マイナス評価」が１つ以上ある解答
c　…　上記以外の解答

※「解答の書き表し方」：字数の上限など、解答するにあたっての書き表し方に関するきまりに従っていない解答を「マイナス評価」とする

2　３つの小問の３段階評価を「大問の成績」の段階評価表に当てはめて、大文字 A～E の最終段階評価を決定する。

３つのことが変わりました。まず、旧案では小問の評価は a～d の４段階で示されていましたが新案は a～c の３段階評価になりました。そして２つ目に、書き表し方について不備がある場合は a*、b＊ といったうようにアスタリスクがつくということです。３つ目として、大問の成績評価表が修正されました。

旧案では「書き表し方」も１つの評価要素として設定され、不備があると１段階評価が下がるようになっていましたが、新案では書き表し方は内容面の評価と切り離され、アスタリスクで示すことにしたのです。この変更により書き表し方に不備があってもアスタリスクがつくだけで証文の評価が下がるわけではないので、結果的に段階評価が高くつく受験生が出てくることになりそうです。平均点が上がるということです。

旧案	内容が十分であっても書き表し方に不備があったら評価が１つ下がり、b 評価となる。
新案	内容が十分であれば a 評価をもらえる。書き表し方に不備があれば a* と記される。

ステップ1

それぞれの記述式問題に対して評価表が用意されています。記述式の小問評価法が上述の通り変わったので本番では異なる評価表になりますが、いずれにしてもこのような表を使って小問の成績を a、a*、b,、b*、c の５つの記号で記します。小問２、小問３は字数が増えていき、難易度も上がるため、評価基準もどんどん複雑化し、評価シートのボリュームも増えていきます。小問３になると試行調査の時は正答の条件が５つもありました。

評価表

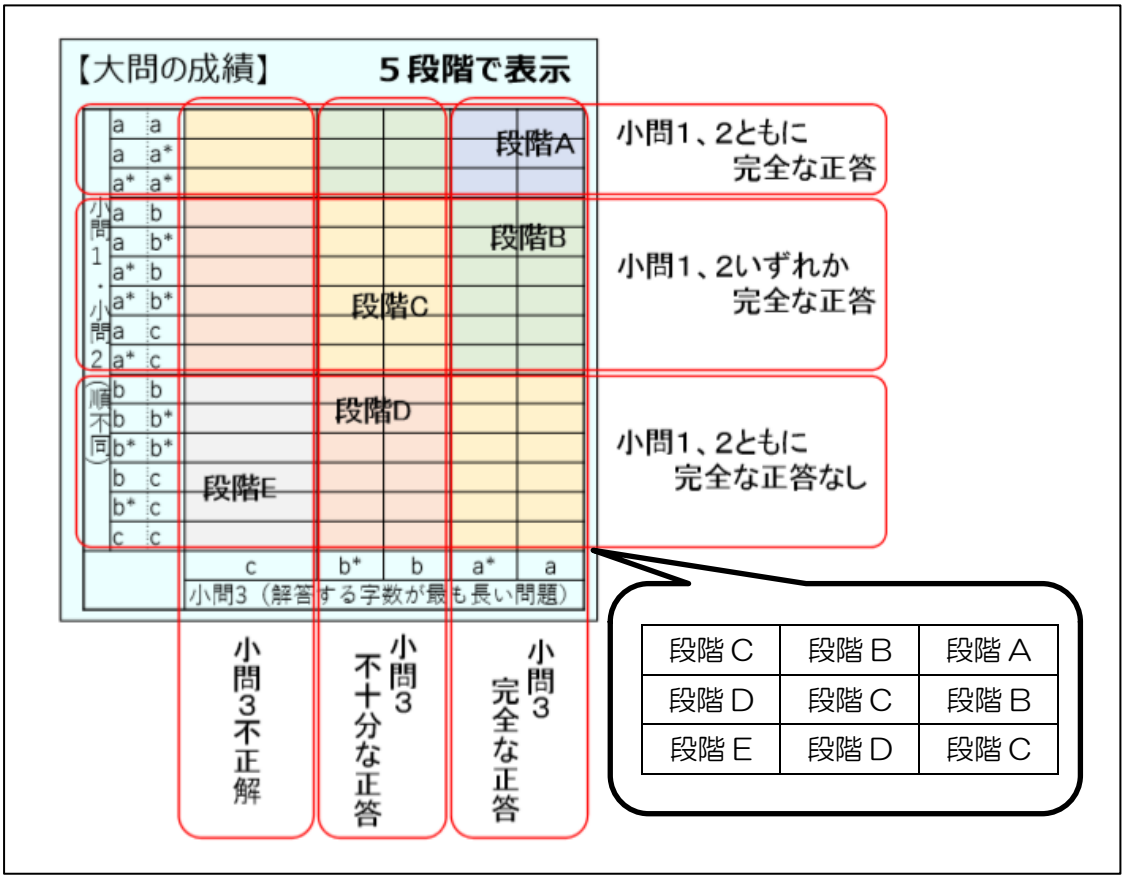
第１問　　問１		
正答の条件を全て満たしている解答の例		例１　・カラーテレビと白黒テレビの普及率が逆転（19 字） 例２　・カラーテレビが白黒テレビより増加（16 字） 例３　・カラーが急激に増えて白黒を逆転（15 字）
正答の条件		正答の条件は次の３つとする。
		①　20 字以内で書かれていること。
		②　文末表現が「する」に適切に続くように書かれていること。
		③　カラーテレビの普及率が白黒テレビの普及率を上回ったことが，数字を用いずに書かれていること。
問１の段階	a	条件①～③のすべてを満たしている解答
	b	条件①，③を満たしている解答（②のみ満たしていない） 条件②，③を満たしている解答（①のみ満たしていない）
	c	条件③のみ満たしている解答（①，②は満たしていない）
	d	上記以外の解答 無解答
（注） 正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は，条件を満たしていないこととなる。		

第１問　　問３		
正答の条件を全て満たしている解答の例		例１　・「虚構を排して描」くという部分に対して疑問をもった。なぜなら、事実と異なるにもかかわらず、東京オリンピックの時からカラーテレビによる放送が始まったという言説もあるように、過去の生活や体験を虚構を排して描くことは難しいと考えられるからである。（120 字） 例２　・「虚構を排して」となっていることが不正確ではないかと考えた。フリーマンが「過去の出来事は現在の経験に符合するように解釈され、一つのストーリーの部分となるように紡ぎ合わされる」と指摘するように、虚構を完全に排除することは難しいからである。（118 字） 例３　・作者自身の「生活や経験したことを虚構を排して描き」という点に疑問をもった。なぜなら、それは記憶としての生活や経験であり、その記憶は現在の観点から意味づけられるため、虚構の要素が入り込まざるを得ないからである。（104 字）
正答の条件		正答の条件は次の５つとする。
		①　80 字以上，120 字以内で書かれていること。
		②　二つの文に分けて書かれていること。
		③　一文目に，疑問をもった部分として，「虚構を排し（て描き）」が含まれていること。
		④　二文目に，根拠として，記憶は後の生活や経験，または，現在の視点から，意味づけられたり再構築されたりすることが書かれていること。
		⑤　二文目に，理由として，虚構を排して描くことはできないことが書かれていること。
問３の段階	a	条件①～⑤のすべてを満たしている解答
	b	条件①，③～⑤を満たしている解答（②は満たしていない） 条件②～⑤を満たしている解答（①は満たしていない）
	c	条件③～⑤を満たしている解答（①，②は満たしていない） または，次のいずれか（①，②は満たしていても満たしていなくてもよい） 条件③，④を満たしている解答（⑤は満たしていない） 条件③，⑤を満たしている解答（④は満たしていない） 条件④，⑤を満たしている解答（③は満たしていない）
	d	上記以外の解答 無解答
（注） 正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は，条件を満たしていないこととなる。		

ステップ２

小問１から小問３まで小文字 a～d の段階評価が揃ったら、「大問の成績表」に当てはめます。縦軸が小問１、小問２（順不同）、横軸が小問３です。

縦軸と横軸の座標が重なる箇所の大文字 A～E が最終評価になるのです。全ての小問で a（もしくは a*）で揃えていないと段階 A の評価には届きません。



試行調査の結果

試行調査における最終段階評価の割合は以下の通りでした（旧来の評価方法、評価表を使っています）。小問２の正答率が５割、小問３が２割というのも低いような気もしますが、文科省は想定通りの結果と発表しています。最終段階については、C～D のボリュームゾーンが多く目立ちますが、小問３の正答率２割という結果に引きずられていることが想定できます。

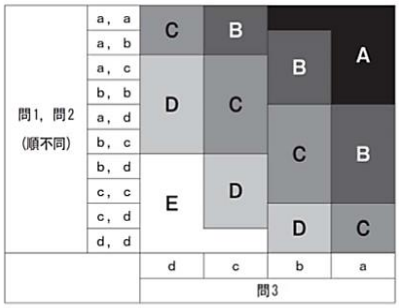
各問の正答率

問１	７割
問２	５割
問３	２割

最終段階評価の割合

A	14.5%
B	14.6%
C	29.9%
D	30.8%
E	10.3%

大問の旧評価表



この結果を大学がどのように使うのか

国語の場合、記述式評価は 200 点満点の中には含まれません。つまり、以下のようにマーク式 200 点満点と記述式 A～E 段階評価の２つが別々に出されます。

国語の結果

国語　200 点満点　＋　記述式　A～E 段階評価

では、この記述式の段階評価を大学はどのように判定に用いるのでしょうか。まずは国立大学協会の打ち出している方針を見てください。

国立大学協会の方針

段階別成績表示の結果を点数化して、マークシート式の得点に加点して活用することを基本とし、加点する点数の具体的な設定については、各大学・学部等が主体的に定める。例として、「総合評価」の段階別表示の段階ごとに加点する点数 を定めること、その際には加点する最高点を国語全体の満点に対して適切な比重（例えば２割程度）とする。

これに対して大学側は主に２つのタイプの方針を打ち出しています。

大学が発表している２つのタイプの方針

1　記述式の段階別「総合評価」をマーク式の１割～2 割（20～40 点）に換算し、加算する。
2　記述式の結果は問わない。もしくは限定的に参考にするのみ。

具体的に見ていきましょう。（2019 年７月 31 日現在）

タイプ１　得点化して加点

筑波大学	・段階評価を得点換算して加点 （A：40 点、B：30 点、C：20 点、D：10 点、E：0 点） ・マーク式 200 点 ＋ 記述 40 点　→　合計 200 点満点に圧縮
東京外国語大学	・採点結果（段階別評価結果）を点数化し、マークシートの点数に加算します
広島大学	・段階評価を点数化し、マーク式の得点に加点する。 その配点は全体の１割とする。

筑波大学、広島大学は①のタイプに当たります。筑波大学は A～E の換算点数やマーク式との合算方法まで明示していますが、広島大学はそこまで詳しく発表していません。

タイプ２　記述式の結果を活用しない

東北大学	・段階別評価を点数化して合否判定に用いることはしない。 ・合否ラインに同点で並んだ場合、記述式の成績が高い志願者を優先的に合格とする。 （2018 年度 12 月発表）

一方、東北大学は段階別評価を合否に使わないことを発表しています。合否ライン上の生徒については使用するようですが、極論記述式は白紙であっても東北大の合格をもらえることになります。なぜ記述式を取り入れないのか。東北大は以下のように説明しています。

東北大発表

・思考力・表現力は重要ですが，本学では新共通テストの記述式問題（80 字～120 字）程度及びそれ以上の高度な問題が一般選抜の個別試験や AO 入試の筆記試験ですでに出題されており，思考力・表現力等の評価は現状でも十分可能であると考えています。
・段階別評価を点数化すること自体が段階別評価の理念に整合しない恐れがあります。
・また点数化した場合の点数の開きが本来の成績差を合理的に反映したものとは考えられず，受験生の不公平な扱いとなる恐れもあります。

国を挙げての入試改革の方針に従わないことが良いかどうかという別の論点がありますが、確かに２次の個別試験で記述式を課す国公立大学、とりわけ高度な記述式問題を出す難関大学にとっては、わざわざ共通テストの記述式を採用する必要はないとも言えます。しかも、東北大は表立って言及していませんが、共通テストの出題や採点に十分な妥当性が担保されない懸念があれば、なおさら当てにしたくないという本音もあります。

2018 年３月に国立大学協会は「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン」という書面で以下のような発表をしています。もちろん全ての大学が御上の指示に従って右に倣えという必要はないでしょうが、「国立大学が足並みを揃えないと受験生に混乱と戸惑いを与える」という趣旨で作成したはずのガイドラインがあまり機能しておらず、結局は各大学がバラバラになっているというのは残念なことであり、憤りを感じます。

国立大学協会ガイドライン

国立大学としては、新テストの５教科７科目を課す原則の下、記述式問題を含む国語及び数学を、「一般選抜」の全受験生に課すこととする。

まだそろわない情報

東北大の発表を見るだけでも、この記述式の扱いの歩幅が揃っていないことは明らかですが、最高学府の東大は「利用する」ということは発表しているものの、どう利用するかはまだ明示していません。

東大発表
大学入学共通テストの記述式問題（国語・数学）の結果は、本学の入学者選抜に利用します。利用方法等については、今後、大学入試センターにおいて公表が予定されている試行調査（プレテスト）の検証結果等を踏まえ、改めて検討を行い、方針を決定します。

これは 2019 年３月８日の発表です。９月３日現在でもこれが最新の情報で、これ以上は発信されていません。今年（2019 年）６月にいくつかの大学のアドミッションや広報の担当者に「もう入試まで 2 年切っていますが、いつになったら新入試の情報を出すのですか？」と聞いても、「夏ぐらいには」どころか「10 月か 11 月か・・・」と自信なさげに答える大学も少なくありません。大学の言い分としては「文科省がまだ情報を出してくれない」ということが１つ、さらなる本音として「他の大学の動向を確認しないと決定できない」ということがあります。トップの東大が出さないのだから、横目で強豪校を見て学生募集をしないといけない他大学はなおさら発表できないのも致し方ないのかもしれません。

私立大学の状況

早稲田大学（政治経済学部）	2021 年度入学試験においては、別途段階別評価される記述式問題については採点の対象としないこととします。

2-4　数学　記述式問題

数学の記述式問題のポイント

①　数学Ⅰ、数学ⅠＡのテストで導入される（数学Ⅰの分野で出題される）。
②　全部で３問出題される。
③　記述式問題の導入により、試験時間は従来の 60 分から 10 分プラスされ、70 分となる。
④　マーク式と同様、正誤での採点（段階評価ではなく、部分点もなし）。
⑤　各５点×3 問で計 15 点となり、これらを含めて 100 点満点で数学の点数が出される。

採点と評価

国語の採点は段階評価でしたが、数学の採点は単純です。合っているか、間違っているのかの正誤のみです。各５点ですので、数式だけであろうが文で答えるものであろうが、部分点もなく正解なら５点、誤答なら０点となります。さらに重要なポイントとして、数学の記述式 15 点とマーク式 85 点の合算で合計 100 点満点になります。

数学の点数配分

マーク　85 点	記述　15 点

この結果を大学がどのように使うのか

基本的には筑波大学が発表しているやり方しかないはずです。広島大学の発表には「数学の記述式の段階別成績表示」という表現がありますが、数学は段階別成績表示ではなく、正誤のみの採点です。

筑波大学	数学の記述式問題は、マークシート式問題と一体で出題され配点されることから、従来のマークシート式と同様の扱いにします。
広島大学	数学の記述式の段階別成績表示については、正誤のみの判定であること及び大問の中でマークシート式問題と一体で出題され記述式問題にも配点がなされることから、従来のマークシート式と同様の取扱いとする。

また中央大学は以下のように「記述式問題は含まない」としていますが、数学の場合、マークも記述も合わせて 100 点満点であり、それぞれが個別に成績提供されるとはどこにも謳われていません。大学側にも記述式とマーク式の得点を区別して成績が提供されるわけではないはずで、そもそも記述式問題は合否に含まないということは技術的に可能なのでしょうか。この１点を見るだけでも、大学側も十分にこの共通テストを把握しきれていないことがうかがえます。

中央大学・文	「数学Ⅰ・数学Ａ」の記述式問題は含まない。

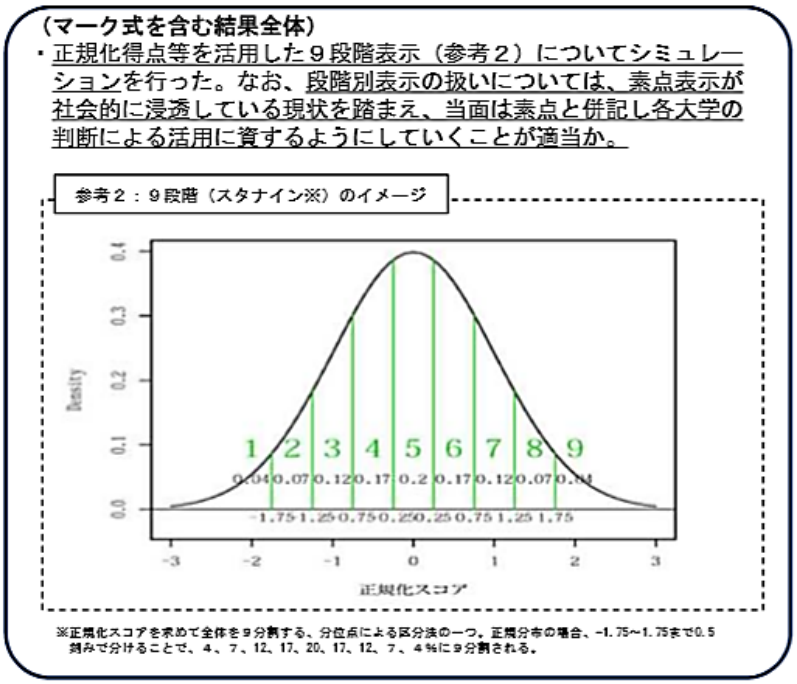
2-5　成績の提示

大学に提供される成績資料

①　各科目の得点
②　全科目の総合点
③　国語の段階別評価（A～E の５段階評価）
④　科目ごとの９段階評価（スタナイン）

スタナイン

共通テストの当初の意義の１つとして「1 点刻みのテスト結果ではなく、学力の三要素を適切に評価し、包括的に入学者選抜を行う」ということがあり、構想段階ではわずかな点数の差に左右されることないように段階評価で結果表示することを検討していました。実施に向けた議論が進むにつれて現行同様の素点評価の色合いが強まり、結局「1 点刻みの入試」から抜け出せない予感ですが、それでもスタナインという 9 段階評価で各科目の成績を提示することは実施されます。文科省は「段階別表示の扱いについては、素点表示が社会的に浸透している現状を踏まえ、当面は素点と併記し各大学の判断による活用に資するようにしていくことが妥当か」と述べています。将来的にはこのスタナインを使って「全教科○以上」というような合否判定や 2 段階選抜も考えらますが、当面の間は合否に利用されることは多くないでしょう。



採点のスケジュール

センター試験では試験後約２週間で大学に成績提供されることになっていますが、共通テストでは記述式の導入に伴い成績提供が１週間ほど後ろ倒しされます。これは多くの大学の入試日程に影響します。私立大学のセンター利用入試は最速でも２月９日以降の合格発表になります（即日合否を決定するのは無理でしょうから 2 月中旬でしょう）。いろいろな入試との関係の中で決まっていたそれぞれの試験・合格発表などの入試日程ですから、共通テスト利用入試だけでなく

全体の入試日程が大きく変わると予測されます。しかも、どこの大学も他大学を横目で見ながら日程が決められないという状況が続くかもしれません。1 つ例を出すと、現在 2 月 3 日から連日入試を行っている上智大学ですが、2021 年度入試からは TEAP 利用型以外は共通テストを利用する入試になり、合格発表が後ろ倒しされるでしょう。また立教大学も学部個別試験を廃止し、5 日間の全学部入試に大きく変えてきます。これらを踏まえると、2021 年度の入試カレンダーはこれまでとは異なる様相を見せるのは間違いないでしょう。

2020 年度の成績提供のスケジュール

私立大学：	2 月 9 日から
国公立大学：	2 月 11 日から （共通テストを課す総合型選抜及び学校型選抜は 2 月 10 日から）

<u>自己採点の難しさ</u>

マーク式の自己採点でも間違う生徒が少なからずいる中で、記述式は自己採点と実際の結果が一致しないというケースがより多く出てくるでしょう。過去 2 回の試行調査でも自己採点の不一致率が公表されていました。これでも第 1 回よりは改善されています。ただ、この自己採点の一致率はどこまで問題にすべき論点かは分かりません。自己採点を正確にするには一定の学力も必要です。間違える生徒も出るなら自己採点が一致しない生徒も出てくるのです。受験として機能させるには、必要以上に自己採点一致率の高さだけを求めるのはどこまで適切なのでしょうか。

2018 年度試行調査　記述式の自己採点の一致率、不一致率

＜国語＞

	一致	不一致
問 1	69.4%	30.2%
問 2	66.0%	33.4%
問 3	70.7%	28.2%

＜数学＞

	一致	不一致
問(あ)	90.0%	6.6%
問(い)	83.3%	14.7%
問(う)	88.8%	10.2%

いずれにしても、共通テストの結果次第で出願先を変えることもあれば、2 段階選抜（足きり）や実際の合否も 1 点単位でその運命が変わることもある中で、生徒も指導教員にも「自己採点の難しさ」は大きな懸念材料です。記述式の解答を問題冊子に控えておき、採点基準表と照らし合わせて自己採点するように言われていますが、その時間的余裕がない受験生も多いでしょう。

採点は学生バイト？　公平性と信頼性の担保は？

さて、記述式の採点は誰がどのように行うのでしょうか。これが公平性、信頼性の点から大きな問題になっているところです。2018 年度の試行調査はベネッセコーポレーションが委託を受けました（「大学入学共通テストに係る競争入札による契約について」という資料で公表されています）。2019 年 8 月 30 日にベネッセ子会社の学力評価研究機構が落札をしたことが報道されました。それまで「民間事業者を公募中」とありましたが、これだけ課題が積み重なっている採点業務にあって本番で業者を変えるなんてことは許されないと思っていました。

試行調査は 2000 人ほどの採点者で対応しました。事後に採点のサンプル調査をしたところ、国語の記述式の採点で 0.3%のミスが発覚し、成績修正をすることになりました。たかが 0.3%ですが、本番で 50 万人受験することを想定すると 1500 人の採点に間違いがあった割合です。実際の共通テスト本番では 20 日間で 50 万ほどの答案を採点することになるので 1 万人の採点者が必要になると言われています。この 1 万人は誰なのか？ これは大学生をはじめとしたアルバイトを中心スタッフとして想定しています。このことが 2019 年 7 月 4 日の NHK ニュースで『「共通テスト」採点にバイト学生 認める方針 疑問視の声も』として報道されました。さらにこのニュースの中で、試行調査の採点に関わった大学生バイトの赤裸々な告白が放送されました。記述式は教員でも難しいことがあり、その採点を大学生バイトが行うということに強い反論が出ています。

NHK ニュース　大学生バイトの声

「採点会場に集まったのは大学生が多かったが、途中で『居眠りをしないように』という注意もあり、全員が同じようなモラルや責任感を持って取り組むわけではないので、受験生が気の毒かなと思う。自分も採点基準がよくわからなかったりして、２割から３割ぐらいは基準どおりに採点できているか自信がない。ただでさえ記述式の採点は個人の主観が入ってしまう」

この報道に大学入試センターもすぐさま反応をしました。しかし、大学生バイトを使うことについては反論をしていません。あくまでも厳粛に進めていきます、という表明です。大学入試センターも十分に研修や準備を行い、採点の正当性、公平性を担保することを発表していますが、大学入試という重要な業務につき、万が一の不備も許されません。

大学入試センターの反応

・具体的な採点の方法については、今夏以降に、採択された事業者との契約において定めていくことになりますが、少なくとも、厳正な審査を行って採点の適性がある採点者を採用すること、採点者に対して事前に十分な研修を行うこと、複数の視点で組織的・多層的に採点を行う体制を構築すること、等を求めていく予定です。

・また、NHK による主催に対しては、採点者個人の属性（例えば、教員免許の有無や、大学

生や大学院生など在学する学校種など）のみに着目して、採用あるいは不採用の条件とすることは考えていない胸をお伝えしてきたところです。

2019.07.12 新テスト

NHKの報道について

去る7月4日付けのNHKのニュースにおいて、2020年度から始まる大学入学共通テストから導入される記述式問題の採点について、文部科学省が「学生バイトを認める方針」を固めたとの報道がありました。

当センターでは、文部科学省が示している大学入学共通テスト実施方針にしたがって、記述式の採点業務については「民間事業者を有効に活用」して行うよう準備を進めており、現在、採点業務を委託する民間事業者を公募しているところです。具体的な採点の方法については、今夏以降に、採択された事業者との契約において定めていくことになりますが、少なくとも、厳正な審査を行って採点の適性がある採点者を採用すること、採点者に対して事前に十分な研修を行うこと、複数の視点で組織的・多層的に採点を行う体制を構築すること、等を求めていく予定です。

また、NHKによる取材に対しては、採点者個人の属性（例えば、教員免許の有無や、大学生や大学院生など在学する学校種など）のみに着目して、採用あるいは不採用の条件とすることは考えていない旨をお伝えしてきたところです。

大学入試センターとしては、今後とも、文部科学省と連携しながら、大学入学共通テストの円滑な実施に向けて準備を進めて参ります。

独立行政法人大学入試センター理事長 山本廣基

2-6　指導の観点から

共通テストはマイナーチェンジか？

当初の構想からずいぶんとトーンダウンし、現行のセンター試験に類似してきた感のある共通テストで、「マイナーチェンジ」という言葉が飛び交うようになりました。確かに、共通テストの見た目や出題傾向はセンター試験のそれとは変わった部分がありますが、今やっている勉強が大きく変わるものでないし、これまで通用してきたことはこれからも通用する、これまで通りでよいという部分は多くあります。

一方で「これまで通りでいかない部分」もあるでしょう。知り合いの教育関係者がある有名進学校の生徒にヒアリングしたのですが、それについて興味深いことを教えてくれました。高２の生徒たちがセンター試験と共通テスト試行調査の 2 つを解いてみたところ、共通テストの方が 40 点も低く出たというのです。センター試験の平均点が 6 割設定なのに対し、共通テストの設定は５割で、そもそものベースが低いということもありますが、その理由を分析したところ、これまでのセンターでは公式を覚えれば類似問題をこなすことで解答をパターン化して対応できることが多かったが、実社会の状況や会話などからエッセンスを抽出しなくてはならない共通テストでは、その「パターン化」が通用しないのでは、ということをおっしゃっていました。また、エッセンスを抽出してしまえばこれまでと同じように解ける問題も、その抽出の仕方や着目点が個々の問題によって変わるということも挙げられています。その教育関係者曰く、「必要とされる基礎学力は変わらなくても、やはりそのようなレベルまで想定して授業、受験対策ができる生徒とそうでない生徒の差が出るのでは」ということです。有名進学校の生徒でも 40 点下がってしまうわけですから、教員側が思っているほどに生徒にとっては「これまで通りではない」ということも意識して、各教科がどのように授業対応していくのかを検討する必要が出てくるでしょう。

理解力と記述力

入試改革ではこれまで以上に多面的な学力が問われますが、特にその中でも重要だと考えられるのが理解力と記述力です。理解力と意味するものには２つあり、１つは文章読解力です。共通テストで文章量が多くなり、単純に読む力やスピード、要点を抑える力が必要なります。国語をはじめ複数の資料から１つの理解を構築する汎用的な読解力も必要になるでしょう。２つ目は実社会の状況や会話、文章から問題の意図や本質を理解し、エッセンスをとらえる力です。他校の教員や教育関係者と意見交換しても、やはり第１にこの理解力というものを重点課題として挙げられる方が大半です。次にあえて表現力と言わずに記述力ですが、やはり記述式問題を精度高くこなしていく力が求められます。そのためにも「相手に分かる言葉で」「求められた書式で」正確に書くということも練習していく必要があるでしょう。高 1、高 2、できれば中学段階から教科や総合的な探究の時間で「理解力・思考力・表現力トレーニング」を段階的に導入していくことが望ましいでしょう。

生徒・教員共に自己採点力の強化

そして、重要になるのは記述式問題の自己採点のスキルと感覚を磨くことです。試行調査の自己採点不一致率の高さも話題なっています。自己採点ができるようになるには正しい解答のエッセンスが判断できるようになることが必要ですが、その感覚を繰り返しトレーニングで磨くことでより記述力そのもののスキルアップにもつながります。加えて、やはり本番後の記述式の自己採点が正しくできるかどうかはその後の出願指導にもつながってきます。特に高３になってから、国語では模試や練習問題を使って共通テスト同様の形で自己採点をしながら、不一致を修正していくトレーニングが国語では必要不可欠となるでしょう。指導に当たる教員も採点表に従って多様な答案の採点をできるように記述採点力を強化し、精度を高めることが求められます。

共通テストから逃げない

2015 年度センター試験では、理科の科目に変更があり、負担が増えたのですが、この年、私大志向が高まりました。要は、変更を嫌ってセンター試験を回避した層が増えたのです。共通テストは平均点の目安が５割に設定されているということ、そして読解力や思考力が問われる問題が出されるということで、感覚的な難易度はセンター試験よりもかなり増しています。やってみたところ「点が取れない」という感触が一般受験生の中に広がり、少なからず共通テストを回避する層が出てくることが予想されます。確かに変更は嫌ですし、負担感もあるかもしれませんが、逆に言えばそれにしっかり対応できればライバルは減ります。何よりも大切なのは共通テストから逃げないということです。

また、共通テストを逃げたらより苦しい入試が待っています。今や私大も入学定員の厳格化で難化しています。2019 年度入試は早慶上智の再難関ではやや難易度が下がることもありましたが、GMARCH 以下ではより一層難化し、競争が激化しました。2020 年度入試は入試改革を前にして「絶対に浪人したくない」と空前絶後の安易志向が予想されます。それが私大の難化に拍車をかけ、さらに競争が厳しくなるでしょう。「私大が厳しくなった」というインパクトは 2020 年度入試が最大になるかもしれません。そのインパクトを引きずって 2021 年度入試に入るわけですが、共通テストの回避と合わせてさらなる安易志向が引き起こされる可能性があります。安易に共通テストを回避することはおそらく得策ではありません。しかも上智など、私大でも共通テストが使われていく傾向があり、共通テストを受けないということは受験機会も制限されます。可能性を最大限担保するためにも、幅広い教科にしっかり取り組み、共通テストに対応していくことが望まれます。

CHAPTER 3　英語外部試験

3-1　背景：　グローバル化する大学

今回の入試改革の目玉の１つに英語外部検定試験の入試活用が挙げられます。グローバル化が進む中で総合的な英語コミュニケーション能力の育成が急務となり、大学入試でも Reading 偏重に Listening が加わった２技能型から Speaking、Writing のアウトプットスキルを含めた４技能型に移行しようということです。

ただし、センター試験や各大学がアウトプットスキルを現行の入試に組み込んでいくのは受験者の規模や入試スケジュールという点で現実的ではなく、英語外部試験を活用していくことになります。すでに現行の入試でも、AO・推薦入試ではスコアの提供が求められることが一般的になってきましたし、一般入試でも「外部検定試験利用型方式」等が始まっており受験生の関心の的ですが、それが今後さらに加速し、拡大されていくことになるのです。

背景　グローバル化を掲げる大学

今、大学は国際競争力を身に付けるため、そして社会や受験生のニーズに応えるためにグローバル対応を迫られています（今回の英語外部試験に対する各大学の対応を見る限り、本気でそうしようと危機感を持っているのかは甚だ疑問ですが）。その象徴が 2014年に始まったスーパーグローバル大学（SGU）です。SGU の申請に際して、各大学約 80 ページにわたる構想調書を文科省に提出したのですが、「入試の国際性」というセクションの中に「TOEFL 等外部試験の学部入試への活用」という項目がありました。当時の現状（平成 25 年度）、そして平成 35 年度までの利用割合を数値目標として設定するのですが、これにより英語外部試験の導入が公に促進されていきます。

スーパーグローバル大学創成支援事業の目的

我が国の高等教育の国際競争力の向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対し、制度改革と組み合わせ重点支援を行うことを目的としています。

（日本学術振興会 HP より）

SGU 公募の目標設定シート（抜粋）

３（２）①TOEFL等外部試験の学部入試への活用								
	平成２５年度（通年）		平成２８年度（通年）		平成３１年度（通年）		平成３５年度（通年）	
対象学部入学定員数（A）		人		人		人		人
全入学定員数（B）		人		人		人		人
割　　合（A／B）	#DIV/0!	%	#DIV/0!	%	#DIV/0!	%	#DIV/0!	%

教育システムの改革

学生の多様性

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
外国人留学生	4,415人（8.4%）	9,165人（19.2%）
留学経験者	3,076人（6.3%）	10,650人（27.6%）
語学力（外国語力基準を満たす学生）	16,693人（31.6%）	42,141人（88.3%）

※外国人留学生・語学力＝各年度5月1日時点、留学経験者＝過年の数値

- 海外大学との連携による英語学位プログラム拡充
- 留学生向け日本語の学位プログラムの拡充
- クォーター制を活用した留学生受入れ、海外派遣
- 海外派遣を促進する派遣プログラムの拡充
- チュートリアルイングリッシュの高度化
- アカデミック・ライティングの徹底的指導
- 幅広い視野を持った人材を育成する、全学副専攻・副学位制度
- 学部生1割減、大学院生2割増

入試の国際性

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
TOEFL等外部試験の活用	395人（4.4%）	3,580人（40.0%）
奨学金許可の入学時伝達	1,552人（39.9%）	3,250人（75.7%）

- 英語能力主要4技能の正確な測定のため、TOEFL等を全学部導入
- 学内奨学金制度の入学許可時伝達型へのシフト
- 途上国対象の渡日前「奨学金給付型AO入試」実施
- 国際バカロレア資格取得者の出願・受入増、アドミッション・オフィサーの育成
- 世界各地域から志願者をバランスよく確保
- 日本語他の予備教育プログラムの開発
- 入試開発オフィスにおける抜本的な入試改革の推進

教育の国際性

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
外国語の授業	2,439科目（12.7%）	4,129科目（25.0%）
外国語のみで卒業コース	50コース（32.9%）/2,661人（5.0%）	64コース（38.6%）/4,480人（9.4%）
コースナンバリング	907科目（3.6%）	21,590科目（100%）

- グローバルエデュケーションセンターを中心とした科目の外国語化推進
- コースナンバリングの100%早期導入
- クォーター制を活用した留学促進
- 英語学位取得コースの定員数・実施学部の増加
- 学修ポートフォリオシステムによる個々の学修効果の把握
- 国際社会で活躍する人材育成プロジェクト（QTEM）の充実
- 早期卒業・入学、5年一貫制課程：留学プログラムを織込んだ「グローバル・オナーズプログラム」の提供

国際開放性

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
シラバスの英語化	2,656科目（10.4%）	5,398科目（25.0%）

- Waseda Vision 150の数値目標・達成度のWeb公開
- MOOCSなどを利用してすべての授業を公開
- 教育情報の公表100%実施
- ネイティブスタッフによる多言語情報発信
- 教育プログラムの開発での海外校友会活用

学生支援

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
混在型学生宿舎（外国人留学生）	549人（49.5%）	3,000人（83.6%）
混在型学生宿舎（日本人学生）	989人（2.0%）	1,422人（3.7%）

- 提携寮等を活用した学生寮の計画的展開
- ラーニングコモンズ拡充
- 質の高い教育補助（TAo）の拡充
- スチューデントジョブ創出による15,000人雇用
- 奨学金拡充、奨学金付入試・教育プログラム
- 海外拠点における派遣学生への支援機能の強化
- インターンシップ・企業体験プログラム開発・提供によるキャリア支援

ガバナンスの改革

教職員の多様性

	《H25年度実績》	《H35年度目標》
外国人・外国で学位（教員）	760人（45.3%）	1,380人（75.0%）
外国人・外国で学位（職員）	93人（8.3%）	173人（15.4%）
女性（教員）	245人（14.6%）	402人（21.8%）
女性（職員）	381人（33.9%）	401人（35.6%）
年俸制（教員）	99人（5.9%）	791人（43.0%）
事務職員高度化	175人（15.6%）	325人（28.9%）

- 研究者ネットワークとの連携による優秀な教員・研究員の獲得
- ワシントン大学と連携したFDの開発・実施
- Waseda Vision150男女共同参画基本計画を着実に遂行
- 平成29年度を目途に専任教員の年俸制導入を検討
- スタッフディベロップメント（SD）の充実

ガバナンスの適切性

- Waseda Vision150のガバナンス改革のさらなる加速
- 組織における責任と権限の一致
- 教職員評価制度と給与体系の改革
- 副総長の規程化、理事会・評議員会・教学関連会議の関係整理と仕組みづくり
- 理事会への学外・女性・外国人有識者の参画
- 意思決定を支援するためのIR機能の強化・充実
- 国際ファンドレイジング機能強化

SGU 構想調書　各大学の「外部検定試験の目標数値」

トップ型	H25	H28	H31	H35
北海道大学	2%	3%	5%	5%
東北大学	3%	3%	4%	5%
筑波大学	29%	31%	100%	100%
東京大学	1%	5%	7%	8%
東京医科歯科大学	2%	2%	3%	5%
東京工業大学	0%	0%	2%	3%
名古屋大学	3%	5%	6%	8%
京都大学	1%	2%	2%	2%
大阪大学	2%	3%	10%	10%
広島大学	0%	94%	100%	100%
九州大学	1%	1%	16%	16%
慶應義塾大学	9%	11%	11%	11%
早稲田大学	4%	10%	22%	40%
グローバル牽引型	H25	H28	H31	H35
千葉大学	8%	8%	10%	10%
東京外国語大学	0%	9%	9%	9%
東京藝術大学	2%	2%	80%	100%
長岡技術科学大学	0%	4%	30%	100%
金沢大学	0%	2%	8%	8%
豊橋技術科学大学	0%	0%	85%	85%
京都工芸繊維大学	10%	14%	17%	21%
奈良先端科学技術大学院大学	-	-	-	-
岡山大学	0%	0%	19%	100%
熊本大学	0%	6%	100%	100%
国際教養大学	89%	89%	90%	90%
会津大学	0%	5%	8%	10%
国際基督教大学	24%	26%	27%	27%
芝浦工業大学	0%	12%	25%	50%
上智大学	25%	43%	50%	57%
東洋大学	8%	10%	12%	15%
法政大学	13%	16%	16%	28%
明治大学	0%	2%	7%	12%
立教大学	1%	10%	50%	50%
創価大学	24%	46%	46%	46%
国際大学	100%	100%	100%	100%
立命館大学	18%	23%	61%	70%
関西学院大学	5%	5%	5%	6%
立命館アジア太平洋大学	73%	88%	100%	100%

3-2　英語外部試験　大学入試での活用

英語外部試験の大学入試での活用の現状を見てみましょう。以下は該当する募集単位の推移ですが、ここ数年を見ても顕著に増加が見て取れます。

英語外部試験を利用している募集単位の推移

		2017 年度	2018 年度	2019 年度
国公立大	推薦・AO 入試	354	398	490
	一般入試	142	209	279
私立大	推薦・AO 入試	3,099	2,995	3,500
	一般入試	2,018	3,235	3,972

※2017～2019 年度は入試年度

活用の種類

テストはあくまでも物差しです。その物差しをどのように使い、どう判断するのかは大学によって異なります。主な活用の仕方は以下の４つです。実際の活用の方式はとにかく多種多様です。だからこそ自分で志望大学・学部の情報を HP などで直に確認してください。

出願資格	出願に必要な基準点を定める（基準を超えているものだけが出願できる） ・合計点だけではなく、技能の語との基準点が設定されているものもあります。
得点換算、満点換算	外部テストのスコアを英語の点数として換算する
加点、加算（ベースアップ）	外部テストのスコアによって、点数が加算される
書類審査（総合評価）	合否判定時に利用する。総合評価とする場合もあれば、優遇判定とする場合もある。

多様な活用法の例

- 出願資格＋得点換算 or 加点といったように組み合わせていることもあります。
- 基準点を超えた場合、センター試験や個別試験の英語が免除されることもあれば、課されることもあります。
- 独自の換算方式を採用している大学・学部もあります。

出願資格　ー　英語の試験が行われないケース

・法政大学　英語外部試験利用入試

「指定の英語外部試験のいずれかにおいて基準を満たした受験生を対象に、本学独自の入学試験１科目（文系学部は国語または数学、理系学部は数学）の点数のみで合否判定を行います。英語の受験は必要ありません。」

学部・学科	実用英語技能検定*1 (CBT含む) (4技能)	TOEFL iBT* (4技能)	IELTS (Academic Module) (4技能)	TOEIC®L&R *2 TOEIC®S&W (4技能)	TEAP (4技能)	TEAP CBT (4技能)	GTEC *3 (CBTタイプ) (4技能)
法学部法律学科	準1級以上	62点以上	Overall band5.5以上	940点以上	280点以上	470点以上	1120点以上
法学部国際政治学科	2級以上 かつ CSE2.0スコア2180点以上	62点以上	Overall band5.0以上	990点以上	280点以上	540点以上	1120点以上
文学部英文学科	準1級以上	62点以上	Overall band5.5以上	940点以上	280点以上	470点以上	1120点以上
経済学部国際経済学科	準1級以上	62点以上	Overall band5.5以上	940点以上	280点以上	470点以上	ー
人間環境学部	2級以上	52点以上	Overall band4.5以上	850点以上	250点以上	470点以上	1050点以上
現代福祉学部	2級以上 かつ CSE2.0スコア2150点以上	57点以上	Overall band5.0以上	940点以上	250点以上	470点以上	1050点以上
GIS(グローバル教養学部)	1級以上	76点以上	Overall band6.0以上	1180点以上*4	ー	ー	ー
スポーツ健康学部	2級以上	52点以上	Overall band4.5以上	850点以上	250点以上	420点以上	1050点以上
情報科学部	2級以上	42点以上	Overall band4.0以上	790点以上	225点以上	420点以上	1000点以上
デザイン工学部	2級以上	42点以上	Overall band4.0以上	790点以上	225点以上	420点以上	1000点以上
理工学部 *5	2級以上	42点以上	Overall band4.0以上	790点以上	225点以上	420点以上	1000点以上
生命科学部	2級以上	52点以上	Overall band4.5以上	790点以上	225点以上	420点以上	1000点以上

出願資格　ー　各技能についても基準スコアが設定されているケース

・東京女子大学　現代教養学部　英語外部検定試験利用型

「総合スコアだけでなく各技能のスコアもすべて、上記の基準を満たしていなければなりません。」

・青山学院大学　文（英文）　Ｃ方式

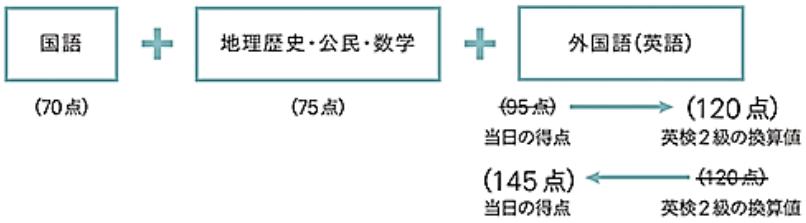
「TEAP を複数回受験した場合、<u>各技能の最高点を組み合わせた総合点で出願することができます</u>。」

得点換算　ー　得点換算と個別試験の高いほうを判定に使用するケース

・明治学院大学　英語外部検定試験利用型

「学科が指定した英語外部検定試験の基準スコア(級)に応じ、「外国語(英語)」試験の得点に換算します。本学の「外国語(英語)」を受験した場合はどちらか得点の高いほうを判定に使用します。なお、英文学科は「外国語(英語)」の受験が必須です。」

換算値	実用英語技能検定(英検)	TEAP	TEAP CBT	GTEC	TOEFL iBT
140点	準1級以上	4技能 309点以上	4技能 600点以上	1190点以上	61点以上
120点	2級	4技能 225~308点	4技能 420~599点	960~1189点	50~60点



得点換算　ー　大学独自の換算表を使用するケース

・　立教大学　センター試験利用入試（英語外部試験利用制度）

「「大学入試センター試験の英語得点」と「英語資格・検定試験の換算得点」のいずれか高得点の方を合否判定に利用する制度です。英語資格・検定試験のスコアに応じて、本学の定めた換算表に基づき１点単位での換算得点を付与します。（例 176 点、195 点など）」

得点率	英検 (CSE2.0)	GTEC (４技能版)	IELTS (Academic Module)	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
95%相当	2,238	1,120	4.5	290	500	67
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
85%相当	2,113	1,000	4.0	261	420	55
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

・　埼玉大学　経済学部「国際プログラム枠」

「TOEIC スコアから大学入試センター試験（英語）への換算は、経済学部１年生のデータを用いて行い、換算に当たっては偏差値を用いる。」

経済学部「国際プログラム枠」入試換算表

TOEFL iBT	TOEFL PBT	TOEIC
120	677-671	990
119	670-668	990
118	667-663	990
117	662-658	990
116	657-654	990
115	653-651	990
114	650-648	990
113	647-644	990
112	643-641	990
111	640-638	989
110	637-633	980
109	632-628	966
108	627-626	951
107	625-624	945
106	623-618	940
105	617-614	922
104	613	911
103	612-611	908
102	610-608	902
101	607-604	894
100	603-598	882
99	597-596	865
98	595-594	859
97	593-591	853
96	590-588	845
95	587-586	836

TOEFL iBT	TOEFL PBT	TOEIC
94	585-584	830
93	583-581	825
92	580-578	816
91	577-576	807
90	575-574	802
89	573-571	796
88	570-568	787
87	567-566	779
86	565-564	773
85	563	767
84	562-559	764
83	558-554	753
82	553	739
81	552-551	736
80	550	730
79	549-548	727
78	547-546	721
77	545-543	716
76	542-538	707
75	537-536	693
74	535-534	687
73	533-532	681
72	531-529	675
71	528-524	667
70	523	652
69	522-521	649

TOEFL iBT	TOEFL PBT	TOEIC
68	520-518	644
67	517-516	635
66	515-514	629
65	513-509	624
64	508-504	609
63	503	595
62	502-501	592
61	500-498	586
60	497-496	578
59	495-494	572
58	493-489	566
57	488-484	552
56	483-481	537
55	480	529
54	479-478	526
53	477-473	520
52	472-468	506
51	467-464	491
50	463	480
49	462-461	477
48	460-458	471
47	457-454	463
46	453-451	451
45	450	443

IELTS	TOEIC
9.0	990
8.5	990
8.0	990
7.5	990
7.0	882
6.5	807
6.0	730
5.5	652
5.0	578
4.5	480
4.0	443

加点　ー　個別試験の点数に加点する

・早稲田大学　国際教養学部

英語４技能テストの種類		素点換算 (15 点満点)
実用英語技能検定	TOEFL®iBT	
１級 合格	95 以上	15 点
準１級 合格	72～94	10 点
２級 合格	42～71	5 点
準２級合格 以下	41 以下	0 点
未提出（出願可）		

加算　ー　得点を割り増しする

・聖心女子大学　一般入試（総合小論文方式）

活用内容	英語4技能 CEFR B2レベル／仏検2級以上*	➡	得点を1.2倍にして審査
	英語4技能 CEFR B1レベル／仏検準2級*	➡	得点を1.1倍にして審査
対象となる資格・検定試験	● ケンブリッジ英語検定 ● GTEC CBT ● IELTS ● TEAP CBT ● TOEIC*（L&R S&W） ● 英検 ● GTEC Advanced(4技能) ● TEAP(4技能) ● TOEFL iBT* ● 仏検		

満点換算と加点の組み合わせ

・千葉大学　国際教養学部　通常型入試

Aパターン：国際教養学部【通常型入試】

「外国語」の得点換算	TOEFL iBT	IELTS	実用英語技能検定（英検）	GTEC CBT	TOEIC L&R ＋ TOEIC S&W ※	Cambridge English	TEAP	TEAP CBT
満点換算	80 以上	6.5 以上	準１級 以上	1190 以上	1560 以上	FCE (160-179) 以上	309 以上	600 以上
20 点加点	62 以上	5.0 以上	ー	1120 以上	1420 以上	ー	280 以上	540 以上
10 点加点	42 以上	4.0 以上	２級	960 以上	1150 以上	PET (140-159) 以上	225 以上	420 以上

提出書類、総合評価

・筑波大学　推薦入試

「4 技能外部英語検定試験で C1（CEFR）相当以上のスコアを有する場合に総合評価に反映させます。」

3-3　英語試験を知る

何ができるのか：　Can-do

言語はあくまでもコミュニケーションツールであり、語学の力は知識ではなくスキルです。その観点から、外国語学習の中で「Can-Do（その言語で何ができるのか）」というコンセプトが重要視されます。英語教育の現場でも「Can-Do リストの策定」「Can-Do に基づいた授業目標設定とアセスメント」といったような言葉が謳われています。簡単に言うと「何を知っているか」という知識偏重から脱却し「何ができるのか」というコミュニケーションスキルに焦点を当てて英語教育を展開させましょうということです。

英検Can-doリスト

準1級　Can-doリスト

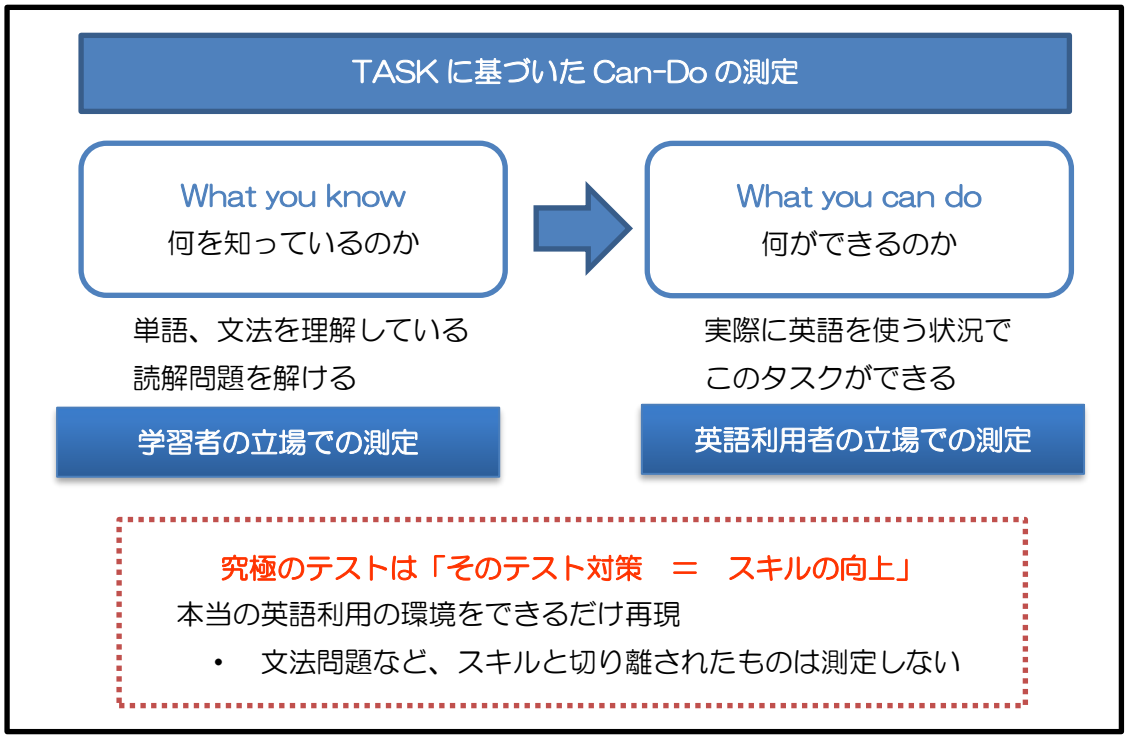
英検合格者の実際の英語使用に対する自信の度合い

読む	**社会性の高い分野の文章を理解することができる。**
	・英文の種類や読む目的に応じて、適切に読みこなすことができる。（新聞をさっと読む、評論文を注意深く読む、小説を楽しみながら読むなど）
	・英字新聞で社会的な出来事に関する記事を理解することができる。（The Japan Times / The Daily Yomiuri / The New York Timesなど）
	・まとまった量の英文の要点を理解することができる。（講義や研修での課題図書や資料など）
	・仕事に関する手紙（Eメール）を理解することができる。（会議日程、取引内容など）
	・商品の取扱説明書を理解することができる。（電化製品など）
聞く	**社会性の高い内容を理解することができる。**
	・興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる。（講演、講義など）
	・テレビやラジオのニュース番組を聞いて、その要点を理解することができる。
	・観光地や博物館などでガイドの説明を理解することができる。
	・公共の施設や学校などで、簡単な指示や説明を聞いて、理解することができる。（施設の使用上の注意、会員カードの使い方など）
	・交通機関における指示や連絡事項を聞いて、理解することができる。（乗り換え方法、乗り物の遅れについてのアナウンスなど）
	・自分の仕事や専門分野の内容であれば、電話で注文や問い合わせを聞いて、理解することができる。
話す	**社会性の高い話題について、説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。**
	・調べたことについて、まとまりのある話をすることができる。（課題の発表、仕事のプレゼンテーションなど）
	・自分の仕事や専門分野に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる。
	・商品やサービスについて、苦情を言うことができる。（商品の故障、サービスの内容など）
	・公共の施設で簡単な用を足すことができる。（郵便局で手紙を出す、図書館で本を借りるなど）
	・病院などで健康状態を伝えることができる。
	・簡単な内容であれば、電話で用を足すことができる。（歯医者や美容院の予約など）
	・読んだ本や見た映画について、そのあらすじを述べることができる。
書く	**日常生活の話題や社会性のある話題についてまとまりのある文章を書くことができる。**
	・興味・関心のあることについて、説明する文章を書くことができる。（簡単なレシピ、器具の使い方など）
	・興味・関心のある話題について、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる。（講義の内容、雑誌や新聞の記事など）
	・日常生活の身近な話題について、自分の考えや意見を書くことができる。（「食事と健康」など）
	・日本の文化について紹介する簡単な文章を書くことができる。（食べ物、祝日、お祭りなど）
	・自分がやりたいと思っていることの説明や理由を書くことができる。（留学や入社の志望動機など）
	・自分の仕事や専門分野の内容であれば、注文や問い合わせに対して簡単な返事を書くことができる。

※4技能の最初に太字で示した表現は、各技能のCan-do表現をもとにまとめたものです。

※準1級の合格者のCan-do表現の全体像は、2級以下のCan-doリストにある項目も含めてお考えください。

テストも全てこのスキルベースの試験にシフトしています。以下に図式してまとめてありますが、旧来は「何を学び、何が分かるようになったのか」という学習者の立場に焦点を置いたテストでした。しかし、新しいテストは「その言語で何ができるのか」という英語利用者の立場で言語運用能力を測定する方向に変わってきているのです。その具体的な特徴として、Reading、Listening、Writing、Speaking といった 4 つのセクションしか設定されていません。単語・熟語や文法、アクセントといった知識ベースのセクションは基本的に設定されていません。単語や文法が不要というわけではありません。ただ、それらはコミュニケーションの中で使われて初めて意味があるため、あくまでも 4 技能の中で測定する設計になっています。これがもう 20 年前からの世界基準です。そういう意味では、センター試験や英検の熟語、文法セクションは実は世界の流れからは周回遅れなのです。まして、日本の相変わらずの知識偏重の英語教育とテストはもはや化石と言っても良いでしょう。大学共通テストの英語は世界基準を意識し、かなりその要素を取り入れています。



CEFR

英語外部検定試験が入試改革で注目を浴びてからというものこの CEFR（セファール、シーイーエフアール）という言葉が英語力を示す基準として認知されるようになりました。「Common European Framework of Reference of Language」、日本語で言うと「ヨーロッパ言語共通参照枠」というものです。簡単に言うと、「もともとはヨーロッパ発だが今やグローバル基準となっている外国語力の指標」という理解で良いです。ヨーロッパは多様な言語が入り混じっており、複数の外国語を話すことが珍しくありません。どのぐらいその外国語ができるのかを示す際に、ドイツ語はドイツ語の基準で、チェコ語はチェコ語の基準で、といったように言語ごとに考えて

いては大変です。そこで、英語でもチェコ語でも何語であっても「その言語で何をできるのか」に基づいて外国語コミュニケーション能力を１つの共通した指標で示せるようにしようという試みが始まりました。1989 年から 1996 年にかけて欧州評議会が「ヨーロッパ市民のための言語学習」プロジェクトを推進した際に策定が進み、そして 2001 年に CEFR が公式に発表されました。上述の Can-Do ももともとは CEFR 策定の際に使われたのが発端です。ヨーロッパ言語の各検定試験もこれに基づいてレベル設定が精査されました。そして、この CEFR がヨーロッパから世界に広まり、今や世界の外国語能力の参照枠へとなったのです。以下は、ブリティッシュカウンシルの HP に載っている CEFR の各レベルの概要ですが、各技能も詳細に Can-Do の描写がされています（文科省もブリティッシュカウンシルのものを参照しています）。

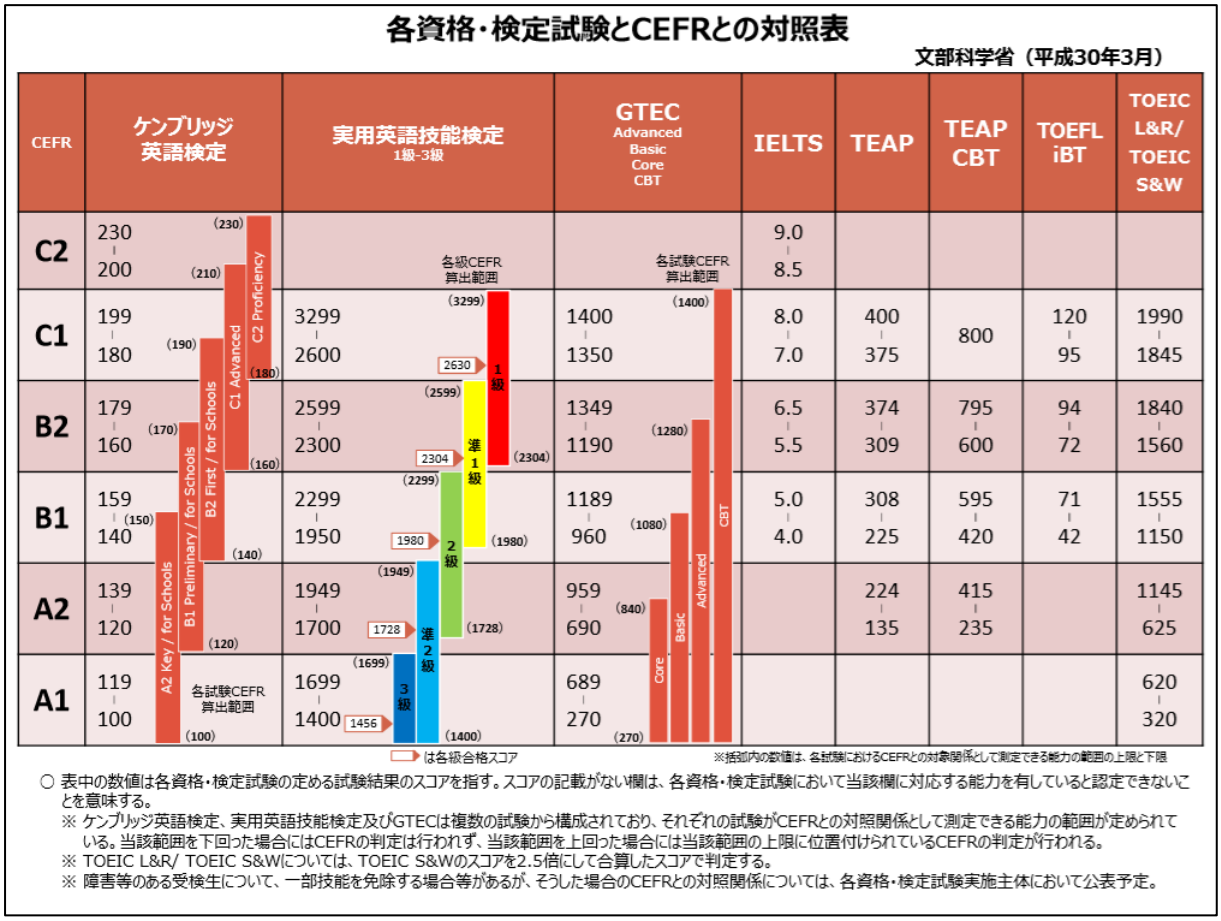
CEFR のレベル別 Can-Do リスト

段階	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

（出典：ブリティッシュカウンシル）

各英語外部検定試験と CEFR の対照

外部検定試験が導入されるにあたって、大学入試業界でも CEFR が市民権を得て、各検定と CEFR の対照表を頻繁に目にするようになりました。



誤解のないようにお伝えしますが、この CEFR 対照表はあくまでもテスト業者がテスト開発や結果研究においてそれぞれ独自にバラバラに策定したものを１つの表にまとめただけです。CEFR 公式団体みたいなものが各スコアを統一基準で格付けしているわけでもなく、各業者が整合性を精査したわけでもありません。上智大学の 2021 年度入試の告知 HP に「CEFR レベルに応じた各英語外部検定試験のバンドスコア・級は、各団体の公表内容に応じて変更となる場合があります」という一文がありますが、これからもスコア基準は各団体が独自に出している恣意的なものであることが分かります。それゆえに、それを１つの理由として、「複数の試験のスコアと CEFR との対照や受験体制の面で十分な公正性と公平性が担保されていることが確認できない」（京都工芸繊維大学）というように英語外部試験に対して批判が出てきます。お茶の水女子大学も A2 以上を出願資格としますが、一方で「目的や内容の異なる複数の認定試験の結果を、統一の基準で公平・公正に点数化することは、現状では難しいと考えられるため、加点対象とはしません」として懸念を示しています。

各テストのスコア相関も統計的な処理である程度の信頼性はありますが、完全なものでもなければ公式なものではありません。IELTS と TOEFL が良く対比されますが、そもそも両方を同時

期に受ける受験生はいません。ですので、海外の大学のアドミッション情報を見ると、TOEFL と IELTS の対照されている出願基準スコアが大学によってズレているケースもあります。

英語外部試験の入試利用で言われる問題の１つとして、これらの恣意的な対照表に一律に基づいて判断することが果たして信頼性、公平性を担保できるのかということです。また、もう１つの問題として、これは私が時々主張することですが、日本とヨーロッパは外国語に関する環境があまりにも違うし、言語の特性も英語と日本語は大きく乖離しているため、ヨーロッパ発の基準に沿って日本人の英語運用能力を測る妥当性、必要性がどこまであるのか、という問題もあります。しかし、例え妥当性が多少欠けたところで、これからのグローバル世界では CEFR を基準に言語運用能力が測られていくわけで、日本人も否応なしにこの指標の上で競争していかなくはならないのは事実です。この対照表がどこまで正しいのかは本質的には問題ではなく、海外進学希望の生徒が自分の目的と力によって IELTS と TOEFL を選択するように、様々なテストから自分に合ったもの、自分が必要なものを選択することが大切なのです。

日本人高校生の実力　ー　何が真実なのか？

さて、日本人の高校生の英語力は CEFR で言うとどのぐらいなのでしょうか。2017 年文科省が全国の国公立 300 校６万人の高校３年生を対象に英語力４技能の調査を行いました（スピーキングは１万人のみ）。その結果は以下の通りです。

2017 年度文科省　英語力調査の結果

C2	読む	聞く	書く	話す
C1				
B2	0.2%	0.3%	0.0%	
B1	2%	2%	1%	1.7%
A2	25%	22%	13%	11%
A1	73%	76%	87%	87%

弱いと言われているスピーキング、ラインティングはもちろん低いのですが、できると思われているリーディングも国際基準で「Can-Do」に沿って測定すると相当低いことが分かり、日本の英語教育の課題が浮き彫りになっています。しかし、これを鵜呑みにしてはいけません。英検の CEFR 表を見ると英検２級は B1、準２級が A2 です。この調査結果に従うと英検２級に届く高３生は全国で 1～2%しかいません。英検２級は司法試験以上の難易度ということになってしまいます。しかし、当然英検の取得率はもっと高く、中学で英検２級を取る生徒も一定数います。何が真実なのでしょうか。英検の CEFR がおかしいのか、この調査の在り方がおかしいのか。これを見るだけでも CEFR の表を妄信してしまうことが危険なのが分かります。

ちなみに、国公立大学の多くが CEFR A2 を出願資格として設定しています。英検準２級を基準に考えれば低すぎる基準ですが、もしこの CEFR 調査結果を正しいとすると B1 を出願基準に設定するとおよそ１～２%の受験生しか該当しない出願資格になってしまうのです。

2017 年度文科省　英語力調査の結果（度数分布表）

<聞くこと> 36問（約23分）

聞くこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	1,125	0.2%	2,211	0.3%
B1	310	504		498	
	300	558		853	
	290	694		1,100	
	280	821		1,296	
	270	1,617	2.3%	1,899	3.1%
	260	1,541		2,503	
	250	2,137		3,120	
	240	3,151		4,329	
	230	3,806		5,148	
A2	220	5,617		6,946	
	210	6,889		9,097	
	200	9,603		11,356	
	190	12,645		15,112	
	180	16,250	26.2%	20,461	30.2%
	170	20,540		24,116	
	160	25,671		30,971	
	150	33,149		39,240	
	140	41,655		45,075	
A1	130	53,192		52,551	
	120	65,582		59,185	
	110	76,456		65,779	
	100	75,343		66,334	
	90	68,494		66,395	
	80	53,007		54,737	
	70	32,936		37,541	
	60	19,791	71.4%	21,200	66.4%
	50	9,820		9,786	
	40	4,845		4,293	
	30	2,448		1,726	
	20	1,127		825	
	10	1,101		963	
	0	4,107		3,091	
	平均	123.1		127.3	
	調査対象	656,223		669,737	

<読むこと> 43問（約45分）

読むこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	320	281		1,232	
	310	131	0.1%	677	0.4%
	300	314		932	
B1	290	364		942	
	280	472		1,522	
	270	677		2,057	
	260	1,126	2.2%	2,092	3.7%
	250	1,615		3,105	
	240	2,328		3,572	
	230	3,227		4,949	
	220	4,660		6,513	
A2	210	6,786		8,390	
	200	9,241		10,448	
	190	12,588		13,637	
	180	18,051	32.4%	17,714	29.4%
	170	23,782		23,422	
	160	33,528		30,308	
	150	45,807		40,999	
	140	62,986		51,875	
A1	130	84,998		67,892	
	120	105,191		86,098	
	110	101,560		99,527	
	100	73,225		90,622	
	90	36,947		58,005	
	80	15,335		26,861	
	70	5,208	65.3%	9,924	66.5%
	60	1,787		2,845	
	50	749		1,191	
	40	269		491	
	30	278		299	
	20	9		66	
	10	0		52	
	0	2,706		1,478	
	平均	133.9		133.3	
	調査対象	656,223		669,737	

<話すこと> 6問（対面約10分）

話すこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B1	14	1,853	1.5%	1,357	1.2%
A2	13	2,015		2,730	
	12	3,242	11.3%	0	11.7%
	11	3,516		4,583	
	10	5,149		6,446	
A1	9	6,202		7,532	
	8	7,429		8,374	
	7	8,316		8,933	
	6	9,266		0	
	5	11,902		9,772	
	4	7,602	87.1%	10,289	87.2%
	3	11,619		9,004	
	2	0		9,559	
	1	26,324		17,086	
	0	18,267		22,209	
	平均	4.7		5.7	
	調査対象	122,703		117,873	
	0点のみ	18,267	14.9%	22,209	18.8%

<書くこと> 2問（約27分）

書くこと		平成27年度		平成29年度	
CEFR	得点	人数	割合	人数	割合
B2	140	0		0	
	135	8	0.0%	0	0.0%
	130	0		0	
B1	125	18		13	
	120	165		26	
	115	412	0.7%	171	0.4%
	110	1,621		302	
	105	2,684		1,949	
A2	100	6,225		3,821	
	95	6,684		6,724	
	90	12,613		5,721	
	85	14,530	18.8%	26,505	19.3%
	80	19,370		21,656	
	75	32,069		33,002	
	70	32,421		31,975	
A1	65	40,917		35,060	
	60	33,345		26,496	
	55	36,873		44,698	
	50	32,330		28,693	
	45	21,515		26,414	
	40	28,122		34,692	
	35	19,150	80.4%	31,299	80.4%
	30	22,625		25,703	
	25	24,120		32,500	
	20	29,161		36,405	
	15	36,840		21,592	
	10	98,404		95,329	
	5	0		0	
	0	105,925		101,342	
	平均	39.9		40.1	
	調査対象	658,145		672,089	
	0点のみ	105,925	16.1%	101,342	15.1%

CBT の導入　ー　どんな影響があるのか

英語外部検定試験に限らず、今後色々な試験がコンピューターやインターネットの環境で実施されていきます。いわゆる CBT（Computer Based Testing）が導入されていくことになります。ペーパー型との特性の違いや影響をまとめます。

①　コンピューターリテラシーの必要性
②　テスト時間の厳格化
③　テスト時間の個別化
④　PC 録音型のスピーキング
⑤　CAT と IRT　～　視力検査型の測定

①　**コンピューターリテラシーの必要性**：　タイピングは重要なライティング力の要素

当然 PC を使うとなれば PC に慣れていることが前提条件ですが、私も TOEFL と GTEC を CBT で受けましたが、PC 操作は正直大して問題になりません。その差は何と言ってもライティングに出ます。CBT でライティングを受けるということは当然ながらタイピングができなくてはなりません。TOEFL は 2001 年にペーパー型を廃止して以降ずっとタイピングによるテストですが、どんなにペンと紙で素晴らしいエッセイを書ける能力があったとしてもタイプで書けない時点で「大学で通用するライティング力がない」と判断されてしまうのです。大学ではレポートを PC 作成するのが当たり前なので、今やブラインドタッチも含めてアカデミックなライティング力として見なされるわけです。

デジタルネイティブと言われる今の生徒世代もスマホのフリック入力はプロ級でも、逆にスマホに頼りすぎていて PC を触る機会が少ないようです。英語のブラインドタッチとなるとなお一層ハードルも高く、トレーニングしなくてはなりません。

②　**テスト時間の厳格化**：　大問ごとに時間が設定される、前の問題に戻れない

ペーパーの場合は全体の時間しか決まっていませんが、CBT の場合はテスト時間が大問ごとに決まっている場合もあります。例えば TOEFL iBT ですが、リーディングセクションは長文が 3 つ～4 つ出され、合計時間は単純計算すると 60～80 分になります。ペーパー型だと全体のテスト時間の帳尻さえ合えば難しい問題に長い時間を使うということも可能ですが、TOEFL iBT では 1 題ごとの最大時間は 20 分と設定されているので、難しい問題でも 20 分までしか使えません。仮に 15 分で終わってしまえば全体の時間が 5 分短くなるということが起きます。ライティングも 2 題ありますが、それぞれ 25 分、35 分と上限が決まっています。リスニングもペーパー型だと聞き逃したところに印をつけておき、最後にマーク作業を残すことが可能ですが、CBT はその問題のクリックはその問題の中で完結させることが原則で、前に戻ったり、後でマークを

直すこともできません。

③　テスト時間の個別化：　受験者によって異なるテスト時間

CBT は⑤の CAT と関連するのですが、みんなが同じテストを受けるわけではなく、テスト時間に個人差が出てきます。最初にコンピューター操作の説明や音量調節などもあり、テストスタートからずれます。また、テスト時間の上限は決まっていますが、早く進めば次にどんどん進めます。テスト終わってボーっとするなんてことはなく、どんどん進んでいくのです。TOEFL のようにパイロット問題が含まれている場合は、そもそも設定時間が人によって異なります。さて、そうすると何が起きるのか。自分がまだリーディングをやっているのに、隣の人がスピーキングに入ったり、ライティングに入ったりするのです。そして自分がまだ最後のライティングをやっているときに、PC を片付けて部屋を出ていく人もいます。心理的に焦ったり、また逆に早く終わりすぎていることで不安になったりすることもあります。集中力という点からもペーパー試験とは大きく異なることは想像に難くありません。これは慣れていかなくてはいけないのですが、やはり家で練習しているのとは全く異なる環境ですから、何回かテストを受けてこのようなことも経験しておかなくてはいけません。

④　PC 録音型のスピーキング

CBT のスピーキングはヘッドフォンやタブレットを使って録音する形式になります。対話型だと面接官に聞き直したり、回答の時間を調整する必要もないですが、CBT の場合はそうはいきません。例えば 45 秒、60 秒といった制限時間内に答えなくてはなりませんし（制限時間を超えるとブザーが鳴って録音が自動的にその問題が終わります）、高得点を狙う場合はその時間ぴったりに答える練習を積み重ねていきます。時計を見なくても 45 秒とか 60 秒の時間を身体で覚えておくのです。また、答えが短くても制限時間内は録音が続くので沈黙が過ぎるのを待つしかありません。GTEC CBT は 120 秒という問題もあるので、慣れていない人はその沈黙に耐えるのが苦しくなるでしょう。そして、一番違うのは、やはり人を相手に話すという対面型のスピーキングと PC に録音するのでは心理的にずいぶん違います。考えているときに“Well …” と言って間を埋めることも CBT では意味がないですし、ジェスチャーを使って伝える補助をすることもできません（対面型もジェスチャーはノーカウントですが、それでも私のように手を自然に使わないと言葉が出づらいという人もいます）。一方で目を見て話したり、声を大きく張り上げる必要はないので、伝える技術は必要ではありません。決して CBT のスピーキングがやりにくいとは思いませんし、慣れればできるようになるのですが、それ用の練習はやはりかなり必要になります。

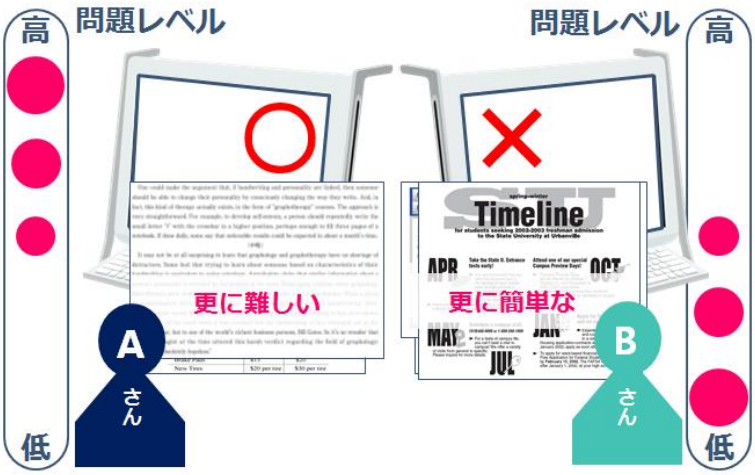
⑤　CAT と IRT　～　視力検査型の測定

用語解説

CAT （Computer Adapted Testing）	受験者のレベルに合わせて、コンピューターが出題難易度を調整する仕組み
IRT （Item Response Theory：項目反応理論）	データとして蓄積した受験者の応答パターンを用いて、形式や難易度が異なるテストでも統計処理、確率予測をして同じテストの点数として扱う理論。（問題項目ごとに難易度が設定されており、同じ 1 問でも難易度によって得点が変わってくる。）

CBT は PC の特性を最大限活かして受験者に最適化して展開されます。コンピューターが学習者のレベルに合わせて出題のレベルを調整し、限られた時間の中でより精度の高い測定をするのです。これを CAT（Computer Adapted Testing）と言います。CAT はよく視力検査に例えられます。最初は 1.0 の真ん中からスタートし、見える人には 1.2、1.5 などより小さい文字を試していく一方、見えない人には 0.6、0.4 と言ったように大きな文字を試していきます。同様に最初は中レベルの問題から始まり、できる受験生にはより難しい問題を、できない生徒にはより易しい問題を出していきます。ペーパーだと色々な受験生がいるのでみんな同じテストですし、レベルが低い問題から高い問題まで全て解いてもらう必要があります。しかし、CBT は各自がパソコンで個別の試験に取り組むので、AI を利用してこのようなテストが可能になります。

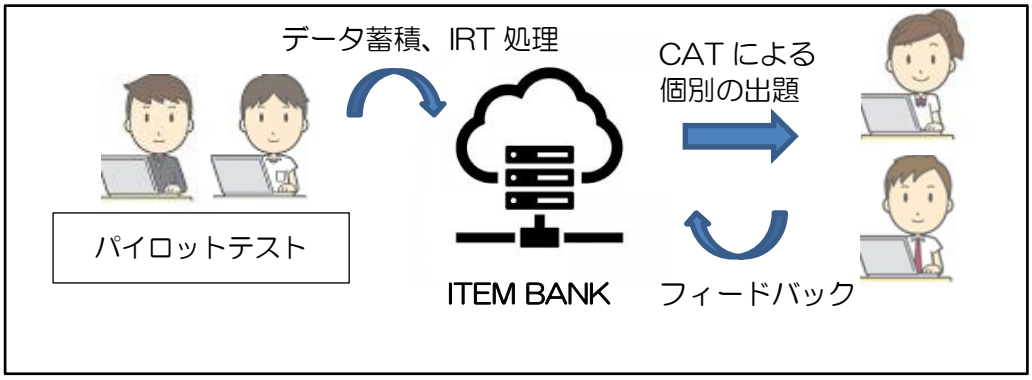
この CAT 型の試験を受けると「できたと思ったらスコアが低かった」「できなかったと思ったらスコアが高かった」ということが起きます。易しい問題を解かされていたからできたと思い、難しい問題を解かされていたからできなかったという感触が残るからです。実際に私が GTEC CBT を受けたときのエピソードですが、私はこれでもかというぐらい問題量が多く、実はリーディングが時間内に終わらなかったのです。一方、隣で解いていた高校生は私がリーディングを終える前に次のセクションに進んでいました。



（イメージ：　Benesse GTEC-CBT 資料より）

CAT の仕組み

CAT ではあらかじめそれぞれの問題項目の難易度が設定されています（そうでないと受験者ごとに難易度の異なる問題を出すことはそもそもできないですよね）。では、その問題の難易度というのは誰がどのように設定するのでしょうか？作問者の感覚でしょうか？いや、実は、これらの問題はすでに何度もパイロット問題（プレテスト問題）として繰り返し出題されていて、受験者レベル別の正答率などをもとに細かいデータ処理が施されています。そして難易度の調整が終わり、信頼性が高まった問題項目はテストアイテムバンクに貯められます。そのアイテムバンクからコンピューターが受験者のレベルや正誤パターンを見て出題するものを判断し、決めていくのです。テストが行われるたびにまたデータも少しずつ修正されるとともに、テストとして不当と思われる項目は淘汰されていきます。



ちなみに、TOEFL の Reading は 20 分の長文が全部で 3～4 題出てきますが、そのうち 3 題だけが本物の問題です。3 題しか出てこない時は全て自分のテスト結果に反映されますが、4 題出てきたときはどれか 1 題はパイロット問題で得点には関係なく、テストのデータ蓄積のために出題されます。もちろん受験者にはどれが本物でどれがパイロットか分かりません。また 3 題なのか 4 題なのかは 3 題目が終了してみないと分からないのです。3 題目で終了する場合もあれば、4 題目に突入し「あー、パイロット問題があるのかー」とその場で分かるのです。80 分ずっとどれが本物の問題であってもいいように集中力を切らさずに解ききらないといけないのですね。今は 4 題ですが、昔は 3 題もしくは 5 題でした。4 題目に突入し、あと 40 分 1400 語もテストが続くと知った時のあの気持ちは何とも言えません。最初から 5 題 100 分のテストと設定して練習し、本番もその気持ちで臨むように指導していました。

さて、もう 1 つの特徴として CAT は同じテストアイテムを何度も使ってデータを蓄積させることが重要なので問題は公開されず、過去問というものがありません。もちろんまたテストとして再利用されるため解答も公表されないので、何が間違っていたのかは分かりません。日本受験界がお得意とする「過去問演習」もできないし、受けた問題の答え合わせどころか持ち帰りもできません。それで対策ができるのか？十分問題なくできます。TOEFL などは予想問題集がたくさん出ていますし、テスト主催業者の ETS から公式問題集まで出版されています。

ちなみに、同じ問題が何度も再利用されるということですが、何回もテストを受けているうちに同じ受験者が以前出題された問題にもう 1 度出会うことはありうるのか？多量の問題がストッ

クされているので同じ受験者が同じ問題にあたることは普通はあり得ません。しかし、答えはYES です。実際に私が TOEFL で経験しました。海外大学院に進学する際に２回受験したのですが、リーディングが１題全く同じものが出てきました。１か月しか経っていなかったので問題を読み始めるとすぐにデジャブ感。「この前と同じ問題じゃん！」・・・では、それは有利だったのか？読むスピードや最低限の理解度といった基本的な点では有利な部分ももちろんあるでしょう。しかし、問題を解くという点では残念ながらアドバンテージがありませんでした。CBT はテストを受けた本人も正解が分からず、テストも持ち帰りできないので、結局、前回と同じ問題で同じように答えを悩んだことを覚えています。結果は、２回とも総合点は全く同じでした。今はもっと AI の性能も高くなっていますので、おそらくその受験生が解いた問題は履歴として残っていて、必ず初見の問題が出題されるようになっているのではと思います。

	従来のペーパー試験	IRT を用いた CBT
テスト問題、レベル	受験者が皆同じ問題、同じレベルのものを解く。	受験者に合わせて、調整されそれぞれ異なる出題がされる
問題の再利用	なし。毎回新しい問題が出題される。	何度も同じ問題が再利用される。過去の受験生の解答パターンをもとに難易度が設定される。
過去問、正答	公表される場合もある	公表されない、持ち帰りもできない

3-4 各試験の概要

試験名	受験人数	年間実施回数	成績表示	出題形式	受験料
ケンブリッジ英検（Cambridge Assessment English）	国内非公開（全世界では250万人）	2～3回	CEFR、各級の合否、スコア（80～230）、グレード	LRW：ペーパー or CBT S：ペア面接	9,000円 ～ 23,500円
英検	340万人	3回	各級の合否 英検CSEスコア（0～3400）	LRW：ペーパー S：面接	4,900円（3級） ～ 9,500円（1級）
英検CBT	新規	2期間	各級の合否 英検CSEスコア（0～3000）	全てCBT	5880円（3級） ～ 9,800円（準1級）
英検S-CBT	新規	2期間	各級の合否 英検CSEスコア（0～3000）	LRW：ペーパー S：CBT	5,880円（3級） ～ 9,800円（準1級）
英検S-Interview	新規	2期間	各級の合否 英検CSEスコア（0～3400）	LRW：ペーパー S：面接	5,880円（3級） ～ 16,500円（1級）
GTEC	102万人	3回	0～1400点	LRW：ペーパー S：タブレット	5,040円
GTEC CBT	非公開	3回		全てCBT	9,720円
IELTS	3.7万人（全世界では300万人以上）	40回	1.0～9.0（0.5刻み）	LRW：ペーパー S：面接	25,380円
TEAP	2.4万人	3回	80～400点	LRW：ペーパー S：面接	15,000円（4技能）
TEAP CBT	700人	3回	0～800点	全てCBT	15,000円
TOEFL iBT	非公表	40～45回	0～120点	全てCBT	235ドル
TOEIC L&R	266万人	10回	10～990点	LR：ペーパー	5,725円
TOEIC S&W	3.2万人	24回	0～400点	SW：CBT	10,260円

（「英語4技能試験情報サイト」より抜粋引用）

※TOEIC LR&SWは成績提供システムからは撤退をしたが、それ以外ではまだ活用されるため、この表には掲載してある。

各検定の特徴

（目的については「英語４技能試験情報サイト」より抜粋引用）

ケンブリッジ英検（主催：ケンブリッジ大学英語検定機構）

目的：　英語圏における日常生活に必要とされる実践的な英語力があるかを評価する。

種類：　A2 Key / Key for Schools ～ C2 Proficiency まで全８種類のテスト

CEFR：A1～C2

特徴：
- 国際的に知られている英語検定の１つ。
- スピーキングは２人の受験生がペアになって課題に沿って会話をする。
- 2018 年、英国・ケンブリッジ大学英語検定機構と学校法人河合塾が日本ケンブリッジ英語検定機構を共同設立し、英語外部検定試験の対応を含めて運営に当たる。

実用英語検定技能試験（公益財団法人日本英語検定協会）

目的：　英語圏における社会生活（日常・アカデミック・ビジネス）に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する。

種類：　従来型に加え、「CBT」、「2020 1 day S-CBT」、「2020 2 day S-Interview」の３形式が新規導入される。問題形式・難易度は通常の英検（従来型）と同一。「S-Interview」は障害を持つ受験生に限定され、一般の生徒が受験できない。

CEFR：A1（3 級）～C1（1 級）

特徴：
- 従来の英検（1 次試験＋2 次面接）
- CBT は４技能全てが CBT で行われる。
- S-CBT（LRW は従来通り PC で問題を見てマークシートに答える。スピーキングは録音式）
- S-Interview は従来の LRW はペーパー式、スピーキングは面接式）
- 2016 年度より CSE2.0 スコアを採用。３技能（LRW）の配点を均等とした。

英検 CSE2.0 スコアの採用

＜CSE2.0 スコア＞

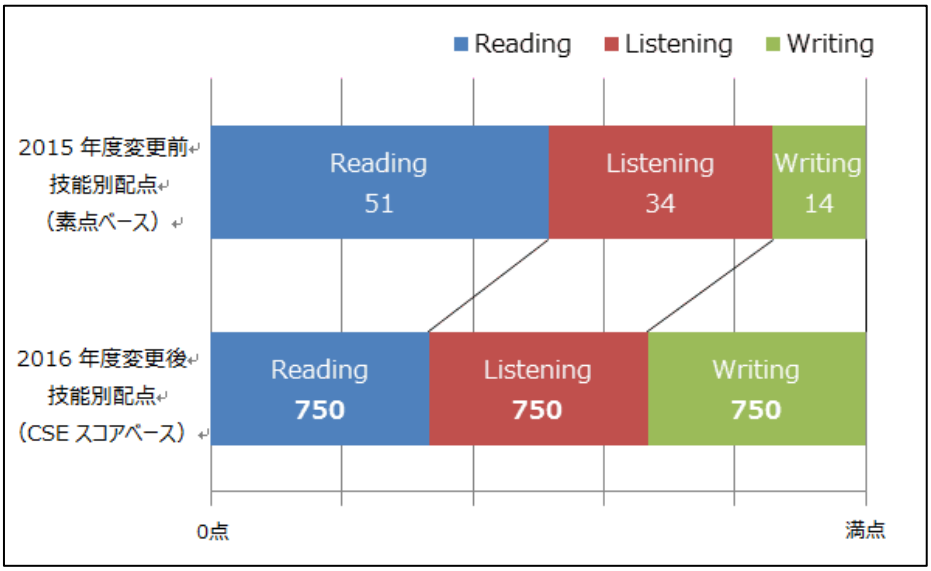
　かつての英検の結果は受験級の合否だけでしたが、2016 年度から英検は「グローバル化に対応するために合否だけでなく、より普遍的な結果提示が必要という考えから、CEFR に基づ

きCSE.2.0スコアを採用しています（Common Scale for Englishの略）。これによって「不合格A」というランクだけでなく「合格まであと何点」という客観的な数字が分かります。さらに、技能別にスコアが出るため、技能の到達度や得意不得意が分かりやすくなりました。また、このスコアはどの級を受けても同じスコア価値を持っており、合否に関わらず自分のスコアとして提出することができます。例えば、英検準1級で取った2100と2級で取った2100は等価値とされます。大学の求める英検の基準が「2級もしくはCSE1980」とあるケースで、準1級にトライし不合格だった場合はこれまでは提出できる結果が手元に残りませんでしたが、現システムではCSEスコアが1980を超えているのでこれで基準を満たしたことになります。ただし、2級を受けて英検準1級の合格点2304に到達しても「英検1級合格」ということにはなりません。そこはやはりその試験を受けなくてはいけないのです。

	各技能の満点	全技能の満点	合格点
1級	850	3400	2630
準1級	750	3000	2304
2級	650	2600	1980
準2級	600	2400	1728
3級	550	2200	1456

＜4技能の均等配点＞

CSE2.0の導入に伴い、2016年度から英検の評価が変わりました。それまではReadingが51点、Listeningが34点、Writingが14点という配点だったので、仮にWritingが極端に低くても合格するケースがありました。しかし、2016年度からは各750点という均等配点になったので、合格するには各技能でバランスよく解く点で来ている必要が出てきました。



（資料：　英検協会HPより）

GTEC（ベネッセコーポレーション）

目的：　英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る。
種類：　Core、Basic、Advanced の３種類と CBT
CEFR：A1～B2（Advanced）、C1（CBT）
特徴：
- もともとは GTEC for Students（Core、Basic、Advanced）という名称で日本の中高生のために作られた英語コミュニケーション能力テストとして普及していた。中高の受験者は全国で 100 万人を超え、GTEC を学内受験をしている学校は多く、中高生には馴染みのある試験。
- ペーパー版 GTEC は公式会場のものであれば入試活用が可能。
- ペーパー版 GTEC のスピーキングはタブレット入力
- そこによりアカデミックな英語力を視野に入れた GTEC CBT が加わった。これは従来のペーパー版 GTEC for Students とは全く異なるテストとして捉えておく。
- GTEC CBT は CAT で受験者の個々のレベルに対応する。

IELTS（ブリティッシュカウンシル・IDP:IELTS Australia）

目的：　英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する。
CEFR：B1～C2
特徴：
- イギリス移民申請用のジェネラルモジュールとイギリス系大学入学審査用のアカデミックモジュールの２種類があるが、大学入試ではアカデミックモジュールのみが採用される。
- ブリティッシュカウンシルが主催していたテストだが、2016 年より IDP: IELTS Australia という実施団体も認可された。中身は全く同じ。
- 世界 300 万人以上（年間）が受験をする。TOEFL と並ぶアカデミックな英語テストの２大巨頭。世界でスコアが通用する。
- もともとはイギリス系（オーストラリア、ニュージーランド含む）の大学で採用されていたが、アメリカ、カナダでも多くの大学が認められている。

TEAP（公益財団法人）

目的：　EFL（英語を母国語ではなく外国として使う）環境の大学で行われる授業等で行う言語

活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。

種類：　TEAP、TEAP CBT

CEFR：A2～C1

特徴：
- 英検協会と上智大学が共同作成したテスト。
- 2020 年度から高 1 生から受験可能になった。
- 上智の TEAP 利用型入試で広く普及。他大学の入試でも多く使われる。
- Academic Purpose という名称にある通り、アカデミックな英語能力を測定するため、大学の授業が英語活用の場面として設定されている。
- グラフ問題など思考力も多少加味された問題。
- 英検に近い問題構成を意識しているため、Reading Section の中に単語熟語表現の問題が 20 問設定されている。

2019 年度第 1 回から TEAP スコアと CEFR との対応がより明確化される

＜TEAP 発表＞

TEAP スコアと CEFR の対応関係について、あらためて専門家による検証をおこなったところ、これまで 5 段階で表示してきた CEFR レベルを 6 段階で表示することが可能だと結論付けられ、CEFR との対応関係をより明確化することにしました。

＜旧成績表と新成績表の違い＞

CEFR レベルの A2 より下の成績の表記

（旧成績表:2018 年度第 3 回まで）「Below A2」→（新成績表:2019 年度第 1 回から）「A1」または「Below A1」

CEFR レベルの B2 より上の成績の表記

（旧成績表:2018 年度第 3 回まで）「Above B2」→（新成績表:2019 年度第 1 回から）「C1」

＜CEFRレベルとTEAPスコア（各技能）の対応表＞

CEFRレベル		TEAPスコア（各技能）			
2018年度第3回までの表記（旧成績表）	2019年度第1回からの表記（新成績表）	R	L	W	S
Above B2	C1	90-100	90-100	96-100	99-100
B2	B2※従来通り	71-89	68-89	82-95	88-98
B1	B1※従来通り	52-70	54-67	59-81	60-87
A2	A2※従来通り	34-51	34-53	33-58	34-59
Below A2	A1	24-33	25-33	26-32	26-33
	Below A1	20-23	20-24	20-25	20-25

（TEAP のスコアは各技能 1 点刻み 100 点満点）

＜筆者の観点から＞
　TEAP は C1 まで測れるテストということになっていますが、スコア表を見ると C1 はほぼ満点です。つまり、C1 を取るには TEAP で測定可能な上限に達することが必要なのですが、満点を取るというのはどのテストでも難しいことです。C1 を目指す生徒は天井がより高いテストで C1 を狙いに行くべきで、TEAP は実質 B2 までの受験者層向けと言えます。

TEAP が高 1 から受験可能に

　2019 年 7 月 5 日に「高校生 1 年生から TEAP、TEAPCBT が受験できるようになります」という情報が TEAP の HP で公開されました。これまでのデータ検証で CEFR A1 のスコアが確定し、低学年層に対応できるようになったということと、近年低学年層でも高い英語力を持った生徒が多く見られるようになり、そのニーズに対応することが理由として挙げられています。英語 4 技能試験の大学入試利用に向けた受験者の先取り確保という裏の理由も当然あるでしょう。これは良いニュースで、高い英語力を有した一般生徒の中にはぜひ受けたいという生徒もいるでしょう（高 1 から検定を受けられる帰国生レベルは TEAP ではなく TOEFL 受験に流したいところです）。

TOEFL iBT

目的：　高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。

CEFR：B1～C1

特徴：
- PBT（～2000 年）、CBT（2000 年～2006 年）、そして iBT（2006 年以降～）と 2 回にわたって大きな形式変更を行った。同じ TOEFL でも中身は全く別物。満点も PBT677 点、CBT300 点、iBT120 点と異なる。大学のプレイスメントなどで PBT の過去問をリサイクルした ITP というものが採用されているが、公式な TOEFL スコアとして認められるのは iBT のみ。
- 全て CBT で行われる。
- IELTS と並んでアカデミック英語テストのビッグツー。世界でスコアが通用する。
- アメリカ系の大学、大学院で学ぶのに必要な英語力を測るためのテストであり、場面は全て大学の授業やキャンパス内のみ。
- スピーキングとライティングには Independent Task と Integrated Task がある。Independent はその技能だけに焦点を当てたもので、スピーキング、ライティングともに独立した問題になっている。Integrated Task は「複数技能が統合されたタスク」。レクチャーを聞いて、関連したリーディングを読み、その 2 つを比較したライティングを書くといったように単なるライティングではなく、別の技能が組み込まれている。
- 2019 年 7 月より、テスト時間の短縮および、My Best Score の導入がされた。

TOEFL iBT　テスト時間短縮と My Best Score の導入

2019 年８月１日より TOEFL iBT が以下のように変わりました。

＜問題数の削減とテスト時間の短縮＞

全体の試験時間が 30 分短縮され、計３時間となります。

	変更前（2019 年７月 31 日まで）	変更後（2019 年８月１日以降）
Reading	設問数：各 12-14 問 時間：　60～80 分	設問数：各 10 問 時間：　計 54～72 分
Listening	講義問題の数：　4～6 問 会話問題の時間：　60～90 分	講義問題の数：　3～4 問 会話問題の時間：　41～57 分
Speaking	Independent Task：　２問 Integrated Task：　４問 時間：　20 分	Independent Task：　１問 Integrated Task：　３問 時間：　17 分
Writing	変更なし	

＜My Best Score の導入＞

過去２年間の有効な全ての TOEFL iBT テストスコアから各セクションの最も高いスコアを組み合わせたスコアを掲載する。これにより「より多くの大学等の志望先の出願（スコア）用件を満たすことができますまた入試担当者にとっても志願者の英語運用能力をよりよく知ることができ、選抜の際に役立つものと考えます」とのこと。

■MyBest スコアの例

スコア要件が各セクションスコア 18 で合計スコア 80 の場合、下記受験者の MyBest スコア（下表右端の行）ではその要件を満たしています。

Section	Test Date 1	Test Date 2	*MyBest*™ Score
Reading	20	19	20
Listening	22	20	22
Speaking	*17*	20	20
Writing	*17*	19	19
Total Score	*76*	*78*	81

（TOEFL 資料より）

TOEIC

目的：　和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くコミュニケーションできるかということを評価する。

種類：　Listening & Writing、Speaking & Writing の２種類がある。

CEFR：A1～C1

特徴：
- 就職を考える大学生、社会人が圧倒的な受験者層。ビジネス英語の力を測る。
- アメリカの ETS 者が開発した日本のためのビジネス英語テストというのが本質で、国際的な知名度は低く、世界で通用するテストとは言えない。
- 受験者の７割が日本人と韓国人。
- ビジネス E-mail などを始め、ビジネスシーンが設定場面となっていることが多い。
- ４技能が均等配点ではなく、Listening & Reading に偏っている（Listening & Reading はそれぞれ 5～495 点でトータル 10～990 点のスコア。一方、Speaking & Writing は各 0～200 点の 400 点満点。）

<u>河合塾の分析</u>

河合塾が発刊している情報誌「Guideline」の 2017 年 11 月号に外部検定試験のレベルなどについて面白い分析が載っていたのでデータ部分を掲載します。

河合塾 Guideline　英語の資格・検定試験に関する分析

＜表２　配点と試験時間＞

		ケンブリッジ英検（PET）	英検（２級）	GTEC for STUDENTS（Advanced、４技能版）	GTEC CBT	TEAP	TEAP CBT	IELTS	TOEFL iBT	TOEIC L&R/S&W	センター試験
配点	R	配点のウェイトの50%	650	320	350	100	200	配点のウェイトは各25%	30	495	200
	W		650	320	350	100	200		30	200	－
	L	25%	650	320	350	100	200		30	495	50
	S	25%	650	320	350	100	200		30	200	－
試験時間（分）	R	90	85	45	55	70	80	60	60-80	75	80
	W			20	65	70	50	60	50	60	－
	L	30	25	25	35	50	40	30	60-90	45	60
	S	10-12	7	25	20	10	30	11-14	20	20	－

４技能均等配点でも、技能別の試験時間は試験により異なる。　※河合塾調べ

例）GTEC for STUDENTS、TEAP　CBT、TOEFL　iBT ⇒リーディング時間＞ライティング時間
GTEC　CBT ⇒リーディング時間＜ライティング時間
ケンブリッジ英検、英検⇒リーディングとライティングが同じ時間枠

＜表４　出題総ワード数に対する教科書語彙カバー率＞

名称	技能	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ
ケンブリッジ英検（PET）	Reading	92.8%	95.3%
	Listening	97.9%	98.5%
英検（２級）	Reading	93.5%	95.9%
	Listening	97.3%	98.2%
GTEC for STUDENTS (Advanced)	Reading	91.8%	94.8%
	Listening	97.3%	97.8%
GTEC CBT	Reading	85.9%	90.6%
	Listening	97.6%	98.4%
TEAP	Reading	84.3%	91.9%
	Listening	96.4%	98.2%
TEAP CBT	Reading	95.6%	97.4%
	Listening	判定資料なし	判定資料なし
IELTS	Reading	88.8%	92.6%
	Listening	94.7%	97.2%
TOEFL iBT	Reading	89.7%	93.8%
	Listening	95.6%	98.0%
TOEIC L&R	Reading	88.8%	92.7%
	Listening	95.2%	97.2%
2017 年度センター試験（本試験）	Reading	96.4%	98.5%
	Listening	97.7%	99.0%

※河合塾調べ

＜表５　各資格・検定試験と河合塾文法テキストとの比較結果＞

シリーズ	講数	フレーム	ケンブリッジ英検			英検		GTEC for STUDENTS (Advanced)	GTEC for STUDENTS (Basic)	GTEC CBT	TEAP	TEAP CBT
			KET	PET	FCE	準１級	２級					
河合塾 大学受験科 基礎シリーズ（４～７月の時期に該当）	1	品詞・句と節・文型	0.5%	2.0%	0.6%	0.4%	0.6%	0.3%	1,1%	8.0%	0.5%	0.0%
	2	動詞	3.3%	3.9%	3.9%	5.3%	5.2%	9.8%	7.8%	3.9%	7.1%	5.7%
	3	時制（＊）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4	助動詞・態	2.9%	5.7%	4.3%	5.9%	6.4%	11.3%	6.7%	14.9%	8.6%	9.3%
	5	仮定法	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.3%
	6	準動詞（1）動名詞	6.7%	3.3%	2.9%	3.5%	2.5%	6.1%	8.9%	7.1%	4.3%	4.4%
	7	準動詞（2）不定詞	2.9%	5.3%	5.2%	4.5%	3.2%	5.5%	7.3%	4.4%	4.1%	4.4%
	8	準動詞（3）分詞	3.8%	4.7%	4.2%	4.5%	2.6%	8.5%	7.3%	5.7%	9.1%	8.2%
	9	関係詞（1）	2.9%	3.8%	3.1%	2.5%	2.8%	7.6%	10.1%	5.7%	6.3%	8.2%
	10	関係詞（2）	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.0%	0.2%	0.3%	0.3%
	11	接続詞	11.5%	14.5%	12.9%	11.7%	11.0%	18.3%	24.6%	20.0%	23.0%	20.2%
	12	比較	2.9%	2.4%	2.4%	1.8%	3.8%	5.5%	2.8%	2.8%	6.1%	7.6%

※河合塾調べ　＊「時制」は全ての英文で見られる文法項目のため分析対象外とした

＜表６「CEFR-J　Wordlist」で分類した各資格・検定試験　Reading 問題の語彙レベル＞

CEFR-J レベル	ケンブリッジ英検（PET）	英検（２級）	GTEC for STUDENTS (Advanced)	GTEC CBT	TEAP	TEAP CBT	IELTS	TOFLE iBT	TOEIC L&R	2017 年度センター本試験（筆記）＊大問３～６で抽出
A1	55.7%	46.5%	47.1%	45.9%	32.2%	43.1%	30.2%	29.2%	30.0%	46.1%
A2	22.3%	21.6%	24.7%	21.2%	23.3%	24.5%	19.1%	22.6%	20.5%	26.5%
B1	8.5%	17.7%	13.9%	14.0%	19.6%	16.2%	16.0%	21.7%	18.1%	16.5%
B2	2.1%	3.3%	2.7%	3.7%	8.3%	4.4%	9.8%	7.8%	8.0%	4.3%
その他	11.5%	10.9%	11.5%	15.2%	16.6%	11.8%	24.8%	18.7%	23.3%	6.6%

※河合塾調べ　※各資格・検定試験のReading問題１回分のレベル別割合を算出

3-5　成績提供システム

大学入学共通テストに向けた英語外部試験の議論

以下のFAQにある通り、センター試験では英語４技能が評価できておらず、大学入学共通テストを導入してもその課題は残ります。やはり50万人規模のセンター試験でスピーキング、ライティングを評価することは現実的に不可能であり、そこで英語外部試験の導入が提案されたわけです。

文部科学省：　「高大接続改革」に係る質問と回答（FAQ）

Q	現在のセンター試験の英語のどこが問題なのでしょうか。
A	大学入試センター試験では、従来、コミュニケーション能力を重視した出題範囲の設定（平成９年度～）や、リスニングの導入（平成18年度～）等の改善に取り組んできました。しかしながら、主に「聞く」「読む」の能力を問うものとなっており、現行学習指導要領において求められている４技能を適切に評価することは困難です。そのため、既に大学入学者選抜でも活用されている民間の資格・検定試験を「大学入学共通テスト」の枠組みで活用することとしました。
Q	公平性・公正性の観点から、複数の資格・検定試験を活用するのではなく、大学入試センターが４技能の共通試験を実施すべきではないでしょうか。
A	大学入試センターにおける英語の４技能試験の実施は、特にスピーキング（「話す」）について、約50万人の受検生を同時に評価することは困難であると考えています。そのため、英語４技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、既に大学入学者選抜でも活用されている検定試験の活用を一層促進することとしました。

（文部科学省HP）

2017年５月の検討段階では、Ａ案とＢ案という２案が提示されていました。それが同年７月にＢ案に決定し、平成35年度まではとりあえず大学入学共通テストでも英語の試験が実際されることになり、共通テストと英語外部試験のどちらか、もしくは両方を入試に活用するということになったのです。

Ａ案	大学入学共通テストでは英語を実施せず、英語外部検定試験のみの評価にする。
Ｂ案	2023年度までは大学入学共通テストで英語も継続して実施する。各大学は共通テスト・英語外部検定試験のいずれか、または双方を選択して入試に活用する。2024年度以降は共通テストの英語を廃止し、英語外部検定試験に一本化する。

2023年度までは共通テストで英語も実施されるとは言え、これまでのように一部の生徒が対

象になるわけではなく、大多数の受験生が英語外部試験を入試利用することが想定されます。ましてや 2024 年度以降は現状案では外部試験に一本化する予定です。その規模は約 50 万人ですから、経済や地理的な状況によって受験機会などに有利不利が出ないようにルール決めをしたり、受験申込や成績提供が煩雑にならないようにシステムを整えよう、ということになりました。それが「共通 ID の発行」「大学入試英語成績提供システム」などといった運用システムが登場するのです。

現行のシステムはなくなるのか？

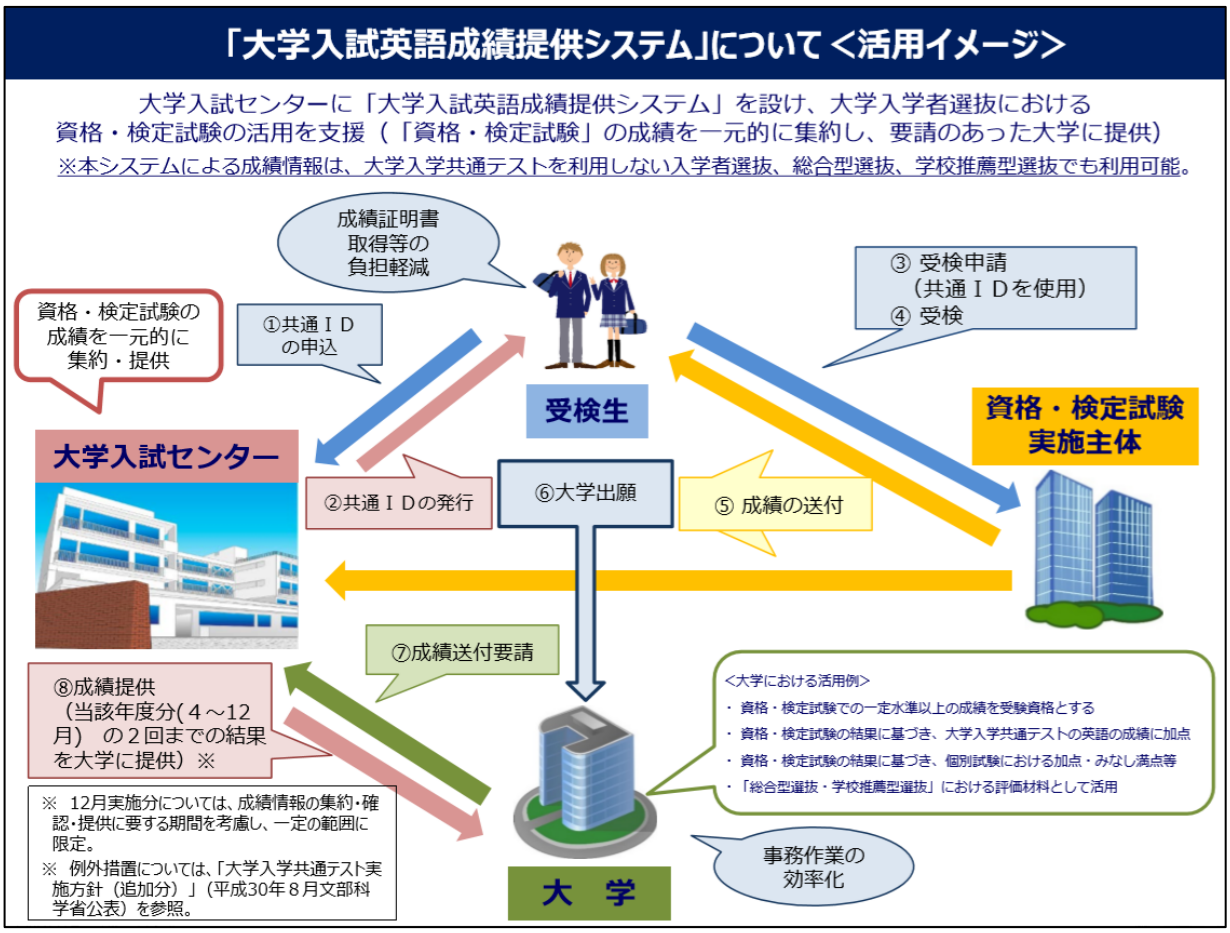
注意をしないといけないのは、現行のシステムがなくなるわけではないということです。「これまでの英検は使えない」「高 2 のスコアは無効で高 3 で取り直さなくてはいけない」「TOEIC が使えなくなった」「共通 ID を発行して受験する」、など巷で叫ばれていることは全て新しい成績提供システムを利用する場合であって、大学側が現行システムも認めている場合は現行システムで受験できます。つまり、その場合は、旧来の英検のスコアや高 2 のスコア、TOEIC のスコアも有効になりますし、受験機会も制限を受けることなく何回でも受験することもできます。

少なくとも当分は現行システムと新システムが並行して残っていくかと思います。いろいろな混乱、不安や批判もある中で、新システムに限定する大学がどこまでで出てくるのかは注視しなくてはいけません。おそらく国公立大学と一部の私大に限定されるかと思います。しかし、システムの運用がうまくいけば一般選抜方式については新システムが普及していくかと予測します。そのタイミングは 2025年度入試です。指導要領が改定され、入試改革の第 2 波がやってくるタイミングです。と言うのも、2021 年度から 2024 年度は移行期間であり、共通テストの英語入試も実施されますが、2025 年度以降はそれが廃止され、英語外部試験に一本化することになり、需要が一層高まると予測されます。AO・推薦型はこれまでの方式が続くこともあるでしょうが、一般選抜については短期間に大量の出願受付と合否判定の処理をしないといけないため、新システムで対応する大学が増えていくでしょう。

	現行システム	成績提供システム（新）
受験機会	いつでも可能。ただし、スコアの有効期限は原則 2 年以内。	高 3 学年の 4 月～12 月の間に 2 回まで。高 2 までのスコアは無効。
利用可能な検定	大学が指定したものであればなんでも良い。	大学入試センターが指定したものに限られる。
受験申込と成績提供	テスト会社から大学に成績が直接送られるように自分で手配する。	共通 ID を使って事前申請をする。成績提供はシステムを通して行われる。

英語成績提供システムとは？

一言で言えば、「資格・検定試験」の成績を一元的に集約し、要請のあった大学に提供」する仕組みです。大学入試センターに英語成績提供システムの活用イメージが示されています。



手順

①	共通 ID の申し込み	各受験生が大学入試センターに共通 ID（成績提供における個人番号）の申し込みをします。
②	共通 ID の発行	大学入試センターから各受験生に共通 ID が発行されます。これも現役生の場合は学校が一括して受け取り、生徒に通知します。
③ ④	受験申請 受験	成績提供システムを利用する場合、検定試験を受ける前に共通 ID で受験することを申請しておかなくてはいけません。
⑤	成績の送付	試験の結果が受験生本人と大学入試センターに提供されます。大学入試センターはその成績を登録します。
⑥	大学出願	成績提供システムを使う受験では、共通 ID を志願票に記載します。
⑦ ⑧	成績送付要請 成績提供	共通 ID をもとに受験生の成績を送付するように大学入試センターに要請し、入手します。

メリット

大学入試センターはこの成績提供システムのメリットについて、以下の４点にまとめています。教員側からすると共通 ID の発行業務、事前申請、状況確認の指導など神経を使う仕事が増え、負担は確実に増えますが、一方で、大多数の生徒が関わっていく英語外部試験にあって、③のように受検状況が一括で把握できることは利点と言えるでしょう。

成績提供システム活用の利点

① 情報の適切かつ厳格な集約・管理・提供

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用するに当たっては、受験生の個人情報を含む大量の情報を、適切かつ厳格に集約・ 管理・提供する必要があります。成績提供システムを構築することにより、こうした業務を安定的に実施することができます。

② 受験生の成績証明書取得等の負担軽減

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用する大学に出願する受験生は、志望する大学・学部等ごとに資格・検定試験実施主体に成績証明書の発行を請求し受領した上で、それを各大学に提出する必要があります。成績提供システムを活用することにより、これらの出願に係る負担が軽減されることになります。

③ 高校等における在学者の受検状況の把握

高校等においては、指導等に当たり、在学者がどの資格・検定試験を受検しているのかについて把握したい場合に、それぞれの在学者に個別に確認をする必要があります。成績提供システムを活用することにより、在学者がどの資格・検定試験を受検したのかを適時的確に把握できます。

④ 大学の事務作業の効率化

大学入学者選抜において資格・検定試験の結果を活用する大学では、受験生が 各試験実施主体から取得して大学に提出する成績証明書の確認・督促、当該成績 情報の入力作業等を行う必要があります。成績提供システムを活用することにより、これらの事務作業が縮減されます。

（「大学入試英語成績提供システム」の概要： 2018 年 12 月 18 日発表）

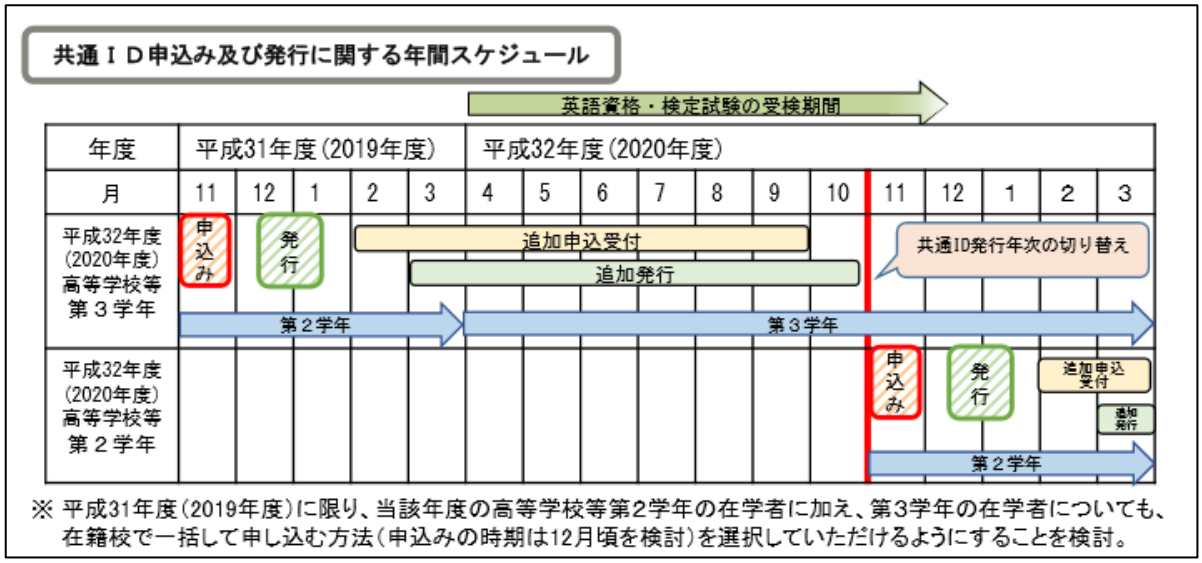
ポイントと注意点

（1） 成績提供システムを利用する入試、利用しない入試

「本システムによる成績情報は、大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能」とある通り、大学入試で広く活用される予定です。ただし、このシステムは共通 ID の発行・事前申請の諸手続きや、有効スコアの期限や受験回数の制限など不利な点もあります。総合型選抜（AO 入試）、学校推薦型選抜（推薦入試）を中心にこのシステムの活用を見送る大学もあることでしょう。その場合は、このシステムや諸制約は関係なく、個人で大学に成績送付の手続きをします。

（2） 共通 ID 申し込み

高２の 11 月に集中受付期間が設定され、その場合は 12 月～1 月に発行されます。もしくは高２の２月以降でも追加申し込みができます。センター試験の申込同様、現役生の場合、学校が一括して生徒の分を申請します。申請の時期は高２の 11 月です。2019 年度生については学校が一括して申し込むこともできます（浪人を見込んで申し込んでおくということです）。そうでない場合は、各個人で申請します。いずれにしても、受験前に共通 ID を取得しておく必要があります。共通 ID 取得前に取ったスコアは利用できません。



（3） 有効期間と回数

このシステムを利用する場合は、その受験年度（現役生の場合は高 3）の４月～12 月までに受験した２回分のスコアが利用できます。高２までのスコアは利用できません。すでに基準スコアを取得している場合でも、改めて受験をする必要があります。

成績提供には受験前の事前申請が必須です。大学入試センターも「4月から 12 月までに受検した複数の試験の成績から、受検生が事後に２件までの成績を選び大学に提供するものではない。」と赤字で注意を記載しています。つまり、何回も受けて、良いスコアを選んで送付するというこ

とはできない、ということです。また、2 回受験した場合、どちらかのスコアだけを選択して送るということはできません。受験の事前申請をしていても、諸事情により欠席した場合は 1 回とカウントされません。（当初は、事前申請したら欠席、未受験であろうが 1 回分消費となっていましたが変更されたようです）。仮に受験生が３回以上共通 ID を記入して試験申込みを行った場合でも、試験実施日（試験実施日が複数にわたる試験の場合は、最初の日）が早い順に２件までの成績のみが大学入試英語成績提供システムによる集約・提供の対象となります。それ以外の成績は無効です。

(4)　スコア登録とその確認

以下の図のように受験期間を３つに区切っています。そしてそれぞれの受験期間の後 1 か月間に「成績確認期間」というものが設けられています。（期間はその年度ごとに詳細が提示されます。）自分の成績が提供システムにきちんと登録されているかを確認する期間です。「英語受験状況確認システム」なるもので確認します。スコアは閲覧できず、「試験名」「試験日」のみ閲覧できます）。この 1 か月の確認期間後に大学への成績提供が実際に可能になります。高等学校の教員も確認することができます。

1 つ注意すべき点として、受験期間ギリギリに受けたテストは登録、確認が間に合わないかもしれないということです。大学入試センター協議会では「テストによっては採点に時間がかかるため、７月末に受けたテストが８月に反映されない可能性もあるため、余裕をもって対応してほしい」と説明していました。

	受験期間	確認期間	成績提供開始	提供可能な受験
期間Ａ	４月～７月	８月	９月	総合型選抜
期間Ｂ	８月～９月	10 月	11 月	学校推薦型選抜
期間Ｃ	10 月～12 月	12 月	２月	一般選抜

2020 年度の確認期間

	確認期間
期間Ａ	８月７日～13 日
期間Ｂ	10 月７日～13 日
期間Ｃ	12 月 22 日～28 日

(5)　大学へ提供される項目

大学に提供される項目ですが、2019 年５月発表段階のものを示します。成績提供システムの参加条件に「技能別の成績をセンターに提供することが可能であること」という項目があるので、4 技能別の CEFR 段階別表示もしくはスコアについては「一部の資格・検定試験」とありますが、

全ての試験で両方もしくはいずれかの成績提供がされるということかと思います。

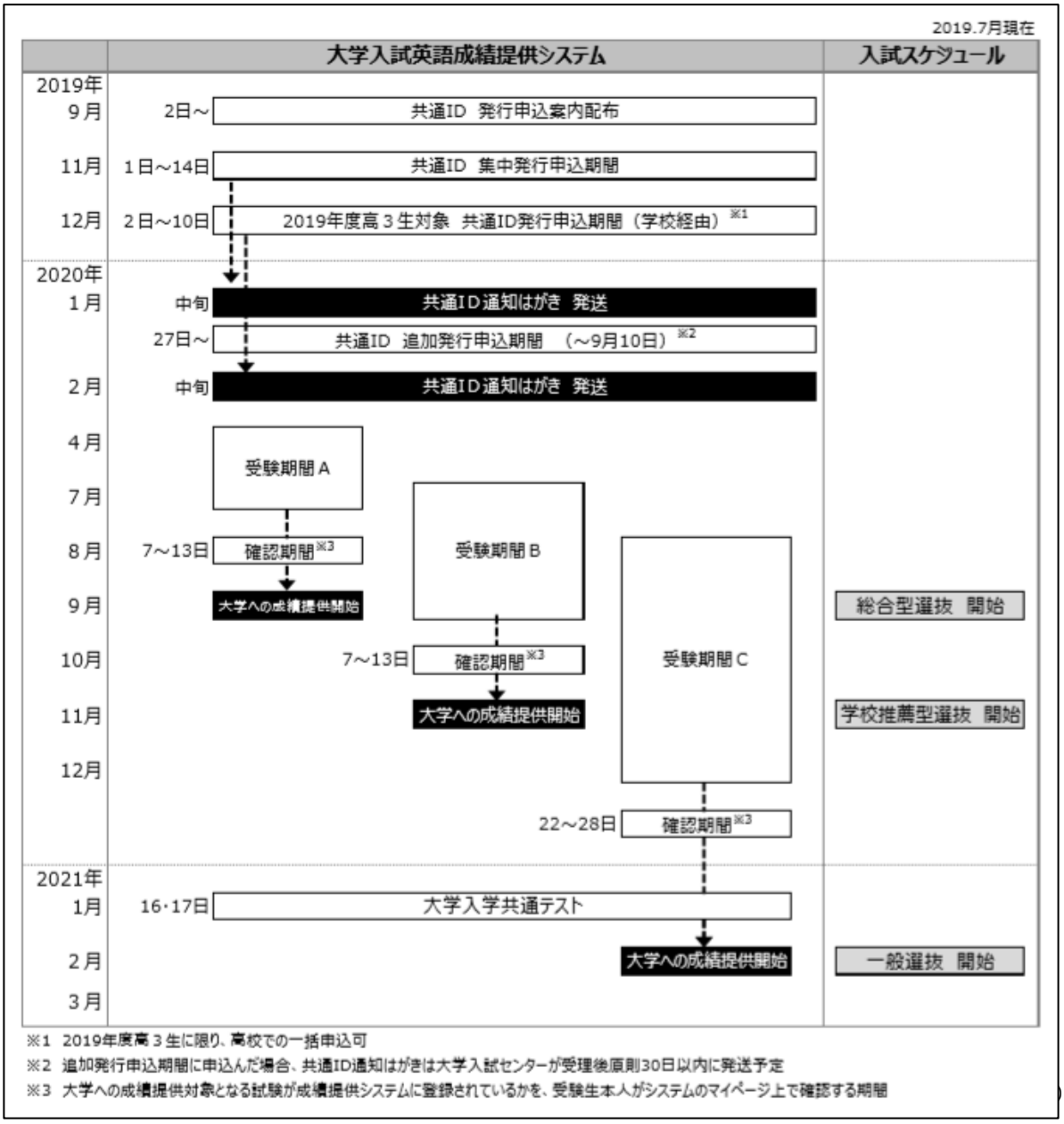
大学へ提供される項目	提供の有無
総合 CEFR 段階別表示	全資格・検定試験について提供
総合スコア	全資格・検定試験について提供
4 技能別の CEFR 段階別表示	一部の資格・検定試験について提供
4 技能別のスコア	一部の資格・検定試験について提供
級の合否	一部の資格・検定試験について提供

⑹　登録情報の修正、変更申請

引っ越しなど含めて、登録情報に変更や修正が生じた場合は、英語受験状況確認システムで申請をします（システムによる申請が困難場合は紙による申請）。

氏名、生年月日、受験料減免の配慮を含む場合	在学者が高等学校に申請をし、高等学校が代理承認をする。
電話番号、居所、メールアドレスのみの場合	在学者が大学入試センターに申請し、自動承認される。

2019 年度～2020 年度のスケジュール　まとめ



成績提供システムで使える試験

英語提供システムで使える英語の試験は以下の通りです（2018 年３月 26 日発表）。

実施団体	テスト名
Cambridge Assessment English （ケンブリッジ大学英語検定機構）	ケンブリッジ英語検定
Educational Testing Service（ETS）	TOEFL iBT
ブリティッシュカウンシル	IELTS（アカデミックモジュール）
IDP: IELTS Australia	
株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC
	GTEC CBT
公益財団法人日本英語検定協会	英検 CBT
	英検 S-CBT
	英検 S-Interview
	TEAP
	TEAP CBT

成績提供システムの参加要件を満たさないとされた試験

・英語検定試験（従来型）

従来の英検はスピーキングにあたる二次面接は１次合格者のみであり、「１回の試験で英語４技能の全てを極端な偏りなく評価するものであること」という参加要件を満たしていないと判断されました。

・Linguaskill

日本国内での実施実績がなく、その基礎となる「BULATS」という試験も受験者がごく少数であり、大学入学者選抜に活用された実績もないため、「日本国内において広く高校生の受検実績や大学入学者選抜に活用された実績があること」という参加要件を満たしていないと判断されました。

条件付きで参加を認められた試験

・IIDP: IELTS Australia による IELTS

IELTS はこれまでブリティッシュカウンシルが実施していましたが、2016 年６月から IDP という団体でも実施されることになりました。同じ IELTS なので全く問題ないのですが、実施団体について「日本国内において、原則として、申請日の時点において２年以上、英語に係る資格・検定試験が広く実施されている実績があること」という項目があり、申請時（2017 年 12 月）の時点で２年たっていなかったので、一応条件付

合格としていました。これについて「今後、引き続き実績を積み重ねることにより、平成 30 年６月には国内での実施実績が２年に達すると見込まれることから、このことを条件として、参加要件を満たしているものと認めることが適当と判断した」と述べられています。このテストの利用は実際には一切支障がありません。

英検は使えなくなった？

成績提供システムへの参入の合格・不合格が発表された時、「英検が落ちた」「英検は入試改革で使えない」と話題になりました。実際に新聞にも『英検「落選」に衝撃　高校教諭「最も身近な試験なのに」』（朝日新聞デジタル：2018 年３月 26 日）といったようなタイトルで速報が出ました。「文部科学省講演の英検がまさか落ちるとは」という英検協会幹部の声も紹介されています。

朝日新聞 DIGITAL　検索　目次

トップニュース　スポーツ　カルチャー　特集・連載　オピニオン

新着　天声人語　社会　政治　経済・マネー　国際　テック＆サイエンス　環境・エネルギー　地域

朝日新聞デジタル ＞ 記事　社会　教育・子育て

英検「落選」に衝撃　高校教諭「最も身近な試験なのに」

有料会員限定記事

2018年3月26日19時36分

シェア　ツイート list　B!ブックマーク 38　メール　印刷

各試験のスコアとCEFRレベルの対照表（抜粋）
文部科学省作成

CEFR	「新型」英検			GTEC	TOEFL iBT	TOEIC L&R TOEIC S&W
C2						
C1	3299～2600		1級 3299～2304	1400～1350	120～95	1990～1845
B2	2599～2300	準1級 2599～1980		1349～1190	94～72	1840～1560
B1	2299～1950		2級 2299～1728	1189～960	71～42	1555～1150
A2	1949～1700	準2級 1949～1400		959～690		1145～625
A1	1699～1400		3級 1699～	689～270		620～320

各試験のスコアとＣＥＦＲレベルの対照表（抜粋）

２０２０年度に始まる大学入学共通テストの英語で活用される４技能を測る民間試験に、８種が合格した。だが、学校も会場となり、多くの中高生が受けている現行の英検が落選。各試験の成績を国際基準に当てはめて比べる方法に疑問の声も上がり、経済的、地域的な格差の問題に改めて注目が集まる結果となった。

センター後継、英検「従来型」は不合格　「新型」は認定 →

「文部科学省後援の英検がまさか落ちるとは」。英検を実施する日本英語検定協会の幹部は、審査結果に驚きを隠さない。

本当に英検は使えなくなったのでしょうか？すでにご存じかと思いますが、不合格となったのはスピーキングが２次面接として行われる従来の英検で、１回の試験で４技能を評価する新形式の英検については合格しています。発表時は「公開会場実施」「1 日完結型」「英検 CBT」という仮称が使われていました。現在はそれぞれ「英検 S-Interview」「英検 S-CBT」「英検 CBT」という３つの名称となっています。また、気を付けたいことは、共通テストを主とした成績提供システムを利用する場合は確かに従来型英検は使えませんが、それを利用しない入試形態では依然として従来型英検も使えます。

英検協会も「英検が落ちた」という誤解を懸念し、敏感に反応し、即座に対応しました。「新方式は使える」「従来方式でも成績提供システム以外であれば同じように使える」ということが「英検は入試で使えない」という一言に飲まれてしまったことを懸念したのです。結果発表後すぐに『「大学入試英語成績提供システム」参加要件 確認結果を受けて』というタイトルで HP に説明を載せております。ご丁寧に、大学関係者、中高教員、塾・予備校関係者、高校生・保護者とそれぞれに向けて説明文を発しています。「従来型も変わらずご活用いただける」ということと併せて「成績提供システムを利用する生徒様には、新型英検、TEAP、TEAP CBT、IELTS をご利用いただきますようご指導ください」という文言があります。TEAP も IELTS も英検協会が運営に関わっているものですから、この辺りを指定してくるところにも競合する他テストとの争いが感じられます。

◆中学・高等学校の教職員の皆様へ

現在、外部資格・検定試験活用入試等でご採用いただいている英検は、全て準・本会場が併存する「従来型」です。2017年度入試において、英検は日本で最も広く大学入試で活用され、330以上の大学様にご活用していただいています。成績提供システムを介した大学入試以外では、従来型も変わらずご活用いただけますので、ぜひ生徒様への受験周知をお願いいたします。なお、成績提供システムを利用する生徒様には、「公開会場実施」「1日完結型」「英検CBT」およびTEAP、TEAP CBT、IELTS（Academic Module）をご利用いただきますようご指導ください。大学受験を希望する生徒様の利便性や志望大学の募集要項等に照らし合わせ、幅広い選択肢からお選びいただければと存じます。
なお、高校生の入試用英検対策のために、今まで２技能だった英検IBAを４技能化し、リーズナブルなご料金にて中学・高等学校の先生がいつでも模擬試験的に実施できるような新サービス「英検IBA４技能」を早期に提供させていただく予定です。英検IBAの４技能のスピーキングテストはタブレットPCの貸与を予定しております。

<英検「従来型」の特徴とメリット>

◇ 準・本会場両方を対象とした「従来型」を大学入試でご採用いただいている大学数は330以上で、今後もこの数は増加すると予想されます。
◇ 共通テストでは高校3年生の4月～12月に2回までしか受験できないとする一方、私立大学等の大学入試においては、原則、有効期限などの制限はない。
◇ 従来型は今後も継続して実施・運営し、これまで通りに大学入試でのご活用は可能であり、2020年度以降も成績提供システムを介さない大学入試に有効です。

（英検「大学入試英語成績提供システム」参加要件 確認結果を受けて」2018 年３月 26 日）

私のところにも関係者がわざわざ説明にいらっしゃいました。ちなみに、朝日新聞も前出の記事の１時間半前に『センター後継、英検「従来型」は不合格　「新型」は認定』という正しい情報を出していたのですが、やはり「英検不合格」ということが大きなインパクトを持ち、その部分だけが一気に広がっていったのです。

（英検 HP より）

<u>英検 S-Interview の変更</u>

(1)　障害がある受験生に特化した方式へ

３種類の新型英検が導入されますが、その中で「公開会場実施」という仮称だった S-Interview 形式に大きな変化がありました。『2020 年度「英検 2020 2days S-Interview」についてのお知らせ』（2019 年６月 26 日）というタイトルで「受検対象を障害がある受験生に特化する方式とする」という旨の発表がありました。つまり、一般の受験生は CBT もしくは CBT-S 形式で対応し、それが困難な障害を持つ受験生は S-Interview 形式で対応するということです。

なぜ、そうなったのか。英検協会の見解を見ていきます。S-Interview は従来の英検同様に面接官と１対１で話すものですが、CBT 形式（CBT-S を含む）はタブレットに音声を吹き込むものです。CBT では点字やテロップ、筆談などの対応がしきれないという技術的な面から S-Interview が残ります。一方で、一般の受験生を CBT 形式に一本化する理由は採点の公平性・公正性の担保です。

大学入試英語成績提供システム 参加要件　4－9

試験監督及び採点の公平性・公正性を確保するための方策を公表していること。その際、次の（１）及び（２）の要件を満たしていること。

（１）　会場ごとの実施責任者及び各室ごとの試験監督責任者が、受検生の所属高等学校等の教職員でないこと。 それ以外の試験の実施に協力する者としては、同教職員の参画を認めるが、この場合には研修の受講や誓約書の提出を課すこと。

（２）　受検生の所属高等学校等の教職員が採点に関わらないこと

成績提供システムの参加条件にこのような記載があります。つまり、英検では中高の英語教員が面接官を担当することが多くありますが、成績提供システムではそれらの教員が実施運営や採点に関われないのです。（２）は自分が所属していない学校の先生なら良い、という解釈もできますが、英検協会は以下のように述べています。

S-Interview は面接官が前任校で受験者の先生だったこともあり得、過去に遡れば両者がどこかで面識がある可能性があり、その有無は特定できません。従いまして、公平性、厳正性で優位な CBT 方式の試験を「大学入試英語成績提供システム」の柱に添えることを決定いたしました。・・・中略・・・CBT 方式で受験される皆様の中には、「S-Interview」で受験したいと希望される方々も多くいらっしゃるかと存じます。それにつきましては、英検協会としましても前向きに検討してまいりましたが、残念ながら、その場合は、前述の取り採点の公平性を追求するため、面接官以外に複数の採点作業を行う人件費等の費用が増大し、「S-Interview」の検定料が跳ね上がる恐れがございます。それは全国の受験者様に不利益を被る度合いが大きいと判断し、CBT 試験の推進により、わが国の教育の ICT 化実現に寄与することを最優先とし、それは認めないことといたしました。 （注：一部内容を簡素に編集してある）

本音を言うと「高校の教員以外で面接を運営するには人も金も足りない」ということです。しかし、これは 1 年半以上前の申請時に分かっていたことです。それを実施 1 年切った段階でこのような発表をするのは極めてずさんであり、あってはならないことです。「CBT も S-Interview もテストの傾向や中身は変わりません」と言われても、対面型の面接と CBT とはやはり感覚も違います。S-Interview であれば「面接も 1 次試験と同時に行う」ということ以外は従来の英検と変わらず、こちらを生徒に勧めるつもりでしたので、私自身もこの対応に戸惑いと怒りが隠せません。

(2)　英検準 1 級までしか受験できない

一般受験生の CBT 形式一本化は連鎖する影響が 1 つあります。それは成績提供システム利用では「英検準 1 級までしか受けられない」ということです。英検 1 級は受けられないのです。S-Interview は英検 1 級まで設けられていますが、CBT は英検準 1 級までしか設定されていません。これは認可時点から変わっていません。しかし、当初は S-Interview は一般受験生が受けられる前提でしたので 1 級を目指す生徒はそちらを選択すればよいはずでしたが、ここにきて一般の受験生は CBT 形式のみとなりました。つまり、一般受験生は英検準 1 級までしか受けられないということになったのです。

英検協会としましても、厳正さにおきまして人を介する試験より優位な CBT 方式の試験で、当初は 2020 年度中に 1 級の導入も検討してまいりました。しかしながら、「大学入試英語成績提供システム」を採用する全国の国公立大学様の入試動向を確認いたしますと、1 級に準ずる CEFR の C1、もしくは B2 レベルを出願基準としている大学様は今のところないことから、1 級を新たに導入し全国に会場を設置しても、受験者様は限りなく少ないものと思われます。こうした状況下におきまして、英検 1 級に準ずる CEFR の C1、もしくは B2 レベルの測定を望む受験者様には、TEAP を受験いただくことを英検協会としてはお勧め申し上げ、2020 年度につきましては、ひとまず CBT 方式での 1 級の導入は見合わせることといたしました。

・・・中略・・・

一方、「S-Interview」は 1 級が受験できることから、本来は CBT 方式で受験なさるべき受験者様の中で 1 級受験を希望される方につきましては、「S-Interview」で 1 級を受験させたらいいではないか、といったお考えもあるかと存じました。それにつきましても検討いたしました。「S-Interview」で受験したい、もしくは CBT 方式で受験したい、こうした受験者様のご希望は様々であり、もしかしますと幼少期から慣れ親しんでいる従来型の英検と変わらない、「S-Interview」で受験したい、と思われる受験者様は多くいらっしゃるかもしれません。そう考えますと、1 級に準じる CEFR の C1、もしくは B2 レベルを出願基準としている国公立大学様が今のところない状況で、CBT 方式に 1 級がないという理由で、1 級受験を希望される受験者様だけを「S-Interview」で受験することができるというのは、ほとんど希望者がいないことが予想される中で、いかにもとってつけた対応と言え、英検協会としましては、これは全受験者様に公平であるとは言い難いものと判断いたしました。

（注：一部内容を簡素に編集してある）

英検 1 級なんてほとんどいないよ、と思うかもしれませんが、帰国生をはじめ一定数います。これまでの生徒でも、例えば一橋大学の推薦入試や ICU の AO、慶應法学部の FIT 入試などを受けるために英検 1 級を受験する生徒がいました。総合型、学校推薦型の入試、そして得点換算形式でスコアが利用される方式では英検 1 級を取りにいくべき生徒もいるのです。ところが、従来型でしか 1 級がなく、それでは成績提供システムの同時活用できない、ということが起きます。その場合、英検協会は TEAP や IELTS を受験するように勧めているが、成績提供システムに参加申請したからには、責任もってそのようなニーズにも対応するべきで、全くばかげた見解です。

<u>英検 S-CBT の事前予約</u>

2019 年 7 月 2 日に英検協会から S-CBT の 2020 年度第 1 回の予約申込が 2019 年 9 月に開始されることが発表されました（9 月 4 日に 9 月 18 日～10 月 7 日という予約申込期間が公表されました）。従来の英検が受験の 2 か月半前から 1 か月前ぐらいまで申込期間であることを考えると、かなり早い申込となります。4 月～7 月を第 1 回検定期間、8～11 月を第 2 回とし、土日、祝日、平日夜に実施をします。予約申込を行い（予約金 3,000 円）、その後本申込となります。予約申込をした場合は座席が必ず確保されるが、そうでない場合は確約されません。

＜2020 年度、「英検 2020 1 day S-CBT」の実施概要のお知らせ＞　抜粋

「英検 2020 1 day」の特長

■ **全国 186 エリアに約 260 のテストセンターを配置する予定です**

➢ テストセンターの配置エリアは、予約申込時の入力情報をもとに受験者の利便性を考慮し、各都道府県の主要都市をはじめ、公共交通機関の路線・交通網等を総合的に考慮し選定します。なお全国の会場設置エリアにつきましては、末頁にご参考として記載申し上げておりますので、そちらをご参照いただければと存じます。

受験を希望される方は、「予約申込※1」と「本申込※2」の 2 つのステップがございます

※1　第 1 回検定（2020 年 4～7 月実施分）　の予約申込は 2019 年 9 月、本申込は 2020 年 2 月
※2　第 2 回検定（2020 年 8～11 月実施分）の予約申込は 2020 年 1 月、本申込は 2020 年 6 月

■ **「予約申込」をされた方の座席は必ず確保されます**

➢ 予約申込時の入力情報をもとに、都道府県単位で上記実施期間内に予約申込者数の 120%（2 割増し）のキャパシティを目安に、余裕のある座席数をご用意する予定です。

➢ 英検協会では、予約申込を受け付けてから、全国各地で必要となる会場数と席数を確定する手順を取らせていただくため、本申込の際には、予約申込をされた方々の席数は確実に確保されてございます。

■ **「本申込」の際に、受験者様ご自身で「受験日時」・「受験会場」 をご選択いただけます**

➢ 予約申込時に希望なさった都道府県のうち、本申込時には先着順でご希望の受験日時・受験会場をご選択いただけます。したがいまして、英検協会が一方的に受験日時や受験会場を指定することはございません。

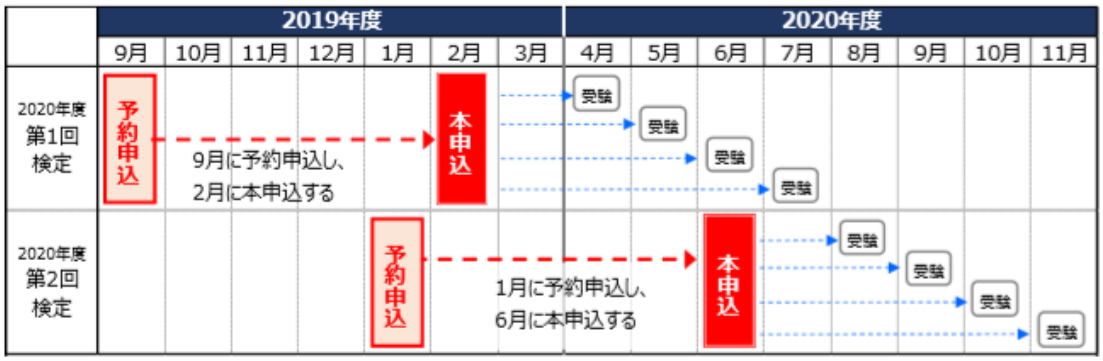
なお、お申し込みの多い都道府県につきましては、実施日や実施回数を毎週末、もしくは平日夜などに増やす等、受験を希望される受験者様が検定実施期間内に確実に受験いただけるようにいたします。

●申込スケジュール

・「**予約申込**」と「**本申込**」の 2 ステップがございます。
「予約申込」をされた受験者様の席数は必ず確保され、「本申込」の際に受験日時・受験会場を選択いただけます。

検定回	試験日程	予約申込 日程	本申込 日程
第 1 回検定	2020 年 4 月・5 月・6 月・7 月のいずれか	2019 年 9 月	2020 年 2 月
第 2 回検定	2020 年 8 月・9 月・10 月・11 月のいずれか	2020 年 1 月	2020 年 6 月

※各回の実施期間内の会場ごとの日程につきましては、上述の「英検 2020 1 day」の特長でも記載したとおり、本方式は、予約申込時のお客様からの入力情報をもとに会場確保をおこなうため、本申込が開始されたところでご案内いたします。



英検 S-CBT 申込スケジュール（2019 年９月４日発表）

	第１回	第２回
予約申込	2019 年９月 18 日（水） ～10 月７日（月）	2020 年１月 15 日（水） ～1 月 27 日（月）
本申込	2020 年２月９日（日） ～2 月 25 日（火）	2020 年６月 20 日（土） ～7 月６日（月）
試験日程	2020 年４月～7 月	2020 年８月～11 月

予約申込と本申込の流れ

予約申込	氏名、住所、所属高校（卒業見込み／卒業）等の情報 受験希望級（事前アンケート） 任意のパスワード　等 予約金 3000 円
本申込	受験日時、受験会場、受験級（予約申し込み時から変更可能）、 顔写真の登録、共通 ID 検定料（予約金を差し引いた残額）

さて、問題として「S-CBT の予約申込をするべきか」という疑問が発生します。それについては、私はこのような方針が妥当かと思っています。

- 英検を受験すると決めていて（受験する可能性が高く）、級も決まっている場合
  → 予約申込をする

- 英検を受験する可能性がある。
  → 予約申込をする。ただし、受験しない場合、予約金の 3000 円が返ってこないことは承知の上。

- 英検を受験する可能性が低い、受験しない
  → 予約申込をしない。

当然ですが、受験する可能性があるなら予約金 3000 円が無駄になるケースがあるかもしれないけど、予約申込するということです。本申込は予約申込の２割増しで対応するということが言われていますし、何パーセントかは予約申込はしたけど本申込はしない、という生徒もいると思います（予定級を高２第２回の試験で合格し、受験級を変える生徒などもいるでしょう）。予約申込なしでは座席が保障されないというリスクもあり、英検を受けようと思う生徒のほとんどは今回の予約申込をするでしょうから、本申込だけでも本当に２割増しで受けてくれるのなら普通に

申込ができる可能性はあります。ただし、本申込も２月から始まってしまい、高２第３回（3月）の結果を待つことはできないので、結局後伸ばししても状況は大きく変わっていないはずです。つまり、今「受験する可能性がある」と思っている人は、おそらく２月の時点でも同じ状況ですから、だったら最初から 3000 円を無駄にするリスクはありますが、受験できないというリスクがないように申し込んでおけばよいでしょう。

しかし、英検に全員が流れる必要はありません。これだけ早くに申し込みがあって、それをしないと受験できないとなると切羽詰まってくる気にもなります。しかし、ある意味うまいビジネスです（しかもその予約金が本申込をしなくても戻ってこないというのはビジネス理念としてはなはだ疑問です）。英検が本当に自分にとって良いと思えば予約申込するべきですが、そうではない、他のテストの方が良い、と思った人は自分の感覚に自信をもって、別のテストを受けましょう。

「そうは言っても英検を申し込むよ」と思う人も多いかと思います。ただし、英検受験者がもう１つ覚悟しないといけないのは第２回の申込です。予約申込が第１回を受ける前の１月に行われます。本申込が６月からですが、最低でも５月に試験を受けておかないと第１回の試験結果が分からない状態で本申込を迎えます。英検 S-CBT を受けるからには、この早い申込スケジュールと受験級の判断などを覚悟しなくてはいけません。

英検 S-CBT　PC 上で問題を読む形式に

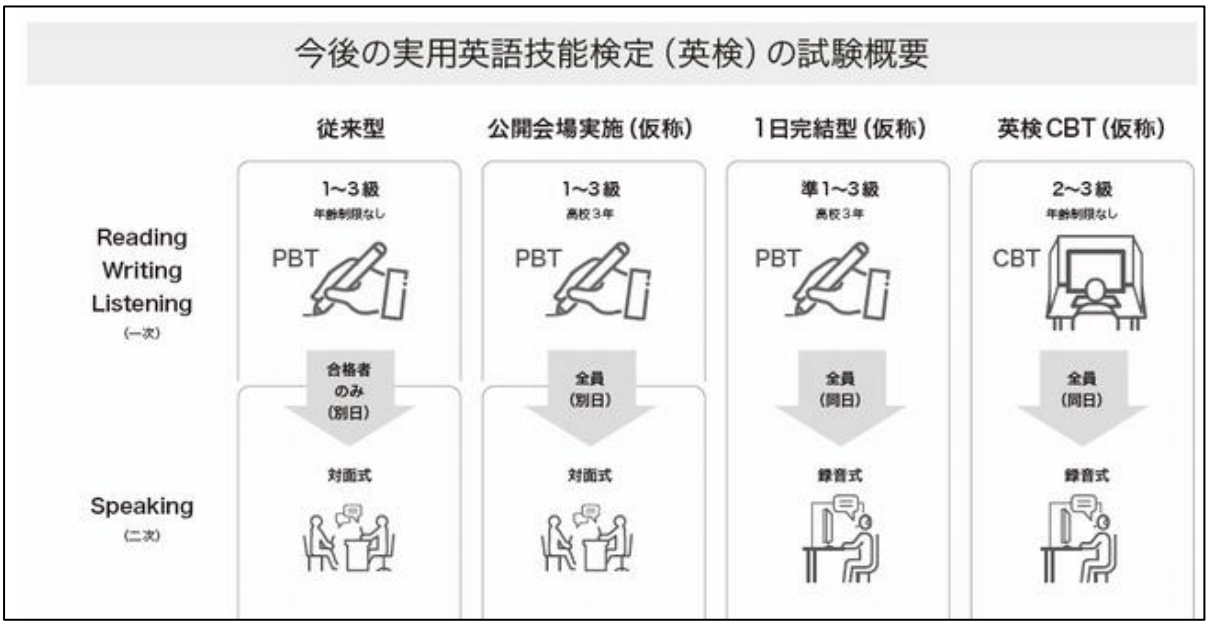
2019 年９月４日に予約申込日程の発表とあわせて、S-CBT の実施概要が発表されました。

S-CBT　実施方式　（2019 年９月４日発表）

◎　問題内容はコンピュータ画面上に表示
◎　リーディングテスト、リスニングテスト、ライティングテストは解答用紙にマークまたは記述する、PBT 方式
◎　スピーキングテストはヘッドセットを装着し解答を録音する吹込み式
◎　出題内容、難易度、採点基準は従来型の英検と変わりません

これまでリーディング、リスニング、ライティングは「PBT」と表記されていました。2018 年３月に発表した『「大学入試英語成績提供システム」参加要件 確認結果を受けて』の中、新型英検を含めて以下のように表示していました。現在の S-Interview、S-CBT がそれぞれ公開会場実施型、１日完結型という仮称ですが、英検 CBT はコンピューターの絵が描いてありますが、それ以外は従来型と同じ鉛筆の絵です。誰がどう見ても PBT ですし、誰がどう考えても従来のものと同じ問題冊子形式、マークシート方式だと思いますよね。しかし、９月４日の発表では「問題はコンピュータ画面上に表示し、マークシートに回答する」という方式が発表されたのです。100 歩譲ったところでこれを PBT と呼ぶ人はいません。

2018 年３月の発表資料



これまでの英検と異なり、何回も試験を行うので問題をリサイクルするための処置でしょう。要は CBT のテストアイテムバンクを使わないとこれだけの受験人数と回数に対応できないということです。ちなみに S-CBT は 2019 年度から実施されており、リスニング、リーディング、ライティングの３技能も CBT で行われていました。要綱にも「コンピュータ画面上で問題の閲覧、および解答を行う／CBT」という記載があるのですが、「2019 年度と、2020 年度ではリーディングテスト、リスニングテストの実施方式が異なるのでご注意ください」とあり、PBT に代わることが示唆されていました。確かに、テストセンターの写真が７月２日にテストセンターの写真が出たときに違和感はありました。このような個別のブースで問題冊子が配られて、仮にカンニングでも起きたラどうするのだろう、と。

しかし、私は PBT という発表があったので、さすがにコンピューターでやることは想定していませんでした。ペーパー冊子とコンピュータ画面、テストの質として差がないとしても生徒の中には大きな問題だと感じるものもいます。このような発表が受験まで１年を切り、しかも予約申込が２週間後に始まるというタイミングでされるというのはいかがなものでしょうか。

TOEIC の撤退

2019 年７月２日に大学入試センターから TOEIC が成績提供システムから撤退したことが発表されました。この件に対する主催者 IIBC の見解が出ています。

TOEIC Tests は４技能を測定できる試験ではございますが、TOEIC L&R と TOEIC S&W が別々に実施される形態となっております。本システムへの社会的な要請が明らかになるにつれ、それらに対応するためには、受験申込から、実施運営、結果提供に至る処理が当初想定していたものよりかなり複雑なものになることが判明してまいりました。このため、現時点において、協定書締結に向けた大学入試センターとの協議が完了しておらず、当協会として本システム運用開始において責任をもって各種対応を進めていくことが困難であると判断いたしました。

これも今さら何を言っているんだ、と怒りを感じる対応です。確かに TOEIC の主な受験者層は大学生や社会人であり、「ビジネス英語の TOEIC を高校生が受験することは合理的ではない」というような意見もあります。その点から、高校生で TOEIC を成績提供システムで利用する受験者はごく限定的だと考えられていましたが、成績提供システムだけは整備しなくてはならず、損が出ても得がないというビジネス判断で撤退になったのでしょう（真意のほどは分かりません）。しかし、何が理由であっても自ら手を挙げて参入したわけで、一度認定されたからには赤字が出ようとも当面は責任をもって実施するべきです。

3-6　各大学の動向

各大学はこの英語外部試験をどのように活用するのでしょうか。2019 年 5 月 13 日、『2021 年度入学者選抜における「大学入試英語成績提供システム」参加試験の活用予定（国立大学・一般選抜）』という書面にて、文科省から国公立大学の活用予定が発表されました。（書面全体は次のページに掲載）

活用方法		大学数
①出願資格として活用	CEFR A2 以上	25
	CEFR A1 以上	13
	CEFR 基準の定めなし	3
	CEFR 基準は未定	3
②点数化して加点（大学入学共通テストの成績に加点）		33
③出願資格及び点数化して加点		7
④一定水準以上の成績で大学入学共通テストの「英語」を満点とみなす		3
⑤高校が作成する証明書等の併用		8
⑥高得点利用（大学入学共通テストの「英語」の得点と比較）		1
⑦活用するが、現時点で活用方法を明示していない		8
⑧活用しない		4

これからも「受験生に与える影響は極力小さくしていきたい」という大学の消極的な姿勢がうかがえます。その理由の 1 つ目が、出願資格のハードルの低さです。出願資格は受験者全員に関わる活用方法ですが、多くの大学が CEFR A2 以下、英検で言うと準 2 級以下です。東大、京大、一橋大、東京工業大といった最難関 4 大学につづき、大阪大、神戸大、名古屋大といった旧帝大、東京医科歯科大、東京外国語大、東京工業大、千葉大、埼玉大、お茶の水女子なども含まれます。横浜国立大の一部や高知大などは CEFR A1、つまり英検 3 級レベルです。これらの大学の志願者が英検準 2 級を超えていないわけありませんのでゼロハードルだと言えます。北海道大、東北大を始めとした 4 大学については「活用しない」と回答をしています。2 つ目として、英語外部試験のスコアを加点すると答えた大学が多く、A2 出願資格より積極的な活用ですが、一部の生徒に限定したボーナス点ですので、英語テスト全体に大きく影響するほどではありません。しかも、共通テストに加点する場合、英語は 200 点満点を上限とするわけですから、できる生徒ほど加点の恩恵を実は受けられないケースが出てきます。例えばセンター試験でもトップ層は満点に近いスコアを出す生徒がいますが、その場合、例え 20 点加点の対象になるスコアがあっても満点との差の数点分しか加点されないことになります。ちなみに、加点は筑波大学を始め、地方国公立大を中心に見られます。

このように英語外部検定試験に消極的な大学が多く、尖った能力が本当に評価されるのかは疑わしいのが実情です。「受験の門戸を閉ざさない」ということを謳っている一方、当てつけのよう

にわざと「意味のないハードル」を形だけ設定して、英語外部試験の導入に反発している様相も事実あります。

2021年度入学者選抜における「大学入試英語成績提供システム」参加試験の活用予定（国立大学・一般選抜）

＜2019年5月13日現在（文部科学省調べ）＞

活用方法		大学名（学部等名）	大学数（※１）
③出願資格として活用	ＣＥＦＲ Ａ２以上	埼玉、千葉、東京、東京医科歯科、東京外国語、東京農工、東京工業（個別学力検査（前期日程）英語の一部に活用）、お茶の水女子、電気通信、一橋、横浜国立（経済学部）、岐阜（医学部医学科）、浜松医科、名古屋、滋賀、京都、大阪、神戸、鳥取（農学部共同獣医学科）、島根（医学部医学科）、徳島（医学部医学科、歯学部歯学科、薬学部）、香川（医学部医学科）、愛媛（医学部医学科）、九州、琉球（医学部医学科）	25
	ＣＥＦＲ Ａ１以上	帯広畜産、宮城教育、横浜国立（経営学部、理工学部、都市科学部建築学科、都市基盤学科、環境リスク共生学科）、上越教育、金沢、福井、京都教育、徳島（上記以外）、香川（上記以外）、愛媛（医学部医学科以外）、高知、福岡教育、熊本	13
	ＣＥＦＲ 基準の定めなし	奈良女子（※４）、岡山（※４）、広島	3
	ＣＥＦＲ 基準は未定	旭川医科、東京海洋、滋賀医科	3
②点数化して加点（大学入学共通テストの成績に加点）		北海道教育、室蘭工業、弘前、岩手、秋田、福島、茨城、筑波、筑波技術（産業技術学部）、群馬、東京藝術（美術）、新潟、長岡技術科学、富山(人間発達科学部，経済学部，医学部，薬学部，芸術文化学部，都市デザイン学部）、信州、岐阜（医学部医学科以外）、静岡、愛知教育、名古屋工業、豊橋技術科学、三重、大阪教育、兵庫教育、鳥取（地域学部、医学部生命科学科、医学部保健学科、工学部、農学部生命環境農学科）、島根（医学部医学科以外）、山口、鳴門教育、九州工業、佐賀、大分（医学部医学科以外）、鹿児島、鹿屋体育、琉球（医学部医学科以外）	33
③出願資格及び点数化して加点		小樽商科、横浜国立（教育学部、都市科学部都市社会共生学科）、信州（教育学部英語教育コース）、京都教育（英語領域専攻）、鳥取（医学部医学科）、長崎、大分（医学部医学科）	7
④一定水準以上の成績で大学入学共通テストの「英語」を満点とみなす		東京藝術（音楽）、福井（国際地域学部）、広島	3
⑤高校が作成する証明書等の併用		埼玉、東京、東京医科歯科、一橋、浜松医科、名古屋、京都、奈良女子	8
⑥高得点利用（大学入学共通テストの「英語」の得点と比較）		富山（人文学部，理学部，工学部）	1
⑦活用するが、現時点で活用方法を明示していない		北見工業、山形、宇都宮、東京学芸、山梨、奈良教育、和歌山、宮崎	8
⑧活用しない		北海道、東北（※４）、筑波技術（保健科学部）、京都工芸繊維	4

※１　大学数には、一部の学部等のみで実施する場合を含めています。

※２　2019年5月13日現在の情報であるため、最新情報は必ず各大学のウェブサイトを確認してください。
　　また、各大学における活用方法の詳細についても、各大学のウェブサイトを確認してください。

※３　「活用方法」には、当てはまる箇所に全て記入しているため、複数欄に記載されている大学もあります。

※４　当該大学については、Ａ２レベル以上の英語能力を有していることが望ましいとしています。

これまでの経緯

国立大学協会は 2017 年 11 月 10 日公表の「２０２０年度以降の国立大学の入学者選抜制度ー国立大学協会の基本方針ー」の中で以下のような方針を発表していました。

新テストの枠組みにおいて、センターが認定した民間の資格・検定 試験（以下、「認定試験」）を活用することが有効であるが、十分な検証を行いつつ、その実施・定着を図っていくことが必要であることから、国立大学としては、 新テストの枠組みにおける５教科７科目の位置づけとして認定試験を「一般選抜」 の全受験生に課すとともに、2023 年度までは、センターの新テストにおいて 実施される英語試験を併せて課すこととし、それらの結果を入学者選抜に活用する。

つまり、国立大学の「一般選抜」の全受験者に英語外部試験（＝認定試験）と大学入学共通テストの英語の両方を受けさせることを方針として決めていましたのです。

しかし、2018 年３月 10 日に東京大学が「現時点で、業者テストを入試として用いることは正しくないと考えている」「今の状態では（合否判定に）使わない可能性が極めて高い」という見解を示し、「東大が英語外部試験を使わない」という報道が紙面を賑わせました。

（朝日新聞デジタル：2017 年３月 10 日）

その後、2018 年９月に、東大は「一定の英語力を出願資格として求めるが、民間試験のスコアだけでなく、高校の調査書などで実力が証明されれば代用可能とする」という方針を打ち出しました。このような特別措置をとることで民間試験を課すという国大協の方針に従う体裁は形だけ保ちつつも、実質的には無効化しました。そして、東大に続き、旧帝大など英語検定試験を必須条件にしないという意向を示すようになりました。京大も東大同様の高等学校による証明書で代用可能としますが、担当者から積極的にこの証明書をバンバン使ってくださいというアナウンスが出るほどです。2019 年６月には東京大学の元副学長らが中心となって英語民間試験の利用中止を求める国会請願を行いました。

2019.06.15 更新

大学入学共通テストにおける英語民間試験の利用中止を求める国会請願と記者会見について

2021 年度（2020 年度実施）の大学入学共通テストで導入が予定されている英語民間試験には，かねてから専門家が指摘してきたようにさまざまな課題が山積しています。2020 年 4 月の新制度導入を間近に控えた現時点でも，希望者全員がトラブルなく民間試験を受検できる目処が立たず，高校生や保護者，学校関係者に不安が広がっています。このまま導入を強行すれば，多くの受験生が制度の不備の犠牲になり，民間試験の受検のために不合理な経済的，時間的，精神的負担を強いられるでしょう。また，予想される各種のトラブルのために，当該年度の入学者選抜が大きく混乱することも危惧されます。

以上の趣旨から，2021 年度大学入学共通テストにおける英語民間試験の利用を中止すること，および大学入学共通テスト全体としての整合性を考慮し，公平性・公正性を確保するために新制度のあり方を見直すことを請願します。

記者会見

この件に関し，下記の要領で記者会見を行います。また，会見に先立ち，同じ場所で 11：30～12:30，文科省の担当者との質疑を含めて「院内集会」も予定しています。

記

日時　2019 年 6 月 18 日（火）12:30～13:30
場所　参議院議員会館地下 1 階 B104
内容　上記請願の趣旨説明および質疑応答
出席者（五十音順）

阿部公彦	東京大学大学院人文社会系研究科教授
荒井克弘	東北大学名誉教授，大学入試センター名誉教授
大津由紀雄	慶應義塾大学名誉教授
中村高康	東京大学大学院教育学研究科教授
南風原朝和	元東京大学大学院教育学研究科教授
羽藤由美	京都工芸繊維大学基盤科学系教授

<u>各大学の対応例</u>

（文科省資料「２０２１年度一般選抜における「大学入試英語成績提供システム」 参加試験の活用予定の例（各大学の２年前予告の抜粋）」より抜粋、および一部加筆修正をしています）

出願資格として利用

大阪大学	認定試験を一般選抜の受験者に課すとともに、２０２３年度までは、共通テストにおいて実施される英語試験を併せて課します。認定試験の成績は、本学への出願要件として活用し、出願要件の具体的な基準は、CEFRの対照表における「Ａ２」レベル以上とします。

点数化して加点（共通テストの成績に加点）

<table>
<tr><td>福島大学</td><td>・大学入試センターから提供される CEFR による段階別表示を点数化し，大学入学共通テストの英語試験との合計点を入学者選抜に用います。具体的には，大学入学共通テストの筆記（リーディング）およびリスニングの合計点を 250 点満点とした場合，その得点を 160 点満点に圧縮します。
・英語「資格・検定試験」の結果に基づく加点については，最高点を 40 点（英語全体の２ 割）とするとともに，大学入試センターから提供される CEFR 対照表に基づく水準ごとに下表のとおり定めることとします。
・筆記（リーディング）およびリスニングと CEFR 対照表に基づく加点の合計得点（200 点満点）を，各学類の配点に圧縮して利用します。

<table><tr><td>CEFR</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B2</td><td>B1</td><td>A2</td><td>A1</td></tr><tr><td>加点</td><td>40</td><td></td><td>35</td><td>30</td><td>25</td><td>10</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>群馬大学</td><td>・民間の認定試験を「一般選抜」の全受験生に原則課すと共に、2023 年度までは、大学入試センターの大学入学共通テストで実施される英語試験を併せて課し ます。
・「共通テスト」外国語英語の配点 200 点満点として、その合計点数に英語認定試験の得点（20 点満点）を加算します。ただし、200 点を上限とします。

<table><tr><td>CEFR</td><td>C2</td><td>C1</td><td>B2</td><td>B1</td><td>A2</td><td>A1</td></tr><tr><td>加点</td><td>20</td><td>20</td><td>16</td><td>12</td><td>8</td><td>4</td></tr></table></td></tr>
</table>

注意： 福島大学の表記について： 現行センター試験は筆記 200 点、Listening 50 点の 250 点満点だが、共通テストは Reading 100 点、Listening 100 点の 200 点満点になるため、「合計点を 250 点満点とした場合」という部分はおそらく間違いだと思われる。

出願資格及び点数化して加点

横浜国立大学	① 教育学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とし、さらに、A1 に該当する場合は英語の配点全体に対して 10%に相当する点数、A2 以上に該当する場合は一律英語の配点全体に対して 20%に相当する点数を大学入学共通テストの英語の得点に加点します。 ② 経済学部：CEFR 対照表の A2 以上を出願資格とします。 ③ 経営学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。 ④ 理工学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。 ⑤ 都市科学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。 さらに、都市社会共生学科においては、A2 に該当した場合は英語の配点全体に対して 4%、B1 に該当した場合は 8%、B2 に該当した場合は 12%、C1 に該当した場合は 16%、C2 に該当した場合は 20%にそれぞれ相当する点数を大学入学共通テストの英語の得点に加点。

注意： ①の教育学部は A1 該当する場合 10%に相当する点数を加点するとしているが、そもそも A1 は出願資格のため、結局全員 10%は無条件に与えられることになる。

一定水準以上の成績で共通テスト英語を満点とみなす

広島大学	・英語認定試験結果の活用については、本学が定める条件をすべて満たした場合、本学を受験する年度の新テストの外国語（英語）の得点を満点とみなす。 ・なお、英語認定試験結果の有効期間については、一般選抜においては、受験年度に限ることとし、大学入試英語成績提供システムを活用する。総合型選抜及び学校推薦型選抜については、高等学校在学中の活動状況を評価する観点から、受験年度の前々年度から活用できるものとする。

注意： 「本学が定める条件」については未発表

高校が作成する証明書等の併用

東京大学	・従来の出願要件に加え、次の ⑴～⑶のうちいずれか 1 つを求めることとします。 ⑴ 大学入試センターによって、「大学入試英語成績提供システム」の参加要件を満たすと確認された民間の英語試験の成績（ただし、CEFR との対照表で A2 レベル以上に相当するもの）。 ⑵ 日常の授業における学習状況や試験の成績等から総合的に評価した結果、CEFR の A2 レベル以上に相当する英語力があると認められることが明記されている高等学校等による証明書。 ⑶ 何らかの理由で上記⑴、⑵のいずれも提出できない者は、その事情を明記した理由書。

東京大学　英語に関する証明書　案

このうち、本学を受験しようとする者から、上記(2)の証明書の発行を求められた場合には、 指定の様式により証明書を発行していただけるよう、お願いいたします。証明書は調査書とは別に厳封の上、受験生にお渡しください。

個々の受験生の英語力についていちばん正確に把握しているのは、高等学校の現場で日常的に指導にあたっている先生方であることから、東京大学としてはその評価を信頼し、尊重いたします。したがって、評価の具体的な根拠を証明書に記載していただく必要はありません。なお、もし当該学生の英語力についての特記事項（大学入試センターの成績提供システムに含まれない英語資格・検定試験の受検歴及び成績、在学中の留学経験、英語を用いた活動歴等）がある場合は、証明書ではなく、調査書の「指導上参考となる諸事項」欄もしくは「備考」欄に記載してください（特記事項の記載の有無や内容は出願資格の認定には影響しません）。

（案）

（様　式）

大学記入欄

認定試験※1の結果及び英語力に関する証明書を提出できない理由

年　月　日

東京大学総長　殿

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

私が、認定試験の結果及び高等学校等が発行する英語力に関する証明書を提出できない理由は以下のとおりです。（「1」「2」両方の記載が必要）

1．認定試験の結果を提出できない理由（記載内容を証明する資料を添付）

2．高等学校等が発行する英語力に関する証明書を提出できない理由

※1　認定試験とは、大学入試センターによって「大学入試英語成績提供システム」の参加要件を満たすと確認された民間の英語資格・検定試験をいいます。

（東京大学 HP より）

高得点利用

富山大学（人文学部、理学部、工学部）	・英語認定試験の結果は、ＣＥＦＲの一定水準以上に相当する場合に限ってＣＥＦＲの対照表に基づいて得点化し、その得点と大学入学共通テスト「英語」の得点とを比較して、 高得点の方を利用します。

利用しない

北海道大学	・本学においては、2022 年度入試（2021 年度実施）に向けて入試改革を行う予定であり、さらに 2020 年度からは本学学生向けに、英語を中心とした外国語教育改革を実施する予定であって、英語認定試験の活用を考えるためには、これら本学の改革の検討内容との整合性を図っていく必要があります。 ・加えて、本学は、ガイドラインでも触れられている受験生の公平な受験条件の確保に関して、特に、英語認定試験の受験料負担や受験機会の公平性、障害のある受験生への配慮等について、より詳細な検討を要すると考えます。また、その他にも、受験生に求められる英語４技能とそれぞれの英語認定試験の目的や評価基準の相異等との関係、英語力（特に話す力）の有意義な判定方法等について、より詳細な検討を要すると考えます。
東北大学	・2020 年度に予定されている英語認定試験については，公平公正な受検体制の整備や成績評価などに関しこれまでに様々な問題が指摘されております。2021 年度入試に利用するためには，現時点ではこれらの問題が解決する見通しが立っていないと認識しています。 ・このような状況において，2021 年度入試で本学志願者に対し出願要件として英語認定試験の受検を一律に課すことや成績を合否判定に用いることには無理があり，逆に受験生の公平公正な扱いを損ねる恐れがあると判断しました。
京都工芸繊維大学	・一般選抜への英語認定試験の活用については、現時点で、複数の試験のスコアと CEFR との対照や受験体制の面で十分な公正性と公平性が担保されていることが確認できないため、2021 年度の一般選抜への活用は見送らざるをえないという結論になりました。

独自テストを採用する東京外国語大学

東京外国語大学はその名に似つかわしくない A2 を一般選抜の出願資格とする一方で 2019 年度より国際日本学部で実施している独自の英語スピーキングテスト「BCT-S」を全学的に導入して、実質的な 4 技能の評価を進めます。

東京大学　英語に関する証明書　案

本学は、2019 年度入試より、国際日本学部一般選抜前期日程試験において英語スピーキングテスト（BCT-S）を導入することを発表しておりますが、「1」にあげた資格・検定試験結果が出願要件となる 2021 年度入試より、これを全学に拡大いたします。すなわち、2021 年度入試より、言語文化学部・国際社会学部・国際日本学部の一般選抜試験（前期日程）「英語」において、従来のリーディング、ライティング、リスニングの能力を測る筆記試験に加え、スピーキングテスト（BCT-S）を実施します。なお、本スピーキングテスト（BCT-S）は、本学の一般選抜試験（前期日程）会場にて同日に実施いたします。

ちなみに BCT-S とは東京外国語大学とブリティッシュ・カウンシルが共同で開発したスピーキングテストです。ブリティッシュ・カウシンルの説明を見るかぎり、TEAP のスピーキングに似た特性を持っているように思えます。

ブリティッシュ・カウンシル　制作発表時のコメント（抜粋）

各民間試験は、日本の大学入試での利用を目的として開発されてきたわけではないこと、また異なる試験の結果を活用することの難しさなど、様々な課題が指摘されています。今回の開発は、長年日本の言語教育をけん引し、現在に至るまで様々な研究分野でリーダー的役割を果たしている東京外国語大学とブリティッシュ・カウンシルが共同で新たなスピーキング試験の開発を行うことにより、大学入試改革において指摘されている様々な課題に対し解決手法を提示します。

ブリティッシュ・カウンシル　BCT-S について

BCT-S は、日本で中等教育を受けた学習者の英語でのコミュニケーション力を測定することができます。テストはコンピューターで実施され、所要時間は約 12 分です。設問は大きく分けて以下の 4 つのパートに分かれており、問題が進むごとに難易度が上がります。

（1）受験者自身についての説明
（2）理由や説明を明確にして自分の意見を述べる
（3）写真の描写や比較を理由や説明と共に述べる
（4）抽象的なトピックについて、自身の経験や意見を述べる

私立大学の状況

①　これまでの英語外部検定試験利用入試が継続、拡大される。 ②　早稲田政経、上智、立教は全面的な英語外部試験の導入 ②　CEFR の B1、B2 以上を水準としたスコア利用が多くみられる。 ③　成績提供システムを必須としておらず、過去２年以内のスコアが利用可能な場合が主。 （ただし従来英検が利用可能かどうかは「大学入試センターが認定したもの」という指定があるかどうかを要確認）

私立大学については、総論として英語外部試験という点では全体としては大きな変化はないように感じます。すでに英語外部試験利用型入試などが始まっていましたので、それらが継続・拡大する傾向と言えるでしょう。早稲田の商学部のように新たに英語外部利用入試が始まり、入試改革の風を感じるところもありますが、これまでも毎年のように色々な大学・学部で英語外部試験利用は新設されていましたので、その延長＋加速だと思えば良いかと思います。その点では、国公立大のようにすべての受験者に出願資格として課すような大学・学部は少なく、外部試験を利用する形式が一部の募集単位として設定されている形が主です。その場合、積極的にその形式を利用したい一部の受験生のための募集枠ですので、CEFR で言っても B1～B2、場合によっては C1 も活用できる高いラインが設定されています。少なくても上位大学で全受験生に該当してしまうような A2、B1 というラインで設定しても意味ありませんので、B2、C1 というレベルに設定してはじめて英語ができる生徒を選抜できるわけです。

また、私大の場合は「成績提供システムを使用しなくてよい」とする大学がほとんどで、過去２年以内に受験した検定試験であればよいという形にしているので、より英語外部検定試験が使いやすくなります。ただし、気を付けたいのは、例えば早稲田の政治経済学部が「大学入試英語成績提供システムに参加する全ての外部検定試験のスコアを利用できる」と公表していますが、その場合やはり従来の英検が使えないのでは、ということです（そこは詳しく説明がないため、今後の情報を見ていく必要がありますが、文面からすると英検は新型のみに限定されるはずです）。その場合、英検を使うとなると従来型のものは不可、さらに CBT-S は共通 ID 発行後の高３でしか受けられないので、CBT 方式しか高２からしか使えないことになります。

大きな点として、早稲田大学政治経済学部、上智大学、立教大学は大きな入試改革を行い、英語外部試験が全面的に導入されます。特に上智と立教は全学的な入試改革で、志願者も多いですので、受験全体に大きな影響を与えそうです。

各大学の状況

外部検定試験の全面的な活用

＜早稲田政治経済学部　ー　一般方式で英語外部検定試験が必須に＞

さらに特筆すべきなのは早稲田大学政治経済学部です。一般方式に「英語外部検定試験」を必須としました。つまり全受験生が該当するわけです。しかも国公立上位の A2 というような低いラインではなく、得点換算方式になるかと文面から予想されます（具体的な点数などは未公表）。早稲田の政治経済は早稲田の法、慶應の経済、法学部と並んで最難関国立大学の文系受験者の併願先となるところです。その 1 つがこの方式を導入するということは国公立志望者についても影響のあるところでしょう。1 つの影響として、入試を変えない慶應や早稲田・法の併願が増え、早稲田政経を避ける国公立志望者が一定数出るだろうということが予想されます。また、一方で早稲田政経をそれでも受験する生徒は私大の英語スコアさえクリアできれば、国公立の出願基準は楽々クリアできるので、ライバルがやや減るところで今まで通りの受験に臨むことができます。

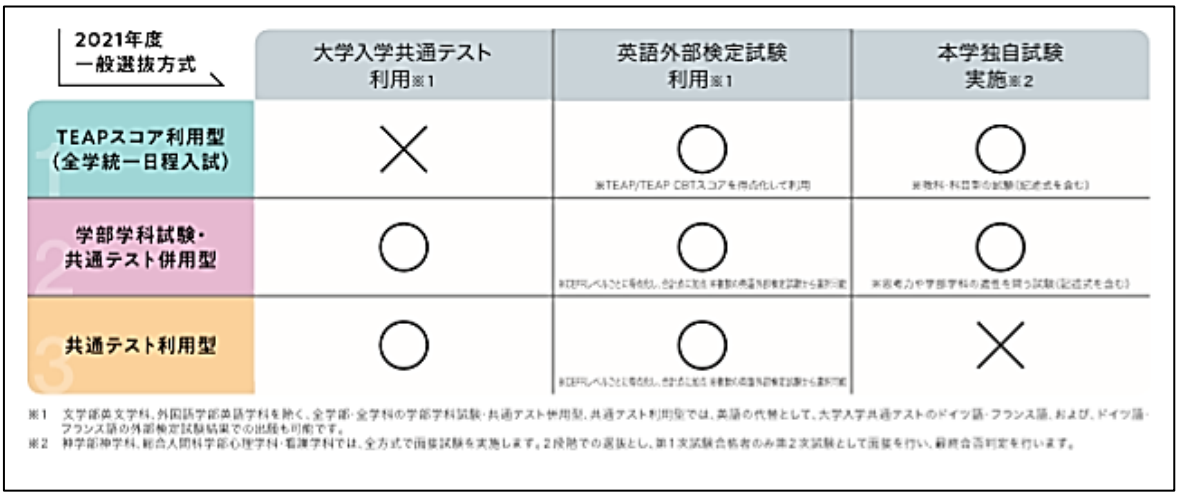
早稲田大学（政治経済学部）	・大学入試英語成績提供システムに参加する全ての英語外部検定試験のスコアを利用できることとします。なお、当学一般入試の出願開始月から遡って 2 年以内に受験した当該検定試験であれば、同システム経由でなくてとも、各試験実施機関から受験生を介さず直接当学に提供される成績データに限り利用できることとする予定ですが、詳細については決定次第、改めてお知らせします。 ・英語外部検定試験および学部独自試験（100 点）

＜補足＞

当初、上記 100 点のうち、英語外部検定試験が 30 点、学部独自試験が 70 点と発表されていましたが、2019 年 7 月 12 日発表の資料の中で「現在の英語外部検定試験を取り巻く環境に 鑑みて、200 点満点のうち 15 点に変更します」となりました。ただし、「今後の状況に応じて、2022 年度以降の入学試験においては、英語外部検定試験の配点を 30 点とするなど、取り扱いを変更する場合があります。」とある通り、2022 年度以降に再変更される余地もあります。

＜上智大学　－　一般方式で英語外部検定試験を全面的に活用可能＞

上智大学は実に大きな変更をします。現在は TEAP 利用型入試を国際教養学部を除く全学部で２月３日に行い、２月４日か９日までの６日間で学科別の一般入試が行われていました。それを「TEAP スコア利用型（全学統一日程入試）」、「学部学科試験・共通テスト併用型」、「共通テスト利用型」の３方式に変更するのです。そして、その全てで英語外部検定試験を全面的に活用可能にします。TEAP 利用型は従来通りですが、その他の２方式では英語外部検定試験が加点として利用されます。これはオプションではありません。提出が基部無になります。また、「2020 年４月～12 月に大学入試センターが発行する共通 ID を記入して受験したもので、大学入試英語成績提供システム経由での提出分のみ有効とします」とありますので、高３までのスコアを利用することはできません。



2021年度 一般選抜方式	大学入学共通テスト 利用※1	英語外部検定試験 利用※1	本学独自試験 実施※2
1 TEAPスコア利用型（全学統一日程入試）	×	○ ※TEAP/TEAP CBTスコアを得点化して利用	○ ※教科・科目型の試験（記述式を含む）
2 学部学科試験・共通テスト併用型	○	○ ※CEFRレベルごとに得点化し、合否に加点 ※複数の英語外部検定試験から選択可能	○ ※思考力や学部学科の適性を問う試験（記述式を含む）
3 共通テスト利用型	○	○ ※CEFRレベルごとに得点化し、合否に加点 ※複数の英語外部検定試験から選択可能	×

※1　文学部英文学科、外国語学部英語学科を除く、全学部・全学科の学部学科試験・共通テスト併用型、共通テスト利用型では、英語の代替として、大学入学共通テストのドイツ語・フランス語、および、ドイツ語・フランス語の外部検定試験結果での出願も可能です。
※2　神学部神学科、総合人間科学部心理学科・看護学科では、全方式で面接試験を実施します。2段階での選抜とし、第1次試験合格者のみ第2次試験として面接を行い、最終合否判定を行います。

上智大学	・2021 年度一般選抜（学部学科試験・共通テスト併用型、共通テスト利用型）では、上記いずれかの英語・ドイツ語・フランス語の外部検定試験結果の提出が必須となります。 ・外国語外部検定試験結果は、CEFR レベルごとに得点化し、大学入学共通テストや本学独自試験の合計点に加点する形で合否判定に用います。 ・英語外部検定試験結果は、2020 年４月～12 月に大学入試センターが発行する共通 ID を記入して受験したもので、大学入試英語成績提供システム経由での提出分のみ有効とします。 ・合否判定には、大学入試センターから提供された「総合 CEFR 段階別表示」の項目を用います。 ・実用英語技能検定（英検）は、英検 2020 2days S-Interview、英検 2020 1day S-CBT、英検 CBT のみ有効とします。

＜立教大学　ー　文学部以外は独自英語試験を廃止、全面的に外部検定試験を利用＞

立教大学も大胆な入試改革を実行します。入試全体の在り方もかなり変わるのですが、英語だけをとっても文学部を除き、大学の独自試験を廃止し、全面的に外部検定試験を利用するということを宣言しました。

立教大学	・英語外部試験のスコアを得点化し、本学で受験する他の２科目の得点と合計した３科目の総点で合否を判定します。本学独自の英語試験は実施しません。 ・文学部は、上記方式に加え、独自の英語試験と国語、選択科目の３科目による試験日を設けます。 ・ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定（英検）、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT の利用が可能で、本学一般選抜の各試験実施月から遡って２年以内に受験し取得したスコアを有効とします。大学入試英語成績提供システムを経由して提供されるスコアも利用可能とする予定です。

2019/07/06 (SAT)　プレスリリース

一般選抜で民間の英語資格・検定試験を全面的に導入

2021年度入試より一般選抜を改革

キーワード：　入試・入学

（立教大学 HP）

＜青山学院大学　以下の学部学科　ー　一般方式で外部検定試験を加点利用＞

加点レベルに達していなくても受験できますが、これらの学部学科については一般方式で全面的に外部検定試験が導入されることになります。

青山学院大学 （文学部史学科・比較芸術学科、法学部、経営学部、地球社会共生学部、コミュニティ人間科学部	・英語資格・検定試験の結果を総合点に「加点」します。 ・加点のレベルに達していない場合または、スコアを提出しない場合は、大学入学共通テストと学部独自問題の総合点で評価します。（加点の割合は、決定次第、公表します。） ・提出方法は、「大学入試英語成績提供システム」による。

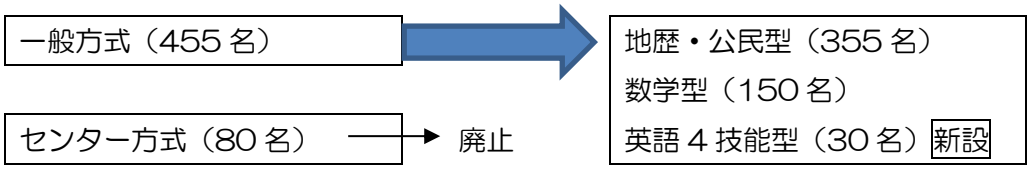
出願資格として全面的に設定

日本赤十字看護大	・（出願資格として）大学入試センターが認定した資格・検定試験 CEFR A２以上 または 「外国語（英語）の学習成績の状況」3.0 以上 ・英語の資格・検定試験は、順位の決定（得点化）には当面の間利用せず、高等学校段階における到達度を確認する方法として用います。 ・４種類ある実用英語技能検定（英検）のうち、「従来型」は大学入試センターの認定試験から外れていますが、本学の入学者選抜では利用可能とします。

英語外部検定試験利用方式の新設

＜早稲田大学　商学部　ー　英語外部検定試験利用型を新設＞

これまでの一般方式（455 名）を「地歴・公民型」（355 名）、「数学型」（150 名）という名称で継続し、さらに「英語４技能テスト利用型」（30 名）を新設します。一方でセンター方式（80 名）は廃止をします。



早稲田大学	「英語４技能テスト利用型」の新設（30 名） １）出願要件 英検準１級以上または TOEFL-iBT72 点以上の基準を満たす者とします。 ２）試験内容 英語４技能テストの試験結果を一定の換算を行った上、「外国語」、「国語」、「地歴・公民 または数学」の合計点に加点します。加点方法等の詳細については、決定次第公表する予定です。

※　英語以外の科目には「合格基準点」を設ける。足切りあり、ということ。

※　英検が新型に限定されるのかは未公表。

＜日本大学　ー　発表は「実施する」とあるのみ＞

以下の学部・方式で英語外部試験の利用を実施すると予告しています。ただし、「実施」の一言しかなく詳細は一切公表されていません。

- 経済、薬（N 全学統一方式、A 個別方式、C 共通テスト利用方式）
- 危機管理、スポーツ学部（N 全学統一方式、A 個別方式）
- 理工、生産工（N 全学統一方式、A 個別方式、C 共通テスト利用方式、CA 共通テスト併用方式）

危機管理学部

一般選抜　N統一方式　**第1期**

一般選抜　N統一方式　**第2期**

一般選抜　A個別方式　**第1期**

英語の4技能評価	実施

現状維持　or　英語外部検定試験のアップグレード、修正

＜早稲田大学　文学部・文化構想学部　ー　2020 年度入試から先取り＞

ここは従来から英語 4 技能テスト利用型の方式を持っていましたが、2020 年度入試からすでに新型英検を含めた新しいスコア基準表に切り替えました（英検だけでなく TEAP CBT も新規設定されます）。英検 1 day S-CBT は 2020 年度からしか実施されず、2020 年度入試には関係ないのですが、すでに翌年を見据えてこのような表で 2020 年度から臨みます。

英語 4 技能テスト利用型　スコア基準（2020 年度改定）

技能	TEAP		IELTS	実用英語技能検定(英検)				TOEFL iBT	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英検	GTEC CBT
	－	CBT		従来型	S-Interview	1 Day	CBT			
総点	280	470	5.5	2200				60	160	1100
Reading	65	110	5	500				14	150	250
Listening	65	110	5	500				14	150	250
Writing	65	110	5	500				14	150	250
Speaking	65	110	5	500				14	150	250

＜早稲田大学国際教養学部　ー　加点の割合を増やす＞

2018 年度入試から英語外部検定試験を加点方式（15 点分）で導入していた早稲田大学国際教養学部は、2021 年度からその加点割合を 5%割り増し 20 点分とし、ややウェイトを高めます。あわせてスコア基準表も改定します。単に 15%から 20%に上げただけでなく、国際資格として広く認められる IELTS を新規認可した他、CEFR をあえて表に載せるなど今回の入試改革で謳われるグローバル対応を意識した表の作りになっています。（ちなみになぜ IELTS がこれまで外れていたのかがむしろ疑問点でしたが、国際教養学部では在学時にアメリカを中心とした海外大学での 1 年留学が義務付けられていますが、その英語力の審査を TOEFL に基づいて行っているというのが 1 つの理由なのではと推察します）。

英語の学部独自試験と外部試験の割合

2017 年度まで		2018 年度から		2021 年度から
独自試験（100 点）	→	独自試験（85%） 外部試験（15%）	→	独自試験（80%） 外部試験（20%）

新スコア基準

CEFR	英語外部検定試験の種類			加点
	実用英語技能検定	TOEFL®iBT	IELTS (Academic)	20 点満点
C1 以上	1 級 合格	95 以上	7.0 以上	20 点
B2	準 1 級 合格	72～94	5.5～6.5	14 点
B1	2 級 合格	42～71	4.0～5.0	7 点
A2 以下	準 2 級合格 以下	41 以下	3.5 以下	0 点
	未提出（出願可）			

＜学習院大学　ー　指定校で英語外部試験を要件に追加＞

一般選抜だけでなく、AO 型・推薦型の選抜でも外部試験利用は拡大していくでしょう。その 1 つの例として、学習院大学が 2021 年度指定校推薦で英語外部試験のスコアを出願条件に追加することを公表しました。

ほぼ現状路線？？

以下の大学に限らず、予告の文面からすると英語外部検定試験の新設や拡大をするように見えますが、すでに英語外部検定方式を実施しており、現状路線と大きく変わらないように思えます。今後の情報に注視したいところです。

東洋大学	外部英語検定試験（認定試験）を活用する入学者選抜を実施します。なお、具体的な活用方法や活用 する認定試験等の詳細については、今後公表する予定です。
駒澤大学	「英語」においては、「読む」「聞く」「話す」「書く」の４技能を適切に評価するため、英語外部試験利用を拡大します。

また、明治大学については 2019 年３月の予告で以下のように出ています。一見「外部検定試験は一切利用しない」ということに思えますが、現行でも一般入試で国際日本学部や経営学部、商学部は検定利用方式を行っています。それらまで廃止されるわけではなく、それらは一般方式の一部として継続され、共通テスト利用入試としては外部検定試験を利用しないという意味かと推察されます。2019 年７月には「2021 年度明治大学一般入試の詳細については、2019 年中に公表する予定とします」と先延ばしを宣言しましたが、明治大学に限らず、大学側が部分的な予告ではなく、全容を詳細に出さないと本当に困惑するばかりで、苦言を呈し対と思います。

明治大学	１ 「大学入学共通テスト」利用入試（仮称）について 全ての学部で実施します。 ２ 「大学入学共通テスト」の英語における英語外部４技能試験の活用について ２０２１年度入試については、全ての学部で活用しません。

英語検定試験を活用しない

早稲田大学（法学部）	英語外部 4 技能試験の活用について 2021 年度入試では活用しません。将来的な活用については引き続き検討を行います。
慶應義塾大学	英語外部検定試験は利用しません。従来のとおり，英語外部検定試験の受検およびスコア等の提出は課しません。将来的な英語外部検定試験の利用については，引き続き検討を行います。

慶應義塾大学は相変わらず共通テストは利用しない、英語外部検定試験も利用しないという腰の座った対応をしていますが、一方で「将来的な英語外部検定試験利用は引き続き検討を行います」とあるように「現時点では拙速に動かないが、将来的には必要性も感じる」という態度かと

思います（引き続き検討ということは、これまで検討してたのか？と突っ込みたくなりますが）。あわせて、動じないように思える慶応大学もごく断片的な例ですが、以下のように少し動いているようにも思えます。ただし文面からすると英語力ではなく「英語以外の言語能力」というように捉えられますが、今後の情報に注視したいところです。

＜慶応義塾大学　2022 年度法学部 FIT 入試における変更点について（予告＞

法学部一般入学試験の外国語科目として選択可能であるドイツ語・フランス語の試験は、2022 年度一般入学試験からは実施せず、FIT 入試（A 方式）をこれに代わるものといたします。 FIT 入試ではこれまで、一般入学試験とは異なる観点から総合的に考査し、様々な個性や特色を持った学生を受け入れてきました。そして 2022 年度 FIT 入試からは、A 方式の出願要件で挙げられている「優れた実績」を判断する材料の一つとして新たに、卓越した外国語能力・多言語能力を証明できる公的書類を提出した受験生に、加点評価を与えることにいたします。2022 年度 FIT 入試の詳細に関しては、2019 年度中に公表する予定です

3-7　進路指導　－　どの試験を受けるべきか？

「いつ、どの試験を受けるべきか？」という受験戦略ですが、最終的には志望校、併願校を見ながら異なるため、ケースバイケースで各自が判断していかなくてはいけませんが、ここでは全体的な考え方とそのケースごとの指導例を参考までに示します。

学校として受ける試験を定めるべきか

他校の進路担当や英語科の先生と意見交換する際、「どの外部試験を受けさせる方針か」ということが話題になります。私は「学校側は利用する試験を指定すべきではない」と答えていますし、どれが１つに定めることは実質不可能だと思います。

最大の理由はどの試験を受け、どのように活用するのかは生徒の権利であり、それに制限を掛けることはできないということです。生徒たちは自分たちの進路をかけて臨むわけで、自分たちがベストだと思うものを選ぶ権利がありますし、そうでなくてはなりません。特に大学入試センターの成績提供システムを利用する場合は、「高３の４月～12 月限定の２回まで」という制限があります。その２回しかない機会をこちらが指定してしまうことは不都合ですし、生徒の利益にはなりません。また、次の項目で述べますが、各大学が採用する試験が必ずしも統一されていませんので、１つに定めた指導は実質的に無理だということです。

入試改革は入試の多様化とともに個別対応化を意味します。英語外部試験をとっても、生徒の実力や現在保持している級やスコアも違います。国公立で A2 の出願資格が取れればよいと思う生徒、得点換算や加点で少しでも上のスコアを求める生徒でニーズも違います。成績提供システムを利用しないといけない生徒は高３の受験結果がすべてになるので安定志向が見られるでしょうし、不合格の場合に結果が残らない検定よりもスコアで結果が残る試験を受けたほうがセーフティーネットになるでしょう。一方で、成績提供システムが必須でない場合は、従来の英検も使えるかもしれませんし、過去２年間の結果が活用できるケースが多いので、すでに持っている級やスコアを担保にして高３時にはリスクを取ることもできます。そうなると、現在都の補助金を使って何かしらの外部検定試験を高３時に一斉受験させている学校もあるでしょうが、今後はそれを高３でしていくのは難しくなるでしょう。

学校に求められること

指導する側に求められるのは３点です。１つ目は各生徒が「自分にとってベストな試験」を選ぶための情報と考え方を十分に与え、方向性を提案することです。２ つ目は生徒一人一人の状況に合わせてアドバイス、指導していく体制や意識を作り上げ、教員がそのノウハウを蓄積していくこと。外部検定試験に精通した英語科教員をカウンセラーなりアドバイザーで配置することができればベストだと思います（受験の知識だけでなく、実際に外部試験を受験していたり、最低 C1 を取れる英語能力を持った教員であることが望ましいです）。３つ目は、生徒が求めるスコアを取れるようにすること。英語カリキュラムと授業の改革、そして英語科教員の英語力アップです。まずは英語科の教員はひっそりで構わないので自分で実際に TOEFL なり TEAP なり受験をすることが望まれます。

まずは「志望している大学の指定している」試験

当たり前ですが、受験に使う以上、志望大学が認めている試験を受けなくてはいけません。2021 年度入試以降は大学入試センターが「成績提供システム」の参加認定に則って試験を指定する大学が増えてくるかと思いますが、それでも大学によっては使える試験、使えない試験というものが出てきます。難関大学でグローバルに入れているところ、特に英語外部検定試験の利用を独自で以前から進めていた大学学部はどの試験を採用するのかについてもポリシーを持っていますので、それが今後も踏襲されていきます。

以下の表は早稲田、ICU、上智の外部検定試験の採用パターンです。どの大学でも使える試験がない以上、やはり併願校も含めて、志望大学学部の採用している試験を中心に考えなくてはなりません。

	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英検	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL
早稲田　政治経済	○	新型	○	○	○	○	○
早稲田　国際教養		○		○			○
早稲田　文・文化構想	○	○	○	○	○	○	○
早稲田　商		○					○
ICU　B 方式	○		○	○			○
上智　TEAP 利用型					○		
上智　一般方式	○	新型	○	○	○	○	○
上智　国際教養（書類）				○			○
上智　国際教養（推薦）				○	○	○	○

これまで私が指導していた大雑把な方針は以下のようなものです。大体は変わりませんが、③の英検については従来型の英検が認められないということと共通システムの受験制限（高３の４月～12 月の２回のみ）を考えると指導の考え方を変えなくてはいけないでしょう。

① 上智大学が第一志望なら TEAP。
② 早稲田国際教養、ICU、上智国際教養というグローバルトップ大学を狙うなら TOEFL。
③ それ以外は英検。もしくは TEAP でも良い。

テストの特徴をおさえて、検討しよう

		ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英検	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL
目的	海外進学で使える				○			○
	日本の高校生のために作成		○	○		○	○	
形式	ペーパーベースの RLW	○	△		○	○		
	コンピューターベース		○	○			○	○
結果	級の合否	○	○					
	スコア		△	○	○	○	○	○
機会	1 年に何回も受験できる	△			○			○
	受験機会が年に 2～3 回		○	○		○	○	

① TOEFL、IELTS

国際的に認知されているアカデミックテストのツートップです。海外進学の生徒はこの 2 つのうちのどちらかを受けることになります（英検が海外進学に使えるという PR もありますが、普通一般の大学を受けるにはほぼ意味がありません）一般の受験生にはまず太刀打ちができません。海外進学レベルじゃなくても CEFR B1 の 42 点というスコアはさほどハードルが高くないかもしれませんが、120 点満点のテストで 42 点を目指す意義がありませんし、その程度の点数であれば「ほとんど分からないうちにテストが終わる」という感触です。対策の意味もなければ、2 万 5 千円ほどの高額な受験料をかけることはバカバカしいでしょう。TOEFL、IELTS のどちらが良いかは後ほど触れます。

帰国生や留学経験者を典型として、一般の受験生のレベルを超えた高い英語力を持った生徒は TOEFL か IELTS で国際基準のテストで勝負することは理にかなっていますし、優秀な帰国生であれば中学入学時に最低英検準 1 級、トップ校なら英検 1 級を持って入学してきます。それらの生徒と同じ土俵で勝負するには英検準 1 級では不十分です。やはり C1 は手にしておかないと勝負できません。私も帰国生の受験指導に当たることがありますが、「英検 1 級か TOEFL90～100 点」というスコアを目標にさせます。

英検 1 級というのも良いですが、やはりそれでは国際的な指標にならないということと年に 3 回しかないテストで合格・不合格という結果を求めるのがきついというのと、新型英検では 1 級は障害を持つ受験生向けの S-Interview 方式に限定されています。その点 TOEFL は受験日が限定されていませんし、スコア形式で結果が残ります。あとは単純に「グローバルトップレベルを標榜したいのなら世界で通用するトップレベルの試験に臨んでほしい」という個人的な思いです。

ただし、TOEFL、IELTS はしっかり時間を割かないと対策ができません。受験の片手間に対応できるものではなく、特に TOEFL は Integrated Task といった独特の形式も含まれるためトレーニングが必要です。ですので、TOEFL、IELTS を受験の中心にしたい、ハイレベルな英語

力を武器にして合格したい、という確固たる目的がないと難しいです。また受験料が高額です。スコアを出すために最低でも高 2 の時点から 2 か月に 1 回程度は受験を繰り返します。過去に海外進学を指導した生徒の中には 1 年間で 30 万ほど使ったケースもありますので、保護者の方と金銭面も相談してください。

TOEFL、IELTS が推奨される生徒

① 海外進学を視野に入れていたり、その可能性を考えている生徒
② 帰国生を始め、CEFR C1 レベル以上の超ハイレベルの英語力を武器にしたい生徒
③ ICU B 方式 or 総合選抜型、早稲田国際教養、上智国際教養というグローバルトップレベルの受験を考え生徒（ちなみにこれら 3 つを併願する場合、共通して使えるのは TOEFL か IELTS しかない）
④ TOEFL、IELTS の勉強に時間を割ける生徒、割かなくてはいけない生徒

② 英検、TEAP

英検は中高生に昔から最も馴染みのあるテストでほとんどの生徒がすでに級を持っていることでしょう。大学受験の利用に際しても認定が一番多く、逆に英検が使用できない募集単位はほとんどありません。特に「高校卒業程度」と設定されている英検 2 級までは日本の中高の指導要領に沿っており、教科書の範囲で対応が可能です。英検準 1 級はそのレベルを越えますが、英検 2 級の延長上にあるだけですし、難関大学の対策とは大きくずれるレベルではありません。そういう意味では一番広く、無難に使えるのが英検です。

TEAP は英検協会が上智大学と共同で作ったこともあり、アカデミックな英語力テストという特色はあってもその構成やコンセプトはやはり英検に近いと言えます。また英検協会が「日本の中高生のために」学習指導要領などと整合性を持たせながら作りました。英検も TEAP も日本人高校生お馴染みの単語熟語セクションがあります。形式も慣れている紙版の問題冊子と回答用紙で戸惑いがありません。これらの点から、中高生には手の付けやすい認定試験と言えます。TEAP は 2014 年度に始まりましたが、上智大学の TEAP 利用型入試の影響で当初から認知度が高く、他大学の導入も進み、英語外部検定入試の波に戦略的に乗れたと言えるでしょう。

ただし、3−4 の各試験の特徴のところでも述べましたが、TEAP は C1 まで測れるように歌っていますが実質は B2 層までを相手にしたものです。C1 も目指したい生徒はやはり TOEFL か IELTS を受けることが妥当です。

英検、IELTS が推奨される生徒

① 上智大学を第 1 志望とする生徒（特に TEAP 利用型入試を受験する生徒）
② 一般生徒（とりあえず英語検定を取っておくという生徒）

③　GTEC

GTEC はベネッセコーポレーションが毎年 100 万人以上の中高生相手に実施していた英語コミュニケーション能力テスト「GTEC for Students」が名前を GTEC に統一したものです。Core、Basic、Advanced と中高生に貼馴染みのあるテストで、A2 に位置するような中下位層には英検と並んで受けやすく、馴染みのあるテストと言えます。設定している CEFR も高くないため、コミュニケーションタスクの難易度も高くありません。ただし、GTEC の Advanced レベルは B2 真ん中まで、Basic は B1 真ん中まで測定できるとなっていますが、やはり満点のスコアは取りずらいので、A2 を目指すなら Basic でもよいですが、B1 を考えたいなら Advanced を受験することが良いでしょう。中間層以下は英検準 2 級、2 級というのが一般的でしょうが不合格になる可能性もあり、級の合否ではなくスコア形式で結果を求めたい生徒は GTEC という選択肢も有効です。特に学校で GTEC を受け、一定のスコアにめどがつけられる生徒は一番受けやすいかもしれません。

GTEC が推奨される生徒

①　中位層以下（具体的には英検準 2 級までの保持者）でスコア形式を求める生徒。
②　学校の GTEC で目標スコアのめどがついている生徒

④　GTEC CBT

GTEC CBT はベネッセコーポレーションが毎年 100 万人以上の中高生相手に実施していた英語コミュニケーション能力テスト「GTEC for Students」を大学入試バージョンにアップグレードさせた応用版と言えるでしょう。作成は TOEFL を作成した ETS ですが発注元はベネッセで、TEAP 同様、日本の中高生のために作られたテストです。ただし、CBT であることに加え、その問題構成なども含めて GTEC for Students の延長という認識ではなく、別のテストと考えたほうが良いと思います。

私は実施初年度に GTEC CBT を実際に受け、ベネッセのフィードバック会議にも参加し、その場でワシントン D.C.から来ていたテスト作成責任者とも意見交換をしたことがあります。その立場から言えるのは、テスト自体のクオリティはかなり高いということです。同じ ETS が作成したということもあり、TOEFL の日本高校生版といったイメージが的確かもしれません。受験利用うんぬんを考慮せず、単に英語アセスメントの質ということだけを考えれば「最先端のテスト」と言え、国内外の専門家たちからもおそらく高い評価を受けるでしょう。しかし、それは言語教育の専門家としての見方であり、それがそのまま受験生のメリットになるかと言えばそうではありません。やはり受験という目の前のゴールを達成するためには「テストとしての質」よりも「受けやすさ」「対策のしやすさ」、そして「点の取りやすさ」が重要になってくるわけです。ライティング、スピーキングも含めて CBT で行われるということ、そしてスピーキングでは吹き込み時間が 2 分もある出題もあることなど、やはり中高生が自分たちの進学をかけて受験するにはまだまだ心理的に負荷がかかります。その点で TEAP と受けやすさは差が大きく、GTEC CBT に特化した入試がないことからも受験者があまり増えていません。CBT に戸惑いを覚えないのであ

れば都合の良い受験日を選べるというメリットがありますが、今後は英検 CBT がその受け皿になることも予想されます。入試改革で「TEAP か GTEC CBT が主流になる」という意見を出している方もいますが、私は受験生の心理として英検、TEAP の方が受けやすく、またそのどちらかでほぼ受験対応ができるため、GTEC CBT は当分の間は受験者が限定的だと考えています。

GTEC CBT が推奨される生徒

① CBT 形式に慣れている生徒で、英検、TEAP 以外を利用したいと思う生徒

⑤　ケンブリッジ英検

ケンブリッジ英検は都立日比谷高校が採択されたことで話題になったこともありますが、やはり日本の中高生には馴染みがありません。国際的には認知されている試験で海外大学でも認定されていると言われていますが、TOEFL、IELTS には遠く及びません。実際に PET とか FCE といったテストのレベルを言われてもイメージがつかないと思いますし、イメージ付かない生徒はその時点で受験をお勧めしません。都立日比谷のほかにも、私の前任校を含め一部の中高でケンブリッジ英検を受けている生徒もいるかもしれませんが、その場合はケンブリッジ英検を検討することは良いでしょう。なお、1 つのメリットとして、受験生の殺到は考えられませんので会場数は限定されているかもしれませんが、予約は英検、TEAP などに比べると比較的取りやすい可能性があります。

ケンブリッジ英検が推奨される生徒

① 学内ですでにケンブリッジ英検を受けており、他の試験より受けやすいと思う生徒

日本の高校生が受けるなら「日本の高校生のために作られたテスト」が最適

あらためて強調したい点としては、日本の高校生が使うなら、やはり自分たちのために作られたテストを受けるのが正攻法です。つまり、英検、TEAP、GTEC、GTEC CBT を受験するのが最適です。指導要領との整合性、教科書の範囲での測定、問題集のあり方なども含めて、テストの信頼性、妥当性という意味でもこれ以上のものはありません。私も実際に TEAP を２回受験しましたが、センター試験と英検準 1 級に近い形で受験生に指導できるだろうという感触があります。

検定というメリットとデメリット

英検であろうがケンブリッジ英検であろうが「検定」と名がつくものの特性として結果はスコアではなく「級の合否」であるということです。メリットは「次はこの級を合格するんだ」というように長い学習の中で目標設定することにはとても向いています。英検もそうですが、初期段階から積み重ねて受けていけるのが検定です。しかし、デメリットとして、不合格の場合、受験

結果が残らないということになります(英検のCSE2.0スコアのようにスコアでも出てきますが、やはり合否がメインの結果です)。特に大学入試センターの成績提供システムを利用する場合、高３の４月～12月の間に２回しか受けられず、限られたチャンスで最低限のスコアを確保しながら高いスコアも狙うにはスコア式の試験のほうがメリットがあります。

やはり新入試でも英検がベストなのか？

おそらく英検が入試改革後も一番人気になることでしょう。成績提供システムでは従来型が使えないということはありますが、新型でも問題形式や構成は従来と同じということですし、S-CBT であればスピーキング以外はペーパー型なので、ほとんど従来型と差異は感じないはずです。何よりも馴染みがあるし、新しいテストに１から対応するよりは受験しやすいという心理的な作用もあります。英検でほぼ全ての大学学部がカバーできるという利点があったので、これまで私も一般の生徒には「特段の理由がなければ英検で良い」と言っていました。言語アセスメントの見地からグローバル基準で照らし合わせてみると、テストの質が高いとは決して思わないのですが、とにかく無難だったのです。

しかし、新入試では考え方を改めるべき点もあります。上述の通り、英検は検定ですから結果は級の合否で出ます。例えば英検２級を高２で取得した生徒は高３で何級を受けるでしょうか。成績提供システムを利用せず、従来型の英検を含め過去２年間に遡ったスコアが利用できるのであればすでに２級が有効ですので準１級を受けるでしょう。しかし、成績提供システムを利用する場合は高３の２回しか機会がないのでリスクを取って準１級を受けることは避け、２級を再度受験するケースもあるでしょう。そして１回目で２級を担保しておき、２回目に準１級にトライするということになるかもしれません。ただ、一度合格した級をもう一度受けるということは受験戦略以外のモチベーションはありませんし、意味がないと思います。また、仮に２級に合格しても B1 の出願資格が満たせますが、それ以上のスコアとして使うことはできません（大部分の大学が CSE2.0 スコアを採用するのであれば状況も多少変わりますが、現時点で大学が情報を揃えてくれていないので、何とも言えません。）準１級を合格すれば B2 レベルまで満たされるのでより広く使えるのですが、落ちてしまえば B1 レベルしか満たせません。やはり成績提供システムでは検定のデメリットが出てしまいます。一方で、スコア型の TEAP なり GTEC CBT であれば英検２級を持っていて準１級を検討する生徒が B1 の下限基準を下回ることはあまり考えられませんし、むしろ B2 レベルまで届くこともあります。そうなると１回のテストで B1 担保と B2 チャレンジの２つができますし、そのチャンスは２回確保できるわけです。英検準１級をすでに持っている生徒は考えようです。新型英検で英検１級があるのは S-Interview という障害を持っている受験生限定の方式だけです。そこは従来型の英検が共通テストで使えないということもネックになるところです。S-CBT、CBT 方式では英検準１級までしか受験できませんので、英検の場合、自分が一度受かった試験をもう一度受けるという非生産的な受験しか選択できません。よりハイレベルなスコアも目指したいならなおさらスコア型の試験を受けるしかありません。ただし英検１級に該当する C1 を有利に使える受験方式は（特に理系では）まだ多くはないので、その場合は英検準１級さえあればよいという考えのもと、すでに合格して馴染みも自

信もある英検準１級を受けるというのも戦略的にはあるかもしれません。

さらにもう１つの意外なところでネックとなるのが７月に公表されたS-CBTの事前申込制度です。翌年４月～7月の受験分の事前申し込みが９月に行われるという内容です。ずいぶん早い申込ですが、座席確保を確約してもらうためにはこの事前申し込みをする必要があります。しかし今年度の英検は10月に第２回、１月に第３回とまだ２回分残っているのです。従来型英検は成績提供システムを必須としていない場合は有効に使えますので、その高２の後半の２回分でどう結果が出るかによって、先ほどの例のように高３の受験級や選択する試験が代わるケースがあります。高２の９月にすでに決めておかなくてはいけないというのも無茶な話ですが、3000円の予約金を捨てることも想定して事前申込に臨む人も出てくるでしょう。

このようなことを諸々考えると多分英検は多くの生徒にとってベストな選択肢ではないと思われます。できればスコア型の試験で上限なくトライでき、安全級を求めて勉強を先細りさせるのではなく、スコアを伸ばすために英語学習に弾みがつくように持っていくのが結果的にも良いケースが実際は多くあると考えます。

それでも英検を受ける必要性

英検がベストではないという話をしましたが、それは高３の成績提供システムが大きな要因だからです。それが関係ないところでは英検の有効性は認めざるを得ません。具体的に言うと、これまでに以上に高２までに英検を取っておく必要性が高まるということです。受験で使う目標の１つ下の級・スコアを高２で取っておきましょう。そうすれば成績提供システム外のスコアとしては最低限のセーフティーネットができますし、高２で取れた級をもとに高３で何を受けるかを戦略的に設定できます。その上で高３では高２より１段階高い級・スコアを「受験目標」として設定してそれにチャレンジすることが望ましいでしょう。例えば、受験でB2があると可能性が高まる場合、B1の英検２級を高２で取得しておき、高３ではスコア型でB2にチャレンジするということです。これは、チャレンジレベルが高くなればなるほど重要になってきます。C1を受験で求めた場合は、B2の準１級もしくはそれに該当するTOEFLスコアを取っておくと、高３でリスクを取ってC1にチャレンジできます。しかも、C1まで有効活用できる入試形態は英検CBT、S-CBTが準１級までしか設定されていないこともあり、成績提供システムを必須条件としないケースが多いと思いますので、高２のスコアが活用できる可能性が高いです。

もちろん、高２でスコアを取るのは英検に限らず、TEAPやGTEC CBTなどでも構いません。しかし、初期段階から英検を英語学習の目標にしてきた生徒が高校になったとたん英検から別の試験にシフトするというのは海外進学生のTOEFL以外には考えづらいでしょう。やはり、一番馴染みのある英検に寄り添って高２までは英語学習を進めていくのが得策かと感じています。

TOEFL vs IELTS

帰国生を始めとしたハイレベルな生徒に限定された話になりますが、TOEFLとIELTSどちらがよいのか。私はTOEFLしか受けたことも指導したこともないのでTOEFLを勧めますし、

「TOEFL のほうが簡単、スコアが出やすい」「IELTS のほうが受けやすい、スコアが上がりやすい」、どちらもいるので個人の好みによると思います。

① イギリス進学なら IELTS

まず重要なのは、イギリス進学を考える場合は IELTS 一択です。TOEFL も IELTS も国際的には認知度がありますが、イギリスだけは IELTS でないといけません。中国人の TOEFL 不正（替え玉受験）が相次いだのを表向きの理由に、イギリス大学は IELTS オンリーにしてしまったので、その場合は IELTS しかありません（裏には TOEFL に対するマーケット戦略というのもあったかもしれませんし、実際にそれ以降 IELTS の受験者数増加がみられます）。なお、アメリカは IELTS を使える大学が多いですが、それでもやはり TOEFL を受験する生徒が圧倒的に多いです。

② アメリカ英語かイギリス英語か

単純にアメリカ英語、イギリス英語、どちらが良いのかということです。これはリスニングに直接関与する部分です。特に私はリスニングが苦手ですし、アメリカ英語にどっぷり慣れていて、いまでもイギリス英語だとひと呼吸おいて解読が追い付くということがありますので、その時点で絶対 TOEFL です。イギリス英語だと不安という心理的障壁がパフォーマンスを下げてしまう恐れもあり、その時点で自信を持って臨めません。

③ テストの形式

また、それぞれテストとしての特徴も全く異なります。IELTS はペーパー型でスピーキングは対面インタビューです。また、4 技能が全て切り分けられて行われており、それぞれの問題が取り組みやすいという利点があります。問題構成や形式も英検や TEAP に近く、日本人にはなじみやすいテストです。一方で TOEFL は全て CBT ですから、まずはタイピングができなくては話になりません。また 4 技能が必ずしも分かれておらず、Integrated Task という複数技能が融合された独特の形式も出題されるため、一人で勉強していくにはなかなか難しい部分があります。私が TOEFL を勧める理由の１つは、この Integrated Task やリスニングで講義が出ることに象徴されるように、大学に入ってからのアカデミック英語力を測るということに貫いているスピーキングについては、一方的な PC 録音なので問題集さえあれば練習は夜な夜な一人でできます。

④ 問題集

問題集は TOEFL の方が多く出ていると思います。分野別・目的別の勉強に対応したものも多くありますし、海外出版の模擬テスト問題集も多く出ています。IELTS も自主学習できるだけの量は手に入るはずです。

⑤ テストスコア

TOEFL は 120 点満点ですが、IELTS は 0.5 刻みの 9.0 点満点です。TOEFL の方がスコアスケールが大きいので、ある意味点数は分かりやすく上がります。IELTS は 0.5 上げることに時間がかかることもあります。単純にスケールが異なるだけなので、評価の本質ではないのですが

細かい指標で点数のアップを常々体感したいのか、「あと 0.5、あと 1.0 上げよう」という近い数値目標を求めたほうが良いのか、とい１つの観点です。

加えて、2019 年８月から TOEFL のスコアシステムに大きなメリットができることは見逃せません。My Best Score を導入し、過去２年間の技能別のベストスコアを組み合わせた総合点も提示されるようになったことです。私が受験した時もそうでしたが複数回受ける中で技能別のスコアは受ける会によってバランスが違うのに総合点は変わらない、ということが生じます。この時、複数回のベストスコアを組み合わせられれば合計点がずいぶん高く出ます。私のケースでは当時 300 点満点の TOEFL CBT でベストスコアであれば 13 点も高く出る計算になります（換算表で見ると iBT なら 6～8 点異なります）。これは実に大きい得点差です。周りの TOEFL 受験生も同じなので自分だけが恩恵を受けるわけではないですが、他のテスト受験生と比べると大きなメリットです。この My Best Score を大学が採用するのかは微妙なところですが、デメリットは何もありません。大きなメリットが享受できる可能性があるのならこちらを受けない理由はありません。

3-8　進路指導　－　いつ受けるべきか？

高２で受験をする必要性

先ほど「高 2 までに外部試験を受けておく必要性がこれまでに以上に高まる」と話しました。まず、共通 ID での受験は高 3 の２回までしか機会がない分、安全志向になりがちです。だからこそ、高２中に成績提供システム以外で使える「2 年間有効のスコア」を最低限取っておくことが重要です。また次のケーススタディで示しますが、高２の取得スコアと高３の目標スコアによって受験戦略も変わります。2 回しかないチャンスを適切にかつ有効に使うためにもこれまで以上に高２で受験をしておくことが必要です。2020 年度から TEAP が高１時から受験できるようにもなったので中学で英検準 2～2 級を受験しているような生徒は高１後半から受験をしてみるのも良いでしょう。

いつ受けるべきか

まずは全体の動向から見てみましょう。以下は文科省の調査結果です。これは生徒自身が回答したものではなく、各校の教員の予想値をとりまとめたものですので、実際の生徒の希望とは異なる部分もありますが、１つの動向調査として公表されています。

センター試験の受験者数が 54 万人ですから、受験生のほぼ９割ぐらいは期間 A に受け、半分以上の生徒は２回目を期間 C に設定するという感じでしょうか。「早い段階に受験をして、できればスコアのめどをつけておきたいが、４月、５月ではあまりにも拙速なので、高３の生活も落ち着いた中間試験後の６月もしくは期末試験後の７月に１回目、そして夏休みを挟んで２学期中盤までにスコアが上がるのを期待してもう１回受けさせたい」というのがその理由でしょう。おそらくほとんどの学校がそのように考えていると思います。また従来英検の第１回が６月、第２回が 10 月、TEAP が７月、12 月ですので、それを想定して答えた学校が多いというのも予測できます。気を付けたいのは英検 S-CBT 受ける生徒です。第２回の予約申し込みが１月、本申し込みが６月から始まります。第１回の結果を受けて第２回の級が変わるケースもあるかと思いますが、その場合は第１回の受験を早い時期にしておく必要があります。

「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査について（結果）

期間 A	４月	５月	６月	７月	計
	26,317	37,274	408,248	101,796	573635
期間 B	８月	９月			
	61,446	185,185			246631
期間 C	10 月	11～12 月			
	223,354	190,148			413502
全期間					1,233,768

※実施期間：　2018 年５月、　対象：　4,724 校

2020 年度各試験のスケジュール（予定）

		受験日	申込期間・申し込み締め切り
ケンブリッジ英検	A2～B1	６月 13 日、28 日 ８月３日 10 月 10 日、25 日	テスト約 40 日前 （ただし 2020 年度分は２月から申込開始）
	B2	６月 20 日、21 日 ８月 16 日、27 日、 10 月 18 日	
	C1	５月 30 日 ８月 28 日	
	C2	５月９日、17 日	
英検 CBT	第１回	４月 19 日、５月 17 日 ６月 21 日、７月 23 日	テスト約１か月前
	第２回	８月 23 日、９月 13 日 10 月 18 日、11 月 23 日	テスト約１か月前
	第３回	12 月６日、１月 10 日 ２月 14 日、３月 14 日	テスト約１か月前
英検 S-CBT	第１回	４月～７月	（予約申込）前年９月 （本申込）２月
	第２回	８月～11 月	（予約申込）１月 （本申込）６月
英検（従来型） 英検 S-Interview	第１回	（１次）５月 31 日 （２次）６月 28 日、７月５日	３月 13 日～４月 28 日
	第２回	（１次）10 月 11 日 （２次）11 月８日、15 日	８月３日～９月 10 日
	第３回	（１次）１月 24 日 （２次）２月 21 日、28 日	11 月 20 日～12 月 10 日
GTEC	第１回	確認中	
	第２回		
	第３回		
GTEC CBT	第１回	７月 21 日	５月 14 日～６月 19 日
	第２回	11 月 10 日	８月 23 日～９月 27 日
	第３回	３月 22 日	１月７日～２月 20 日
IELTS		月３回程度	筆記テスト 19 日前まで
TEAP	第１回	７月 12 日	５月 11 日～６月 17 日
	第２回	９月６日	６月 29 日～８月５日
	第３回	11 月 22 日	９月７日～10 月 21 日
TEAP CBT	第１回	６月７日	４月６日～５月 14 日
	第２回	８月 16 日	６月 15 日～７月 21 日
	第３回	10 月 25 日	８月 31 日～10 月１日
TOEFL		毎月 3～5 回程度	テスト７日前まで

※大学入試センターへのデータ提出締め切りは 12 月 15 日のため、各検定・高３時の第３回の試験は成績提供システムに利用できない。

※英検 S-Interview の日程は従来英検の第１回、第２回の A 日程と同様。

※TEAP はクレジット支払いの申込期限。振り込みはこれより早い期限となる。

2020 問題

７月は TEAP や GTEC の第１回試験、英検２次面接など、外部検定試験の前半のピークでした。2020 年度は入試改革初年度にあたり受験者も増加することが見込まれます。しかし、2020 年度は東京オリンピックです。会場やホテルもほぼオリンピックで埋まり、首都圏の会場も限られており、圧倒的な数を誇る首都圏の生徒を十分に収納できるキャパが確保できていないことが懸念されます。申し込み状況によっては TEAP、GTEC など地方まで受験しに行くことも出てくるかもしれません。首都圏で受けられるにせよ、開催期間は交通規制がかかったり思わぬ混雑に巻き込まれることがあります。7、8 月に受験を考えている生徒は申し込みを早めにしましょう。

3-9　進路指導　－　ケーススタディ

「自分にとってベストな試験」を選ぶために、ケースごとに応じて方向性を提案することが需要になるということはすでに述べましたが、ここでは、どのように指導するのか、あくまでも私の方針をもとにケーススタディと共有します。

＜ケース１＞

志望校の中に成績提供システム利用を求める大学がない。それでも共通 ID で受験しなくてはならないのか。

本当に志望校が変わらなければ良いですが、高２の時点での志望校がどこまで本当の受験校になるかは分かりません。成績提供システムを利用しない大学なら、高 2 のスコアも使えますし、高３で３回以上受験してベストスコアをおくることもできますが、高３のうちの１回を共通 ID で受験し、とりあえず成績提供システムに何かしらのスコアを残し、可能性を広く保っておくことが勧められます。ただし、「従来型の英検１級を受けたい、TOEFL に対応する時間はない」というのであれば、それだけのハイスコアをとる方が先決ですので、あえて成績提供システムを利用しないということもあって良いでしょう。

＜ケース２＞

英検２級を高２・１学期の時点で取得した。志望校の中には最高で B1 の出願資格が設定されている大学がある。その他の大学では英語検定試験を利用しない予定。もう１度英検２級を受けるべきか。

＜条件１：　成績提供システム利用が求められている＞

できるだけ TEAP の受験を勧めます（CBT に慣れている生徒は GTEC CBT でも良いです）。高２の１学期に英検２級を取っており、その後も英語学習をしっかりしているのなら、高３になって TEAP で B1 スコアが取れないというのはあまり考えられませんし、そのようなケースであれば B2 に届くことも珍しくありません。可能性を担保するという意味でも、TEAP が良いかと思います。

英検準１級を受けることも選択肢ですが、成績提供システム利用の場合は高３の２回しか機会がないので、そこで不必要なチャレンジするのは少しリスクが高いでしょう（この生徒の場合は B1 があれば現状良いので B2 を無理に目指すチャレンジは必要ない）。TEAP を受けるとなると練習に時間を割く必要あるため、なるべく英検２級で受験したいという思いも生徒にはあるでしょうが、B1 を取るのであればほとんど勉強の負荷は変わりません。準備の有無に関わらずもしかしたら TEAP なら B2 に届く可能性もあります。特に１学期という早期の受験であれば、多種の TEAP 対策の時間も取れるでしょうから、まずは TEAP という選択肢を提示します。

＜条件２：　成績提供システム利用が求められておらず、従来英検も対象とされている場合＞

過去２年間のスコアが活用できるので、すでにほしい B1 の成績は取れています。それだけ考えるともう受験する必要がないかもしれませんが、高３になってから追加する受験校が成績提供システム利用を求めるケースもあります。そのために高３になってから１度は成績提供システムを使った受験を勧めます。その際、上記の条件１と同様の対応が基本ですが、すでに英検２級が担保できているので、英検の方が受けやすいということであれば英検 S-CBT の準１級にチャレンジさせても良いでしょう。

＜ケース３＞

英検２級を高２・１学期の時点で取得した。受験では１つ上の B2 を活用したい。

＜条件１：成績提供システム利用が求められている＞

ケース２同様、TEAP もしくは GTEC CBT の受験を勧めるのがベストだと思いますが、ケース２と異なり上のチャレンジをしないといけないケースですので、生徒の実力、志望校のラインナップを見て、生徒が「英検の方が合う」と言うなら、英検準１級 S-CBT に覚悟してトライさせることもありだと思います。

＜条件２：　成績提供システム利用が求められておらず、従来英検も対象とされている場合＞

やはり志望校変更の可能性に対応するためにも、成績提供システム利用可能な TEAP を受験しておくことが望ましいです。もし志望校が変わらない場合は、受験回数に制限がありませんので、TEAP と併用して従来型の英検準１級の第１回受験も併せて考えさせることも良いでしょう。

＜ケース４＞

英検２級未取得で高２の２学期以降に受験する。合格する見込みは半々。

＜条件１：　受験で B1 を活用したい場合＞

高２で英検２級に合格するならケース２と同様になるのでやはり理想としては TEAP の受験を勧めたいところです。一方で、高２で英検２級を不合格の場合は、TEAP でいくか英検２級 S-CBT でいくのか選択肢が分かれるところです。もちろん TEAP でも B1 を取れますが、問題としては英検２級の方が易しい設定です。とりあえず S-CBT２級の事前申込をさせ、結果を見て、共通 ID の申請をどちらにするのか判断させます。高２で英検２級合格の見込みが半々の生徒が高３で B2 まで到達する可能性は必ずしも高くないので、高２での英検の合格不合格に関わらず、事前申込してしまったのであれば、第１回は S-CBT2 級で受験するということでよいのかなと思います。

＜条件２：　受験でＢ2を活用したい場合＞

はっきり言うと、高２で英検２級を必ず合格できるように勉強するよう強く指導します。半々というレベルで語っていては高３での B2 は難しいです。これはもう最低 B1 は確保できる前提で受験させないといけません。英検２級に合格する力は最低でも高３であるはずなのでスコア型の TEAP でまずは B1 を確保させ、第２回で B2 に行くように勉強させるしかありません。高２で英検２級を合格する前提で指導するので、高３になって S-CBT2 級を受けることは理にかなっていません。かといって、いきなり準１級を受けさせても不合格になる可能性も高く、成績提供システムで活用するスコアがなくなってしまいます。これはスコア型を受けさせるのが妥当かと思います。

＜ケース５＞

上智大学外国語学部（その他の学部も可） or/and ICU（B 方式もしくは総合選抜型）or/and 早稲田国際教養学部 or/and 上智国際教養学部の受験を検討している。

＜条件１：　上智大学外国語学部を第１志望としている場合＞

これは上智外国語学部の志望順位によるかもしれません。上智外国語学部を第一志望とするなら学校推薦型入試と TEAP 利用型方式も含めて検討したいところです。TEAP は出願基準で英語ができる生徒は不利になるという一般論がありますが、逆に考えるとこれまでの上智の英語独自試験はとても難しく、英語をネックとする生徒には厳しいものがありました。外国語学部は英語に自信がある生徒も多く集まるため、TEAP 利用型で英語の不利を埋めることもできます。英語が得意とする生徒も、仮に英語力を活かせないとしても、受験機会の複数回確保という意味では第一志望はいくつあっても良いものです。また TEAP は４技能全てのスコア基準を超えなくてはならず、そこで一定数の受験者がはじかれるということもあります。ただし、成績提供システムの最低１回は TEAP で使ってしまうことになります。ICU B 方式などを併願するのなら、TEAP と TOEFL or IELTS を両方受けるか、上智の TEAP 利用型を捨てて TOEFL であえて両方受験するのかということを考えなくてはいけません。ちなみに ICU A 方式は外部検定試験の制限はないようなので、上智と ICU A 方式だけなら TEAP でいくのもありです。

正直言うとあまり TEAP と TOEFL を併用するのは得策ではありません。２つを受ける負担もあるのですが、何よりも TOEFL はかなりのトレーニング、対策が必要になるので TOEFL を受ける可能性があるのならそれに絞ったほうが賢明です。

＜条件２：　ICU（B 方式もしくは総合型選抜）、早稲田国際教養、上智国際教養を受ける場合＞

これは TOEFL or IELTS を受けるのがベストだと思います。仮に ICU だけなら一般生は GTEC CBT という選択肢が考えられますが、B 方式にせよ総合選抜型にせよ、TOEFL か英検１級かという生徒が受験しに来るのでやはりそこは TOEFL で勝負がしたいです。早稲田国際教養だけを

受験する場合は英検もありますが、新型は英検準１級までしか取れません。１級は厳しいという受験生はS-CBTで準１級を取る選択肢もあります（スコア型ではないですが、早稲田国際教養なら最低限準１級は楽に取りたいところです）。ケース１で述べたように、CEFR　C1のトップレベルで勝負する場合は、そのスコアを取ることが先決なので、あえて従来型英検１級を目指すこともありだと思いますが、それもTOEFL活用すれば問題は解決されます。上智国際教養は書類型も考えるならTOEFLかIELTSです。３校を単独で見てきましたが、これらを併願するパターンも多いかと思います。そうなるとやはりTOEFLかIELTSに絞られます。

なお、これらの３つの大学学部は成績提供システムの活用は義務ではありません。これらの大学の総合選抜型、学校推薦型を受ける場合は成績提供システムの受験期間Bを待っていては成績提示が間に合わないかもしれませんので、これらの大学は成績提供システム外で受験をすることも視野に入れなくてはいけませんし、TOEFL でスコアを伸ばしたい生徒の中には何回も受験をする生徒も出てくるでしょう(できれば１回は共通IDを使って受けると可能性が担保できます)。

<ケース６>
英語外部試験利用入試を使うかどうかわからない（迷っている)。現状、外部試験の対策に時間を割くことはできないがどうしたらよいか。

このようなざっくりとした質問は実は一番多く寄せられます。使う可能性があるのなら、受験しておきましょう、ということになります。時間が割けないのであれば、まずは１学期という早期受験でスコア型の試験を受けておきましょう。そこで十分なスコアが取れればよいですし、取れなければ、「受験勉強の延長でスコアが取れればラッキー」という感覚でよいので期間 B もしくはCに再度受けます。

CHAPTER4　総合型選抜・学校推薦型選抜

4-1　総合選抜型・学校推薦型選抜の増加

どこの企業も人事採用の際には「エントリーシート」や課題、適性検査、面接などを積み重ねて人材の確保に当たります。やはり優秀な人材を確保するには、色々な角度からその人を見て、可能性や能力を見極めていきます。大学入試でも、点数だけではなく、その人物を多面的に見て、学力の三要素をしっかりと評価しようという方向に流れていきます。新指導要領でも「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」というパラダイムシフトを訴えていますが、それであれば入試でも「学びそのもの」を評価する入試を増やさなくてはならない、ということです。しかし、一般入試ではスケジュール、志願者数を考えると限界があります。そこで、学校推薦型選抜（現公募制推薦、指定校推薦）、総合選抜型選抜（現 AO 入試）の方式を増やし、多面的評価を充実させようということが進んでいきます。

国立大学アクションプラン

実際に、国立大学協会は 2015 年 6 月の「大学改革に向けたアクションプラン（中間まとめ）」の中で当時 1.5 割の推薦・AO 入試の割合を 2020 年度（2021 年度入試）までに倍の 3 割に増やす方針を打ち出しました。「確かな学力とともに多様な資質を持った」学生を受け入れるためです。この先頭を走っているのは東北大です。2019 年度は全入学者 2454 人のうち、実に 76%が一般入試、23%が AO 入試での選抜者になっています。

東北大学 2019 年度入試の概況

	募集人員	志願者	合格者	入学者数
一般入試	1809	6252	1947	1870
AOⅡ期（センターを課さない）	242	855	235	235
AOⅢ期（センターを課す）	327	1075	337	337
その他の入試	若干人	183	36	12
合計	2378	8365	2555	2454

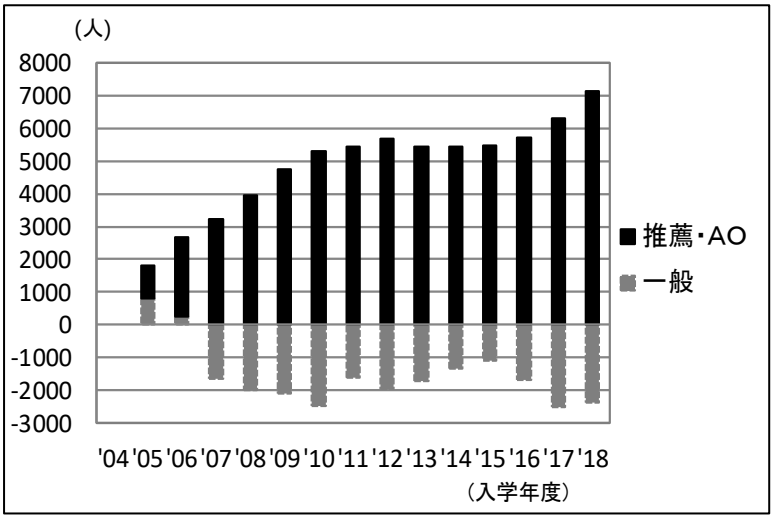
※その他の入試には科学オリンピック入試、国際バカロレア入試、私費外国人留学生入試、帰国生徒入試を含む。

さて、国公立の推薦型・総合選抜型の割合はアクションプラン通り、2021 年度には本当に 3 割になるのでしょうか。まだ数字が出そろっていないので正確には言えませんが、3 割に到達することはなさそうです。いくつか国立大学のアドミッションと意見交換をしたのですが、おおよそ 2 割強というのが平均値でしょうか。それでも 1.5 割からは確実に増え、じわじわと一般入試の間口を狭くしています。

現状

まずは現状を把握するために、いくつかグラフを見ていきましょう（グラフは全てベネッセより提供していただきました。）いずれも推薦・AO 入試が増えているということを表すものです。

＜グラフ①　国公立大　入試方式別入学者比率の変化＞

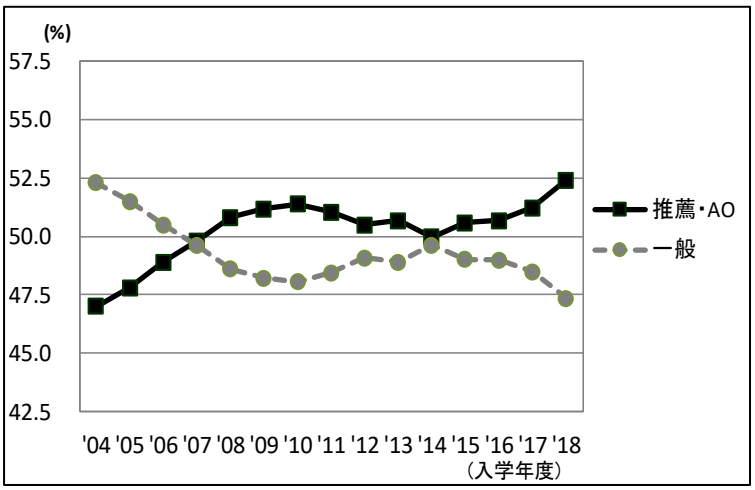


2004 年の入学者を基準に推薦・AO 入試、一般入試の入学者がどのぐらい増減しているかを表しています。一般入試入学者が全体で 2000 人以上減少しているのに対し、推薦・AO 入試入学者は 7000 人増加しています。表①を見てもここ 5 年間で募集単位が増えているのが分かります。

＜表①　推薦、AO 入試を実施している国公立大学の数と学部の数＞

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
推薦	大学	157	159	160	162	165
入試	学部	433	448	450	467	479
AO	大学	71	75	79	85	88
入試	学部	172	190	213	240	260

＜グラフ②　私立大学　入試方式別入学者比率の変化＞



2004 年から 2018 年度入試までに推薦・AO 入試と一般入試での入学者が全体に占める割合を示しています。
2007 年を機に推薦・AO 入試が一般入試を超え、一度は 2014 年に半々に戻ったもののそこから一気に推薦・AO 入試が増加して過半数を支援る方式となりました。

近年拡大する推薦・AO 入試

開始した入試年度	大学・入試方式名
2016 年度	東京大・推薦入試
	京都大・特色入試
2017 年度	お茶の水女子大 ・ ＡＯ（新フンボルト）入試
	大阪大 ・ 世界適塾入試
2018 年度	一橋大 ・ 推薦入試　拡大
	早稲田大 ・ 新思考入試
	京都大 ・ 特色入試　全学部で実施
2019 年度	神戸大学・「志」特別入試

早稲田の挑戦と思い

早稲田大学は、2016 年 12 月に鎌田総長が「現行 4 割の AO、推薦の入学者を大学 150 周年を迎える 2032 年までに 6 割に増やす」ということを表明しました。2032 年時点では一般選抜で入学する学生は全体の 4 割しかいないということです。一般選抜は「一般」ではなく、「マイナー」入試になるということです。さらに、将来的な理想論として、全て AO 入試に統一し、AO 方式を多様化していきたいということも大胆に述べています。

早稲田大学が総合選抜型・推薦型選抜の割合を押し上げるのには理由があります。国公立や慶應の併願校とする受験生層ではなく、早稲田を第 1 志望で志願する生徒が欲しいということです。入学後の学習状況や実績を見ると AO 入試合格者が一般入試合格者よりも高いということが背景として述べられています。早稲田大学で学ぶ確かなヴィジョンを持った生徒の方が入学後のプロ

ミスが高く、そのような生徒に来てほしいということです。早稲田合格者の早期囲い込みという側面もあり、AO で学力の担保できていない生徒が多く入学する可能性があると批判も出ていますが、一方でアドミッションポリシーに基づいてその大学とのマッチングで選抜するという入試本来の在り方を追求しているとも言えます。

さて、その増えた２割はどこに還元されるのでしょうか。最近は地元志向が強く、東大などの国公立最難関も早稲田も地方の生徒は少なくなってきました。早稲田も一時期よりは一割も地方出身者が少ない現状があり、その危機感がありますので、おそらく地方の生徒をより取りたいと思っているでしょう。新思考入試に「地域連携型」というサブタイトルがついていますし、実際に募集要項の文言からもそのような方向性が見て取れます。

早稲田大学　新思考入試　募集要項より

これまでの学習や当該地域での経験を踏まえて充分に培われた「地域へ貢献」する意識を持つ人材であれば、出身高校所在地や居住地は問いません。なお、地域性を重視し、全ての都道府県からの受け入れを目標とします。

大学からのメッセージ：　大阪大学

大阪大学が「世界適塾入試」と銘打った AO・推薦入試を開始しましたが、募集要項で語られている総長からのメッセージやアドミッションポリシーにも大学の意気込みが明確に出ており、ここで紹介します。

大阪大学　AO・推薦入試　募集要項より

＜西尾総長のメッセージ＞

今、大学を取り巻く環境は急激に変化しています。たとえば、グローバル化の波は猛烈な勢いで押し寄せてきています。日本は急速な高齢化と人口減少を目前にしています。世界に目を向ければ環境問題、エネルギー問題、民族紛争など、解決を求められている課題が山積しています。このような難問には、「決まった正解を早く出すことの訓練をした人材」では対応することができません。「課題を自ら発見し解決することのできる人材」が必要なのです。正解があるかどうかもわからない課題に取り組む意欲、問題の発生する現場に出かけていく勇気、多様な人々とのネットワークを作る構想力、世界に発信するコミュニケーション能力、いま必要なのはこういう力を持った人材だと思います。しかし、このような人材は従来の筆記試験中心の一般入試では見出すことが難しい場合があります。「ＡＯ・推薦入試」は従来の筆記試験の成績だけでなく高等学校での学びや活動の経歴も考慮し、志願者の意欲や能力などを多面的・総合的に評価する選抜方式です。主体的に学ぶ態度と能力を身に付けた人たちが、大阪大学での学びでお互いに切磋琢磨し、世界で活躍できる人材に育ってほしいと考えています。

＜ＡＯ・推薦入試が期待する学生像＞

ＡＯ・推薦入試では、ここに述べた大阪大学の教育理念に共感し、単なる自己実現にとどまることなく、何のために学ぶのかを真剣に考え、それを実行できる学生の入学を期待しています。最先端の知を学び生み出すとともに、それをどのように社会に活かすかという志と、その実現のためのスキルや知識も備えた人間、大阪大学が育成したいリーダー人材はこういう人なのです。選抜においては、このような考え方を踏まえ、基礎的な学力についてはセンター試験を利用して評価しますが、同時に高等学校での学びの質や経験をきちんと把握し、総合的に評価することにしています。何よりも重視したいのが、「自分の頭で考える習慣」を持っているかどうかです。正解に素早くたどり着く能力よりも、一生を通じて出会うさまざまな問題に向き合い、考え抜く力が大事だと考えるからです。志の実現には粘り強さが必要なのです。

近年の AO 入試の例①：　お茶の水女子大学　新フンボルト入試

11 月にプレゼミナールというものが開催され、志願者でなくても参加できますが、志願者は高２か高３のいずれかの時期にこれを受け、レポートを提出していることが出願条件になります。第１次選抜はこのプレゼミナールでの様子や課題の出来、そして英語資格などの書類審査で行われます。第２選抜では、文系は図書館入試、理系は実験室入試ということで、課題が与えられ、それについて１日かけて調べ、まとめることが行われます。これで合否が決まるわけですが、合格者はその後も成果の公表や入学前教育が求められます。どのように学ぶのかということを実際に入試の場で評価し、それをもとに入学後の「伸びしろ」のある学生を選抜したいという趣旨です。

高２・高３　プレゼミナール２日間	講義を受講、レポートを作成、提出
第１次選抜	プレゼミナールの参加、英語資格など
第２次選抜	図書館入試（文系）、実験室入試（理系）
合格発表後	成果公表・入学前教育

近年の AO 入試の例②：　早稲田大学　新思考入試（地域連携型）

次に私がいつも出す例が早稲田大学で 2018 年度から始まった新思考入試です。この入試には、志願者が仕上げる課題レポートと「家族以外の第三者」による志願者評価書というものがあります。ポイントは「家族以外の第三者」という部分です。「学校の教員」ではないのです。これは志願者がその課題についてどのように取り組んでいるのか、などを評価するものですが、学校内で行う活動を想定していないということです。NPO とか、大学の教授など、課外で進めている課題探求を想定しているわけです。学校の教員が書くにしても学校の教員が書いてあげるにしても、学校の枠内で収まっているのではなく、その枠を超えた活動を求めています。

出願学部	
受験番号※	
氏　名	

※志願者番号は記入しないでください。

2020 年度　新思考入試　評価書（様式③）

・志願者は A4 用紙に片面で印刷してください。記入後の郵送は不要です。
・上枠内の「志願学部」「氏名」は志願者本人が記入してください。
・評価者は志願者本人とは血縁関係のない、第三者が必ず記入してください。
※定書きの場合、鉛ボールペンを使用してください（鉛筆やシャープペンシル、フリクションペン等は不可）。

評価者氏名	（カナ） 印	
志願者とのご関係	親戚・知人（差支えなければご記入ください）	
評価者連絡先（勤務先も可）	住所	〒
	電話番号	

・志願者本人が記入した「課題レポート」（当学指定様式）についての所見を記入してください。

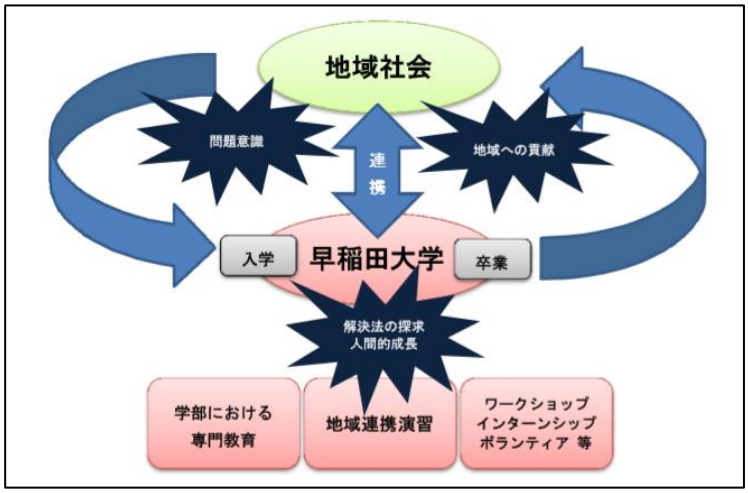
以下、記入欄）

（2枚目に続く）

志願者評価書

早稲田大学　新思考入試　募集要項より

“単なる入口の改革”ではなく、入学後の教育やキャリアとも関連付けることを目標とします。その ため、本入試での入学者には、自身の所属学部の学修のみに限定されることなく、本入試入学者向けに設置した演習科目「地域連携演習」やその他関連科目、地域でのワークショップ、インターンシップ、ボランティア等正課外プログラムへの参加、学生稲門会での活動、各地の校友の協力を得た出身地域での体験プログラム等への参加を推奨し、大学は全面的にバックアップします



近年の AO・推薦入試の例①：　東京大学　推薦入試

2016 年度入試から始まった東京大学の推薦入試ですが、法学部が実施するグループディスカッションが話題となりました。まず課題文を 5 分で読み、その後グループディスカッションを 85 分行います。「審査員は議論の進行に関与しません。決定のしかたや議論の進め方はみなさんで決めてください」ということも謳われており、話の中身だけではなく、ディスカッションの在り方、リーダーシップ、フォロワーシップなど様々な要素が見られていきます。

2019 年度　東京大学法学部　推薦入試

平成 30 年 7 月 13 日、新潟県議会では性犯罪の再犯防止と子どもの見守りについて、以下の意見書を賛成多数で可決しました。

性犯罪者の再犯防止と子どもの見守り体制の強化を求める意見書

本年 5 月、新潟市において小学 2 年生の少女が下校途中に連れ去られ、殺害された後に線路上に遺棄されるという極めて残忍な事件が発生した。

犯人は連れ去り後に少女にわいせつな行為をしたとされているが、犯人は以前にも別の少女を連れ回すなどして、書類送検されていた。

米国などでは、性犯罪常習者に GPS 端末を装着させて監視するシステムを導入し、成果を上げているとの報告もある。GPS の装着をめぐっては、人権侵害や監視社会につながるとの批判もあるが、子どもが犠牲になる悲劇が後を絶たない現状に鑑み、我が国においても、再犯の防止を図る上で検討を行っていく必要がある。

また、この度の事件が下校途中に発生したことから、学校、保護者、地域、行政及び警察等関係者の連携による通学路における見守り体制の強化が求められている。

よって国会並びに政府におかれては、GPS 端末による監視システムの導入をはじめとする効果的な再犯防止策に係る検討を進めるとともに、通学路における見守り体制の強化に向けて必要な措置を講ずるよう強く要望する。

上記意見書のとおり、GPS 端末による監視システムを実際に導入するのであれば、具体的にどのような制度にするかという問題が生じます。

例えば、GPS 端末を装着する対象者については、性犯罪の前科がありながら再度、性犯罪を行い、刑務所で受刑した者が出所する場合を対象とすることが考えられます。出所した者の中には刑期を満了した者もいますし、仮釈放された者もいます。

また、GPS 監視の方法としては、対象者に GPS 機能付の腕輪の装着を一定期間義務づけ、警察が 24 時間、対象者の動向をモニター上で監視するという方法が考えられます。

もっとも、このようなシステムの導入には様々な批判がありうるでしょう。

性犯罪で有罪判決を受けた人について、再犯防止のために GPS 監視の対象にすることについて、どのように考えますか。監視の対象にする条件や、具体的な監視の方法を想定しながら、議論をしてください。

グローバル対応の AO・推薦入試

近年ではスーパーグローバル大学事業を始めとして、グローバル化対応のために英語のみで学位を取ることができるプログラムが拡大しています。これらのプログラムと連動して、グローバル型の AO・推薦入試が拡大してきました。

立教大学	国際コース選抜入試
明治大学・国際日本学部	イングリッシュ・トラック入試
早稲田大学　文化構想学部	JCuIP 入試

4-2　2021 年度以降

2021 年度以降は現在の AO・推薦という名称も変わります。AO が総合型選抜、推薦入試が学校推薦型選抜という名称に変わります。これまでこれらの入試は学力を問う選抜方法がなく、必ずしも基礎学力の担保ができていなかったという批判もありましたが、学力の三要素の全てを評価するということで、これらの入試でも何かしらの学力検査をすることが求められます。

2021 年度の総合型・学校推薦型の情報は一般入試以上にほとんど公表されていません。GMARCH 以上で公表されている例が以下の２つでしょうか。出願までほぼ１年というこのタイミングで変更点などが提示されていないということは由々しき問題です。

立教大学　自由選抜	すべての学部学科で調査書及び志望理由書の提出を求め、筆記試験と面接を行います。外部試験の成績（スコア）や資格を重視する学部学科もあります。また推薦状や紹介状を求める学部学科もあります。その他、自己アピール文、課題レポート、将来計画書、制作物（作品）等の提出を求める学部学科もあります。それらによって「学力の３要素」を総合的に評価します。 （英語外部試験スコアの基準変更有り）
学習院大学　法学部 学校推薦型選抜	・出願資格：　全体の学習成績の状況 3.8 以上、英語外部試験スコア ・第１次選抜：　書類（推薦書、志望理由書、活動報告書含む） ・第２次選抜：　英語、論述、面接

<u>AO・推薦型への対応</u>

進学校の一般的な指導方針として、生徒に最後まで志を高く第一志望にチャレンジさせるために、そして進学実績を出すために、AO・推薦型には消極的な態度を取り、一般入試を推し進めるということがあります。AO・推薦入試のコンセプトは良いけど、結局は早期に大学決めたいという安易思考が助長され、また１人で合格を取ってくる数が少なくなるため、学校としての進学実績につながらない、ということが懸念されます。「進学実績なんて学校の都合だろう」という声もあるでしょうが、週刊誌やネットで進学実績があたかも序列や学校評価のように掲載される状況がある以上、馬鹿げたことであっても重要視せざるを得ません（ちなみにハーバード大学をはじめとしたトップ大学は「同じ学校から何人も学生を取ると価値観が固まり、多様性が担保できない」という観点から１校から３名までしか合格者を出さず、東大合格ランキングのようなものは存在しえません）。

どのような進学指導方針を考えていくのかは各校がそれぞれ考えるべき課題ですし、タイミングなどもあるでしょう。ここではそれについて意見を述べることをしませんが、一般選抜の募集枠が狭まり、AO・推薦型の入試が増えていくという世の中の流れには遅かれ早かれ対応していく必要があるでしょうし、生徒の受験機会、大学を選ぶ権利を保障していく必要があります。入試の多様化ということは今後の避けられない進路課題であることは間違いありません。

AO 入試を増やしていく課題

日本では AO 入試は特別選抜と位置付けられていましたが、世界で見ると AO 入試がスタンダートです。例えばアメリカでは SAT もしくは ACT という共通テストのスコア、TOEFL スコア、成績書、推薦書、エッセイ、活動履歴などを見て総合的に合否を判断します。アイビーリーグをはじめとした名門校になるとインタビューもあります。実は日本にもアイビーリーグ面接官（OB などが担うことが多い）が在住していて、日本人受験生であっても面接が必須になるのです。1 発勝負のテストスコアだけで選ぶなんてことは考えていません。スコアや成績が高くても不合格になることもあれば、その逆もあります。受験生も保護者もそれが当たり前だと思っているのです。AO 入試でアドミッションポリシーに照らし合わせながら人物を多角的に評価することはある意味グローバルスタンダードだと言えます。

日本でも、1990 年に慶應 SFC が AO 入試を輸入し、それが広がっているのですが、やはり日本大学がそれに精通した海外大学と同じレベルで AO を運営するには課題があります。アメリカのトップ大学は本当に AO で学生を見ることに長けていますし、AO オフィスが時間をかけてその判断をします。GPA（≒評定平均値）や SAT がハイスコアであっても不合格になるケースもいくらでもあり、活動実績や人物評価、そしてエッセイにある志望理由が最後にものを言います。受験生もそれを分かっているので、見識や活動の幅を広げることを大切にしていますし、500 語のエッセイに何か月もかけてじっくり取り組みます。一方で、財政が厳しい州立中堅大学以下は AO オフィスの人材が足りず、むしろスコアだけで判断することが多くあります。実際にそのような大学では「推薦書などの追加書類は送らないでください」「余計な書類を送った場合は出願が正式にプロセスできません」などと明記している大学もあります。

やはり AO 入試は時間と人材の余裕、積み重ねたノウハウがあってできるもので、日本の大学の AO オフィスの多忙さや人材不足を考えると、必ずしも理念通りの選抜ができるかは分かりません。また、受験生、保護者、そして指導する教員や予備校もテストによる選抜に長年浸かってきており、点数・知識至上主義から抜け出すことが難しく、AO 入試を正当な選抜制度と見なせずに「不透明な入試」、「学力が担保できない入試」という批判をし、あくまでも一般選抜があるべき入試という思いが強くあります。

さらにもう 1 つ大きな問題として、高校教員の仕事量の問題です。そもそも日本の教員の仕事量が国際的に比較しても非常に多いのは有名ですが、こと高 3 の教員は休みを返上して講習や進路指導、調査書や推薦状の作成に当たっています。AO 型の入試が増えるということは、出願の時期が早まることに加え、書類作成の負担がより教員にのしかかり、まさに夏休み返上という事態が常態化することにつながります。2021 年からは調査書の枚数制限がなくなり、学力の三要素の評価をより詳細に記載することが求められるため、多大な出願業務になることは間違いありません。そもそも海外では、進路は家庭と本人の問題であり、学校の教員が進路指導にあたるという考えはありませんし、大学合格ランキングというようなものもありません。カウンセラーがいますが専門職として授業を持たずにそれに専念している場合がほとんどです。アメリカのコモンアプリケーション（共通願書）を始め、カウンセラーや教科担当が各生徒の評価書記載することがあり、その作業は確かに大変ですが、1 クラス当たりの生徒の数も違えば、海外の教員は教

科指導以外の校務や雑務をあまり抱えておりません。日本の教員が AO 型に対応していくというのは本当に大きな労力をさらに負担することになりますし、すでに難関校では何千字という教員からの評価書が必要だったり、選抜方法が高度になればなるほどその負担は増大します。

海外とは異なる日本の土壌で AO 型、推薦型入試を拡充していくには、まず大学、高校ともにそのマンパワーを確保し、しっかりと評価する時間とシステムを作ることが第一です。あわせて、時間がかかるでしょうが、日本の社会全体が学力評価や人物評価の多様性を理解していく必要があります。形だけ海外を真似るのではなく、その選抜理念に基づいて適正に運営していけるように様々な角度から課題を解決していかなくてはなりません。

CHAPTER5　主体性の評価

5-1　調査書、提出書類の見直し

学力の三要素である主体性等の評価を充実させることが入試改革の核の１つにあります。AO型、推薦型入試の充実はその１つですが、あわせて、調査書、提出書類等が見直され、一般選抜も含めて、より主体性を評価しようということになりました。文科省もその見直しの理由として以下のように述べています。また、文部科学省の「大学入学者選抜推進委託事業」で主体性等分野の委託業務を中心的に進めた関西学院大学高大接続センターの尾木氏はこれまでの入試を「ふるい落とし入試」と呼び、これからの入試を「マッチング入試」と呼んでいます。スコアで届かなかった生徒を落とす入試から、志願者をアドミッションポリシーに基づいて多面的に見て、大学の求める人物像に合う生徒を受け入れていく入試に代わるということです。

文部科学省　「平成３３年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」
（2017 年７月 13 日公表）

最終報告を受け、大学入学者選抜において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を含む「学力の３要素」を多面的・総合的に評価するため、高等学校段階 における多面的な評価への改善の取組を踏まえ、一人一人が積み上げてきた大学入学前の学習や多様な活動等に関する評価の充実を図る。あわせて、これらの評価がその後の大学教育に十分生かされるようにする必要がある。

調査書

①　枚数制限の撤廃と主体性などの記載の充実

現在の A4 両名１枚（もしくは A3 片面１枚）という枚数制限を取り除き、現行の「指導上参考となる諸事項」の欄を増やして、主体性や多様な学習・活動の記載を充実させることになります。

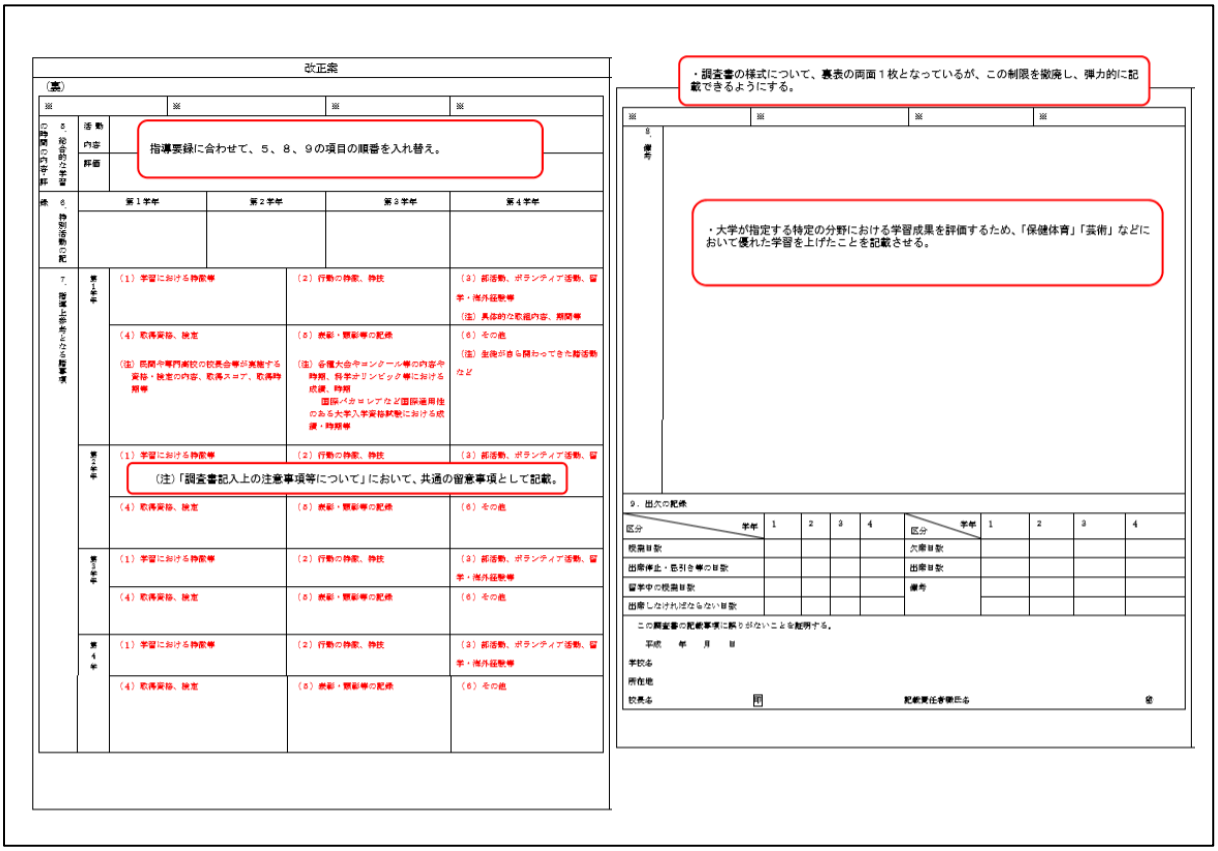
指導上参考となる諸事項に記載する６項目

- 各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等
- 行動の特徴、特技等
- 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等
- 取得資格・検定等
- 表彰・顕彰等の記録
- その他

② 「評定平均値」の名称を本来の目的に合わせ「学習成果の状況」という名称に変更

「評定」は指導要領に示す各教科・科目の目標がどのぐらい達成できたのかを総括的に評価するもので、それを数字という簡略な表示で表したものです。評定平均値はその値を量的に単純平均したもので、「目標に準拠した評価」という本来の趣旨とは性格が異なります。あくまでも「高等学校の学習成績を全体的に把握する上での一つの目安」でしかない数値です。しかし、この数字が重視され、それによって調査書に記載されている質的な評価やその他のきめ細かな評価が軽視されてしまう傾向もありました。そこで本来の目的に沿った名称に変更し、「従来の AO・推薦入試や高等学校教育において果たしている役割を踏まえつつ、高等学校の学習成績を全体的に把握する上での一つの目安であることの明確化や、目標に準拠した評価という観点から、値のみが重視され、その他の評価が軽視されないようにする」ということを文科省は語っています。なお、2024年度からは新指導要領に基づく指導要録の見直しを踏まえて、従前の「全体の評定平均値」の記載欄のさらなる見直しを検討する。

調査書の新様式



※2 ページ目、３ページ目のみ掲載。１ページ目の変更は「評定平均　→　学習成果の状況」という名称のみ。

推薦書

単に本人の長所だけを記載するのではなく、学力の三要素に関する評価を必ず記載することが求められます。あわせて「生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記載する」とあります。

志願者本人の記載する資料等

活動報告書、大学入学希望理由書、学修計画書を積極的に活用し、学力の３要素やアドミッションポリシーとの合致を評価できるように大学側に課されています。「特に総合型選抜や学校推薦型選抜においては、これらの資料に関するプレゼンテーションなどにより積極的に活用する」という指針が示されました。

活動報告書に記載する内容

- 「総合的な学習の時間」等において取り組んだ課題研究等
- 学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等

大学入学希望理由書、学修計画書に記載する内容

- 入学希望理由や入学後に学びたい内容、計画、大学卒業後を見据えた目標等

活用方法の明確化

これまでは「入学者の選抜に当たって、調査書を十分に活用する」ことを原則としていますが、今後は各大学のアドミッションポリシーに基づいて、調査書や提出書類等を「どのように」活用するかを各大学の募集要項等に明記することが義務化されます。加えて、生徒の多様な能力や個性の評価の観点から、『「学習成績の状況」だけでなく、部活動やボランティア活動、特別活動の記録や総合的な学習の時間の内容・評価など、調査書の他の記載事項も有効に活用する』といった指針も出されています。

調査書等の電子化

調査書の枚数制限がなくなり、また調査書に基づいて主体性などを評価するとなると、これまでのような紙媒体では不可能です。電子調査書でインターネット提出をし、パソコンが読み込み、場合によってはキーワードをもとに評価対象を抽出するということが必要なってきます。よって、現在、「大学入学者選抜改革推進委託事業」において、高校段階でのｅポートフォリオとインターネットによる出願システムを連動させたシステムのモデルや、主体性等を評価するためのモデルの開発等がなされています。その取組状況も踏まえながら、調査書等の電子化の在り方について検討されることになっています。

文部科学省は 2022 年（2023 年度入試）から高等学校の調査書の全面電子化を目指しています。電子調査書には以下のようなものも PDF ファイルで添付し、また生徒のｅポートフォリオも連動させていくことが想定されています。

- 「探求授業で〇〇について研究し論文としてまとめた」という情報 ＋その論文 PDF ファイルへのリンク、学びの過程の記述へのリンク
- 「英検２級取得」という情報 ＋ 合格証明書 PDF ファイルへのリンク
- 「〇〇大会優勝」という情報 ＋ その賞状 PDF ファイルへのリンク

文科省　「大学入学者選抜改革推進委託事業」　資料より

４．調査書の電子化の進め方

〇　「大学入学者選抜改革推進委託事業」において、電子調査書を用いた実証事業を予定しており、２０１９年度から同事業を中心に高等学校・大学間で合意したところから電子調査書の活用が可能となるよう大学入学者選抜実施要項の改正を行う。

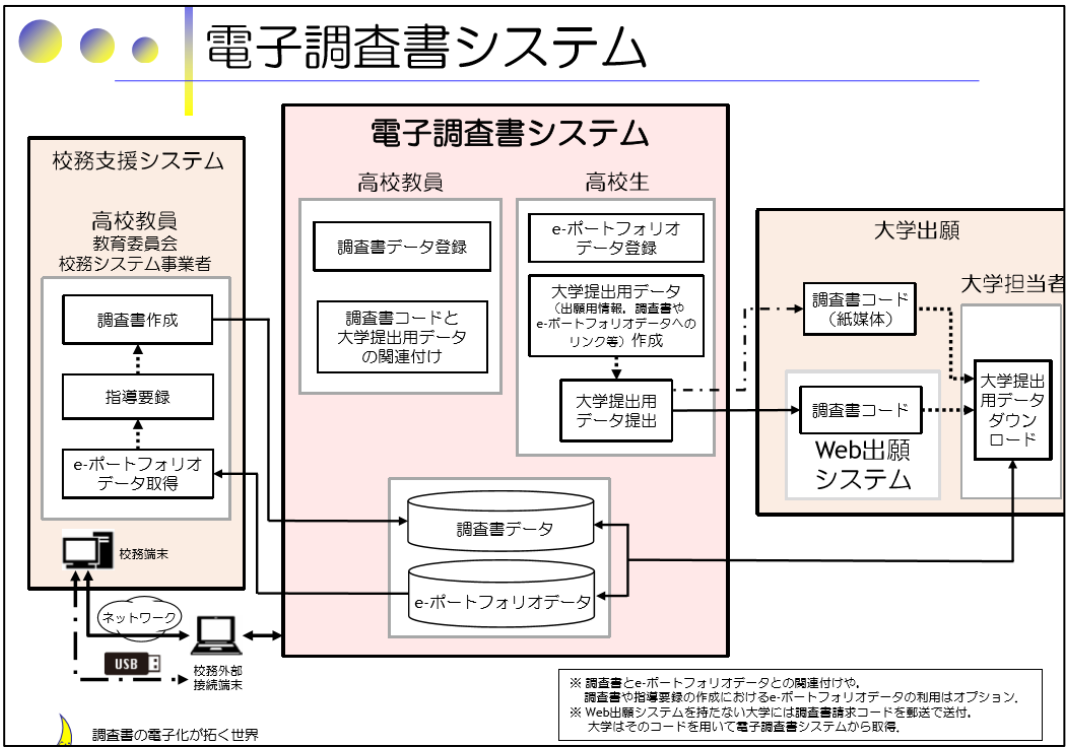
〇　２０２２年度に実施される全ての大学の全ての入試区分において、委託事業における検証結果等を踏まえつつ、原則として電子調査書を用いることを目指すこととする。

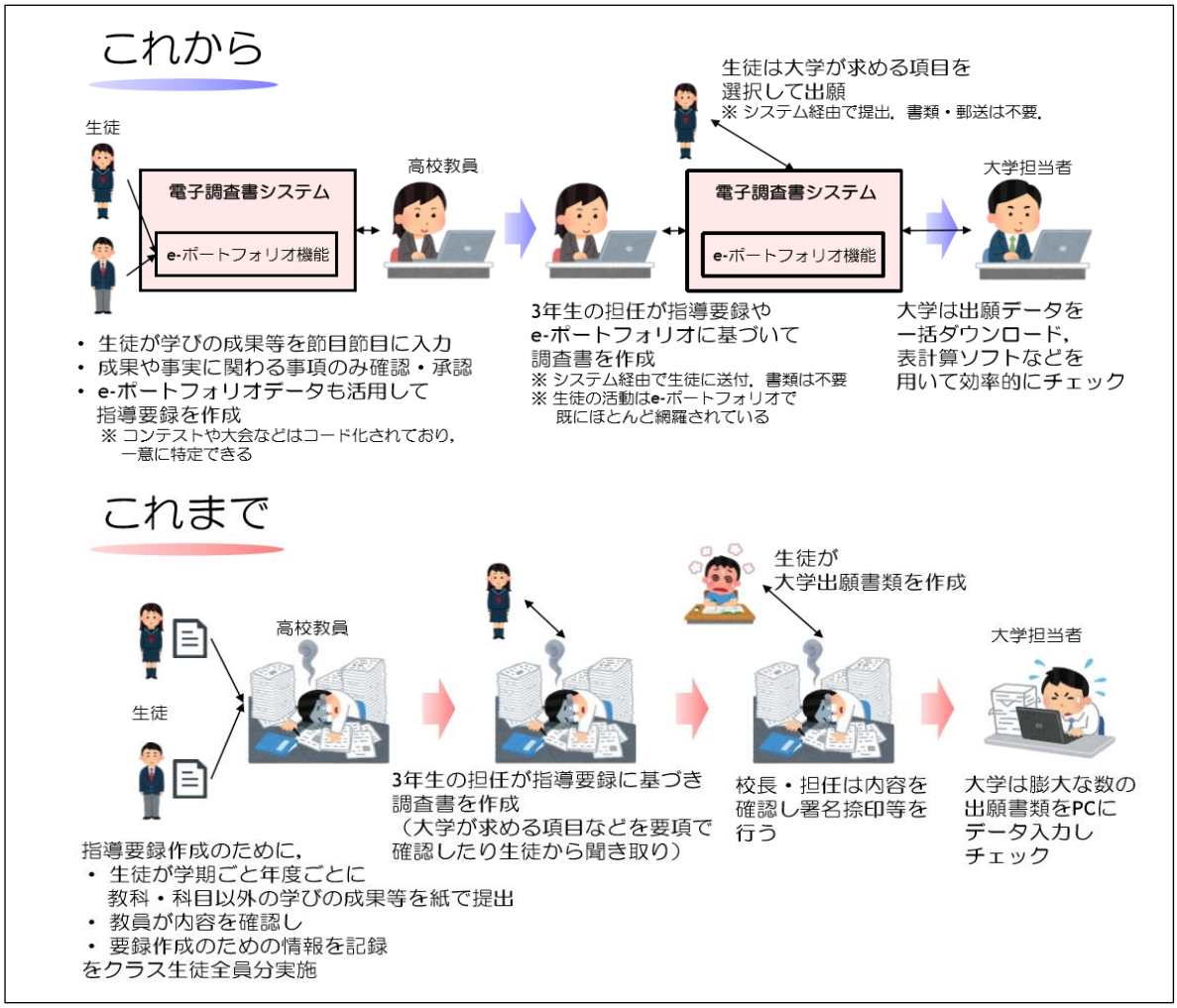
（想定される電子調査書導入のスケジュール）

年度	導入方法等	委託事業における参考事項
2019	●電子調査書に向けた検証期間 ✓委託事業の実証事業参加大学・高等学校の任意の入試区分での実施 ✓合意した各高等学校・大学間での任意の入試区分（例えば同一法人内の「学校推薦型選抜（推薦入試）」等）での実施	〇電子調査書システムと、各高校・教育委員会等側で導入する校務支援システム及び大学側で導入する入学出願システムとの、連携に向けたシステム情報等の公表
2020		〇実証事業の成果（課題）を踏まえた電子調査書システムの改修とその情報等の公表
2021～2022	●2022年度に実施される全ての大学の全ての入試区分において、委託事業における検証結果等を踏まえつつ、原則として電子調査書を用いることを目指す	

ただし、電子化と簡単に言っても、出願書類をインターネットで送るのも受け取るのもそれなりのシステムがないとできませんし、そこは現状高等学校も大学も対応できていない状況もあります。ただ、アメリカの大学出願のほとんどが Common Application という共通願書になっているように、受験も一気に ICT 化が加速されます。成績や個人情報は（流出防止のために）外部のインターネットから遮断された学内サーバーで管理している学校もありますが、電子調査書を導入するにはそのサーバーシステム、管理システムを根本から改修する必要があるという話も聞きます。入試改革は校務システムというものにまで影響が出てきます。

全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会　関西学院大学資料（2019 年５月 24 日）





5-2　e ポートフォリオ

ポートフォリオとは簡単に言えば、「学びや活動の履歴を形にしたもの」です。単にテストの点数やプロダクトという結果や到達度の確認だけでなく、日々の学習を振り返り、気付いたことやその時の試行錯誤を記録し、「学びそのもの」を自ら形成し、まとめていこうというものです。ポートフォリオは「部活ノート」に例えられることがありますが、ただがむしゃらに練習をするだけでなく、計画を立て、それを振り返り、次の練習や試合に活かすというサイクルを作ることで選手自らが考え、学ぶことになるし、それにより成長が促せるということです。e ポートフォリオは、それをタブレットや PC を用いてデジタルデータとして残すことにより、PDCA サイクルを確立させ、学びを深めるとともに内発的な成長を支援し、「主体的な学習者」を育てるツールです。

e ポートフォリオを有効に使うためにも単に「記録を残す、ためる」という作業から「何を目的として、どのような内容をどのようにため、どのように活用するのか」というゴール設定が重要になります。部活ノートを付けていること自体でその競技が上手になるわけではありません。それはあくまでも「学習支援、キャリア形成支援」のツールであって、それをうまく活用することで学びを深めることが本来の目的です。

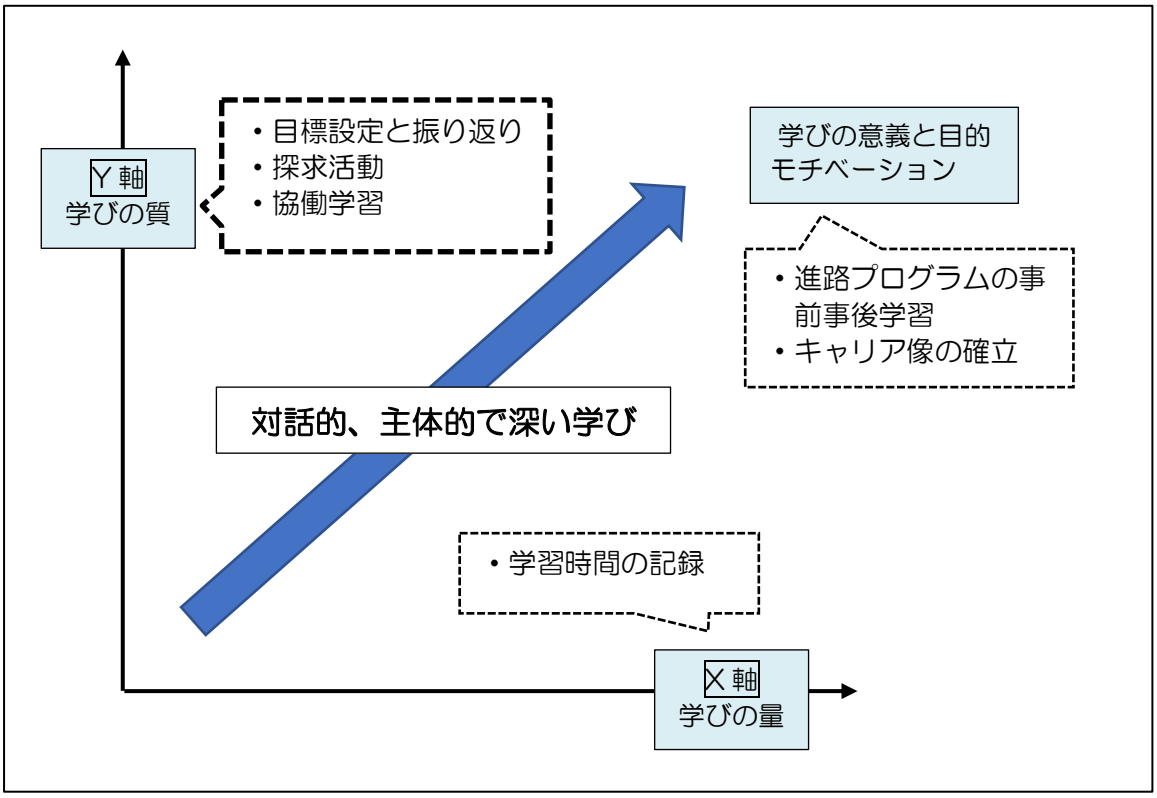
ポートフォリオの目的

① 学習や諸活動において PDCA サイクルを形成し、主体的な学びを促進させる。
（学びの質と量の見える化と向上）
② キャリア・進路におけるビジョンを形成する。
（学びの意義と内政的モチベーションの確立）
③ 探究活動を充実させ、探究力、課題解決力を育成する。（探究力、課題解決力の育成）
④ クラスメイトなどと共有し、フィードバックしあうことにより、相互刺激を生むとともに、学び合いを深める。（協働学習の深化）
⑤ 大学入試、出願に際して活用する。（進路実現）

ポートフォリオの活用方法　例

① 学習時間の記録　→　学習の「量」の向上
② 各テスト、模試の目標設定と振り返り　→　学習の「質」の向上
③ 探究活動の計画や振り返り　　→　探究活動の促進と深化
④ キャリア、進路学習の際の事前学習や振り返り　→　キャリアと進路意識の向上

e ポートフォリオモデル例



実際の活用

実際の活用には２パターンあって、全体としては教員側から行事やテストのタイミングにあわせて振り返り機能などを使い、モデル質問の答えを入力させるということがありますが、あくまでも主体的な学びですので、もう１つとして、生徒が自分の興味関心に合わせてどんどん自分たちで活用していくということです。目的に合わせて活用していくことになるでしょう。なお、巻末に、ベネッセと協力して作成したポートフォリオ活用モデルを掲載しますので、参考にしてください。

e ポートフォリオ活用の課題

① 探求学習の充実

新指導要領において、探求学習が重要視されていますがるが、ポートフォリオにおいても中心的な分野として評価されます。（実際に「探究活動」という項目がポートフォリオに組み込まれています）。ただ、探究活動については、SGH や SSH、IB などでその活動を中心に添えた教育活動を展開しているケース以外は、「総合的な学習の時間」すらまともにデザインされていない学校が多くあります。模擬国連など、課外活動で一部の生徒が探究学習を深めていくことはよくあるケースですが、生徒全体を対象とするにはキャリア教育、グローバル教育などと合わせて、「総合的な探求の時間」を中心にカリキュラムを作り、それを教科の探求活動とリンクさせる横断的シラバスを作成することが望まれます。

② ルーブリック評価の充実、発展

効果的な振り返りを促すためには、単なる感想的な振り返りではなく、ルーブリック（達成目標に基づいた評価表）を用いて、客観的な自己評価をすることが大切になってきます。そのためにも、ルーブリック評価を発展させて、教員、生徒ともに学習評価軸として定着させていくことが必要になるでしょう。

③ 企画、学内実務、運用における作業分担

e-ポートフォリオは探究活動、キャリア、学習がすべて絡むものであり、どの部署・学年がどのように関わり、どのように学年と連携していくのかを整理する必要があります。ICT 担当という部署を置き、各学年に担当教員を配置する学校もあれば、教務や進路が管轄しているところもあります。現状としては、その管轄が決まっておらず、e ポートフォリオがほとんど進んでいないというような学校がかなり多いと思います。

④ 指導体制

いろいろ理想や活用モデルを立てることは机上の空論としてできても、実際に「生徒に振り返りを指導する時間をどのように確保するのか」「教員の指導力、指導体制をどのよ

うに構築していくのか」ということが実際には大きな問題として出てきます。活動の振り返りをするのは理想的かもしれませんが、それにどこまで時間を取れるのか、タイトなカリキュラム、生徒の生活スケジュールの中で課題になります。また、最も難しいのは e ポートフォリオにためるにしても、それで終わらずにどう有効活用するのかということです。

⑤　インターネット環境

学内で総合的な学習の時間やホームルームの時間を使うなどして、生徒がポートフォリオに取り組むことがありますが、全員がネットに集中的にアクセスすると Wi-fi が対応しきれないなどというネット環境上の問題があります。総合学習の時間やホームルームの時間は学年、場合によっては学校で同時間に設定されていることも多く、物理的な問題が起こることがあります。

⑥　生徒の意識付け

中には課題を与えらえてポートフォリオ入力をする、もしくは与えられてもやらないという生徒が必ずいます。ポートフォリオを入力するように教員側が指導をすることも大切ですが、そもそも「主体的な学び」を促進するためのツールであり、本末転倒になりかねません。どのように「主体的に」ポートフォリオに取り組み、学びを深めるように意識付けをしていくのかは大きな課題です。

5-3　Japan e-Portfolio

主体性の評価などを中心に、e ポートフォリオを入試にも活かして、多面的な評価につなげようということが始まります。これまではテストのスコア、成績、もしくは A4 片面 2 枚の調査書でしか評価をしていませんでしたが、その人物を学びや活動歴を含めて総合的に多面的に評価していこうとする中で、調査書や e ポートフォリオを活かして「どのように成長してきたのか」「どのような活動をしてきたのか」ということをより適切に評価していくということです。

それを実現するための文科省プロジェクトで「大学入学者選抜改革推進委託事業　主体性分野」というものがあるのですが、それを担った関西学院大学が中心となってベネッセや他業者などと協力して Japan e-Portfolio というプラットフォームを構築しました。これ自体 e ポートフォリオの基本機能を備えているのですが、それに加えて、大学出願の際にポートフォリオやその他の志願者が作成する書類などを大学に提出する機能も備えています。ベネッセの Classi を始めとした民間の e ポートフォリオもこのプラットフォームと連動し、出願ツールとして使用できます。

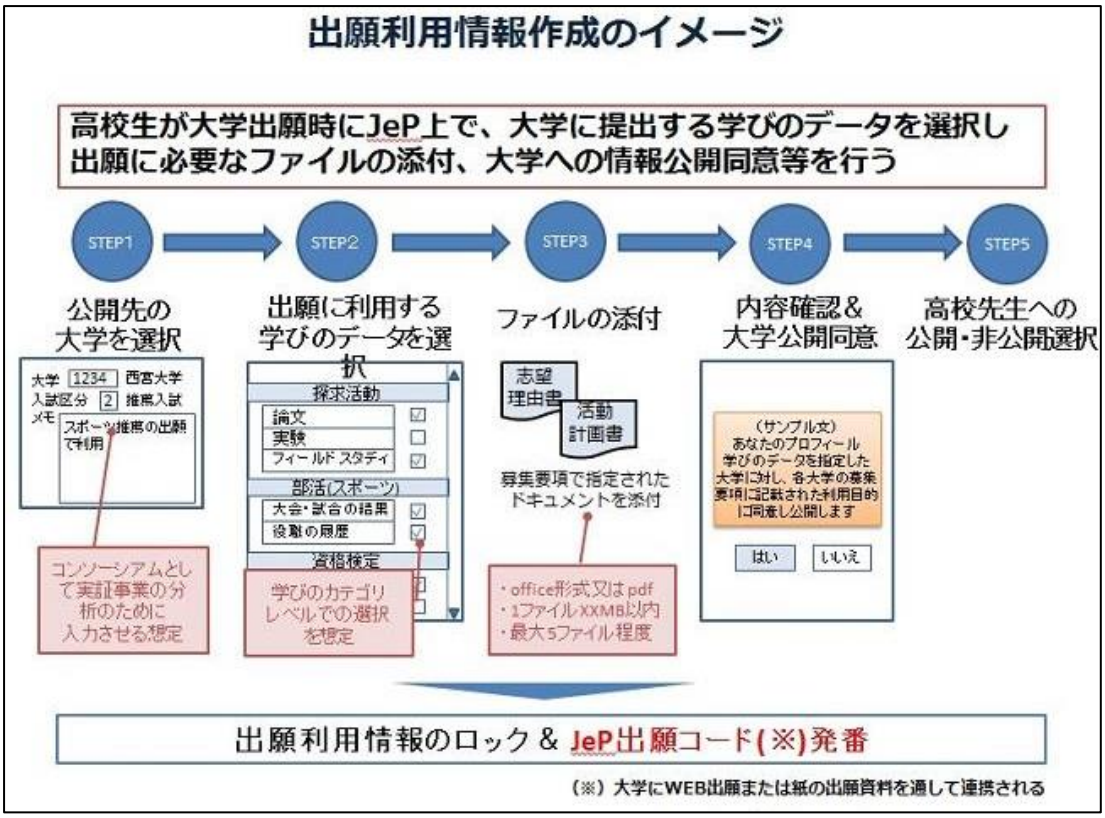
Japan e-Portfolio の項目

Japan e-Portfolio の生徒トップ画面には 8 つのデータカテゴリーがあり、さらにそれぞれに小分類があります。これらにあわせて入力をしていきます。

各カテゴリー

探究活動	基本情報
	参考文献（書類・論文等）
	実験
	研究室訪問
	フィードスタディ
	調査
	論文
	発表の記録
	コンクール・コンテスト・大会の結果
生徒会・委員会	基本情報
	会議記録
	企画の実施
学校行事	式典・行事（卒業式、入学式等）
	修学旅行・研修旅行
	スポーツ大会・体育祭
	文化祭・学園祭
	校内コンテスト（表彰）
	実習・研修
部活動 ＜文化芸術活動＞	基本所法
	コンクール・コンテスト・大会の結果
	代表への選抜履歴
	段・級位の取得等
	ベスト記録・通算記録
	役職の履歴
	雑誌新聞等の記事
学校以外の活動 ＜文化芸術活動＞	基本情報
	コンクール・コンテスト・大会の結果
	代表への選抜履歴
	段・級位の取得等
	ベスト記録・通算記録
	役職の履歴
	雑誌新聞等の記事
	指導者からの推薦状
留学・海外経験	留学
	海外フィールドスタディ
	海外コンクール・大会の結果
	海外交流イベント（国内）
	帰国生徒
表彰・顕彰	顕彰（皆勤賞・感謝状・特待生等）
資格・検定	資格・検定　詳細

※　「部活動」、「学校以外の活動」にはほかにも＜ボランティア・コミュニティ活動＞、＜アカデミック活動＞、＜スポーツ活動＞がある。



（文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野） 代表大学 関西学院大学）

<u>入試での活用方法</u>

委託事業を担った関西学院大学が想定している入試活用のモデルは以下の３つのパターンです。す（次ページからの関西学院のスライド資料も参考にしてください）。

出願資格	資格や諸活動などに関する出願資格を設定する。
得点化	資格や諸活動などを得点化して、共通テストや個別試験の得点などと合算する。
ボーダーライン判定	出願時の提出書類として設定し、合否判定の資料として活用する。1つの例として、ボーダーラインにいる受験生の合否判定に使う。

活用方法①　主体性等に関する情報を出願基準として設定する

共通基準（能力）を有した志願者のみによる合否判定
入学後のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとの適性を重視した合否判定
共通テスト、個別選抜と組み合わせ、多面的総合的評価を行う。

アドミッションポリシーの提示と共に出願基準となる要件を要項に記載

募集要項

- 資格、検定
- 留学経験
- コンクール出場
- 論文執筆実績
- 評定平均
- 出欠状況　等

JAPAN e-Portfolio

CSV

出願基準の条件を指定し、自大学への出願者の中から条件を満たす対象者を抽出

出願の確認と、各種合格ラインの設定、合否判定を実施　合格判定

受験番号	出願資格	マーク	記述 国		記述 数		外部検定		個別試験	総 合	合格
000001	●	700	B	50	A	100	C1	150	230	**1230**	
00000 2	●	650	C	30	B	50	B2	100	280	**1110**	
000003	●	800	B	50	B	50	C1	150	280	**1330**	■
000004	●	750	A	100	B	50	C2	200	250	**1350**	■
000005	●	720	B	50	B	50	B1	75	210	**1105**	
・・・											

活用方法②　主体性等に関する情報を得点化し判定（スコア判定）

総合点による合否判定（国公立大学を想定した選抜）
共通テスト、個別試験のスコアと主体性等に関する情報をスコア化し、総合点による多面的総合的評価による合否判定を実施。入学者の知識・技能、思考力・判断力・表現力のレベルを学力検査により担保し、主体性等を評価する。
アドミッションポリシーの提示と共に出願基準となる要件を要項に記載する必要がある。

①共通テスト				②個別試験		③主体性評価(epf)		合計スコア
マーク	記述	外部検定						
700	150	100	＋	200	＋	50	＝	1,200
	各大学でスコア化	各大学でスコア化				各大学でスコア化		受験者ALLのスコアを一覧化し合格ライン設定、合否判定を実施

（スコア化の例）

記述ランク	スコア（国語）	スコア（数学）
A	100	100
B	50	50
C	30	30

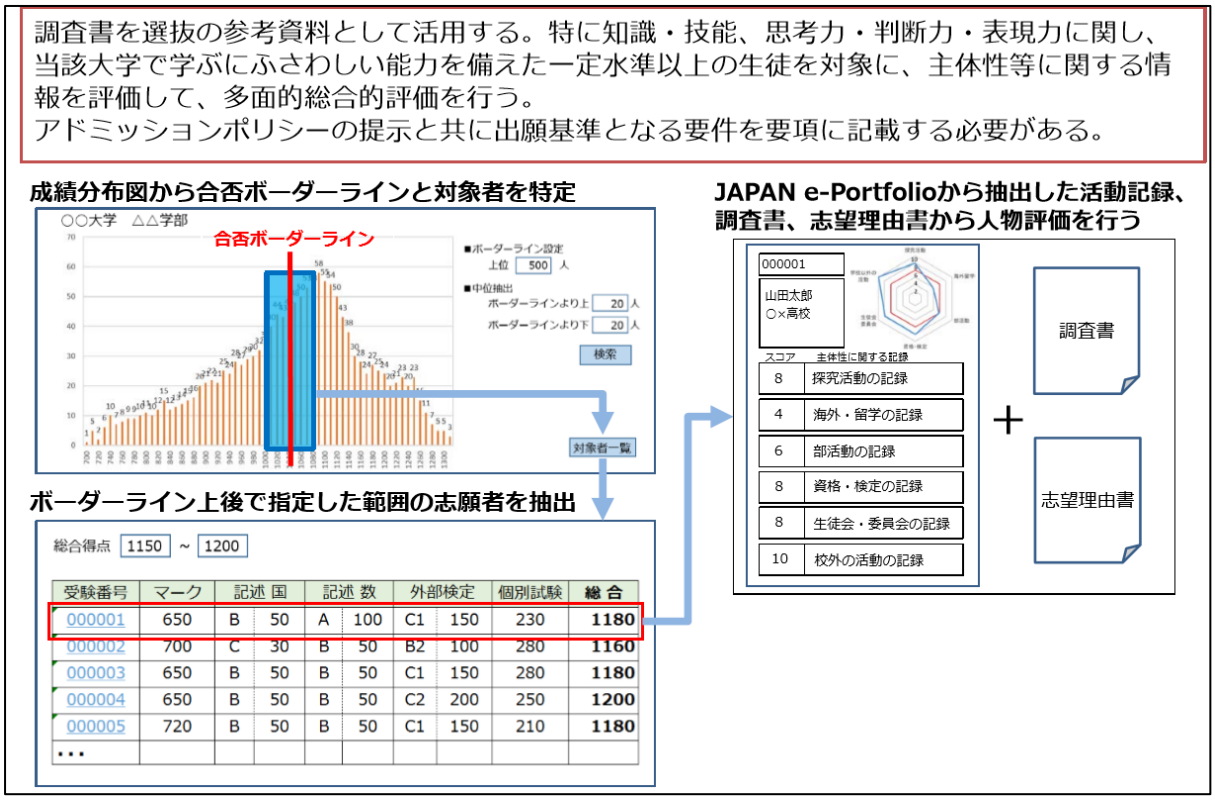
（スコア化の例）

CEFERランク	スコア
C2	200
C1	150
B2	100
B1	75
A2	50
A1	20

（スコア化の例）

JAPAN　e-Portfolio 主体性活動記録	スコア
大会・コンクール等表彰	国際　50 全国　40 ブロック　30 都道府県　10
○○の資格取得	1級　20 2級　10
部活動における職務歴	部長　10 副部長　5

入試活用モデル③　学力検査において調査書を参考資料として活用する。



得点化するということ

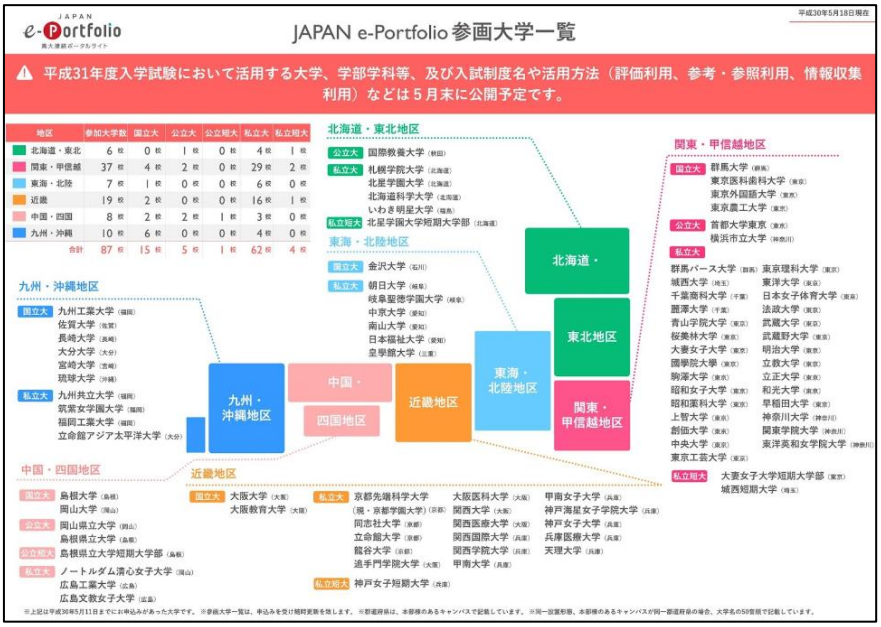
ここで出てくる問題、そして批判は「主体性を得点化することが有意義なのか」ということです。海外 AO 入試のように主体性を含めて多面的に人物評価をしようという理念は誰も反対をしないのですが、得点化を手法として持ち込むことに反発があります。「それぞれが主体的に取り組んでいるものに優劣をつけるのか」、「プロセスを重視すると言いつつ、結局は受賞歴や活動歴、役職、資格など「結果」を得点化しただけで本来あるべき主体性評価ではない」といったようなことも言われます。また、入試改革として「点数によって合否が決まる入試を脱却すること」が理念の 1 つにあったわけですが、確かに高校生活全体を評価に組み込んだことは良いとしても、その結果は結局「点数で切られる入試になってしまっている」ということもあります。

Japan e-Portfolio の今後

文科省の委託事業として関西学院が中心となって進めていた Japan e-Portfolio 事業は 2019 年 3 月で終了し、2019 年 4 月から一般社団法人教育情報管理機構に運営が移されました。予算もずいぶん削減されたようで、当初のように運営ができるのかということも懸念されています。さらに、高校・大学共にデジタル調査書や e-Portfolio を始めこのシステム運用に対応できていないこと、主体性の評価の在り方がしっかりなされていないこともあります。そのような状況で、一番の疑問として「大学がこれを使うのか？」ということです。実際に 2018 年度 5 月の資料では「Japan e-Portfolio 参画大学」として 87 校の表明がありました。しかし、いくつかの大学の関係者が言っていましたが、これは委託事業の段階でとりあえず参加しておくとい

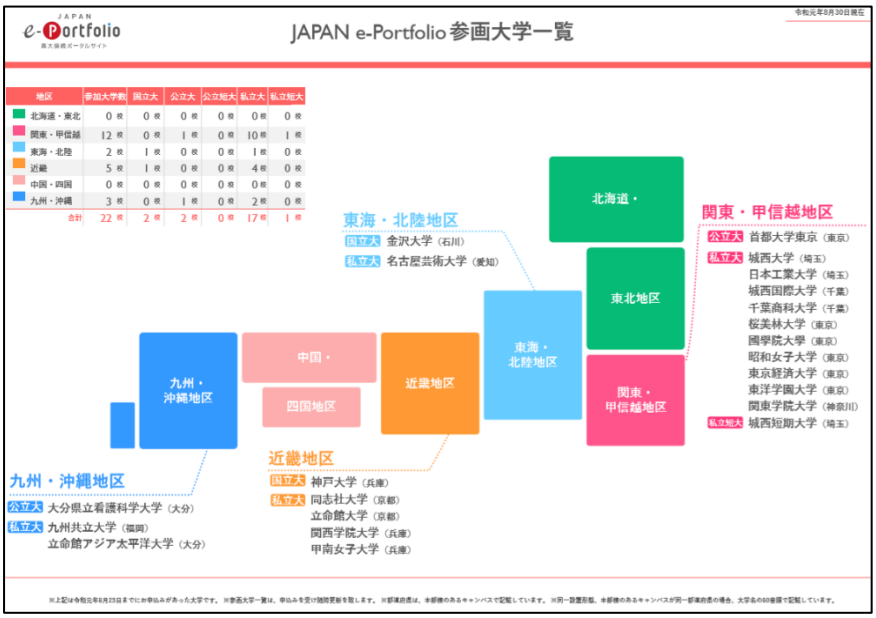
うことで実際の 2021 年からの本格的な参画を決めているわけではない大学も多くあります。実際に 2019 年 8 月 30 日現在では 22 校の参加まで減っています。しかもこれら 22 校の中も Japan e-Portfolio を利用必須とするのではなく、それ以外の書類提出も認める大学もあるかと思います。次に紹介する筑波大学も「2021 年度入試において、本学では Japan e-Portfolio を利用しません」と発表しました（2019 年 7 月）。さらに、2019 年 8 月の参画リストに載っている立命館大学も「2021 年度入試では JeP（JAPAN e-Portfolio）等の e ポートフォリオの記載内容を合否判定に活用することは行いません」としています。出願の ICT 化が進む以上、将来的には活用していく方向になっていくのでしょうが、2021 年度入試から実際にどのぐらい、そしてどのようにこれが活用されていくのかまだ分からない状況です。

2018 年 5 月時点の参画大学一覧



国立	15
公立	5
公立短大	1
私立	62
私立短大	4
計	87

2019 年 8 月時点の参画大学一覧



国立	2
公立	2
公立短大	0
私立	17
私立短大	1
計	22

5-4　各大学の動向

まだ「調査書や志願者本人が記載する資料等を活用する」という基本方針程度しかまだ発表されていませんが、現段階での情報を整理します。

先陣を切る筑波大学、しかし実のところは・・・

まず調査書の活用で一番話題に上がるのは筑波大学です。筑波大学はもともと入試改革では先陣を切る国公立大学でした。英語外部試験の導入も 2019 年度入試から全学部の個別試験で英語外部試験スコアによる加点を予告していたぐらいです（結局、2021 年度入試の全国的な改革に合わせて後ろ倒しをするという変更があり、実施されませんでしたが）。この主体性の評価についても意欲的に取り組み、2018 年 3 月という早い段階で調査書を点数化するという姿勢を示していました。そして、2018 年 7 月、一般選抜の中心方式として実施する「総合選抜」について「調査書を 50 点に点数化する」という公表がなさました。

筑波大学　入学者選抜の変更及び検討状況について

（2018 年 7 月 26 日発表）

「総合選抜」では、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、高等学校等から提出された「調査書」の記載事項について、点数化（50 点）して活用します。

この 50 点と言うのが大きな話題となり、その後、この部分だけが独り歩きすることになります。確かに 50 点という配点は大きいものです。しかし、最近の発表資料では、この 50 点という記載ではなく「総点のおおむね 2%程度」という表現に置き換えられるようになりました。

筑波大学　総合選抜における「主体性等評価」について

（2019 年 3 月発表）

筑波大学は様々な入試を実施しています。推薦入試やアドミッションセンター入試では従来から主体的な取り組みを重視した選考を行ってきています。一方で、主体的な学びの成果は、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」からも十分に測ることができることから、一般選抜においてはこの二つを重視して実施してきました。一般選抜として導入する総合選抜においても、引き続き、これらに重きをおいた選抜を行います。そのため主体性等評価の配点は、総点のおおむね 2%とすることにしました。

これは、配点を見ていくと分かります。2020 年度入試までの前期試験はセンター・個別試験の合計は 760～1800 点の幅で、平均すると 1260 点です。しかし、2021 年度の総合選抜は共通テスト 900 点、個別試験 1550 点、調査書 50 点の 2450 点です。現在の平均と比べて約 2

倍の合計点になります。もちろん、それぞれのセンター：個別の配点が全て共通 900：個別 1550 と変わり、2 次試験重視となることは別論点としてありますが、調査書に限った話をすれば総点が 2450 点まで増大するので調査書の 50 点という配点は実に 2%にしかすぎないことになりました。しかも、「際立った活動歴や活躍、特別な資格の提示を強いるものではありません」とあるように普段の学内の学習と部活動などで十分に高い評価がつくような方法をとることは公言されており、また調査書の性質上 0 点と 50 点が極端について分かれるようなことはないでしょうから、この調査書でつく点数差は限定的だと推測されます。2%の配点のなかで 10～20 程度差がついたとしても大抵合否を左右するものではないと考えられます。

筑波大学の配点変更

2020 年度入試　一般入試（前期）			
学群	セ	個	合計
人文	450	900	1350
比較文化	600	1200	1800
日本・日文	300	600	900
社会	450	800	1250
国際総合	500	800	1300
教育	400	400	800
心理	400	400	800
障害科	400	400	800
生物	900	900	1800
生物資源	500	400	900
地球	450	550	1000
数	450	550	1000
物理	450	550	1000
化	450	550	1000
応用理工	450	550	1000
工学シス	400	600	1000
社会工	360	400	760
情報科	450	800	1250
情報メデ	900	800	1700
知識情報	900	1000	1900
医	900	1400	2300
看護	800	800	1600
医療科	800	900	1600
体育専門	700	700	1400
芸術専門	700	700	1400

2021 年度入試　総合選抜				
	共通	個別	調査書	合計
文系	900	1550	(50)	2450
理系Ⅰ				
理系Ⅱ				
理系Ⅲ				

※個別の 1550 点は調査書の 50 点を含む

では、なぜ 2%程度になったのか。勝手な推測ですが、50 点というインパクトのある公表をした後に、調査書評価の具体論が出来上がらずやはりその割合が高すぎるという結論になったのではないかと思います。2019 年 3 月の発表にもその慎重姿勢が見て取れる表現がありました。そこで総点を増やして、慎重にその舵をいったん戻したということかと思います。

筑波大学　総合選抜における「主体性等評価」について

（2019 年 3 月発表）

主体性等評価、特に調査書利用に対する理解が十分に深まっていないことから、この評価は慎重に行う必要があります。同時に、主体性等評価に過剰に対応した活動によって、通常の学びが妨げられることがあってはならないと考えます。

なお、一般選抜前期のもう 1 つの方式「学類・専門学群選抜」でも同様に調査書の評価が加わりますが、全体的にはやはり調査書の割合が抑えられるように調整されています。国際総合は他より高い割合を締めていますが、それでも 3.7%です。

2021 年度　一般選抜（学類・専門学群選抜）

学群	共通	個別	（調査書）	合計
人文	900	1850	(50)	2750
比較文化	600	1230	(30)	1830
社会	450	815	(15)	1265
国際総合	500	850	(50)	1350
生物	900	910	(10)	1810
生物資源	900	910	(10)	1810
地球	900	1150	(50)	2050
数	900	1550	(50)	2450
物理	900	1550	(50)	2450
化	900	1550	(50)	2450
応用理工	900	1550	(50)	2450
工学シス	900	1550	(50)	2450
社会工	1000	1050	(50)	2050
情報科	900	1650	(50)	2550
情報メデ	900	850	(50)	1750
看護	900	850	(50)	1750
体育専門	700	720	(20)	1420

※個別の配点は（　）内の調査書の配点を含む

筑波大学のモデル

そうは言っても、筑波大学の取り組みはモデルであることに変わりはありません。理念、具体的な評価方法など、参考に見ていきましょう。

筑波大学　総合選抜における「主体性等評価」について

（2019 年３月発表）

＜総合選抜における主体性等の評価方針＞

・調査書を評価します。

原則として証明書等の提出は求めません。ただし、調査書を提出できない場合は、活動報告書や証明書の提出を別途求めることがあります。

・通常の学びを重視します。

最も重要な主体性は学校内での日常的な学びにあると考えています。総合選抜における主体等評価は、際立った活動歴や活躍、特別な資格の提示を強いるものではありません。

・文章の表現や量は関係ありません。

主体性等評価は、生徒本人の学習や活動等の事実を客観的に評価するものデうｓ。簡潔な文章や単語等であっても事実確認ができれば、評価します。

・受験生に配慮した評価を行います。

現状では主体性等の評価方法が十分に確立されているとはいえません。また、旧調査書を提出する既卒生や調査書を提出できないものについての配慮も必要です。そこで、志願者の自己申告を補助的に利用すること等も検討しています。

・より良い高大接続を目指します。

調査書は受験生が過ごした高校生活を示してくれる貴重な資料です。単に選抜のために評価するのではなく、調査書で評価することを通じ、学びを引き継ぐ大学として受験生本人や高等教育を理解するために活用します。（以後省略）

＜総合選抜における具体的な評価の項目と基準＞

① 学習等
② 部活動・ボランティア・留学等
③ 特別活動（生徒会・委員会・クラス係等）
④ その他の活動等
⑤ 賞・資格等

主体性等評価は、高等学校での日常的な学習や活動等を評価するものです。したがって、①から④については、通常の授業や高校生活の様子、一般的な課外活動について評価しますので、高等学校に対して新たな教育実践や特別な取り組みを求めるものではありません。また、⑤については、きわめて多様な記載が考えられます。この項目については、公平で正確な判断をするため、明快で高い基準を設けることとします。

配点については、①と②で総計の３分の２以上の得点とすると同時に、⑤の割合を低く設定することで、日ごろの学習の様子や活動が記載されていても十分高い得点が得られるようにします。

評価については、肯定的な内容や具体的な活動といった事実の記載の有無を主たる判断基準とします。記載された文章の表現や量は評価と関係ありません。

項目	新調査書での該当する記載欄	高い評価となる例
①学習等	「7. 指導上参考となる諸事項(1)学習における特徴等」、「7. (2)行動の特徴、特技」	(1)または(2)に肯定的な評価が３年分記載されている。
②部活動・ボランティア・留学等	「7. 指導上参考となる諸事項(3)部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等」	具体的な活動の記載(部活動名等)が２つ(2年分)ある。
③特別活動（生徒会・委員会・クラス係等）	「6. 特別活動の記録」	生徒会やクラス係を問わず、具体的な活動の記載(役職名や係名等)が１つある。
④その他の活動等	「7. 指導上参考となる諸事項(6)その他」（内容によって「5. 総合的な学習の時間の内容・評価」や「8. 備考」も使用する場合がある）	校内・校外を問わず、具体的な活動の記載が１つある。
⑤賞・資格等	「7. 指導上参考となる諸事項(4)取得資格、検定等」、「7. (5)表彰・顕彰等の記録」	(4)または(5)に全国的な評価*が１つある。外部英語４技能試験は大学入学共通テストの一部として扱うので評価しない。

大学により方針の表現や具体的な方法は変わるでしょうが、この筑波の方針はおそらく今後の主体性評価のモデルになるでしょう。総合選抜型・学校推薦型という主体性や顕著な活動を評価する入試方式では飛びぬけた活動歴や受賞歴を求めるものもありますが、一般選抜となると広い志願者層が対象になります。「特別なものはいらない、日ごろの普通の学習や活動で良い」という形で選抜性を低くし、志願者内で大きく差のつかないものになっていきます。

信州大学の検討状況

もう１つの例として信州大学の公表を掲載します。これは検討状況の報告ですが、どのようなことを論点として議論を進めているのかが明示されており、公平・公正な評価を担保しつつ、志願者の高校３年間の前向きな努力や自ら切り拓く力を評価したいという思いが伝わります。一方で、筑波大ほど具体的な方針を出している大学はまれで、信州大学の進捗状況が一般的なレベルだということも言えます。

信州大学　2021 年度入試の概要 入学者受入れの方針

（2019 年６月発表）

＜調査書の評価について＞

大学入試で評価すべきだとされている学力の３要素の１つ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」が大学での学修を進める上で重要であることは言を待たないのは誰もが認めるところです。しかし，大学の一般選抜の場で，これを的確に評価することには困難を伴うことも事実です。信州大学では高等学校等から提出される「調査書」を高等学校等 3 年間の学習の場での「主体性」を評価するための資料とすることにしました。「調査書」のどの様な項目を評価するかは，現在文部科学省で進められている調査書の電子化作業の進捗状況等を踏まえ，慎重に検討し 2021 年度入試の学生募集要項で公表します。一般選抜での調査書の評価については下記の事項に留意して検討を進めています。

- 「調査書」は高等学校３年間の学習状況が集約された資料である
- 「学習成績の状況（評定平均値）」や「学習成績概評」は有益な情報となりうる
- 記載者の主観で書かれている部分は一般選抜では評価の対象としない
- 記載されている情報や文章の多寡を評価に反映させるべきではない
- 幅広い分野について学ぶことは極めて重要だと考えるが，評価に際しては在籍高校のカリキュラムへの配慮も忘れない
- 在籍する高校の環境や志願者の成育環境に大きく影響を受ける事項は，一般選抜ではできる限り評価の対象としない
- 志願者の置かれた環境の豊かさを評価するのではなく，志願者が置かれた環境をいかに克服したか，あるいはいかに有効に利用したかを評価するように努める
- 一般選抜で「調査書」を合否判定に用いることで，多くの高校生が今まで以上に，高等学校等での日常の学びを大切にし，より豊かな学びに取り組むことが期待できる

＜調査書への本学の独自項目の設定について＞

新たな調査書では，大学が独自に項目を設定し，高等学校等に記載を求めることが可能となりました。本学では，高等学校等の教員の負担，出願時のトラブル等を考慮に入れ検討した結果，原則として本学の独自項目を設定しないこととしました。

東北大学　独自のチェックリストを採用

共通テストや英語外部試験でことごとく国の方針に逆行している東北大学ですが、ここでもやや独特な方法を提示してきています。ちなみに資料の冒頭には「調査書等の積極的な活用を促し，どのように活用するのかを募集要項等に明記することが指示されました」という一文があるのですが、「指示されました」という言い方に少し棘のあるニュアンスを受けるのは私だけでしょうか。チェックリストを使っての自己申告ですが、受験生はチェックするだけで、そのチェック欄に対応する調査書の項目に何かしらの記述があれば良いというように理解できます。記載漏れがあっても、チェックしていない項目があっても考慮するということですし、実質的には合否を分ける資料にはなりえず、また多面的な評価としても表面的なものでしかありません。

東北大学　2021 年度一般選抜入学試験における主体性等の評価について（予告）

（2019 年７月発表）

＜方針＞

① 志願票に調査書と対応した５項目程度のチェックリスト項目を設ける

② 合否ラインに並んだ場合，チェックリストによる主体性評価が高い志願者を優先的に合格とする

③ チェックリストの根拠を調査書により確認し，その他の資料は求めない

＜チェックリスト＞

志願票に以下の５項目のチェックリストを付し，志願者の自己申告とします。志願者は以下の各記述に関する自らの取組状況を振り返り，「該当する」と考えた場合には末尾の［□］にチェック［☑］を入れてください。自己申告はチェックのみとし，自由記述欄は設けません。

（A）高校における学習活動に主体的に取り組んできた　☑

（B）部活動・ボランティア活動に主体的に取り組んできた　☑

（C）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた　☑

（D）その他の活動に主体的に取り組んできた　☑

（E）高校時代に取得した資格，獲得した賞がある　☑

＜合否判定＞

チェックリストは合否ラインに同点で並んだ志願者の合否判定を行う際に利用します。

＜主体性評価チェックリストと調査書記載欄との対応関係＞

（A）高校における学習活動に主体的に取り組んできた：

「7．指導上参考となる諸事項」（1）学習における特徴等，（2）行動の特徴、特技

（B）部活動・ボランティア活動に主体的に取り組んできた：
「7．指導上参考となる諸事項」（3）部活動、ボランティア活動等
（C）生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた：
「6．特別活動の記録」
（D）その他の活動に主体的に取り組んできた：
「7．指導上参考となる諸事項」（6）その他 （「5．総合的な学習の時間の内容・評価」「8．備考」も根拠とする場合がある）
（E）高校時代に取得した資格，獲得した賞がある：
「7．指導上参考となる諸事項」（4）取得資格、検定等，（5）表彰・顕彰等の記録

＜補足説明＞
- 調査書のいずれかの欄に一つでも該当する記述があれば，自己申告（チェック）の根拠として利用します。
- 調査書の記載内容や記述の多寡は合否判定に影響しません。
- 調査書の記入漏れは，可能な限り本人の不利にならないように評価します。
- 本人の自己申告（チェック）がなくとも調査書に根拠となる記載がある場合には，可能な限り本人の不利にならないように評価します。
- 調査書が発行されない志願者の場合，調査書の記載漏れと同等に扱います。

関西学院大学

やはり、この委託事業を推進していた関西学院大学の動向は気になります。

関西学院大学　2021 年度入学者選抜について（抜粋）
（2019 年４月発表）

これまで通り、一般入学試験における本学の学力検査において、関西学院大学で学ぶために必要な一定の「知識」「技能」、「思考力」「判断力」「表現力」を有する生徒を評価することを基本とし、さらに「学びに向かう力」（主体性等）として評価できる極めて優秀な成果を有する生徒について加点的に評価を行います。 あくまでも、学力検査による評価を基本として重視します。評価の対象となる項目を有していなくても、合否において不利になりません。

＜実施方法＞
学力の三要素を次の方法で評価します。
① 基本的な評価 「本学が課す筆記試験総合点」を用いて合否判定を行います。
② 本学指定項目を有する者の評価 本学の指定項目に関する経験や成果を有する志願者は、その評価の得点を、一般入学試験の学力検査の得点に加えることができます。

「本学が課す筆記試験の総合点」＋「学びに向かう力」（主体性等）の評価点」と、「本学が課す筆記試験総合点」のいずれか高得点を用いて合否判定を行います。 なお、本学が指定する項目や評価点、基準等については今後検討し、公表します。

＜実施例＞

① 基本的な評価 本学が課す筆記試験の総合点「500 点満点」のみで評価する。

② 本学指定項目を有する者の評価 A.本学が課す筆記試験の総合点「500 点満点」と、B.本学が課す筆記試験の総合点「450 点」 （500 点から 450 点に圧縮）と本学指定項目の評価を得点化したもの「50 点」を合算した得点「500 点満点」の、いずれか高得点（ＡとＢのいずれか高得点）を評価する。

分かりづらいので実施例を使って以下、補足します。

基本的な評価は A「筆記試験のみ」で行うが、主体性等に関して特筆すべき評価項目を持っている生徒は B の「主体性の得点」を組み込むことができ、A、B の高い方の得点を採用する。

A　本学が課す筆記試験の総合点 500 点満点

筆記試験　500 点満点

B　本学が課す筆記試験 450 点と主体性等の評価 50 点の計 500 点満点

筆記試験　500 点満点　→　450 点満点に圧縮	主体性 50 点

関西学院も「評価の対象となる項目を有していなくても、合否において不利になりません。」と宣言していますが、やはり、一般入試になるとその対象者が非常に多くなるので、とびぬけた活用ができません。何をもって『「学びに向かう力」（主体性等）として評価できる極めて優秀な成果』というのかは要綱を見なくてはなりませんが、仮にこの項目にフィットする生徒で主体性の 50 点満点がもらえるとすると、もちろん学力試験はできなくてはいけませんが、競争という意味では一定のアドバンテージをもらい、合格しやすくなることは事実です。

その他の大学の動向

他にも調査書を評価に入れ込む大学がありますが、実際のところどのような活用になるのかは分かりません。一般選抜では前述の通り、大きな差を生むような大胆な活用はないかと思います。

得点化

茨城大学	・学校推薦型選抜、総合型選抜、および一般選抜で面接やプレゼンテーションを実施する場合は、その中で評価します。 ・面接等を実施しない一般選抜（前期日程、後期日程）における主体性評価については、受験生の申告によるチェックシート、調査書やポートフォリオ等により行い、段階評価で点数化して、その配点は 50 点とします。
一橋大学 （学校型選抜）	＜学校推薦型選抜＞ 推薦書，調査書を合せて 40 点，自己推薦書を 10 点として点数化し，第２次試 験の選抜に活用します。推薦書，自己推薦書の様式については，別紙のとおりとします。

合否ラインでの判定

一橋大学	＜一般選抜＞ 合否ラインで志願者が同点で並んだ場合，調査書を判断材料として活用します。調査書の内容を質的な観点から点数化して評価し，総合点の高い者から順番に合格とします。

受賞歴などを評価する（ただし、評価の詳細は未発表）

電気通信大学	本学が現行の推薦入試において導入している科学系コンテスト等での受賞歴を主体性等の評価に活用します。

活用方法の提示なし

首都大東京	・高大接続、学力の 3 要素評価の観点から調査書を合格者の判定に活用します。 ・評価項目や活用方法等の詳細は「学生募集要項」で公表予定です。
横浜国立大学	出願時に調査書と自己推薦書の提出を求める。調査書は記述量の多寡は問わない。自己推薦書は志望学部・学科等のアドミッション・ポリシーを踏まえた大学入学後の目標と、その目標を達成するために努力したいことなど、学びに対する姿勢と学習意欲を確認する（400 字以内）

多数の大学は出願書類として提出を義務付ける

多くの大学は多面的評価の一環として『「出願書類」として調査書および志願者の記載する書類の提出を義務付ける、ただし合否の判定には活用せず、入学後の参考資料として活用する』という方針を出しています。特に志願者数の多い私立大学はほとんどがその方針のようです。早慶上智理科大・GMARCH を調べたところ、一般選抜については全ての大学がそうでした。国公立でも、前ページで紹介した首都大東京や横浜国立大学のように具体的な活用方法を提示していない大学は最終的には提出を求めるだけになる可能性もあります。

本音としては、「文科省が多面的評価を義務付けたし、多面的評価の重要性は分かるのでとりあえず書類は義務付けるが、それを入試に活用するまで責任もリスクも取れない。用途がないのも困るので、入学後の参考資料としておこう」という程度の大学もある（多い？）でしょう。実際に、ある大学に「入学後の参考資料としてどのように使うのか？データ化して入学者全員の追跡調査をして、将来的に入試改革の資料とできるのか？」と尋ねたところ、「アドミッションとしてデータはとっておくが、実際の活用は担任が入学後に見るぐらいしかできない。それもどの程度見るのか、実際に資料に目を通す教授がどのぐらいいるのかは何とも言えない。実際は現状ではほとんど活用しようがない」というオフレコの答えをいただきました。

国公立大学の例

神奈川保健福祉大学	・調査書等の高等学校が作成する書類および本人が記載する資料を面接の参考資料として扱う。 ・調査書等の高等学校が作成する書類および本人が記載する資料は点数化しない。

私立大学の例

早稲田大学	Web 出願時に、「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験を記入してもらうこととします。 （注） ・学校が作成する調査書に記載するのではなく、受験生本人が自分自身の経験を振り返り、文章化してもらいます。記入は出願要件としますが、得点化はしません。 ・併願学部が複数あったとしても 1 回記入すれば全ての学部に適用します。 ・記入した内容は、学生調査データの一部として、入学後の学部での教育の参考資料として活用します。 ・高等学校入学に相当する年齢からこれまでに、学校内外にて「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をもって活動・経験してきた

	と受験生本人が考えていることについて、100 文字以上 500 文字以内で記入してもらいます。
慶応義塾大学	学部一般入学試験のインターネットによる出願の際に，「主体性」「多様性」「協働性」に 関する経験について，入力を求めます。 ・入力は受験生本人が行うものとし，出願の要件とします。 ・入力した内容は合否判定に用いることはせず，入学後の学習指導上の参考資料としてのみ活用します。 ・併願する学部が複数ある場合でも，1 回の入力ですべての学部に適用されます。
東京理科大学	一般選抜において、出願の際、高等学校が作成する調査書と、志願者から、高等学校までの活動報 告、大学入学希望理由、学修計画等の記載を求めます。ただし、合否判定には使用しません（入学後 の参考資料として活用します）。
上智大学	2021 年度一般選抜の全方式で、出願要件として、高校生活において主体的に取り組んだ活動の成果や、留学・海外経験、取得した資格・検定などの学修データを Web 出願時に提出を求めます。ただし、得点化はせず、入学後の学生指導、高大連携に資するための参考資料として活用します。
立教大学	・Web 出願時に、志願者本人に「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験等の記入を求めます。 ・全ての学部、全ての一般選抜(後日公表する一般選抜を含む)で記入を求めます。 ・出願要件としますが、得点化はせず、入学後の学修指導、教育研究活動の参考資料とします。

＜参考資料＞

ポートフォリオ活用モデル

Ａ　学期ごとの目標の設定と振り返り（全般）

【学期始めの目標設定】 新学期を迎えて、以下の各項目について自己目標を設定しましょう。単に目標とする結果を書くだけでなく、それを達成するためのプロセス（日々の学習や活動）についても具体的に書きましょう。	
１	学業・進路における目標は何ですか。
２	生活全般における目標は何ですか。
３	委員会活動、部活動、課外活動、ボランティア、行事などで、どのような主体的活動を行いたいと考えています。
４	探究活動における目標は何ですか。
【学期末、年度末の振り返り】 学期始めに設定した自己の各項目の目標を振り返り、以下の各項目について今学期（今年度）の自己の活動を振り返り、評価しましょう。成果・できたこと、今後の課題・できなかったことを具体的に書きましょう。	
１	【学習】について自分が頑張ったことは何ですか。
２	【自分の性格・行動でよいと思われるところ、特技】は何ですか。
３	【委員会･クラス係･行事】について自分が頑張ったことは何ですか。
４	【部活動・ボランティア】で自分が頑張ったことは 何ですか？なぜそのように思うのですか。
	【留学・海外経験】で自分が取り組んだこと、成長したことは何ですか？
５	【資格取得・検定】について自分が取得したものを記述してください。 ※取得時期についても記載してください。
６	【表彰】について自分が取得したものを記述してください。 ※取得時期についても記載してください。
７	【総合的な学習の時間】について自分が頑張ったことは何ですか。
８	１ 学期（１ 年）を通して、自分自身の学習、生活、進路などで気づいたこと、感じたことは何ですか。
【年度末のみ】 １年間の成果の基本情報入力 以下で該当する項目がある場合は記入してください。（月日などが分かる場合は記入すること）	
１	部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等 （具体的な取り組み内容、期間等、部活動や委員会は役職名があれば）

2	取得資格、検定 （資格、検定の内容、取得スコア・取得時期など）
3	表彰、顕彰 （各種大会やコンクール等の内容や時期、化学オリンピック等における成績、時期）
4	その他：　自ら関わってきた諸活動など

B　定期試験

定期試験について学習の成果を振り返り、これからの学習に生かしましょう。	
1	実施したそれぞれの科目の結果（点数）を書きましょう。
2	目標の達成度は 10 点中何点ですか。それはどうしてですか。 （良かった結果、悪かった結果、それぞれについて具体的に理由を書きましょう。）
3	前回のテストと比較してどうでしたか。
4	次回のテストに向けて、目標と重点課題は何ですか。
5	その他：定期テストを通して自分の学習、学力、生活などについて気づいたこと、感じたことがあれば書きましょう。

※　事前の目標点数や学習計画は必要に応じて紙で対応。

C　模擬試験　学年裁量実施

【事前】 模試が学習到達度や進路目標の確認のために有意義なものになるように、事前に目標設定をしましょう。	
1	模試に向けての目標は何ですか。また、それはなぜですか。 （目標点、目標偏差値、判定）
2	模試に向けて最も力を入れて準備している科目はどれですか。それはなぜですか。
【事後】 模試についてやりっぱなしにせず、これからの学習に生かせるように振り返りをしましょう。	
1	目標の達成度は 10 点中何点ですか。それはどうしてですか。 （良かった結果、悪かった結果、それぞれについて具体的に理由を書きましょう。）
2	今回の振り返りを踏まえて、次回の模試に向けて目標と重点課題は何ですか。
3	その他：定期テストを通して自分の学習、学力、生活などについて気づいたこと、感じたことがあれば書きましょう。

D　長期休暇　学年裁量実施

【事前】 長期休暇を有意義に過ごすために、目標と計画を設定しましょう。	
1	長期休暇中に学習面で何をできるようになりたいですか。そのために何をしますか。
2	長期休暇中に教科学習以外で取り組みたいこと、その目標は何ですか。
【事前】 長期休暇中の学習、生活、諸活動を振り返りましょう。	
1	長期休暇中の学習面の取り組みを振り返り、良かったこと・頑張ったこと、うまくいなかったことは何ですか。それはなぜですか。
2	長期休暇中に教科学習以外で取り組んだことで、良かったこと・頑張ったこと、うまくいなかったことは何ですか。それはなぜですか。
3	その他：定期テストを通して自分の学習、学力、生活などについて気づいたこと、感じたことがあれば書きましょう。

E　進路探究と進路行事

1　進路意識調査・志望校調査

1	現在、進路について考えていること、感じていることを書きましょう。
2	現在希望している進路先は何ですか。次の選択肢から選んで書きましょう。また、それを選択した理由は何ですか？ ＜選択肢＞　国公立大学／私立大学／短期大学／専門学校／海外大学／就職／未定／その他
3	現在希望している（もしくは最も希望に近い）学問系統を次の選択肢から選んで書きましょう。また、それを選択した理由は何ですか。 ＜選択肢＞　文学・語学／法学／経済・経営・商学／社会学／国際関係学／教員養成・教育学（文系）／ 家政・生活科学（文系）／総合科学（文系）／看護・保健学／医・歯・薬学／理学／工学／農・水産学／教員養成・教育学（理系）／家政・生活科学（理系）／総合科学（理系）／ その他・未定
4	【高 1】 現段階で気になる大学があれば挙げて下さい（複数可、なければ空欄）。それはなぜですか。
5	【高 2】 （大学希望者用）希望する大学・学部・学科を希望順に３つ挙げましょう。それはなぜ

	ですか。
6	【高３】 （大学希望者用）希望する大学・学部・学科・入試形態を希望順に３つ挙げましょう。それはなぜですか。
7	【共通】 大学選びの観点で、自分の大切にしたい観点を２つ以上挙げてください。 ＜例＞　研究テーマ、学びたいこと、学びのスタイル（文献中心・実習重視、先生と 学生の人数 比率、…）、修学サポート（留学制度の充実度）、卒業後の進路（進学状況、就職状況、 資格取得）、キャリアサポート（就職支援）、立地、学費、知名度、入試科目・入試方式、 難易度
8	自己の進路実現における課題は何ですか。そのためにどのように取り組んでいきますか。

1　高１オリエンテーション　【高 1】

【事前】	
1	進路と聞いて思い浮かぶ言葉は何ですか。それはなんでですか。
【事後】	
1	進路や学習について印象が残っているものは何ですか。
2	進路や学習にについて、自らの課題と目標は何ですか。

2　夢ナビ【高１】

【事前】	
1	自分が選んだ関心ワードは何ですか。その理由は何ですか。
2	自分が選んだ講座は何ですか。その理由は何ですか。
3	現在、夢と聞いて思い浮かぶ言葉は何か。それは何ですか。
【事後】	
1	夢ナビの講義や Live で印象が残っているものは何ですか。
2	夢ナビに参加して新しく関心を持った学問はありますか。
3	夢ナビに参加して進路に関して気づいたこと、感じたことは何ですか。

3　先輩を囲む会【高 1、高 2、高 3】

【事後】	
1	先輩を囲む会に出席した理由はなんですか。次の選択肢から選んで、具体的に書いてください。 ・教科の勉強方法について聞きたかった ・選択科目の決め方について聞きたかった ・部活動・習い事・学校行事との両立について聞きたかった

	・大学生活の具体的な話が聞きたかった ・特に理由はない（なんとなく） ・その他
2	先輩の話で印象深かったこと、参考にしたいと思ったことは何ですか。

4　文理選択【高 1】

1	将来関わっていきたいテーマは何ですか。２つ以上挙げてください（興味のあること、社会で 起こっている気になることなど）。また、それはなぜですか？
2	項目１で挙げたテーマに関係のありそうな職業や学問と、その横に「文系」「理系」「文理共通」 のどれに当てはまるか記入してください。
3	文系・理系それぞれに関する「魅力を感じる点」は何ですか。それはなぜですか。
4	文系・理系それぞれに関する「魅力を感じない点」は何ですか。それはなぜですか。
5	自分の強みは何ですか？それはなぜですか？
6	文理選択について、今の思いを入力してください。 文系を志望します／理系を志望します／迷っています

5　オープンキャンパス【高１、高２】

1	今回、参加した大学・学部・学科を記載してください。
2	参加したキャンパス名・情報を得た会場・場所などを具体的に記載してください。
3	オープンキャンパスに参加して気付いたことや感じたこと、興味を持ったことは何ですか？ それはなぜですか？ 参考キーワード：研究内容・授業、先生、アクセス、資格・就職、施設・設備・キャンパス、 大学生の雰囲気、周辺の環境
4	今後、自分の進路を考える上でポイントだと思うことは何ですか？それはなぜですか？２つ以上考えてください。

6　大学模擬講義　【高 1、高 2】

1	今回参加した講義名・大学名を記載してください。
2	この講義を希望した理由は何ですか。
3	講義で印象的だった内容は何ですか。
4	講義を聴いて、あなた自身が将来の進路や大学での学問研究について考えたことはなんですか。

７　合格報告会　【高１、高２】

１	先輩の話で印象深かったこと、参考にしたいと思ったことは何ですか。
２	項目１を踏まえて、自らの進路実現について、これからしたいことは何ですか。

Ｆ　課題探究

課題意識	
１	気になる社会テーマは何ですか。その理由は何ですか。
２	どんな課題を解決したいですか。
課題の分析	
１	【現状の分析】 選んだ課題の現状はどのようなものですか。いつ（から）、どこで、何がどのように起きていますか。
２	【課題の分析】 その課題はなぜ、どのように生じたのですか。
３	【課題要因の特定（因数分解）】 その課題を生じさせている要因は何だと思いますか。それはなぜですか。
４	【課題と自己とのつながりの構築】 その課題とあなた自身はどのように関連していますか。なぜその課題があなたにとって大切なのですか。
課題と問いの設定	
１	【問いの設定】 探究する問いを書いてください。
２	なぜこの問いはあなたにとって重要なのですか。
３	この問いの答えを導くにはどのようなことを調べ、考えなくてはいけませんか。
４	そのために必要な具体的なリサーチ（作業や資料）は何ですか。
リサーチプロセス（繰り返し）	
１	リサーチしたことを書いてください。
２	リサーチをして分かったこと、感じたこと、気づいたことは何ですか。
３	リサーチを通じて見つかった具体的な例や考察は何ですか。
４	次にするべきこととその目的は何ですか。
解決策　＜課題解決型＞	
１	この課題において最終的な解決は何ですか。（トップライン）
２	この課題において最低限解決すべきことは何ですか。（ボトムライン）
３	短期的な解決策は何ですか。（今すぐにできること、即時に対応すべきこと）

4	中期的な解決策は何ですか。（法や社会制度として変えるべきこと）
5	長期的な解決策は何ですか。（意識やマインドを変容さえ、持続可能な課題解決につなげるべきこと）
問いの答え	
1	設定した問いに対するあなたの答えは何ですか。
2	今回十分に答えられなかった部分は何ですか。
振り返り	
1	設定した課題、問いは適切でしたか。
2	課題探究のプロセスは適切でしたか。
3	この課題探究は誰にどのような価値を付与するものですか。
4	自分の課題探究をよりよくするためにはどういうことが必要ですか。
5	今後どのように課題探究に取り組みたいですか。

G　海外研修、留学

参加申し込み時	
1	この研修・留学に参加する志望理由は何ですか。志望理由書の場合は英語で書きましょう。
事前	
1	この研修・留学を通して、チャレンジしたいこと、探究したいことは何ですか。
2	事前学習を通じて学んだことはなんですか。
留学中	
1	この研修・留学を通して、感じていること、学んだこと、印象的なことは何ですか。
事後	
1	この研修・留学でうまくいったこと、成長できたことは何ですか。
2	この研修・留学で課題に感じたこと、これから成長につなげたいことは何ですか。
3	この研修・留学を通して、日本、日本文化について感じたこと、学んだことは何ですか。
4	この研修・留学を通して、自分の進路やキャリアについて感じたこと、学んだことは何ですか。

最後に

まだ全容が明らかにされず、大学の情報もそろわない。共通テストや英語外部試験、ポートフォリオ評価、、、入試改革を迎えるにあたって多くの課題が残っており、多くの批判も寄せられています。中には無責任な批判や的を射てない発言も目立ちます。「大きく入試か変わる」「たいして変わらない」、両方の意見がありますが、どちらにせよ果たしてどれだけ理解し、根拠を客観的に分析し、責任を持った上での発言でしょうか。私たち教員ですら、おそらく十分な理解をしていないまま、教育者という立場だけで入試改革を主観的・感情的に語ってしまっている現状があります。

一番大変なのはこれから入試を迎える生徒たちです。たかが入試であっても、高校生にとってはまさに人生を賭けた入試です。どうせならしっかりと前向きに送り出してあげたい。課題を整理し、修正していくことも必要ですが、何よりも大切なのは入試改革の本質を学び、生徒とともに取り組んでくことです。

「入試改革まであと１年」、そう副題のつけたこのガイドブックの賞味期限はせいぜい半年、短ければ数か月といったものでしょう。日々刻々と情報が変わる中で１か月もたてば古くなる情報も出てくるかと思います。それでも、今の混とんとした状況を整理し、私の学んだことや持っているものを皆さんと共有し、少しでもお役に立てるのであれば幸いです。本冊子は私一人に帰属するものではなく、これから入試改革を迎える全ての生徒、保護者、教育関係者に帰属すべきものだと考えています。ですので、印刷、配布、共有、ガイダンスでの使用などご自由にお使いください。部分的な抜粋や編集などもご自由にしていただいて構いません（私に許諾を求める必要もございません）。あわせて、本冊子は私の運営するウェブサイト『Max Classroom.net』に常に PDF で公開しております。この冊子とセットとなる大学入試改革の講演のスライド資料もアップロードしておりますので、ともにご活用いただければと思います。

ただし、不正利用の防止のため、著作権は放棄せず、私の方で保持させていただきます。転載や二次利用される場合は、引用元を明示の上、お使いいただきますよう、ご協力お願いいたします。